横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
令和元年度事業報告書

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

（STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
令和元年度事業報告書　目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】……07

令和元年度事業報告　概要	08
横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラム 連携のしくみ	09
これまでの学校プログラムの取組	10
学校プログラム アンケート結果　児童・生徒向けアンケートから	11
学校プログラム アンケート結果　教員向けアンケートから	12

【学校プログラムの個別報告】……15

音楽

鶴見区	下野谷小学校＋あっちこっち	合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう１	17
鶴見区	豊岡小学校＋子どもに音楽を	子どもたちへの演奏会	18
神奈川区	幸ヶ谷小学校＋横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」１	19
神奈川区	白幡小学校＋かなっくホール	ガムラン音楽を体験しよう！	20
神奈川区	中丸小学校＋あっちこっち	オペラのアリアをもとに気持ちを歌で身体を使って表現しよう♪	21
神奈川区	三ツ沢小学校＋あっちこっち	合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう２	22
西区	一本松小学校＋象の鼻テラス	「Tap dance×Composition」タップダンスと楽器による作曲・演奏・録音ワークショップ	23
南区	蒔田小学校＋吉野町市民プラザ	オリジナル・ソングを作ろう！	24
港南区	芹が谷小学校＋横浜みなとみらいホール	ジャンベにチャレンジ！１	25
港南区	日限山小学校＋ひまわりの郷	歌おう、声高らかに！～自分の歌声を最大限に引き出そう～	26
港南区	南台小学校＋ひまわりの郷	えっ？これも楽器になる！？創作楽器を使った音楽鑑賞と体験	27
旭区	今宿南小学校＋サンハート	みんな一緒にワンボイス！魂の歌を届けよう	28
金沢区	並木第一小学校＋長浜ホール	オペラを体感！みんなで楽しむ歌の世界	29
金沢区	文庫小学校＋長浜ホール	アフリカの民族音楽を体感し、みんなでつながろう	30
港北区	大曽根小学校＋大倉山記念館	ルネサンスの音とあそぶ	31
港北区	菊名小学校＋サルビアホール	オリジナルソングを創作、パフォーマンスをしよう！	32
港北区	城郷小学校＋子どもに音楽を	学校でクラシックを鑑賞	33
港北区	大豆戸小学校＋横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」２	34
緑区	上山小学校＋みどりアートパーク	お話「タヌキの糸車」に合わせて音楽をつくろう	35
青葉区	美しが丘東小学校＋フィリアホール	コミュニケーションを深める音楽体験	36
青葉区	みたけ台小学校＋フィリアホール	全身で音楽を感じよう	37
青葉区	谷本小学校＋フィリアホール	ヴァイオリンの響きを感じよう	38
青葉区	美しが丘西小学校＋子どもに音楽を	プロの演奏を体感	39
都筑区	勝田小学校＋象の鼻テラス	自分のなかの“音楽”を捕まえてみよう！	40
都筑区	茅ケ崎台小学校＋リリス	感謝の会で歌う曲を作ろう１	41
都筑区	都田小学校＋神奈川県立音楽堂	木管五重奏とピアノのコンサート	42
都筑区	つづきの丘小学校＋サルビアホール	大事にしていることをテーマにオリジナルソングを作ろう	43
都筑区	東山田小学校＋横浜みなとみらいホール	ジャンベにチャレンジ！２	44
戸塚区	大正小学校＋アートの時間	息を合わせて響かせよう、不思議な合奏音楽「ガムラン」	45
戸塚区	平戸台小学校＋リリス	感謝の会で歌う曲を作ろう２	46
戸塚区	南戸塚小学校＋アートの時間	みんながアーティスト！唄って踊って応援しよう！	47
栄区	上郷小学校＋リリス	歌唱力・表現力向上ワークショップ	48
栄区	小菅ヶ谷小学校＋横浜みなとみらいホール	ジャンベにチャレンジ！３	49
栄区	千秀小学校＋横浜シティオペラ	「ヘンゼルとグレーテル」３	50
泉区	伊勢山小学校＋テアトルフォンテ	友達の音を聴き合いながら表現することを楽しもう	51
泉区	緑園西小学校＋Offsite Dance Project	声や呼吸のリズムを使って	52
神奈川区	浦島丘中学校＋かなっくホール	合唱祭へ向けて	53

神奈川区	錦台中学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	合唱コンクールに向けて	54
港南区	笹下中学校＋ひまわりの郷	歌声で情景を表現しよう！	55
泉区	泉が丘中学校＋テアトルフォンテ	プロから学ぶ歌唱法～合唱コンクールに向けて～	56
泉区	岡津中学校＋テアトルフォンテ	合唱コンクールに向けて～心に響く合唱を作る～	57
神奈川区	盲特別支援学校＋かなっくホール	チェコ語で少年合唱団ボニ・プエリと交流しよう！	58
南区	中村特別支援学校＋吉野町市民プラザ	ヴァイオリンとチェロの演奏を楽しむ	59
港南区	港南台ひの特別支援学校＋ひまわりの郷	いっしょに歌おう！体験しよう！～みんなで歌とマイムを楽しもう～	60
旭区	若葉台特別支援学校＋サンハート	みんなで盛り上がろう！打楽器コンサート	61
栄区	本郷特別支援学校＋リリス	教室に響く弦楽器の音色	62

演劇

旭区	善部小学校＋サンハート	ブロードウェイミュージカルに挑戦！	64
旭区	不動丸小学校＋Media Global	創作「ショータイム」	65
磯子区	洋光台第一小学校＋杉田劇場	「伝える」～声を使って、人に伝えること、思いを伝えること～	66
金沢区	瀬ヶ崎小学校＋急な坂スタジオ	表現するために必要なことを考えてみる	67
金沢区	西柴小学校＋Media Global	音楽劇「光あふれる西柴」	68
青葉区	荏子田小学校＋関内ホール	演劇の鑑賞と体験を通したコミュニケーション～絵本を題材に～	69
栄区	豊田小学校＋横浜こどものひろば	演劇の作り方「ももたろう」	70
瀬谷区	阿久和小学校＋アートの時間	教えて！みんなの発見	71
港北区	北綱島特別支援学校＋Media Global	パントマイムを楽しもう	72

ダンス

神奈川区	西寺尾小学校＋Offsite Dance Project	自由な発想でダンスを踊ろう	74
港南区	桜岡小学校＋急な坂スタジオ	楽しく身体を動かそう！	75
保土ケ谷区	常盤台小学校＋Offsite Dance Project	ありのままにダンス	76
保土ケ谷区	初音が丘小学校＋急な坂スタジオ	ダンスの楽譜をつくってみよう！	77
旭区	今宿小学校＋Offsite Dance Project	想像力を使ってダンスを踊ろう	78
旭区	白根小学校＋サンハート	発表会に向けてダンスを練習	79
旭区	四季の森小学校＋ＳＴスポット横浜	からだで遊ぶ	80
港北区	駒林小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	オリジナルダンスをつくる	81
港北区	高田東小学校＋芸術家と子どもたち	新しい表現に挑戦して、クラスのダンスをつくろう！	82
港北区	新田小学校＋大倉山記念館	カシャっとダンス	83
緑区	竹山小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	からだ遊びの達人★マキバンバンとあそぼう！おどろう！	84
都筑区	南山田小学校＋象の鼻テラス	“好き”をエネルギーに踊ってみよう！	85
鶴見区	市場中学校＋Offsite Dance Project	自分らしく踊ろう	86
鶴見区	矢向中学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	みんなで踊るって楽しい！	87
瀬谷区	二つ橋高等特別支援学校+横浜赤レンガ倉庫１号館	自分のアイデアを踊りにしよう	88

美術

西区	稲荷台小学校＋横浜市民ギャラリー	ボール紙＋新聞紙でつくってみよう	90
南区	永田台小学校＋横浜美術館	デコ車と割ピンアートをつくろう	91
港南区	芹が谷南小学校＋吉野町市民プラザ	自分の服をリサイクルして旗をつくろう！	92
保土ケ谷区	上星川小学校＋横浜市民ギャラリー	おおきな紙に絵をかこう	93
保土ケ谷区	川島小学校＋岩間市民プラザ	大きな紙と木炭で羽ばたく鳥を作ろう	94
旭区	市沢小学校＋横浜こどものひろば	自分なりの楽しみを見つけよう	95
磯子区	さわの里小学校＋杉田劇場	うみのなか～ニバル	96
金沢区	六浦南小学校＋長浜ホール	巨大な筆で自分史上最大の絵を描こう！	97
港北区	新吉田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	工業部品を使ってアートな作品を作ろう！	98
港北区	高田小学校＋横浜美術館	みんなでヘンシン！	99
港北区	綱島小学校＋ART LAB OVA	見方を変えると世界が変わる	100

港北区	綱島東小学校＋大倉山記念館	みんなで作ろう！木木（もくもく）教室	101
緑区	三保小学校＋みどりアートパーク	言葉以外で伝え合って絵を描こう	102
青葉区	奈良の丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	絵の具遊び	103
都筑区	荏田小学校＋アートの時間	見えないもの、形のないものを描いてみよう！	104
都筑区	すみれが丘小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	工業部品を使って自分の作りたいイメージをカタチにする	105
栄区	飯島小学校＋ＳＴスポット横浜	「地面のことば」を聞いてみよう	106
栄区	笠間小学校＋横浜こどものひろば	かぜのみち	107
瀬谷区	瀬谷さくら小学校＋横浜市民ギャラリー	日本画材で描いてみよう	108
中区	横浜吉田中学校＋ART LAB OVA	美術も人生も正解なんてないよね	109
金沢区	小田中学校＋横浜美術館	アニメーション美術監督の仕事	110
港北区	篠原中学校＋ART LAB OVA	なりきり模写	111
栄区	西本郷中学校＋リリス	学校のシンボルとなるエンブレムを作る	112
栄区	本郷中学校+横浜市民ギャラリーあざみ野	ワークショップ「きもちのかたち」	113
保土ケ谷区	上菅田特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	触れて見て聴いて～素材をじっくり味わう時間	114

伝統芸能

鶴見区	上末吉小学校＋サルビアホール	和楽器に触れ、日本音楽に対する関心を高めよう	116
鶴見区	汐入小学校＋サルビアホール	日本の伝統文化、箏を体験しよう	117
鶴見区	鶴見小学校＋久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう！１	118
鶴見区	矢向小学校＋神奈川県立音楽堂	響け、届け、お箏の音	119
神奈川区	浦島小学校＋かなっくホール	箏に親しむ～さくらさくら～	120
神奈川区	神奈川小学校＋かなっくホール	歌舞伎囃子方の表現方法を学び、日本の古典芸能を知る	121
神奈川区	神大寺小学校＋かなっくホール	狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ	122
西区	浅間台小学校＋ＳＴスポット横浜	にじいろの音探し	123
中区	本牧南小学校＋横浜能楽堂	太鼓演奏	124
南区	石川小学校＋横浜能楽堂	狂言を体験しよう！１	125
南区	南小学校＋吉野町市民プラザ	身体で感じる「日本の響き」	126
南区	六つ川小学校＋久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう！２	127
港南区	港南台第三小学校＋吉野町市民プラザ	お箏の響きを身体で感じよう	128
港南区	野庭すずかけ小学校＋関内ホール	お箏を体験してみよう	129
港南区	日野小学校＋あっちこっち	お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！１	130
保土ケ谷区	岩崎小学校＋岩間市民プラザ	尺八、箏に触れてみよう！	131
保土ケ谷区	権太坂小学校＋岩間市民プラザ	箏の鑑賞と体験	132
保土ケ谷区	瀬戸ヶ谷小学校＋岩間市民プラザ	和太鼓に触れてみよう！	133
保土ケ谷区	保土ケ谷小学校＋岩間市民プラザ	地域で生まれ育った伝統芸能を知ろう	134
旭区	希望ヶ丘小学校＋あっちこっち	お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！２	135
旭区	南本宿小学校＋横浜能楽堂	狂言を体験しよう！２	136
磯子区	磯子小学校＋民族歌舞団　荒馬座	みんなでソーラン節を踊ろう	137
磯子区	浜小学校＋杉田劇場	箏の奏法を知り実際に演奏する	138
磯子区	洋光台第三小学校＋杉田劇場	本物の雅楽を体験	139
磯子区	洋光台第二小学校＋杉田劇場	高砂を歌ってみよう	140
金沢区	金沢小学校＋Media Global	落語をたのしもう	141
金沢区	釜利谷東小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	お箏を体験しよう	142
港北区	小机小学校＋横浜にぎわい座	寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する１	143
緑区	新治小学校＋みどりアートパーク	和楽器に親しむ	144
青葉区	鉄小学校＋久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう！３	145
青葉区	嶮山小学校＋久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう！４	146
青葉区	奈良小学校＋フィリアホール	「笙」の第一人者が紹介する奥深い伝統楽器の世界	147
青葉区	山内小学校＋横浜にぎわい座	寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する２	148
都筑区	牛久保小学校＋みどりアートパーク	落語っておもしろい！１	149
都筑区	荏田南小学校＋みどりアートパーク	落語っておもしろい！２	150
戸塚区	上矢部小学校＋さくらプラザ	箏を体験して“さくら さくら”を弾こう	151

戸塚区	川上北小学校＋さくらプラザ	小鼓で感じる歴史と音楽１	152
戸塚区	小雀小学校＋さくらプラザ	箏で感じる日本の音楽～一緒に「さくらさくら」を演奏しよう！～	153
戸塚区	境木小学校＋久良岐能舞台	みんなで狂言を体験しよう！５	154
戸塚区	東汲沢小学校＋さくらプラザ	小鼓で感じる歴史と音楽２	155
戸塚区	東品濃小学校＋横浜能楽堂	狂言を体験しよう！３	156
戸塚区	平戸小学校＋さくらプラザ	落語を鑑賞しよう	157
戸塚区	南舞岡小学校＋民族歌舞団　荒馬座	荒馬踊り	158
栄区	小山台小学校＋あっちこっち	お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！３	159
泉区	下和泉小学校＋テアトルフォンテ	日本と世界の音楽に親しもう～日本の音楽「雅楽」～	160
泉区	飯田北いちょう小学校＋テアトルフォンテ	雅楽を鑑賞して「日本の響き」を体験しよう	161
瀬谷区	二つ橋小学校+横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ	本物を体験する！	162
港北区	新羽中学校＋横浜にぎわい座	寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する３	163
金沢区	西金沢義務教育学校＋横浜能楽堂	狂言を体験しよう！４	164
戸塚区	東俣野特別支援学校＋さくらプラザ	小鼓で感じる歴史と音楽３	165

【ハートフルルームでの取組】……166

緑区	ハートフルルーム十日市場＋ＳＴスポット横浜	身体と音で遊んでみよう	167

【アーティストプロフィール】……168

【コーディネータープロフィール】……182

【各種資料】……189

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
令和元年度事業報告　概要

事務局体制と課題認識・目的

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が運営を担い、ＳＴスポット横浜が中心となって事業を推進しています。事業を推進するにあたり、横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力や創造力等を育み、豊かな心を養うことを本事業の目的としています。

今年度は、音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能などの分野で活躍しているアーティスト（芸術家）が、小学校123校（義務教育学校前期課程を含む）、中学校13校、特別支援学校9校、あわせて145校、14,306人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートＮＰＯをはじめとする民間の芸術団体など38団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました。

コーディネーター会議

先生のためのワークショップ

先生のためのワークショップ

ウェブサイトの運営

取組の蓄積、活動の深化に向けて

事業を担当するコーディネーターが集まり情報交換を行う「コーディネーター会議」を実施し、32名が集まりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、過去に蓄積したノウハウなどの情報交換を行い、またグループごとでのディスカッションも行いました。（令和元年7月4日、会場：旭区民文化センターサンハート）

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを、美術分野と特別支援教育分野において行いました。美術分野では、横浜市小学校図画工作教育研究会、横浜市立中学校教育研究会美術科部会とともに、横浜美術館の教育普及グループと市民のアトリエのコーディネートにより、「対話による鑑賞」と、ゴム版を使った「一版彫り進み技法」をテーマとした研修を行い、横浜市内の小・中学校、高等学校の主に図画工作科・美術科担当の教員55名が参加しました。（令和元年7月26日、8月2日、会場：横浜美術館・8階、展示室、市民のアトリエ）

特別支援教育分野では、横浜市特別支援教育研究会・情操運動部会とともに、個別支援学級におけるダンスの取組について、アーティストより具体的なアイデアを紹介する研修を行い、横浜市内の小学校の主に個別支援学級の教員22名が参加しました。（令和元年10月2日、会場：横浜市立東小学校・音楽室）

また平成30年度より、横浜教育支援センターと連携し、不登校状態にある児童生徒の支援機関であるハートフルルームにて、アーティストによる取組を継続しています。詳しい報告は、167ページに掲載しています。

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に生かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をウェブサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
学校プログラム 連携のしくみ

連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方が集まって、つくられています。ねらいは、次の３点です。

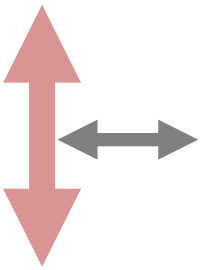
（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じて
プログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。



事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。

コーディネーター（芸術団体／文化施設など）

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートのカを、学びの基礎づくりに生かします】

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

【アーティストが、直接学校へ出かけます】

プログラムは大きく分けて２種類。１つは、３日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう１つは、基本的に１日で終了するプログラムで、アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティストが、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】

学校プログラムでは、普段文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、普段の学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
これまでの学校プログラムの取組

平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この16年間で、のべ1,393校の横浜市立の小・中・義務教育学校・特別支援学校で、159,700人の児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

		16-26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度
参加児童・生徒数		**87,459 人**	**14,088 人**	**14,869 人**	**14,887 人**	**14,091 人**	**14,306 人**
実施校数		**692**	**136**	**138**	**140**	**142**	**145**
	音楽	300	40	47	43	46	46
	演劇	81	12	18	10	10	9
	ダンス(舞踊)	80	26	21	20	18	15
	美術	111	20	18	25	19	25
	伝統芸能	120	38	34	42	49	50
応募校数		739 校	145 校	164 校	144 校	160 校	169 校

実施校数の推移

学校種別実施校内訳

	16-26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度
実施校数	**692**	**136**	**138**	**140**	**142**	**145**
小学校 ※	610	122	121	126	128	123
中学校	45	6	8	6	6	13
特別支援学校	37	8	9	8	8	9
応募校数	739 校	145 校	164 校	144 校	160 校	169 校

※義務教育学校前期課程を含む

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

現在の学校プログラムは、コーディネーターとして関わる市内外のアートＮＰＯなど民間の芸術団体と、横浜市内の文化施設に支えられています。直近６年間のコーディネーター数の推移は以下の通りです。

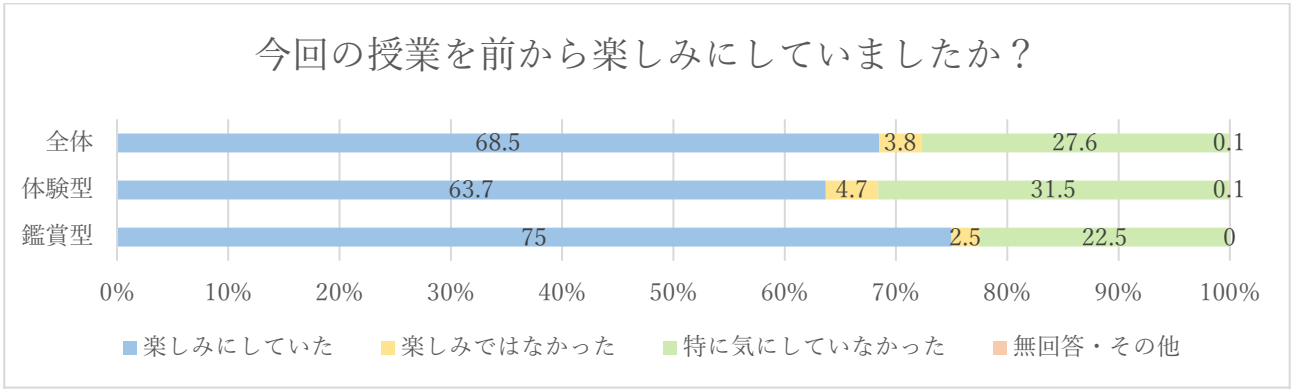
	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度
芸術団体	10	12	12	11	10	10
文化施設	23	24	26	26	26	26
事務局構成団体	1	1	1	2	2	2
合計	**34**	**37**	**39**	**39**	**38**	**38**

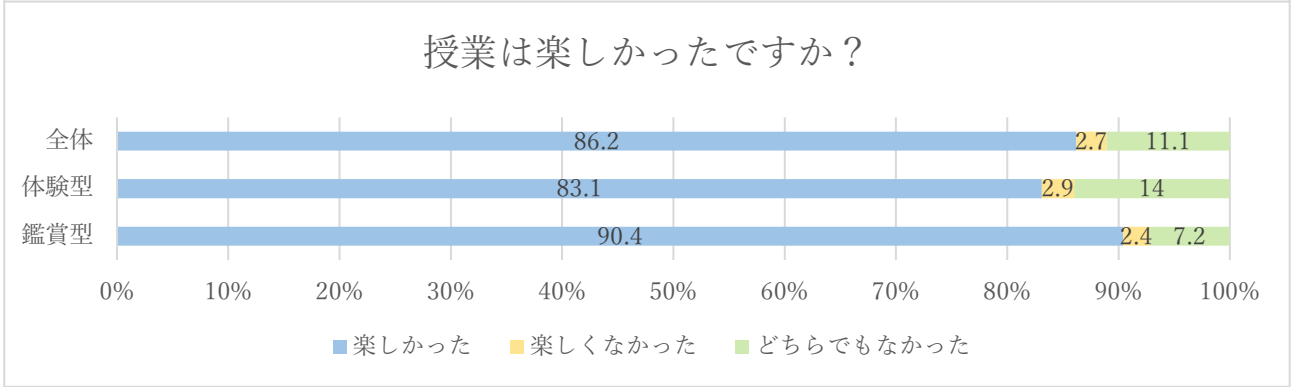
学校プログラム　アンケート結果

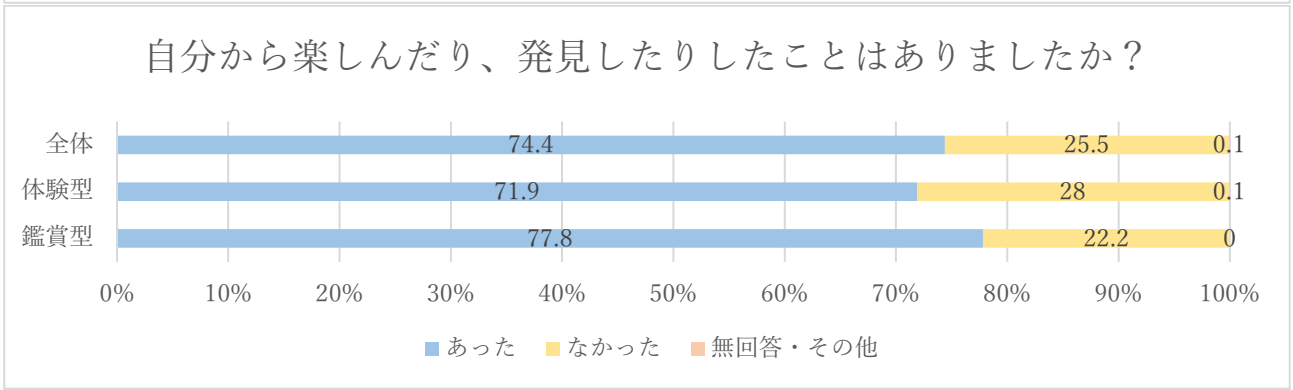
児童・生徒向けアンケートから

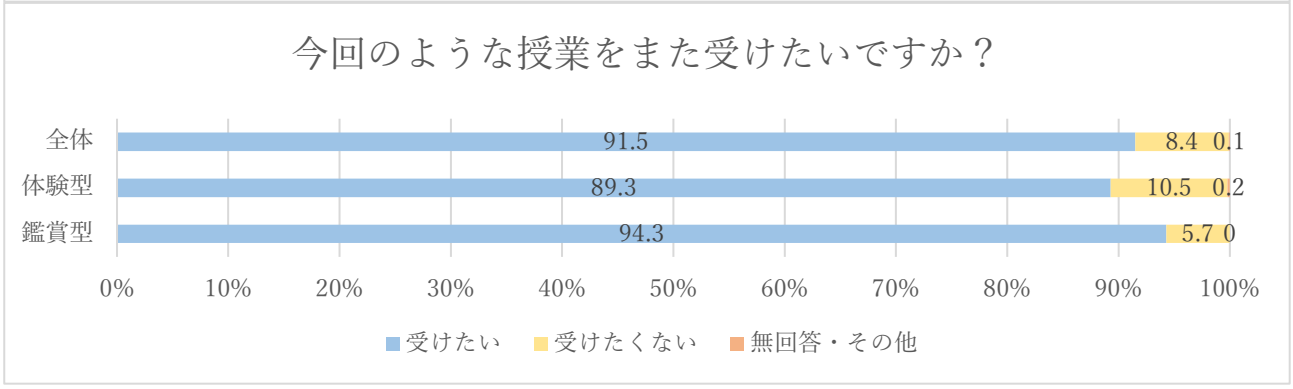
令和元年度の実施校に対して行ったアンケートを集計したものです。児童・生徒向けのアンケート（※）では、10,321 人（うち体験型プログラム 5,883 人、鑑賞型プログラム 4,438 人）より回答がありました。※小学３年生以上を対象とし、個別支援学級・特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は個別報告のページに示しました。

「楽しかった」が 86.2%、「また受けたい」が 91.5%など評価が高く、次回への期待がうかがえます。









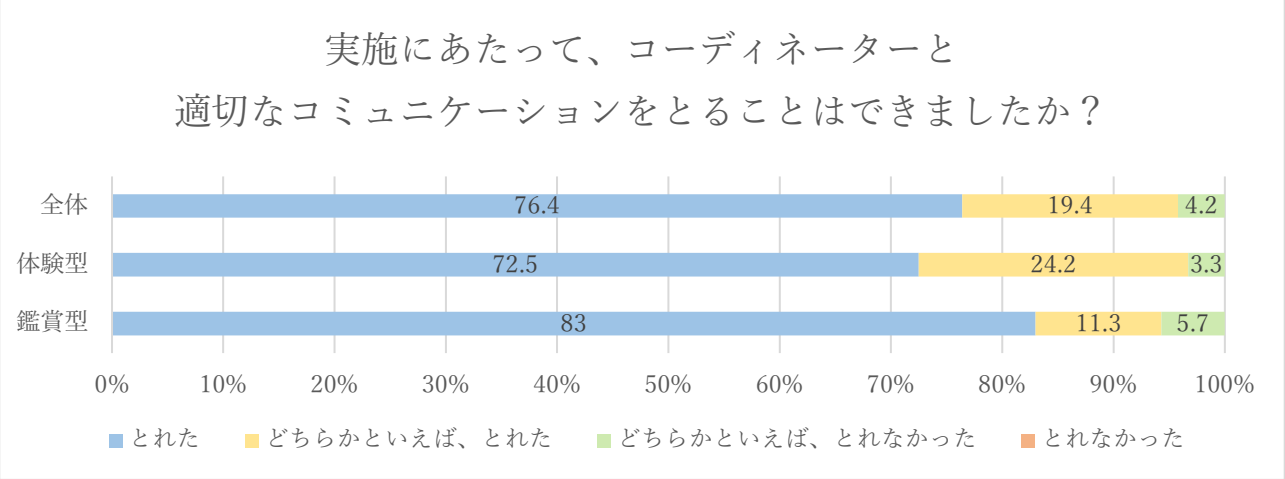
学校プログラム　アンケート結果

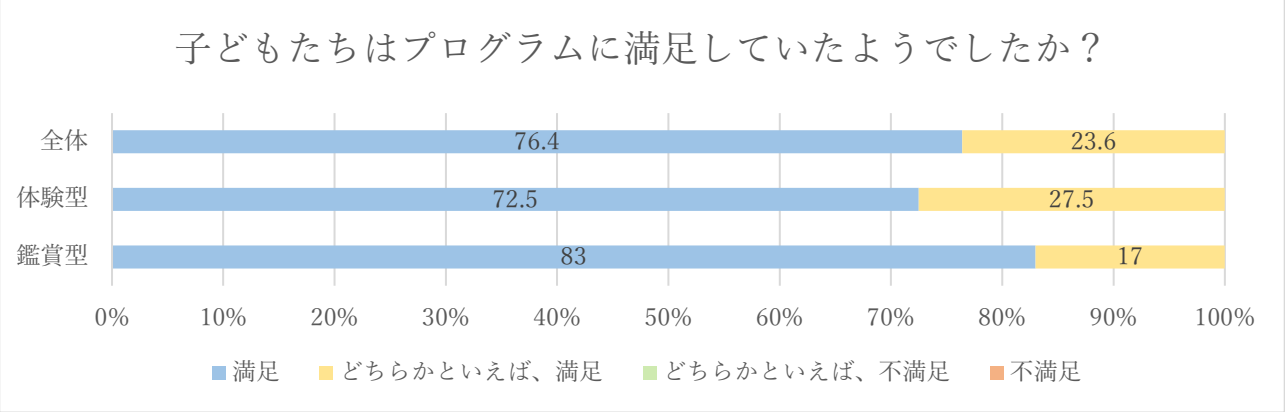
教員向けアンケートから

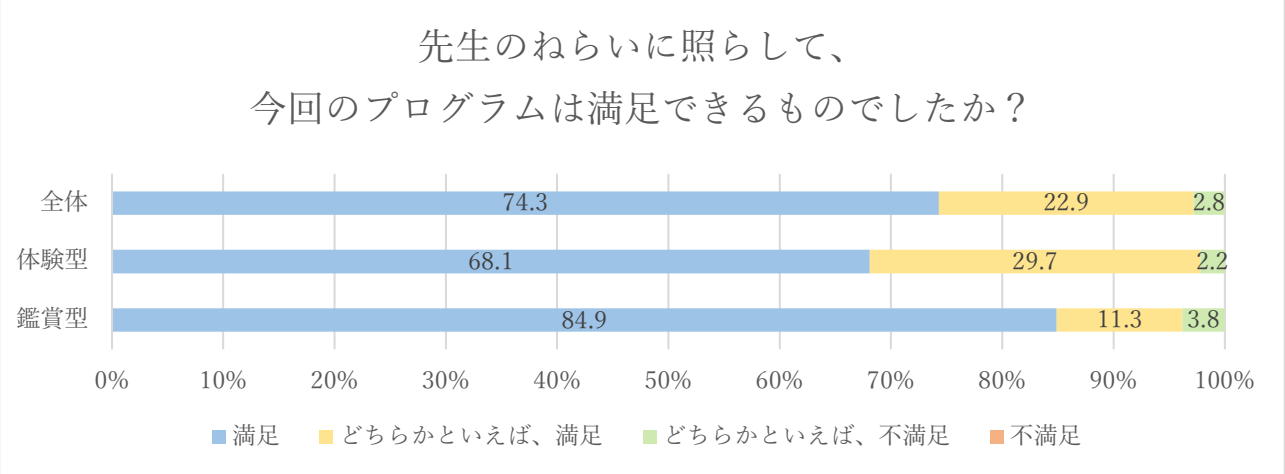
令和元年度の「学校プログラム」実施校の学校（もっとも事業に関わった教員）に対してアンケートを実施し、144 校より回答がありました。回収率は、99%（全校実施 145 校）でした。

プログラム全体について

先生から見た子どもたちの満足度については、「満足」「どちらかといえば、満足」をあわせると 100%、先生のねらいに照らした満足度については、「満足」「どちらかといえば、満足」をあわせると 97%以上と、いずれも高評価でした。



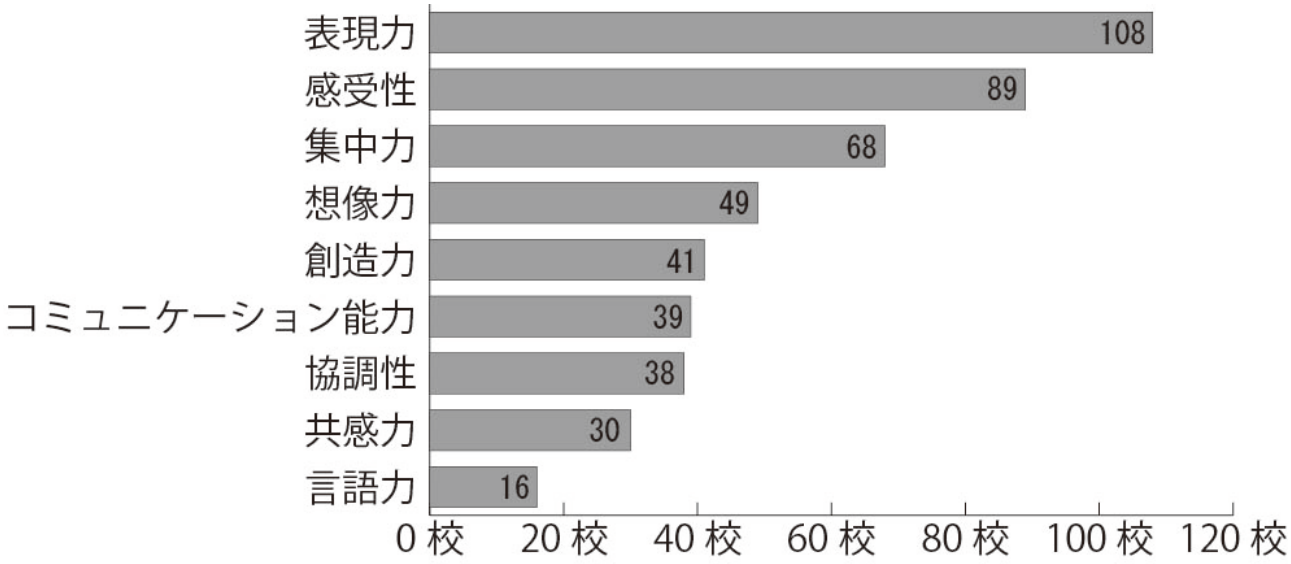




実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取組を経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。以下、「感受性」「集中力」「想像力」「創造力」と続きます。

今回の取組により、子どもたちにとって力がついたと思われる項目（複数回答）



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

・相手と表現を否定せず、協力して作り上げる楽しさを感じる中で、自分自身の表現力も発揮していた。
・最後に歌で楽器の演奏と共演したところ、声量と表現がより豊かになっていた。
・発表会に向けて自分らしさを発揮してジャンベをたたく活動や、最初は控えめだった子どもたちが自分を解放し、ノリノリで楽しんでいる姿を見て変容が感じられた。
・アーティストが音楽表現の指導をする際に、イメージを膨らませるための比喩表現や、実際に模範演奏をしてくださったことで、表現の工夫を実践したり、高めたりすることができた。
・どんな音を出したら自分たちが考えた物語に合うかをアーティストと共に探る姿を見て、表現力が高まっているのを感じた。
・型にとらわれない表現の自由度を子どもたちが心から楽しんでいた。
・ドラムのリズムを感じながら、自分の思うままに好きなリズムを打っている姿が見られた。
・決まった踊りだけでなく、曲に合わせたり、テーマに合わせたりして、子どもたちが自分の思いのままに心地良さそうに表現していた。

感受性

・「歌で聴く人に思いを伝えられるのがすごい」と感想を書いたりする子が多くいた。
・特にいいなあと感じるメロディーや歌詞と出会い、自分のセンスと向き合い、感じる力が伸びたと思う。
・自分が鳴らす音が自分によく聴こえてくるので、音色の良し悪しを意識しながら練習していた。また、アーティストの演奏の音色に浸って聴く様子も見られた。
・心が揺さぶられ「楽しい」「すごい」などの感情が、表情や身体の動きに表れていると感じた。
・音楽を身体全体で感じ取っている様子が多くの場面で見られた。

集中力

・目の前での演奏に、日ごろ元気すぎて授業に集中できない児童も多い中、息をのんで聴き入る子どもたちの姿が印象的だった。
・楽器の説明やいろいろな曲を聴いていくうちに、どんどん演奏に入り込んでいく様子が見られた。
・アーティストが布を使ったインスタレーションを映像で見せてくださった。それを食い入るように見る姿は今まで見たことがない集中力だった。
・子どもたちが身体の動きを止め、演奏者に注目したり、演奏に聴き入ったりしている様子が見られた。
・声を掛けなくても、時間が経つのを忘れて、色作りと絵を描くことに没頭していた。

想像力

・初めての作詞・作曲体験をし、迷いながらも懸命に想像力を高めて考えている姿があった。
・実物を使わないで表現する落語ならではの表現と、それを想像しながら聞く力が付いたと思う。
・子どもたちが毎回目を輝かせながら「これをやったらどうなるだろう」と試すことができたことが良かった。
・海の生き物をイメージして作成することを、子どもたちがしっかりと理解できていたので、生き物の動きを想像して、柄を工夫していた。
・言葉、動き、扇子だけで表現していたのを子どもたちは集中して見て、その場面を想像していた。
・限られた動きや擬音などから、狂言師が何を表しているのかを、子どもたちが想像し考えようとしている姿が見られた。

創造力

・ダンス＝振り付けがある、というイメージが多かったが、身近な物を使って、思うように動いてみることでダンスになることが子どもたちも分かり、時間の経過とともに、さまざまな動きが出てくるようになった。
・正解がない動き（ダンス）をチームで考える楽しさがあり、授業ではなかなか教えられないことが学べた。
・グループで話し合ったり音を聴き合ったりしながら、音の組み合わせを工夫していた。
・テーマを与えられ、自分たちなりに絞り出し、即興的に動こうとする様子が見られた。

コミュニケーション能力

・個人やペア、グループなど、違った人数でのパートがあったので、その都度、そのメンバーで声をかけ合いながら活動する姿が多く見られた。
・「間を取る」「タイミングを合わせる」というところは、人とのコミュニケーション力・感受性・集中力が問われる活動であり、それが本校の児童にとってはとても有効だった。
・活動する中で、質問をしたり、手伝ってもらったりする場面が意図的に設定してあり、必要感を持ってコミュニケーションの幅を広げることができた。
・表していくうちに、自然と子どもたち同士で教え合ったり、アーティストに聞きに行ったりと、どんどん楽しそうに活動していた。

協調性

・友達の方をしっかりと向いて、その人の伝えたいことや伝えたい相手を理解し、その様子を最後まで見取り、協力できていた。
・音や音楽を通して、心がつながっている雰囲気があった。
・分からない友達に次の音の位置を指示するなど、互いに助け合いながら学習に取り組んでいた。
・さまざまな友達と一緒に組んだり、代表で踊った子に拍手を送ったりしていた。
・周囲の友達と合わせたりするために、耳を傾けたり、心を配ったりしていたのが見受けられた。

共感力

・相手の国について調べることから始まり、自分たちや地域について相手に伝える表現活動、そして共通の「きもちのかたち」の表現と、多面的な学習活動の中で、生徒の学習への理解、相手への共感が深まっていった。
・鑑賞の場面では、その子の表現を認め合う姿がたくさん見られた。

言語力

・体験を通して独特の言い回し方で表現することを楽しんでいた。
・一つひとつの文章を声で表現するにあたって、どのように伝えたら良いか、考えながら取り組んでいる姿が見られた。
・歌詞を作る工程で、言葉選びや、同じような思いを友達と共有することができた。

【学校プログラムの個別報告】

音楽分野の取組

目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感していきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立下野谷小学校＋あっちこっち
合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう１

担当アーティスト	上水樽力（ピアニスト、作曲家）、宮原健一郎（テノール歌手）、池羽由（ソプラノ歌手）
実施校	下野谷小学校（鶴見区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／6 学年 3 学級 54 名
実施日程	2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 16 日(月)、2019 年 12 月 18 日(水)

授業のねらい

身体を動かしながら全身で音楽を感じ取り、歌うことの楽しさに思い切り浸らせたい。また、自己表現が苦手な子どもたちが多いため、思い切り表現することの楽しさを味わわせるとともに、卒業に向けて自信を持って歌えるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞アーティストたちによる演奏を聴いてもらい、二部のハモリを感じた後、発声ウォーミングアップを行った。軽いストレッチと発声の練習をし、開いた柔らかい声の出し方、腹式呼吸、声を遠くに飛ばすイメージを伝えた。斉唱と合唱の違いと魅力を説明し、卒業式で歌う「変わらないもの」のサビを中心に二部合唱で練習した。＜２日目＞冒頭に上水樽さんによる映像音楽の作品を上映。その後「旅立ちの日に」では、歌詞を大事に歌う方法として、例えば、小さく歌うところでもはっきり言葉を言えば遠くまで届くことや、サビの盛り上がる前のクレッシェンドは円をどんどん大きく描きながら歌うとイメージしやすい、など具体的な方法で伝えた。歌詞の意味をみんなで考え、歌の中での時間設定や心情を共有しながら声で表現する練習を行った。＜３日目＞体育館で全校児童の前で６年生が「変わらないもの」と「旅立ちの日に」を発表した。その後、アーティストたちによるミニコンサートを鑑賞。子どもたちが選んだ５つの音符をテーマにして即興音楽を披露したり、子どもたちが好きな歌を一緒に歌うなど、交流しながらのコンサートとなった。

アーティストから

下野谷小学校には３月以来の訪問となるが、このたびの訪問では子どもたちの集中力がより高まっていると感じた。音楽的な要求の飲み込みも早く、個々人のポテンシャルの高さもあるので、こちらとしてもより深い部分を追求する余裕があった。ただ、楽曲としてはおのおのの主体性を強く求める難しい曲だったので、次回以降はより子どもたちが自信を持って歌える曲にした方が良かったとも感じた。（上水樽）

今回下野谷小学校にお邪魔させていただき、６年生の子どもたちと音楽を通して充実した交流ができたことを大変うれしく思っています。子どもたちはとてもインスピレーション豊かで、こちらが導いたことに対して予想を上回るものを歌声に乗せて表現してくれる瞬間がしばしばありました。最終日の発表では少し緊張していたようですが、人前で歌うという経験を通して、さらに堂々と自分を表現できるようになっていくことを期待しています。（宮原）

いろいろな思いを抱える年齢でもあるからこそさまざまなタイプの子がいましたが、全員に共通して言えることは、吸収が良く、感受性が豊かということでした。こちらが一言伝えたり、歌い方の違いを範唱すると、子どもの声や表情も変わる瞬間がたくさんありました。聴く力や見る力も優れている子が多かったです。全校児童の前での発表は緊張していた部分もあったと思うので、ぜひ卒業式には自信を持って堂々と素敵な声を響かせてほしいと思います。（池羽）

コーディネーターから

授業に落ち着いて参加できない雰囲気だと事前に学校側からお話を聞いていましたが、良い意味で予想を裏切り、アーティストたちの指導に対して子どもたちの反応が良く、また感性の鋭さを感じられるような内容の濃い授業になったと思います。こういう授業ができたのは、日ごろからの先生方の取組によることが大きいと感じます。下野谷小学校とは数年前からご一緒していることもありますが、今回も事前の連絡や大変な状況になった時の想定も、アーティストと話し合えたことが成果につながったように思います。

先生から

音楽専科の教員は、音大出身や教育音楽部などを出て専門的に学んできてはいるものの、自分の専門外のことはいまひとつ自信がなかったり、知識不足のこともあると思います。また、自分が日ごろ教えていることでも、違った先生から同じことを教わると、やっぱりそうなのかと、納得できる部分もあるかと思います。子どもたちにとっては、貴重な体験であり、一生の財産になると思います。どんなに荒れている子でも、素晴らしい音楽には敵わないものなので、今後も簡単な手続きで申し込めたらありがたいです。

子どもたちから

目線やお腹の使い方に気をつけようと思う。／授業を受けた後のほうが上手に歌えるようになった。／しっかりおしえてくれたので、わかりやすかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立豊岡小学校＋子どもに音楽を 子どもたちへの演奏会

担当アーティスト	大江馨（ヴァイオリニスト）、白瀬元（ピアニスト）
実施校	豊岡小学校（鶴見区）
コーディネート	ＮＰＯ法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン／3 学年 3 学級 113 名
実施日程	2019 年 12 月 18 日（水）

授業のねらい

豊岡小学校では初めての活動。１週間前に打合せに訪問。コンサートに行く機会のあまりない子どもたちに本物の音楽を身近で聴く機会を持って欲しいということで一流の演奏家によるミニコンサートを設定した。３年生が対象ということだったので、演奏家にお願いして曲目は比較的分かりやすいものを選んでもらった。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流

アーティストから

予想以上に子どもたちはよく聴いてくれて驚いた。食い入るようなまなざしが印象に残った。先生が心配していた問題が出そうなクラスの方が、より集中力を持って聴いていたように思った。

コーディネーターから

演奏家は２人とも 20 代前半で若く、初登場でした。子どもたちに語りかけるような演奏が印象的でした。演奏前に曲の情景などを分かりやすく説明し、子どもたちも熱心に聴いていました。曲に合わせてピアノを弾くしぐさや、ヴァイオリンの指の動きをまねする子どもも見られました。「高い音と低い音はどうやって出すの」「演奏中になぜ目をつぶるの」など質問が相次ぎました。中には落ち着きのない子どもがいるとのことで先生は心配していましたが、子どもたちは騒ぐこともなく身を乗り出して聴いていました。これには先生も驚いた様子で、音楽の力はすごい、と感心していました。

先生から

子どもたちは目の前のアーティストの演奏をじっと身動きせず見ていました。本物の音楽、本物のアーティストを子どもたちに届けてくださったこと、うれしく思います。演奏ももちろんのこと、ＮＰＯ法人の方の思いも会話の中で感じられて、とてもありがたい取組だと感じました。

子どもたちから

テンポもよくていろいろな音がきれいだった。／バイオリンの音がきれいだったので、またちがうときにもきてほしい。／きっとあんなにちかくで見ることはないのでおもいでになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立幸ヶ谷小学校＋横浜シティオペラ「ヘンゼルとグレーテル」１

担当アーティスト	大隅麻奈未（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、中山千恵（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、君島広昭（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、山本竹佑（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、平川寿乃（ピアノ）、山本ひで子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、佐藤玲子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）
実施校	幸ヶ谷小学校（神奈川区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年全学級 410 名
実施日程	2019 年 10 月 31 日(木)

授業のねらい

幸ヶ谷小学校はＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）に取り組んでおり、芸術活動を通じて文化の多様性を受け入れる力や、多面的なものの考え方を身に付けさせたいと考えている。また自由な発想と豊かな感性を育みたい。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

子どもたちは、先生より最初に「静かに聴くように」とのお話があったためか、がんばって静かにオペラを聴いているようでしたが、逆にもう少し反応があればうれしかったです。終了後は声の紹介をし、質問を受け、かなりの挙手がありました。定番の質問から、オペラに興味が出てきた、オペラ歌手になりたいなど、思っていたより夢中で聴いてくれていたようでした。

コーディネーターから

この日は京急線が不通で準備やリハーサルがとても慌ただしく、落ち着きづらい雰囲気の中での実施となりました。終演後には、握手やハイタッチをしながら子どもたちをお見送りしました。

先生から

４年生でパパゲーノのアリア「魔笛」（パパパの二重奏）の単元があります。オペラというものの、ストーリー性や舞台セット、演技、歌との総合芸術であるというところから、実際のものを聴き、見ながら理解を深めることができました。３年生は、区の音楽会が２週間前にあったことから、美しい声を出すという意識ができて、良い経験になりました。また、職員の中でも「オペラ」を聴くことが初めての者も多く、大変貴重な経験でした。これをきっかけに芸術（いろいろな分野の）に興味や関心を持ってもらえればと考えています。

子どもたちから

マイクなしであんなに声を出せるなんてすごい！／オペラを生まれて初めて聴いた。思ったより楽しいものなんだと分かった。／歌の良さも演技の良さも感じ取れた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立白幡小学校＋かなっくホール
ガムラン音楽を体験しよう！

担当アーティスト	川村亘平斎（ガムラン演奏家）、濱元智行（ガムラン演奏家）、伊藤祐里子（ガムラン演奏家）
実施校	白幡小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ガムラン／6 学年 3 学級 115 名
実施日程	2020 年 2 月 18 日(火)、2020 年 2 月 19 日(水)

授業のねらい

異なる文化の音楽とプロのアーティストに触れ、クラス全員でたたき響き合う音楽を経験し、能動的に参加しながら相互理解を深める。

主な内容

＜１日目＞ガムランの楽器や奏法を知り、演奏する。（２クラス）
＜２日目＞ガムランの楽器や奏法を知り、演奏する。（１クラス）

アーティストから

白幡小学校６年生、どのクラスの子どもたちも初めて見るガムランに興味津々で、早く演奏したくて楽器の周りに詰め寄って来るクラスもあったりと、大変盛り上がった。ガムランの本場であるインドネシア・バリ島では、子どもたちにとってガムラン奏者の大人たちは村のヒーローだ。子どもたちは憧れの演奏者に近づけるように日々「楽しみながら努力する」。ガムランを通じてこの「楽しみながら努力する」という感覚を少しでも伝えられればと思っている。

コーディネーターから

担当の先生には、２日間続けて（楽器をセットしたまま）使える部屋を工面していただいたり、演奏の指導にも加わっていただいたりとご協力をいただき、大変心強かったです。アーティストの川村さん、濱元さん、伊藤さんにも一人ひとりの児童のスキルや感性を見極めつつ、細かく指導をしていただき、短時間でガムランの演奏とその世界観を体感することができました。卒業を前に６年生で最後に協働して作った音楽は、生涯忘れられない経験になったと思います。

先生から

本校の６年生を対象に、インドネシアの伝統音楽「ガムラン」の体験学習を実施していただきました。普段の生活ではなかなか出会うことが少ない音楽を聴き、見たことがない楽器に触れ、かつ、師匠から弟子へと口頭で伝承される独特の演奏の様式に戸惑いながらも、楽しそうにリズムを追いかけていた子どもたちは、体験時間が終了しても居残り、名残惜しそうに楽器に触っていました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中丸小学校＋あっちこっち
オペラのアリアをもとに気持ちを歌で身体を使って表現しよう♪

担当アーティスト	金持亜実（ソプラノ歌手）、浜野与志男（ピアニスト）、青木海斗（バリトン歌手）
実施校	中丸小学校（神奈川区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／オペラ／5 学年 2 学級 83 名
実施日程	2019 年 11 月 11 日(月)、2019 年 11 月 12 日(火)、2019 年 11 月 13 日(水)

授業のねらい
子どもたちが体験を通して、プロの姿勢や対象のものに対する思いなどを学ぶ。

主な内容
＜１日目＞ピアノの演奏が鳴る中で子どもたちが音楽室に入り、その後「魔笛」の“パパゲーノとパパゲーナのアリア”を披露。アーティストによる自己紹介をし、その後ストレッチと発声練習を行った。オペラとはどんなものかを説明した後、課題曲である「トゥーランドット」の「誰も寝てはならぬ」のストーリーを伝え、お手本演奏を聴かせてから音取りをした。＜２日目＞初めにストレッチと発声練習を行ってから、歌詞の言葉の意味や情景を説明。歌詞を付けて歌い、さらにフレージングも考えながら歌う練習をした。＜３日目＞体育館でまず全員で「誰も寝てはならぬ」を練習し、その後クラスごとにステージのひな壇で発表を披露した。後半は、アーティストたちによるミニコンサートを行った。

アーティストから
昨年度に４年生を対象に行ったものと同じ題材で、５年生ではどのような反応が見られるかと楽しみに臨んだが、中丸小学校の児童がとても前向きに取り組んでくれ、美しい声で歌うこと、歌詞の内容を演技や歌声で表現することの両方に手応えを感じることができた。題材の難易度が合っていたと感じ、題材の選択は大切であると改めて感じた。(金持)

本年度のワークショップでは子どもたちの理解が当初の想定より早く、より高いレベルでの指導を行うことができた。楽曲の歌唱パートのリズム指導などプロフェッショナルな演奏を意識した指導を行うことができ、個人的に大きな達成感がある。発表演奏の際には子どもたちの声量が例年より大きく、自信を持って歌っている様子がうかがえた。(浜野)

みんな、オペラについて、歌う曲の内容について、興味津々、知りたい気持ちがひしひしと感じるような目と耳をこちらに向けてくれた。歌うこと、役を演じること、さらに表現の楽しみを見いだしていると思える児童も散見できるほどに、とても真剣に取り組んでくれていることに感激した。児童たちの成長をサポートするだけでなく、あふれる好奇心と向上心に触れ、自分自身も良い影響を受けつつ、成長の場に立ち会えた喜びを感じられる３日間だった。(青木)

コーディネーターから
アーティストたちも私たちスタッフも、普段なじみのないオペラを皆さんにどのようにしたら理解してもらえるだろうかという不安、初日は楽譜なしで歌を指導して、３日目の発表会までに皆さんが自信を持って歌えるまでに仕上がるだろうかという難しさを感じながら臨みました。ところが、初日から皆さんの集中力がとても高いこと、アーティストが投げかける質問や指導への反応がとても良いことから、当初の不安は杞憂だったことがすぐに分かりました。また、毎日給食を一緒に食べさせていただいたことで、皆さんの生の声と素直な反応に触れることができ、手応えのある大変やりがいのあるワークショップでした。このような機会をいただいたことに心から感謝するとともに、さらにパワーアップした企画で次回お邪魔できたらと考えています。

先生から
何よりも本物に触れる機会となったことがとても価値があったと思います。また本校は音楽会を間近に控えているため、発声法や表現という点でもとても有意義な時間になりました。実際に活躍されているオペラの先生に教えていただいたことで、子どもたちの意欲や伸びがすごかったです。

子どもたちから
最後の発表でうまく歌えたのと、アーティストたちの発表が力強くてすごかった所が心に残った。／自分がステージで実際に歌うのがとても楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立三ツ沢小学校＋あっちこっち
合唱の魅力を感じながら歌詞を味わって歌ってみよう２

担当アーティスト	上水樽力（ピアニスト、作曲家）、宮原健一郎（テノール歌手）、池羽由（ソプラノ歌手）
実施校	三ツ沢小学校（神奈川区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／4 学年 4 学級 146 名
実施日程	2019 年 10 月 18 日（金）、2019 年 10 月 23 日（水）、2019 年 10 月 28 日（月）

授業のねらい

学校側は、このワークショップを通じて子どもたちの感受性やコミュニケーション能力の伸長に期待している。合唱をテーマに普段行っている合唱曲をワークショップに取り込むことで、より深い体験ができるよう工夫する。アーティストたちの人となりも紹介する。

主な内容

＜１日目＞アーティストたちによる演奏を聞いてもらい、二部のハモリを感じた後、発声ウォーミングアップを行った。軽いストレッチと発声の練習をし、開いた柔らかい声の出し方、腹式呼吸、声を遠くに飛ばすイメージを伝えた。斉唱と合唱の違いと魅力を説明し、卒業式で歌う「変わらないもの」のサビを中心に二部合唱で練習した。＜２日目＞冒頭に上水樽さんによる映像音楽の作品を上映。その後、「旅立ちの日に」では、歌詞を大事に歌う方法として、例えば、小さく歌うところでもはっきり言葉を言えば遠くまで届くことや、サビの盛り上がる前のクレッシェンドは円をどんどん大きく描きながら歌うとイメージしやすい、など具体的な方法で伝えた。歌詞の意味をみんなで考え、歌の中での時間設定や心情を共有しながら声で表現する練習を行った。＜３日目＞体育館で全校児童の前で６年生が「変わらないもの」と「旅立ちの日に」を発表した。その後、アーティストたちによるミニコンサートを鑑賞。子どもたちが選んだ５つの音符をテーマにして即興音楽を披露したり、子どもたちが好きな歌を一緒に歌うなど、交流しながらのコンサートとなった。

アーティストから

三ツ沢小学校の子どもたちは、クラスごとに個性あふれる子どもたちで、それぞれに作り上げたコミュニティーの色を感じることができてこちらとしても気付きにあふれる楽しい時間だった。お互いを尊重し合う能力のある子どもたちであることを強く感じたので、このワークショップ、そしてその延長線上での音楽作りにとどまらず、生活の中でも生かしていけるのではと思った。少しでも私たちが、これから彼らが築く人生上でプラスの立ち位置に居られたらなと願う。（上水樽）

今回、三ツ沢小学校の子どもたちと音楽を通して豊かな時間を過ごせたことを、大変うれしく思っている。歌の表現について授業を行った際、子どもたちの想像力を引き出すために、歌詞の内容についていろいろな質問を投げかけた。こちらの予想を超える豊かな発想と、またそれをすぐに歌に反映させる瞬発力に驚かされ、子どもたちの無限の可能性を感じた。歌を通して心を解放し、また歌を通して温かい心の交流ができた、かけがえのない時間だった。（宮原）

子どもたちは感受性がとても豊かで、初日から驚きの連続だった。私たちが歌い方を変えて範唱した後に問いかけると、どう変わったか…何が違ったか…ということを、「発声」「言葉」「強弱」「表情」などさまざまな観点から、感じたことを次々に話してくれた。最終日の発表では豊かなハーモニーを奏で、言葉を大切に、声に表情を付けて歌うことができていた。これから先、授業の中ではいろいろな曲で二部合唱を経験することになると思う。その時に、この３日間のことを少しでも思い出してもらえるとうれしい。三ツ沢小学校の４年生に出会えたことに、心から感謝している。（池羽）

コーディネーターから

学校側から期待があった「ワークショップを通じた子どもたちの感受性やコミュニケーション能力の伸長」を私たちは十分に感じることができました。普段行っている合唱曲を、さらなる深みへと子どもたちがアーティストと共に一生懸命に取り組んでいる様子を目の当たりにし、音楽との貴重な楽しい出会いになったのではないかと思いました。子どもたちが音楽・アーティストを身近に感じられるような機会を今後も作っていきたいです。

先生から

プロの方に出会って、子どもたちが体験したり、歌や演奏を聞かせていただいたりする機会はすごく大切だなと思いました。教師が伝えるのとはまた違う「本物」を見せていただくことで、心に残る、心に刺さる、一瞬も見逃せない時を過ごさせていただいて、私も幸せでした。アーティストの方の生の歌声や演奏を聴くことができ、大変良い体験ができました。いつもと違う授業の形で楽しく学習を進めることができたと思います。歌う時の姿勢を学習したことによって、音楽の時間（朝の歌）に心がけている子どもが多くなったと思います。

子どもたちから

ミニコンサートのひびきがすごかった、マイクなしなのに！！／ピアノの即興の作曲がすごかった。／ＣＭの音楽を作曲していてすごい。／ミニコンサートの歌きれい。／歌も上手でびっくりした。コンサートが楽しかった。／ピアノのリクエストにこたえた演奏がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立一本松小学校＋象の鼻テラス 「Tap dance×Composition」～タップダンスと楽器による作曲・演奏・録音ワークショップ～

担当アーティスト	イーガル（現代音楽作曲家）、米澤一平（タップダンサー）
実施校	一本松小学校（西区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／創作／6 学年 2 学級 57 名
実施日程	2019 年 12 月 2 日(月)、2019 年 12 月 4 日(水)、2019 年 12 月 6 日(金)

授業のねらい

担当の先生へのヒアリングによると、６年生のクラスがうまくまとまらず、コミュニケーションがなかなか難しい様子とのこと。一つの物事を共に取り組むことでコミュニケーションが生まれ、自己肯定感や自己有用感を感じられるような音楽体験の場を作る。アーティストは、即興演奏を得意とする現代音楽作曲家・イーガルさんと、タップダンサー・米澤一平さんをペアで選定。タップダンスも自分の身体を通したリズム表現と捉え、楽器演奏とタップのパートに分けての児童には自由選択してもらい、選んだパートごとで演奏・振りを創作してもらう。最終日には、全員演奏をレコーディングし記録するというゴールを設定した。

主な内容

＜１日目＞アーティストのお二人のパフォーマンスを披露。音楽とタップダンスを全員に体験してもらう。タップダンスでは、上履きに硬貨を貼り付けて簡易シューズを作るところから始めた。一通り体験した後、２日目にやりたい演奏のパートを選択し、レコーディングに向けて練習していくと説明した。＜２日目＞楽器演奏とタップ演奏に分かれて自作の演奏を作っていく。タップダンスでは、米澤さんに見てもらいながら、二人のペアで８小節のオリジナルのタップ演奏を作る。ペアのミニ発表会も行った。音楽パートは、おのおの楽器選びの後、演奏順番を確認し、イーガルさん指導のもと各自練習を行い、授業の最後に音楽パートとタップパートで一緒に合わせ通して演奏をしてみた。＜３日目＞各パートで思い出し練習。リハーサルで撮影した映像を見ながら他のパートや自分の演奏部分をフィードバック。数回のレコーディングを行い、曲を完成させた。

アーティストから

小学６年生が対象ということで、「自発的な選択」と「自分で作る音楽」を第一の目標としました。３日間のワークショップでは１日目にタップダンスを全員が体験し、２日目には学校にある演奏したい楽器かタップダンスを選んでもらい、私たちが６年生たちと共に作ったアウトラインに沿うようなメロディーやリズム、タップダンスの制作、最終日には練習および録音を行いました。人数も多くタイトなスケジュールでしたが、先生方など学校の皆さまも協力的で、児童たちの自発的な音楽を作り上げたことは一定の成果であると考えております。また個人的なことですが、二人で講師をする、ということもなかなかない体験で、このような対等な講師二人によるタップダンス／作曲・演奏のワークショップを今後もしていきたいと考えております。（イーガル）
初日は全員がタップダンスを初めて体験する機会で、少し緊張感もあり、ステップやリズムをまねしてみるところから始めました。２日目、タップダンスを選んでくれた子どもたちにはリズムとステップを自作でクリエーションしてもらう課題を与え、２人１組でそれぞれが創作する時間を設け、すぐに作ってしまうチーム、ヒントをくださいと相談してくるチーム、アイデアをいろいろ試したがるチームとさまざまいましたが、この日はどのチームも伸び伸びと楽しく創作している雰囲気でした。３日目は本番レコーディングの中で、急激的に音とリズムをより正確に扱い始めました。音楽チームと共に演奏するという意識の芽生えから、みんなで一つの音楽を作るという成長が見られました。（米澤）

コーディネーターから

一本松小学校は野毛山大道芸の開催地の近くにあるため、大道芸を披露する機会があるとのこと。それもあって、クリエーションすることや表現することに慣れている感じでした。８小節でオリジナルのタップ演奏を作る時も、アーティストと対話しながら自発的に取り組む様子が見られ、それぞれの個性が分かるオリジナルのタップ演奏を生み出せました。会場であった音楽室が広くはないこともあって、２日目は音楽演奏組とタップ演奏組で分かれて練習し、最終日ではレコーディング前に合わせられるか心配でしたが、子どもたちの集中力の高さや本番に挑む緊張感もあって、たった数回のリハーサルでレコーディングを成功させ、アーティストのお二人も先生も驚いていました。小学生最後の思い出作りにもなれたかと思います。

先生から

音楽の楽しさを体感できた子どもがほとんどで良かったと思いました。音を出すところ、消すところ、調和、息を合わせてリズムにのることを肌で感じていたからこそ、どんどん良くなっていったんだと感じます。子どもたちもそれを学び、楽しかった、またやりたい！という子ばかりでしたので、本当に感謝しています。

子どもたちから

楽しみながらこんなにおもしろい授業をうけられてうれしかった。／最後の録音を聞いて、良い音楽が作れてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立蒔田小学校＋吉野町市民プラザ オリジナル・ソングを作ろう！

担当アーティスト	増村エミコ（ゴスペルシンガー）
実施校	蒔田小学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／作詞・作曲／6 学年 2 学級 65 名
実施日程	2019 年 8 月 29 日(木)、2019 年 9 月 26 日(木)、2019 年 10 月 17 日(木)

授業のねらい

子どもたちは個々にさまざまな思いを持ちつつ、それを適切に表現したり、具体的な言葉や形にしたりすることが難しい子どもたちです。活動の中で、豊かな表現力や発想力・想像力・感受性などを付けていきたいと考えています。またみんなで一つのものを作り上げる体験を通して、「蒔田小学校の６年生」という帰属感や一体感を味わい、自分と仲間を肯定的に捉えることができるようにしていきたいと考えています。

主な内容

＜１日目＞講師パフォーマンス、歌のトレーニング、進め方の説明など＜２日目＞歌詞とメロディーを作る①、②＜３日目＞歌詞とメロディーを作る③、合唱の歌唱指導

アーティストから

「全員でオリジナルソングを作る」というとても難しいことにチャレンジしました。たった数行の歌詞を作るのも、旋律をつなげるのも、全員となるとその分思いもバラバラになると思いきや、作詞チーム、作曲チームに分かれてリーダーを決めて進めると、とても上手に話し合い、認め合ったり褒め合いながら出来上がっていきました。世界に一つだけの歌を特別な記念日に歌うことで、彼らの良き思い出になってくれたらうれしいなぁと思ってサポートしました。

コーディネーターから

昨年度と同じテーマ・講師の方で実施することになりました。子どもたちの自主性が必要であり、担任の先生方からの多大なご協力をいただかないと達成できない難しいテーマです。昨年とは進め方を変えて、数名ずつの児童たちに作詞・作曲のチームリーダーになってもらい、次の授業までに作業を進めてもらいました。

皆さん忙しい中、学年全体でよく考えて、世界に一つのオリジナルソングの１コーラスがやっとできあがりました。その後は、引き続きみんなで完成してもらうことになり、翌日から子どもたちは歌を口ずさんでいるそうです。完成した歌が卒業式で歌われるのが楽しみです。

先生から

本物の芸術を見せていただき、子どもたちが直接芸術に触れることができ、貴重な経験となりました。有意義な活動をさせていただきました。これをきっかけに、何かが変わった、何かが始まった子どももいると感じました。このような取組を今後も続けてほしいです。

子どもたちから

アーティストの演奏がすてきだった。／自分たちの話し合いでいろいろなことが決まるのが楽しかった。／協力して取り組めたので団結力が高まった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立芹が谷小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベにチャレンジ！１

担当アーティスト	松井イチロー（ラテンパーカッショニスト）
実施校	芹が谷小学校（港南区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3 学年 2 学級 55 名
実施日程	2020 年 1 月 8 日(水)、2020 年 1 月 9 日(木)、2020 年 1 月 22 日(水)

授業のねらい

パーカッションの演奏体験を通じて、アーティストの魅力に触れると共に、自分を解放し、より幅広い表現方法を知る。勉強やレッスンのような堅い雰囲気ではなく、リラックスできるライブ感のある時間の中で、楽しみながらクラスメートとの楽器を通じたコミュニケーションを深める機会ともする。

主な内容

＜１日目＞導入、楽器紹介（講師持ち込みのジャンベ・トーキングドラム、学校の打楽器）＜２日目＞ジャンベ練習（２人で１台を基本に)、３日目の発表会に向けたリハーサル＜３日目＞クラスごとに１時間ずつのリハーサルの後、２クラス合同でジャンベリレーを中心とした成果発表

アーティストから

学級閉鎖で発表会まで２週間ほど間が空き、児童の集中力が途切れていないか心配でしたが、それはこちらの取り越し苦労だったようです。私のこと、ジャンベのことをしっかり覚えていてくれて、楽しく発表会に臨んでくれてうれしかったです。練習時と発表時の会場が同じだったので、少しでも会場の雰囲気に変化を持たせるアイデアがあっても良かったかと思いました。

コーディネーターから

インフルエンザによる学級閉鎖により、１、２回目の導入から練習と、3回目の成果発表との間が当初の想定よりも空いたものの、子どもたちは想像以上に盛り上がり、発表を楽しんでくれました。これは導入の段階で、講師のキャラクターが子どもたちにインパクトを与えていたこと、限られた発表直前の練習時間に、子どもたちを上手にノセてくれた講師のスキルのおかげによるところが大きかったです。

先生から

打楽器のプログラムということで、音楽室の打楽器の演奏から行っていただけたため、子どもにとって親近感を持って学習がスタートできました。たくさんのジャンベを持って来てくださったおかげで、２人で１台使うことができ、たくさん練習の時間が取れました。自由なリズムをたたくことに戸惑うことも少なく、思い切りジャンベリレーを楽しんでいました。普段はおとなしい子が、とても張り切っている姿は驚きであり、伸び伸びできる雰囲気作りは今後の音楽の授業にも生かしていきたいと思いました。

子どもたちから

音楽ってこんなにわくわくするんだなと改めて思った。／ジャンベをするのがはずかしかったけど、どんどん楽しくなった。／今回の学習で、音楽がすきになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日限山小学校＋ひまわりの郷
歌おう、声高らかに！～自分の歌声を最大限に引き出そう～

担当アーティスト	浅野美帆子（声楽家）
実施校	日限山小学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／5 学年 2 学級 80 名
実施日程	2019 年 11 月 29 日(金)、2019 年 12 月 7 日(土)、2019 年 12 月 13 日(金)

授業のねらい

元気な児童が多い学年であるが、音楽の授業は毎回楽しく落ち着いて学習している。美しい歌声の半面、弱々しい感じも受ける。声楽家の発声の力強さや美しさを体験させて、歌うことの楽しさ、気持ち良さ、声の持つ魅力に気付かせ、さらに意欲的に生き生きと歌唱をする姿に期待し、響きのある声で「歌おう」という意欲を育て、実践につなげたい。

主な内容

＜１日目＞学級ごとに基本の発声指導と指導曲「冬景色」の歌唱指導。＜２日目＞学級ごとに基本の発声指導の反復練習と卒業生を送る曲「明日へつなぐもの」の歌唱指導。＜３日目＞講師の歌唱披露。２クラス合同練習と各学級の成果披露。

アーティストから

基本的に頭声と地声のバランスが良く、喉に負担のない発声が身に付いた子どもたちだったので、おおむね曲想についての指導を主体にしました。１回目には強弱、２回目には歌詞の理解度を深める指導を行い、３回目の合同練習では、クラスごとの発表により、他者の演奏を聴くことで表現の効果を感じ取ることができ、理解度を深められたように思います。また、指揮による曲想指示に対する適応力も、回を重ねるごとに養われていき、それに伴い集中力のある声と表現が感じられ、５年生らしい合唱の楽しさを実感することができたのではないかと思います。

コーディネーターから

昨年に続き担当させていただきました。事前に練習している曲でしたが、講師から歌詞の内容を理解し、情景を思い浮かべて歌うことを心がけるように指導を受けると、歌声がとても豊かになるのをはっきりと感じました。それは歌っている子どもたちも実感したのではないかと思います。今後の練習でまだまだ上達するような伸びしろを感じました。学校側の対応も協力的で、指導をする教室の調整などいろいろと対応していただき、スムーズに進めることができました。

先生から

コーディネーターの方と何度も連絡を取り、必要な連携が持てたと思います。アーティストの方は、分かりやすく楽しい授業を提供してくださり、子どもたちの表現力を高める機会となりました。講師の演奏の素晴らしさに感動し、自分の表現に取り入れようとしている姿もありました。今後もぜひこのような活動を継続していただき、歌の好きな子どもを増やしてほしいです。

子どもたちから

はじめてイタリア語の曲や英語の曲を聴いた。／みんなで歌を歌ったのが思い出に残った。／ピアニストの先生の曲を聴いて、私も同じ曲をひけるようになってみたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立南台小学校＋ひまわりの郷
えっ？これも楽器になる！？
創作楽器を使った音楽鑑賞と体験

担当アーティスト	ルロット・オーケストラ（クラシック音楽演奏集団）
実施校	南台小学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／アンサンブル／3 学年 3 学級 109 名
実施日程	2019 年 11 月 25 日(月)

授業のねらい

自分の身の回りにある生活用具などが、立派な楽器として音楽を奏でる。「堅苦しい」と敬遠しがちなクラシック音楽も、もっと身近に感じてもらいたい。そして、既成概念で物事を判断せずに、個々の持つ想像力や発想力を養うきっかけになることを期待する。

主な内容

いろいろな楽器のレクチャー。聞きなじみのあるクラシック音楽の鑑賞。手作り楽器の演奏体験。

アーティストから

このたび、初めてプラットフォーム事業に参加させていただきました。今回私たちは「畏まることなく、音楽の入り口を体験してほしい」というメッセージを込めたプログラムを構成しました。「フライパン、水道管のようなものでさえ、アイデア一つでこんなにもすごい楽器になる！」「昔の人たちはきっとこんな風に音を出して楽しんでいたのだろう」という自由な発想が、現代の音楽にも生きているということを伝えることができたと思っております。これからもたくさんの子どもたちに、このような楽しさを伝えていきたいと思っております。

コーディネーターから

今回、小学３年生ということで、いろいろな音楽（音）に興味を持ってもらうきっかけとして、ルロット・オーケストラの皆さんに協力していただきました。既成概念にとらわれずに、身近なものでも音楽を奏でることができるということを知ってもらい、音楽だけでなく、いろいろなことに発想豊かな感性を養ってもらいたいと思いました。創作楽器（フライパンや水道管など）の体験では、みんな楽しそうに演奏していました。担当の先生も事前の打合せから協力していただき、準備から本番まで余裕を持って実施することができました。

先生から

音楽家としても一流の皆さんですが、児童を２時間近く引き付ける準備や工夫（話術や構成、曲の選択）などが大変素晴らしかったです。普段から音楽に親しみがある人、ない人に関わらず、音楽のさまざまな魅力に気付くことができ、心から楽しむことができました。また、音楽の授業だけでなく、普段の生活の中に音や楽器があふれていることも教えてくださり、音楽をもっと身近に感じることができました。事前の丁寧な打合せも、当日安心して迎えることができました。

子どもたちから

フライパンやスリッパなどの身近な物も楽器として使っていて、とても思い出にのこった。／にんじんで楽器を作ってふけることがすごいと感じた。／手作りのハープの音がいい音だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立今宿南小学校＋サンハート
みんな一緒にワンボイス！魂の歌を届けよう

担当アーティスト	金井恵理花（ゴスペルディレクター）
実施校	今宿南小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽、総合的な学習の時間、道徳
実施概要	体験型／ゴスペル／3 学年 2 学級 50 名
実施日程	2020 年 1 月 9 日(木)、2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 1 月 18 日(土)

授業のねらい

魂の歌とも言われるゴスペルを実際に体験し、感受性をより一層育む。自然と湧き上がってくる思いを友人と共有し、さらに一緒に表現することで、コミュニケーション能力を高め、表現力の育成を促す。

主な内容

＜１日目＞This Little Light of Mine、We Are The World（サビのみ）歌練習＜２日目＞This Little Light of Mine、We Are The World（サビのみ）歌、振り付け練習＜３日目＞This Little Light of Mine、We Are The World 発表、ゴスペルスパークルの Oh Happy Day 練習（ご家族も一緒に）

アーティストから

３年生２クラス合同の 90 分の授業が３回。３回目は授業参観も兼ねて、体育館で発表会ライブ。本当にかけがえのない素晴らしい時間を過ごさせていただきました。楽譜も歌詞カードも使わず、どんどん歌って耳で覚えていくという、ゴスペルの本来のスタイルで授業を行いました。子どもたちの集中力と聴覚の素晴らしさ！ほんの 20 分も歌えばすぐに覚えてしまいます。英語の歌詞も聞こえたまますんなりと入ってしまいます。いかに学ばせるか、ではなく、いかに遊ばせるか。いかに制約を作らず、いかに自由にさせるか。教えるのではなく、授ける。子どもたちと歌うとハッとさせられます。楽しいことには、子どもたちはすさまじい能力を発揮するのです。子どもたちはみんな天才的な音楽家です。本来、音を楽しむと書く「音楽」は楽しければいいものです。子どもたちの未来に、いつまでも楽しい音楽がありますように。そして、ゴスペルという生命力のある歌を歌ったことを、ずっと忘れないでいてほしいなと思います。

コーディネーターから

元気いっぱいの学年で、すぐに英語の歌詞も覚えて、何より楽しんでゴスペルの授業に参加してくれました。３日目には、たった２日間の練習にも関わらず、堂々とした発表を見せてくれました。そのお礼として、金井さんのゴスペルグループ（ゴスペルスパークル）が子どもたちに歌のプレゼントを届けました。大勢の大人の合唱に圧倒されているようでしたが、手拍子などで楽しんでいる様子でした。最後に、保護者の方も巻き込んで Oh Happy Day の合唱練習を行い、会場大盛り上がり。「今日集まったこのメンバーで最高の歌を届けよう」という金井さんの思いが詰まった素敵なプログラムとなりました。

先生から

楽譜や音程にこだわらず、歌とリズムと歌いたいという気持ちで表現することで、一人ひとりが楽しむことができていました。ゴスペル発祥の理由やゴスペルとは何かをしっかりと教えてもらったことで、人種や世界の背景にも触れられて良かったです。子どもたちはアカペラでもしっかりと覚えていて、手拍子だけで歌うことができ、日々ロずさんでいました。また We Are The World のサビ以外の部分も、聞いただけで覚えている児童もいて、当日の録画を見た際に一緒に歌う姿も見られました。私自身もゴスペルが好きで、いつか子どもたちと歌いたいと思っていたので、プロの方の指導方法を間近で見られたことが本当に良かったです。

子どもたちから

笑顔、大きな口、目をパッチリ、を意識して歌うことで、歌が楽しいと感じ、好きになった。／ゴスペルについて知り、何度も歌ううちに、楽しさが分かってきた。／いつもたくさんほめてくれたので、大きい声で自信をもって歌うことができ、歌うことが楽しいと感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立並木第一小学校＋長浜ホール
オペラを体感！みんなで楽しむ歌の世界

担当アーティスト	おしゃべり音楽館（バリトン歌手東卓治とソプラノ歌手東実和を中心にクラシック音楽の普及を目指すグループ）
実施校	並木第一小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／2・3 学年 4 学級 144 名
実施日程	2019 年 9 月 12 日(木)

授業のねらい

本物の歌い手の生の歌声に触れることで、感性が揺さぶられるような経験を味わってもらいたい。オペラのアリアの名場面を目前に接することで、異なる歌声が一つの世界を構築する驚きや喜びを見いだしてほしい。歌い手とのやりとりや実際に歌ってみることを通して、表現力を磨き、工夫して自分たちで歌おうという意欲に結び付けたい。

主な内容

オペラ“魔笛”を中心に鑑賞し、みんなで歌い手と合唱

アーティストから

２年前の子どもたちとはまた違った反応があり、子どもの心の多様さを実感したコンサートでした。歌だけはなく、45 分の中で２人の歌手が合計６つの役柄を、衣装も変えながら演じ分けるところがこのプログラムの魅力だと考えています。笑いや悲しみ、怒りなどさまざまなキャラクターに接することを通じて、人間の感情について語り合い、豊かな心を育むきっかけになれば幸いです。

コーディネーターから

異なる音声や旋律が一つになった時の美しさ、驚きを味わってもらいたい…これが今回の目的です。パパパの二重唱ではバリトンとソプラノがアンサンブルを繰り広げました。優れた表現を目の当たりにすると、自分でも表現したくなるものでしょうか。後半の一緒に歌う時間は先生も驚く大きな歌声でした。２年生は元気よく、３年生はよりエレガントに並木ソングを歌い上げました。でも子どもたちの心にはパパゲーノの歌や夜の女王のアリアが残っているはずです。旋律を口ずさみながら教室に戻っていく子どもたちを見て固く信じました。

先生から

「自分もあのような声を出してみたい」という、憧れの気持ちを持つと、これからの歌唱でその姿が大きな目標になり、学習へ取り組む姿勢が違ってくると考えています。今回のアーティストも、演出・子どもたちへの声かけなど大変良いモデルとなってくれました。「夜の女王のアリア」は私自身涙が出てくるほど感動しました。「一流の音楽を子どもたちに生で聴かせたい」という思いを叶えてくださり、どうもありがとうございました。次回もまた応募したいと思っています。

子どもたちから

オペラはおもしろい曲や怖い曲があることを初めて知って、楽しかったし、おもしろかった。／後半、みんなで一緒に歌ったことが心に残った。／夜の女王の声が高くてすごかった。自分もそんな声になりたい。／区の音楽会で私もきれいな声を出したい。／また来年も来てほしい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立文庫小学校＋長浜ホール
アフリカの民族音楽を体感し、みんなでつながろう

担当アーティスト	ワールドアサンテファミリー倶楽部（民族音楽や踊りにより国際理解教育の普及と発展を目指すグループ）
実施校	文庫小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／民族音楽／4 学年 3 学級 84 名
実施日程	2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 12 日(木)

授業のねらい

リズム系を中心としたアフリカの民族楽器を子どもたちが見、聞き、実際に演奏し、さらには踊ることで、表現することの楽しさ、素晴らしさを味わい、自尊感情を育んでいきます。演奏やダンスを通じて、クラスや学年での一体感を味わい、他学年にワークショップの成果を披露して、リズムとダンスを通して学校中を巻き込むことが目的です。

主な内容

＜１日目＞アフリカ音楽を知ろう。アフリカの民族楽器を演奏してみよう。＜２日目＞アブドゥと一緒にアフリカ音楽を楽しもう。アフリカンダンスを踊ってみよう。＜３日目＞全校児童にアフリカの音楽を紹介しよう。学校中で歌って踊ろう。

アーティストから

子どもたちが明るくて元気で大変楽しい時間を持てました。初日からみんなアフリカの楽器に興味津々。２日目はダンサーのアブドゥと音楽室でダンスレッスン！みんな踊る踊る。その後エイサーの踊りを見せてくれましたが、気持ちがこもっていて感動しました。最終日は全校巻き込んで歌って踊って大盛り上がり！みんなもアフリカが身近になったと思います。

コーディネーターから

民族楽器の紹介から始まり、楽しく学んだ成果を全校児童の前で発表しました。みんなノリノリで、学校中を巻き込んだプログラムになりました。子どもたちは表現意欲にあふれ興味津々、元気いっぱいで今回のプログラムにぴったりでした。アーティストの間でも“文庫小の子どもたちはフレンドリーだね！”と評判です。２日目にお礼として踊ってくれた４年生全員のエイサーには感激しました。もてなす気持ちを忘れない素晴らしい子どもたちでした。

先生から

今までアフリカの音楽をＣＤで聴いたことはありましたが、本物の楽器でプロの方の演奏を聴き、体験することがとても貴重な経験だと感じました。まだ見ぬ国アフリカの話を聞き、本物の音楽に触れ、どんどん進んで表現をし始める子どもたちを目の前で見ることで、音楽を通して学ぶものの大きさと、本物から得るものの大きさを感じました。私自身も、実際にアフリカの方と直接話したり、一緒に楽器を演奏したりするのは初めてのことだったので、子どもたちがわくわくして授業に参加する気持ちがとてもよく分かりました。最後に、全校の児童に向けての演奏とワークショップでは、体育館にダンスのステップが鳴り響き、子どもたちの歌声が響き、全校児童が一つになって表現する時間を持つことができました。本校の児童の表現力を高める授業になったと思います。

子どもたちから

うちあわせをしていなくても曲がつくれるのがすごかった。／全校でおどったこと、歌ったことがすごくおもしろかった。／セネガルの踊りやアフリカの歌が思い出にのこった。／国や地域によってリズムがちがうということを知った。／太鼓の音がいい音だった。／カリンバがあんな音がでるのがすごい。／音がきれいだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立大曽根小学校＋大倉山記念館
ルネサンスの音とあそぶ

担当アーティスト	音楽団体 incontro（声楽家、古楽器奏者、俳優などのメンバーによる公演団体）
実施校	大曽根小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／音楽劇／1・2 学年 9 学級 305 名
実施日程	2019 年 11 月 12 日(火)

授業のねらい

小学校では日ごろなじみのない古楽器の演奏、歌と芝居を織り交ぜた音楽劇のプログラムを実施することで、ヨーロッパ各国の中世からルネサンス、バロックの音楽（古楽）に親しみを持ってもらう。また、アーティストが時代衣装を身に着けてのプログラムや、アーティスト（楽器演奏）と児童（歌）が共同で演奏をする時間を作ることで、遠い時代や国についての理解を深め、音楽（古楽）に対しての視野を広げる。

主な内容

ルネサンス、バロック期の音楽を通し西洋の歴史・文化に触れる

アーティストから

今回は、子どもたち、現場で携わっていらっしゃる先生方と楽しい時間を共有させていただきました。子どもたちとのやりとりの中で、彼らから教わることは計り知れないということを改めて認識しました。目をキラキラさせ、いつもと違った世界に期待感を膨らませ、ワクワクの表情を向けてくれました。かつては自分もそうであったはずです。私もそんな気持ちを持ち続け、その表情に大人として全力で応え続けていきたいと思います。

コーディネーターから

今回ご出演いただいた皆さまには、古楽器のご紹介や子どもと一緒に合唱する曲も織り交ぜたプログラムを構成していただき、音楽劇の内容も子どもたちが入り込みやすいようにご配慮いただき、素晴らしい公演をお送りすることができました。また、学校の皆さまにも当日のご準備などご協力いただき、温かく迎えてくださり大変ありがたかったです。子どもたちには今回の公演を通して、これからさらにルネサンスの音楽や古楽器に対して視野を広げていただければ幸いです。

先生から

児童はわくわく心躍らせながら鑑賞していました。子どもたちにとっては、珍しい衣装や楽器をたくさん見たり聞いたりすることができて、貴重な体験になりました。また、司会の方のテンポの良いお話や全体の構成が、低学年にはとても良かったと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立菊名小学校＋サルビアホール
オリジナルソングを創作、パフォーマンスをしよう！

担当アーティスト	国友淑弘（作曲家、演出家）
実施校	菊名小学校（港北区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／作曲／6 学年 4 学級 121 名
実施日程	2019 年 11 月 11 日(月)、2019 年 11 月 18 日(月)、2019 年 11 月 21 日(木)、2019 年 11 月 27 日(水)、2019 年 11 月 28 日(木)、2019 年 12 月 2 日(月)

授業のねらい

一人ひとりの個性を持ち寄って、仲間と音を分かち合う楽しさを味わう。自由に表現する楽しさ、お互いを認め合い意見を尊重しながら一つの目標に向かって作り上げていく。普段、音楽を苦手に感じている児童たちにも興味を持ってもらえるよう、「リズム」をキーワードに授業を進め、最終的には簡単な振りを付け、ステージング方法を学ぶ。
※音祭り 2019 と連動して実施。

主な内容

＜１日目＞事前に決めたテーマから連想される単語を探すグループワーク、リズム選び。(クラスごとに実施）＜２日目＞事前に決めたテーマから連想される単語を探すグループワーク、リズム選び。(クラスごとに実施）＜３日目＞歌詞案の一部をみんなで考えてみる。(クラスごとに実施）＜４日目＞歌詞案の一部をみんなで考えてみる。(クラスごとに実施）＜５日目＞歌の練習、パフォーマンスの練習。(クラスごとに実施）＜６日目＞発表会のリハーサル→発表。

アーティストから

今の児童は、人と人とが向かい合い、目に見える形で営まれる現実とは別のインターネットの社会が当たり前にあり、それら双方の影響を受けつつ共に育ってきていることを感じました。授業に関しては、コーディネーターが学校との間に入ってくださることで、事務的諸連絡がスムーズに行えました。音楽の先生は、各クラスによって異なる授業態度や雰囲気などを伝えてくださるとともに、授業のサポートをしてくださったので、うまく進めることができました。また授業に必要な事務用品、印刷なども準備してくださったことで、時間を有効に活用できました。クラス担任の先生も可能な限り授業に参加してくださり、限られた時間の中、発表会のためにクラス内でも練習をしてくださいました。

コーディネーターから

思春期の盛り、どこまで参加してくれるか不安ではありましたが、アーティストが子どもたちとの会話の中から、単語やクラス特有の出来事を引き出してくださり、歌詞を作成することができました。そして覚えた歌に振り付けをし、クラス全員が一丸となって発表までできたことを大変うれしく思います。いつかこの授業のことを思い出してくれたら幸せです。

先生から

自分では不可能な曲作りというものにチャレンジできたことが、大変貴重な経験となりました。歌詞を考える時のポイントや、曲の感じから選択していくという方法は、今後何かしら似たような機会があった時に生かせると思いました。コーディネーター、アーティストの方々と一緒に打合せを進めていくことができたので、私自身も勉強になりましたし、授業作りの勉強になりました。

子どもたちから

自分たちだけのオリジナルソングなので心に残る思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立城郷小学校＋子どもに音楽を 学校でクラシックを鑑賞

担当アーティスト	辻本玲（チェリスト）、入江一雄（ピアニスト）
実施校	城郷小学校（港北区）
コーディネート	ＮＰＯ法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／チェロ／6 学年 3 学級 95 名
実施日程	2020 年 1 月 23 日(木)

授業のねらい

日ごろなかなかコンサートに行ったりする機会のない子どもたちなので、本物の音楽に触れさせてあげたい、という先生のご要望に沿って演奏家を決めました。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流

アーティストから

質問も活発にあり、子どもたちはしっかり聴いてくれました。子どもたちの前では妥協することなく、できる範囲で最高のパフォーマンスをするべきです。最近は学校訪問コンサートやアウトリーチ活動が活発な中、特に大切なことと思います。

コーディネーターから

担当の石川先生をはじめ、校長先生、教頭先生の皆さんに、とても気持ちのいい対応をしていただきました。リハーサル中、対象学年ではない４年生の児童たちが音楽室をのぞいて「自分たちも聴きたい！」とアピールをしていた、といううれしい情報もいただきました。子どもたちは落ち着いて集中して聴いていたと思います。演奏家にきれいな花束をご用意くださり、子どもたちから手渡されました。

先生から

聴いている様子、終わった後の会話、本物の音楽の力に感動しました。また「いつも満足することなく、次のステップを目指す」という演奏者の言葉も子どもに響きました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立大豆戸小学校＋横浜シティオペラ「ヘンゼルとグレーテル」２

担当アーティスト	大隅麻奈未（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、中山千恵（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、君島広昭（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、山本竹佑（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、平川寿乃（ピアノ）、山本ひで子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、佐藤玲子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）
実施校	大豆戸小学校（港北区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／1・2 学年 6 学級 190 名
実施日程	2020 年 1 月 22 日(水)

授業のねらい

体験を通して、いろいろな感じ方や考え方があり、それらに共感したり、自分とは違う感じ方を受け入れようとする気持ちを育てていきたいと思います。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

前日までインフルエンザによる学級閉鎖の検討があり、児童全員がマスク着用で参加しました。しかし子どもたちの反応はとても良く、魔女が登場した場面ではかなり受けていたと感じましたし、その後かなり打ち解けた雰囲気になりました。また、非常に行儀よく聴いていただけました。

コーディネーターから

ピアノ、アップライト調律済み、全開にして角度などを調整の上、使用しました。音響は良くも悪くもなく、体育館特有の音の響きでした。体育館にはストーブが２台あり、本番直前にピアニスト用ストーブを点火していただきました。パーテーションにブルーシートが用意されており、使い勝手が良かったです。

先生から

本物のオペラを目の前で鑑賞する機会がほとんどなかったので、迫力に圧倒されました。幼い子どもたちには、大人の私たちよりもっと心に残る体験になったと思います。今の世の中は、人の興味、関心が多岐に渡り、インターネットなどで検索すると、何でも簡単に関連動画などを見ることができますが、やはり「本物に触れる」体験はとても大切だと感じました。今後もさまざまな体験プログラムを期待しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上山小学校＋みどりアートパーク
お話「タヌキの糸車」に合わせて音楽をつくろう

担当アーティスト	谷川マユコ（作曲家）
実施校	上山小学校（緑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／創作／3・4 学年 4 学級 120 名
実施日程	2019 年 12 月 23 日（月）

授業のねらい

「タヌキの糸車」に効果音と音楽を創作することを通して、集団によるお話の音楽作りをすること、またそれを発表すること。

主な内容

日本の音階、音楽作り、練習と発表

アーティストから

今回は「ルールに従って作曲したものを合奏して、お話の中に音楽を挿入し、発表する」という、かなり内容的にも時間的にもハードルが高いことを実施した。普段指導している大学生と子どもも基本的に同じで、一つの事柄を説明するのに、切り口を変え、言葉の表現方法を工夫するだけで、想定以上の反応が得られると改めて感じた。前準備は３年生を軸に考えた。結果３年生は全体的に必死ではあったが、みんな集中していた。別のグループの発表を見て、自分たちの発表を客観的に理解しただろう。４年生は予想以上の出来だった。例えば、語りに出てくる擬音を打楽器で効果的に表現したり、お話が進む中で合奏の出だしを合図したり、自分たちが何をすべきなのか理解していた。また、予定時間を 10 分も早く終えた。１年違いでこれだけの成長があるのかと感動した。子どもたちの成長と発想力を目撃できた。

コーディネーターから

「鑑賞」プログラムでスタートした打合せが、進めるうちに「体験」プログラムにかなり寄った企画内容になりました。また、子どもたちの柔軟性と発想力には、目を見張るものを感じる結果となりました。予定調和ではないプログラムは、このような事業の枠組みでこそ学校で実施できると感じるとともに、先生や子どもたちにとっても必要な時間になると感じました。

先生から

普段授業で取り組んでいる音楽作りを、より専門的に学べたことが子どもや教師にとって新鮮で面白かったです。音楽の楽しさをほとんどの子が体感できていた点が、さすがプロだなあと思いました。とても準備をして臨んでいただきありがたかったです。今回は体験を重点的に取り組む内容でしたが、プロの演奏の素晴らしさに触れるような内容も魅力的だと感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立美しが丘東小学校＋フィリアホール コミュニケーションを深める音楽体験

担当アーティスト	篠崎陽子（打楽器奏者）、齋藤綾乃（打楽器奏者）
実施校	美しが丘東小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／6 学年 2 学級 70 名
実施日程	2019 年 9 月 19 日(木)

授業のねらい

音楽で友達とリズムを合わせたり、音のキャッチボールをするなど音で一つになる経験を通して、コミュニケーションの大切さや相手に興味を持つことへのきっかけになればと考えています。また表現することに自信を持ち、伝えることの楽しさや、それを受け取ることの大切さも学んでほしいです。

主な内容

音楽を通して人とのコミュニケーションを深める

アーティストから

学校側より「音楽を通して人とのコミュニケーションを深めたい」との要望があり、「自尊心と協調性」を目標にボディパーカッションに取り組みました。子どもたちに楽譜がなくても演奏できることや、アンサンブルでの協力の必要性が少しでも伝わればうれしいです。多くの子どもたちが笑顔になったり、集中したり、好奇心が生まれたりする変化を見て、改めて音楽の素晴らしさを感じると共にますます精進していこうと思いました。

コーディネーターから

目標へ取り組む方法として、児童を２組に分けてボディパーカッションの演奏を１組ずつ体験してもらいました。仲間の目線や合図を受け取り、次の演奏者に受け渡していく演奏や、音の強弱を周りに合わせるなど、楽しみながら相手を意識する演奏を行っていました。どんな子も演奏をすることを楽しむ姿が見られ、打楽器の長所を生かした授業となりました。子どもたちとの演奏の前には、さまざまな楽器とマリンバとの迫力のある演奏を聴かせて、子どもたちの心をつかんでからのワークショップという組み立ては、効果が高く興味を持てました。

先生から

来てくださったアーティストさんのお話がとても上手で、１時間の構成内容や進め方が、とても良かったです。子どもたちにとって、参加型の授業で良かったです。初めてでも取り組める内容で、みんなで楽しめる、なおかつみんなで協力しないとできない内容でしたので、実態に合っていてとても良かったです。また、普段見ることができない楽器に触れることができ、実際に触らせてもらうこともでき、貴重な経験をすることができました。生演奏も迫力があって、大人が聴いていても、引き込まれるすてきな演奏でした。

子どもたちから

どんなものでも打楽器になるし、誰でも演奏することができた。／音に合わせて、みんなで身体でリズムをとったのが楽しかった。／いろいろな種類の楽器が見られた。／演奏をきくことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立みたけ台小学校＋フィリアホール
全身で音楽を感じよう

担当アーティスト	市川和彦（トランペット奏者）、市川美和（クラリネット奏者）、市川響（クラリネット奏者）、高久智子（ピアニスト）
実施校	みたけ台小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック鑑賞／4 学年 3 学級 106 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)

授業のねらい

演奏者と近い空間でプロの方の生演奏を聴いたり、共に演奏したりする経験を通して、音楽に対する興味・関心を持ち、音楽を感受する能力や表現に生かす力を養うことを目標にする。

主な内容

アンサンブルの演奏の音を全身で感じて一緒に演奏をしよう。

アーティストから

小学校では４年生３クラスの皆さんに、音楽室でのコンサートを楽しんでいただきました。児童の皆さんと先生の音楽を愛する波に、演奏側の私共が飲み込まれたような時間でした。特に演奏と共演した合唱では、心から音楽と楽曲を愛する歌声が圧倒的でした。学校開放の日にアウトリーチが可能であれば、保護者の方々とお子さんがご家庭内で音楽の魅力を共有していただけるのではと期待いたします。

コーディネーターから

演奏家の皆さんがアウトリーチの授業に慣れているので、授業の構成がしっかりしていました。温かな人柄と楽しい会話が子どもたちの心をほぐし、興味を持たせる進行は、コーディネーター側から見ていても勉強になる授業でした。管楽器の美しい音色から織りなす演奏を、間近で聴くという醍醐味を子どもたちに届けられ、また曲とＭＣのバランスが良く、授業を受けている子どもたちの興味が湧く内容でした。

先生から

３年生で金管楽器、４年生で木管楽器の勉強をしてからのトランペット・クラリネットの鑑賞だったので、楽器の演奏や音色を肌で感じることができて、とても良い学習になりました。曲や楽器の紹介、手作り楽器や歌での共演の機会も工夫してくださり、５年生のオーケストラの学習へとつながることができたと思います。

子どもたちから

いちばん小さいトランペットの４番目はあんまり使わないことがわかった。／授業を受ける前は特に気にしていなかったが、とても迫力のある演奏で感動した。／大きい音から小さい音まで、きれいに演奏していてとてもきれいだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立谷本小学校＋フィリアホール
ヴァイオリンの響きを感じよう

担当アーティスト	松田理奈（ヴァイオリニスト）、大越崇史（ピアニスト）
実施校	谷本小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン／6 学年 2 学級 66 名
実施日程	2019 年 11 月 25 日(月)

授業のねらい

生の演奏を近い距離で聴いて、感じ取り、さまざまな表現の仕方を知り、自分の演奏や表現に生かしていこうという気持ちを育てたい。

主な内容

ヴァイオリンが表現する音・響きを感じてみよう。

アーティストから

今回、谷本小学校の子どもたちに私たちの音楽を間近で届けられましたこと、とてもうれしく思います。普段出会うことのない音の世界に、何かを感じてくれたらと思いながら演奏いたしました。こういった活動が芸術の世界に興味を持つきっかけになればうれしいです。

コーディネーターから

ヴァイオリン演奏前に、曲のイメージや背景を思い浮かべながら聴けるように話をしてくださり、プロの迫力のある演奏を興味を持って聴く子どもの姿が印象的でした。プロの演奏家とジュピターを共演できたことは、子どもたちにとっても良い経験になったと思います。質問コーナーでは積極的に子どもたちが手を挙げて、アーティストと和気あいあいとした交流を楽しんでいました。またピアノ伴奏に関しては、調律を入れない環境にも関わらず、素晴らしい演奏を子どもたちに届けてくださいました。

先生から

楽器の説明やいろいろな曲を聴いていくうちにどんどん演奏に入り込んでいく様子が見られました。身近に流れる音の響きに集中していったのだと思います。選曲、曲紹介、授業の流れが大変良かったです。ヴァイオリンの音色も素晴らしく、子どもたちの情操教育にとても役に立ったと思います。小さいころから良い本物に触れることはとても大切なので、感謝しています。

子どもたちから

とても近くでヴァイオリンの音を聴いて感動した。／ヴァイオリンのきれいな音が心に残った。また聴きたいなと思った。／ヴァイオリンの振動が強いことにおどろいた。／ヴァイオリンは音を出す時に空気を震わせていることが分かった。／音色がきれいで、音楽の世界に入っていくようだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立美しが丘西小学校＋子どもに音楽をプロの演奏を体感

担当アーティスト	弓新（ヴァイオリニスト）、大須賀恵里（ピアニスト）
実施校	美しが丘西小学校（青葉区）
コーディネート	ＮＰＯ法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ヴァイオリン／5 学年 4 学級 114 名
実施日程	2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

３回目の活動になる。熱心な担当の先生との共通認識の元、打合せに出向くことがなくても活動はスムーズに行われた。美しが丘西小学校の学校教育目標は「豊かな感性、確かな学び」。豊かな感性を伸ばすためにも生きた本物の生の音を子どもたちに聞いて欲しい！と弦楽器とピアノのミニコンサートを行った。

主な内容

演奏と楽器や曲についてのお話と、質問コーナーでの演奏家と子どもたちの交流

アーティストから

美しが丘西小学校の子どもたちは、いろいろな文化活動に触れる機会があるように感じられました。先生方が子どもたちの落ち着きのなさを心配していましたが、私たちは全く気にならずに演奏することができました。

コーディネーターから

とても元気が良い子どもたちで、やや落ち着きがない子もおり、最後まで聴くことができるかなど、先生方がとても心配していましたが、演奏が始まると、予想に反して静かに聴くことができていました。演奏家が入場すると、「ヒューヒュー」と声がかかり盛り上がっていました。質問はとても多く、積極的で、時間が足りなくなるほどでした。(目を閉じて演奏していたがなぜ？→視覚を閉ざすと音により集中できるから／嫌になったことはありますか？→もちろん！しょっちゅうあります。でもヴァイオリンが好きだし結局やり続けています。など）演奏家の強い集中力が、子どもたちの集中力を引き出したのだと思います。よく聴いてくれて、先生方も驚き、喜んでいました。

先生から

落ち着きのない児童が多い学年対象の演奏会だったので、失礼があってはならないと気を揉んでいましたが、そんな様子はものともせず、圧倒的なエネルギーの素晴らしい演奏に引き込まれてしまいました（子どもたちももちろんのことです)。このような経験は、今すぐ何かに役に立たないかもしれませんが、必ず生きていく上での力につながるのではと感じました。

子どもたちから

生で初めて聴いて、近くで聴けたので、こんなにひびくんだ！とびっくりした。／ときどき話を入れてくれたのがよかった。／はじめは緊張したけど、とてもきれいな音色で緊張がなくなり、とても心に残るものになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立勝田小学校＋象の鼻テラス
自分のなかの“音楽”を捕まえてみよう！

担当アーティスト	曽我大穂（音楽家、多楽器奏者）
実施校	勝田小学校（都筑区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／創作・民族音楽／個別支援学級 19 名
実施日程	2019 年 9 月 3 日(火)、2019 年 9 月 4 日(水)、2019 年 9 月 6 日(金)

授業のねらい

個別支援学級の１～６年生と年齢の幅が広く、言語理解が苦手な児童や、好奇心の高い児童など、特性の違う児童が混在しているとのこと。表現力や方法もさまざまだと思うので、まずは音楽や表現すること、また人と関わることを「楽しむ」ことを目標とした。音楽の枠にとらわれず表現を行う音楽家の曽我さんと共に、音楽をゲームやスポーツのように修練する気持ちではなく、本来の楽しさを十分に感じてもらうような授業にし、音楽を自分のものにして表現力を伸ばしてもらう。

主な内容

＜１日目＞民族の打楽器や押したら音が鳴るおもちゃなど、さまざまな音を楽しむ。音を鳴らさないように鈴の束を回したり、サークルボイス（音程を決めず声を調和させてハーモニーを作る）のワークショップ。＜２日目＞鈴回し、サークルボイスのワークショップを行いウォーミングアップ。２グループに分かれ、曽我さんの作ったメロディーに合わせ手や楽器を使い自由に演奏し、さらに協奏する。また、絵を描いた布をつなぎガーランドを作り教室をサーカス小屋にアレンジする。＜３日目＞授業参観日。保護者と一緒に鈴回しワークショップ。メロディーに合わせた協奏と共に、クライマックスには紙吹雪を使い、演奏を披露することも意識させ、空間ごと楽しむ。

アーティストから

「音楽」は、記憶や情景、自分の中にあるうまく言葉には置き換えられないものを、ガバッと捕まえることができます。子どもたちには、自分の中の「音楽」を捕まえる“とっかかり・コツ” みたいなものをこの３日間の中で見つけてもらえれば、というねらいを持ち参加しました。音楽室にはない変わった楽器や音の出るオモチャで好きに演奏してもらったり、自分の声や身体だけで即興的なメロディーを奏でたり、サーカス旗で教室を飾ったり、さまざまなアプローチを試しました。ゆっくりと日を追うごとに、子どもたちの「音楽」への気持ちがほぐれ、それぞれの「音楽」を生み出していけそうな方向がようやく見えたころで終

了してしまい、もう少し長めの期間を設けてゆっくり関わっていけたら、子どもたちそれぞれの“とっかかり・コツ”を必ず見つけてくれたと思います。少し残念でした。先生たちやコーディネーターの協力にはとても助けられました。

コーディネーターから

個別支援学級は１～６年生と年齢が離れており、障害がある子の特性もさまざまでした。打合せの時から、一人ひとりの障害の特性を丁寧に教えていただきました。音楽家の曽我さんは、１日目から音を使って挨拶するように子どもたちとの関係性を築けたと思います。民族の楽器や日常生活にあるものなど、音が鳴るたくさんの楽器を触って鳴らし、お気に入りの楽器を見つけてもらいました。ただ、楽器を持ってしまうとなかなか音を出すのをやめてくれず、次のワークに進むことができないようなことがあり、集中力も学年によって違うので、まとめるのが大変なこともありました。最終日は、普段の授業とは違う風景の中で保護者と一緒に楽しんでもらえて、良い経験になったのではないかと思います。

先生から

アーティストやコーディネーターが、「子どもたちに表現の面白さを味わってほしい」「一人ひとりが何に興味があるのか知りたい、寄り添いたい」という気持ちで関わってくださるのがうれしかったです。子どもたちにもその気持ちが伝わり、温かい雰囲気の中で活動できました。「身近なものに目を向け、そこから出る音を楽しむ」という感性の持ち主に出会えたこと、そのような発想を見せてもらえたことが、教師にとっても子どもたちにとっても幸運だったと思います。回を重ねるごとに、子どもたちがアーティストの世界に引き込まれていくのが分かりました。子どもたちが、自分が心地良いと思える感覚を探り、好みに応じた楽しみ方をしていました。

子どもたちから

ギターをひくのがたのしかった。／みんなとがっきであそんだことが思い出にのこっている。／かみふぶきをまくのがたのしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立茅ケ崎台小学校＋リリス
感謝の会で歌う曲を作ろう１

担当アーティスト	アベタカヒロ（作曲家）、大塚雅仁（声楽家、合唱指揮者）
実施校	茅ケ崎台小学校（都筑区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／作曲・合唱／4 学年 3 学級 105 名
実施日程	2019 年 10 月 3 日(木)、2019 年 10 月 10 日(木)、2019 年 11 月 12 日(火)、2019 年 12 月 17 日(火)、2020 年 1 月 30 日(木)、2020 年 2 月 12 日(水)

授業のねらい

６日間のワークショップで一曲、10 歳を迎える「感謝の会」で歌う「うた」を一から作詞・作曲体験する。また、披露する会に向けての合唱指導も行う。音楽作りのカリキュラムの中で「表現する」ことを体験し、表現することの楽しさ、友達の表現の良さを感じ合えるプログラムにする。
※音祭り 2019 と連動して実施。

主な内容

＜１日目＞作曲者とは（作曲家当てクイズ・映像視聴）＜２日目＞作詞体験＜３日目＞完成歌詞披露・作曲体験＜４日目＞完成曲披露・合唱練習（※４日目からの講師：アベタカヒロ、大塚雅仁）＜５日目＞合唱練習＜６日目＞合唱練習・成果発表・ミニコンサート

アーティストから

日ごろから合唱や合奏に力を入れていることもあり、子どもたちの屈託のない笑顔の奥に秘められた向上心をひしひしと感じました。クラスごとに実施した作曲体験では、ノリの良いクラス、静かに集中するクラスといったカラーの違いが面白く、私としてはそれぞれの持ち味を損なわないよう対応する必要性を感じていました。ミュージカルの訓練を受けているムードメーカーの子が一人おり、自然発生的にその子に集まるような形で周りの子たちが課題と向き合う瞬間も見られました。担任の先生の方針に従い、音楽の楽しい面ばかりでなく、時には改善ポイントをはっきりと伝え、全体に質の高い授業が展開できたと感じています。

コーディネーターから

プログラム全体を通して、合唱に重きを置きながら作詞・作曲体験と中身が濃いものになったと同時に、授業を進めていくたび、子どもたちの個々の成長を垣間見れる瞬間がいくつもありました。３クラス合同・全６回開催・プログラムとして初の試み、当初から学校・担当教諭・児童・講師、全てを巻き込み調整していくことが多岐にわたり、学校側の協力がなければ無事に終えることができなかったことに感謝し、コーディネーターとして達成感を得ることができたプログラムになりました。

先生から

10 才を祝う会という大きな目標に向けて、一からたった一つの曲を作り上げていく過程と、会うたびに子どもたちにとってアーティストの方との心の距離が縮まり、楽しみにしている様子が見て取れました。作曲家や歌手といった、知っていそうで分からないお仕事への理解、そしてプロの実力を目の当たりにし、今回の合唱だけではない、夢への憧れに近づいたり、考えたりする子どももおりました。私自身も、毎回教師として改めて奮起させられる貴重な経験となっております。

子どもたちから

「ハーフタイム」（曲名）を作曲から歌えるようにしたことが思い出に残った。／みんなで楽しく歌った。／みんな明るくなった気がした。／アベさんと一緒に作曲したことが心に残った。／作曲は楽しいと思った。／作曲までのすることを聞いてすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立都田小学校＋神奈川県立音楽堂
木管五重奏とピアノのコンサート

担当アーティスト	秋山貴之（フルート奏者）、糸井奈々（クラリネット奏者）、進藤稀（ホルン奏者）、斎藤舞（オーボエ奏者）、殿岡芽依（ファゴット奏者）、野川かおる（ピアニスト）
実施校	都田小学校（都筑区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／木管五重奏／5 学年 2 学級 76 名
実施日程	2020 年 1 月 16 日(木)

授業のねらい

ポピュラー楽曲や耳なじみのある楽曲だけでなく、クラシック音楽に対する興味を高めると同時に、また、プロの演奏、生で聴くアンサンブルならではの躍動感や、呼吸の使い方やアイコンタクトなどを実際に間近に感じることのできる機会にする。

主な内容

木管五重奏とピアノのコンサート
＜実施プログラム＞１．山の音楽家じゅんばん協奏曲）　・白鳥の湖／チャイコフスキー（オーボエ・ソロ）　・ホルン協奏曲第１番／モーツァルト（ホルン・ソロ）　・アルルの女／ビゼー（フルート・ソロ）　・魔法使いの弟子／デュカス（ファゴット・ソロ）　・クラリネットポルカ／ポーランド民謡（クラリネット・ソロ）　２．フルートソロ　F.ボルヌ／カルメン幻想曲　３．クラリネットソロ　パキート・デリヴェラ／三つの小品より第一楽章　４．オペラ・ガラ・コンサート　・こうもり序曲／ヨハン・シュトラウス２世　・乾杯の歌（椿姫）／ヴェルディ　・もう飛ぶまいぞこの蝶々（フィガロの結婚より）／モーツァルト　・私のお父さん（ジャンニ・スキッキより）／プッチーニ　・ハバネラ（カルメンより）／ビゼー　・誰も寝てはならぬ（トゥーランドットより）／プッチーニ　５．オーボエソロ　サン＝サーンス／オーボエソナタより第一楽章、第三楽章　６．ファゴットソロ　ウジェーヌ・ボザ／バーレスク　７．ロシア五人組の芸術　・「ルスランとリュドミラ」より序曲／グリンカ　・「シェヘラザード」より「若き王子と王女」／リムスキー＝コルサコフ　・「展覧会の絵」より「プロムナード」／ムソルグスキー　・はげ山の一夜／ムソルグスキー　・「万華鏡」より「オリエンタル」／キュイ　・交響詩「ル―シ」／バラキレフ　・「イーゴリ公」より「だったん人の踊り」～フィナーレ／ボロンディン　８．ホルンソロ　フランツ・シュトラウス／ノクターン　９．ピアノソロ　フレデリック・ショパン／子犬のワルツ　１０．サウンド・オブ・ミュージックメドレー　・サウンド・オブ・ミュージック（タイトル曲）・私のお気に入り・ドレミの歌　１１．コラボ演奏　・サウンドオブミュージックより「エーデルワイス」　１２．ピアノ六重奏　・フランシス・プーランク/３つのノヴェレッテより第１番

アーティストから

木管五重奏は、５名という小編成ながらバランスの取れた「小さなオーケストラ」のような響きがするため、今回のプログラムでは有名なオーケストラの曲をメドレー形式で取り上げました。生演奏で聴いてもらうことで、普段何気なく流れているクラシック音楽にもアンテナを張ってもらえたらと思います。また今回、５つの楽器それぞれをさらに身近に感じてもらうため、木管五重奏の他にそれぞれの楽器のソロ演奏(ピアノ伴奏)をプログラムに入れました。各奏者が楽器にまつわるクイズを出したり、オーボエソロの際にはリードで実際に子どもたち(希望者)が音出し体験を行ったりと、子どもたちにとって楽器が身近に感じられる機会になったのではないかと思います。そして、子どもたちがリコーダーを演奏しての「エーデルワイス」コラボ演奏。練習なしの一発勝負でしたが、とてもよく練習していて、初めてなのに上手に合わせられていました。今回の木管五重奏の「アンサンブル」を通して、人と演奏する楽しさを感じてもらえていたらうれしく思います。

コーディネーターから

「アンサンブルならではの躍動感や呼吸の使い方、アイコンタクトを近くで感じてほしい。またリコーダーで一緒に演奏をしたい。」という学校からの要望で、クラシック楽曲をメドレー形式で演奏するプログラムを実施しました。初めて生で見る楽器に興味津々で、親しみやすい楽器の説明や楽曲解説もあり、１時間半という長いプログラムも集中が切れることなく参加することができました。聴いたことのある曲では、メロディーに合わせて身体を揺らしたり、聴きなじみのない曲でも、自分なりに咀嚼して理解しようとしている様子がうかがえました。また、アーティストと合奏をすることによって「プロと一緒に演奏した」という達成感や、アンサンブルの楽しさをそれぞれ感じていたように思います。多彩な楽曲と触れることで、クラシック音楽への興味につながったと思います。

先生から

まず、木管五重奏者を探していただきありがとうございました。４年生でオーボエ、フルート、クラリネットは鑑賞したのですが、ほんの少し触れただけで、深まりが不足しており、ファゴット、ホルンも加わり、木管の響きと奏者の様子を見せてやりたいのが前提でしたので、教師側の意図は達成することができました。また各楽器コーナーで、授業では紹介できなかった詳細も体験させていただき、貴重なひとときとなりました。子どもたちのアンケートから、自身の演奏に反映されるものと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立つづきの丘小学校＋サルビアホール
大事にしていることをテーマにオリジナルソングを作ろう

担当アーティスト	竹田えり（作曲家、歌手、声優、音楽遊び講師）
実施校	つづきの丘小学校（都筑区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／作曲／3 学年 2 学級 72 名
実施日程	2019 年 9 月 18 日(水)、2019 年 9 月 25 日(水)、2019 年 10 月 2 日(水)、2019 年 10 月 16 日(水)、2019 年 10 月 17 日(木)、2019 年 11 月 6 日(水)

授業のねらい

オリジナルソングを作るにあたり、自分たちで歌のテーマを考える。一人ひとりの違いを認め合いながら表現する楽しさを学び、協力して一つのものを作り上げる達成感を味わう。
※音祭り 2019 と連動して実施。

主な内容

＜１日目＞Aチーム「まち」: びっくりしたこと、いいなと思うところの作文発表・グループワーク　Bチーム「自然」: びっくりしたこと、いいなと思うところの作文発表・グループワーク＜２日目＞Bチーム「自然」: 自然のどんなところが好きか探すグループワーク　Aチーム「まち」: 都筑の町のどんなところが好きか探すグループワーク＜３日目＞Bチーム「自然」: ２日目に出た言葉を使って歌詞を作る　Aチーム「まち」: ２日目に出た言葉を使って歌詞を作る＜４日目＞Bチーム「自然」: 仮歌の一部（穴あき部分）を作曲してみる　Aチーム「まち」: 仮歌の一部（穴あき部分）を作曲してみる＜５日目＞Bチーム「自然」: 仮歌の一部（穴あき部分）を作曲してみる　Aチーム「まち」: 仮歌の一部（穴あき部分）を作曲してみる＜６日目＞完成した歌の練習

アーティストから

２曲ほど、３年生の皆さんと歌作りをさせていただきました。歌にしたい言葉をいっぱい書き出し、みんなで選んで歌詞を作り、その後のメロディー作りは難しいかな？と思っていたのですが、予想を裏切りたくさんのユニークなメロディーを、皆さん積極的に提案してくださいました。一曲はラップ形式で歌うという、小学校では珍しい楽曲になったのではないかと思います。私自身も大変勉強になり、そしてとても楽しい６日間でした。

コーディネーターから

担当の先生、アーティストとの連絡を密にすることで、とてもスムーズな進行となりました。２時間続きの授業は、途中集中力がなくなり悩む時もありましたが、先生から「背伸びをするだけでも変わりますよ」などアドバイスをいただき、素敵な曲が２曲完成しました。住んでいるまちや近隣について考えてみる良い機会になったのではないでしょうか。

先生から

本校の大切な行事の一つである「つづきの丘音楽祭」での発表という大きな目標があり、そこに初めての総合的な学習の時間を関連させることができて良かったです。子どもたちの達成感も高かったと感じています。コーディネーターやアーティストの方々も、子どもたちの実態に合わせて活動内容を工夫してくださり、自然な流れの中で進めることができました。

子どもたちから

作った歌がすごくいい。／今回作った歌を音楽祭で歌えてよかった。／自分たちで作った歌をみんなに伝えられてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東山田小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベにチャレンジ！２

担当アーティスト	松井イチロー（ラテンパーカッショニスト）
実施校	東山田小学校（都筑区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／5 学年 3 学級 110 名
実施日程	2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 12 日(木)、2019 年 12 月 13 日(金)

授業のねらい

打楽器のアンサンブルを通して、自分の良さ、友達の良さを確認したり、音を合わせることへの楽しさを味わうことで、音楽を通して心を一つにすることの心地良さを感じ、団結力を高めることを目指しています。また、最終日には保護者と下級生に向けて、講師とのセッションを成果発表として行います。

主な内容

＜１日目＞導入、楽器紹介（講師持ち込みのジャンベ・トーキングドラム、学校の打楽器）＜２日目＞ジャンベ練習（３人で１台を基本に)、３日目の発表会に向けたリハーサル＜３日目＞ジャンベリレーを中心とした発表（クラスごと。保護者・３年生の兄弟クラスを観客として）

アーティストから

５年生になると照れが出てくるようで、みんなと同じことをするのに抵抗を感じる傾向にあるようです。上手に演奏できる児童に対しては、もう少し高度な演奏法に挑戦させてもいいかと感じました。発表会では、普段見せることのできない部分を披露することができた児童が何人かおり、それが今後本人たちの自信につながれば何よりです。

コーディネーターから

講師も同席してもらって、プログラム前の打合せにしっかりと時間を取ったことで、プログラムの中身や目指すものなどを、担当の先生にきちんとご理解いただいた上で臨むことができたため、プログラムの導入から最後の発表会まで、ほとんど当初の想定に沿って実施できました。特に、普段の音楽の授業とは全く異質な、講師の個性を信頼し、快く受け入れていただけたことが、スムーズなプログラムの実施につながりました。

先生から

教師側のねらいを明確にし、コーディネーターやアーティストと「育てたい子ども像」の共通理解を図ったことで、ねらいに即したプログラムを組み立ててくださいました。まず、アーティストの演奏は子どもたちに衝撃を与えました。そして、子どもに寄り添って語りかけてくださる人柄に、子どもたちは心を開いていました。今回は音楽を一つのツールとして、人と関わること、その人の生き方を間近で知るキャリア教育としても効果的だったと思います。

子どもたちから

ジャンベが予想以上に楽しかったから、またやりたい。／発表のときにたいこの音にのって身体を動かせたのが自分でも良かったと思った。／昔の人々は音楽が好きだったことを知った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立大正小学校＋アートの時間
息を合わせて響かせよう、不思議な合奏音楽「ガムラン」

担当アーティスト	櫻田素子（ガムラン演奏家）
実施校	大正小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ガムラン／4 学年 2 学級 75 名
実施日程	2019 年 9 月 2 日（月）、2019 年 9 月 5 日（木）、2019 年 9 月 12 日（木）

授業のねらい

ガムラン体験を通して、コミュニケーション能力、集中力を身に付ける。

主な内容

＜１日目＞演奏の鑑賞。楽器の紹介。楽器に触れる。（２交代）＜２日目＞楽曲に挑戦。指揮者なしの演奏で「始める」「終わる」を練習する。＜３日目＞楽曲を仕上げる。演奏を披露する。（６年生は１日だけの体験だが、楽曲にも挑戦できた。）

アーティストから

初めて出会う音楽と楽器に興味津々、自分個人が奏でる体験も味わいつつ、クラス全体の音色やパートでの役割を、同時にしっかりと感じ理解して取り組んでいた姿が印象的でした。なぜこんな音がするの、と楽器の構造へ関心を持ったり、みんなで音楽の流れを作り出し流れに乗り、やがて収束させる合奏の醍醐味と苦労を味わったり。豊かな音響に包まれ合奏を味わう様は、今後の音楽活動への応用も期待され、大変有意義な３日間でした。

コーディネーターから

打合せの段階で学校側から、６年生も何かの形で体験できないかというリクエストがあり、三者で協議しました。短時間ではあるものの、６年生全員が楽曲にチャレンジできることになりました。また、予定していた最終回が台風で中止という事態を、延期の即決、日程の組み直しで回避しました。これらの柔軟な対応が迅速にできたのは、これまで積み重ねてきた信頼関係があったからこそだと思います。このことは子どもたちにも大いなる安心感を与えていたに違いありません。

先生から

昨年度に引き続いての取組なので、コーディネーター・アーティストの方々とうまく連携して取り組むことができました。学校側の要望をきちんと聞いてくださるので、充実した活動になっています。本校教育課程の年間計画にきちんと位置付けて、これからも続けていけたら良いと思っています。

子どもたちから

ガムランの先生たちがやさしく教えてくれたことが思い出にのこった。／かんたんにおぼえられて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立平戸台小学校＋リリス
感謝の会で歌う曲を作ろう２

担当アーティスト	アベタカヒロ（作曲家）、大塚雅仁（声楽家、合唱指揮者）
実施校	平戸台小学校（戸塚区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／作曲・合唱／4 学年 1 学級 31 名
実施日程	2019 年 10 月 1 日(火)、2019 年 10 月 8 日(火)、2019 年 11 月 14 日(木)、2019 年 12 月 13 日(金)、2020 年 1 月 28 日(火)、2020 年 2 月 10 日(月)

授業のねらい

６日間のワークショップで一曲、10 歳を迎える「感謝の会」で歌う「うた」を一から作詞・作曲体験する。また、披露する会に向けての合唱指導も行う。音楽作りのカリキュラムの中で「表現する」ことを体験し、表現することの楽しさ、友達の表現の良さを感じ合えるプログラムにする。
※音祭り 2019 と連動して実施。

主な内容

＜１日目＞作曲者とは（作曲家当てクイズ・映像視聴）＜２日目＞作詞体験＜３日目＞完成歌詞披露・作曲体験＜４日目＞完成曲披露・合唱練習＜５日目＞合唱練習（※５日目からの講師：アベタカヒロ・大塚雅仁）＜６日目＞合唱練習・成果発表・ミニコンサート

アーティストから

単学級のクラスでの指導は初めてのことでしたが、作曲体験授業をする上で特別な違いを感じることはありませんでした。「スマイルサンシャイン」という学級テーマもあってか、みんな明るく、質問には積極的に挙手をしてくれる子も多かったです。作詞の題材として「これまでの 10 年、これからの 10 年」という少々難しいテーマで取り組んでもらった作文では、用紙の枠いっぱいに書いてくれた子がたくさんおり、作曲では悩みながらも意欲的で、途中でやめてしまう子は一人もいませんでした。大塚先生による合唱指導になっても食いつきが良く、目がキラキラとしていたのが印象的でした。

コーディネーターから

全体を通して、作曲・作詞に重きを置きながらプログラムを進め、単学級クラスということもあり、講師・児童一人ひとりの距離がとても近く、アーティストがより身近に感じられた時間・プログラムになったと感じました。全６回開催・プログラムとして初の試み、当初から学校・教諭・児童・講師、全てを巻き込み、調整していくことが多岐にわたり、担当教諭の尽力がなければ無事に終えることができなかったことに感謝し、コーディネーターとして達成感を得ることができたプログラムになりました。

先生から

単一の教科としてではなく、他教科と関連させ、複数の教員と一緒に取り組むことによって、教育効果が高まると感じました。声楽家による具体的な表現指導、技能向上に加え、アーティストの実体験をふまえたキャリア教育、将来の目標設定、夢の実現に向けた努力の大切さなど、教員とは異なる職業の方からの話を聞くこと、本物の演奏に生で触れることが、子どもたちの心に響いたようでした。私自身、子どもに指導する立場として、常に自分の指導力、演奏能力について、向上に努めなければならないと切に感じさせられました。

子どもたちから

まだぼくは 10 年しか生きていないけど、これから自分の好きなことをして生きていってとアベ先生が言っていたので自信がもてた。／音楽を作るときに、まわりにある物やみんなのアイデアを生かして曲をつくっていることがわかった。／きれいな声をだせるように口を大きくあけたりして工夫した。プロの人といっしょにできてすごくうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立南戸塚小学校＋アートの時間
みんながアーティスト！唄って踊って応援しよう！

担当アーティスト	稲津清一（ギタリスト）
実施校	南戸塚小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／フラメンコ／2 学年 2 学級 64 名
実施日程	2019 年 6 月 28 日(金)、2019 年 7 月 3 日(水)、2019 年 7 月 11 日(木)

授業のねらい

踊り、歌、演奏、さらに見る側も参加するというフラメンコのスタイルを通して、表現することの楽しさを味わう。専門家からの刺激を受けることで子どもたちの世界を広げる。グループ活動にもチャレンジしてみる。

主な内容

＜１日目＞フラメンコミニライブ鑑賞。課題曲「とろけてピッサァ」で唄、踊り、パルマ（手拍子）の体験。＜２日目＞各パートをさらに２グループ分けて課題曲を練習し、互いに見合う。見る側も応援者として参加するためのハレオ（かけ声）の練習。＜３日目＞前回の復習の後、衣装アイテムを付けて舞台で発表し合う。プロの歌唱を鑑賞。

アーティストから

唄・踊り・パルマ(手拍子)のチームに分かれ、一曲を作り上げるというフラメンコのリズムに、子どもたちはよく付いてきてくれた。最終回の前にはそれぞれのグループリーダーが自ずと決まり、自分たちで練習してから臨んだという。大変喜ばしい限りである。最後は、曲の発表と同時に観客側の子どもたちも精いっぱい応援することができ、講師陣の私たちも大いに楽しめるものとなった。今回の体験が子どもたちの心にどれだけ響いたかは分からないが、彼らの笑顔と元気が一つのバロメーターにはなっただろう。これからもいろいろなものに興味を持ち、仲間と共有することで成長していってほしい。

コーディネーターから

フラメンコを初めて見た子どもたちは、カンテ（歌い手）の声に目を丸くし、バイレ（踊り手）の踏み鳴らす足の音に思わず耳を塞いでいました。音楽が地鳴りのように子どもたちの身体を震わせ、ギターの音色がみんなを包み込み別世界へと誘います。歌はこう歌うんだ、踊りは、リズムは…ということを講師たちは言いません。音楽はそこにいる全員で作るものです。見る側も応援者として参加する。お互いをよく見て感じて、思いやってフラメンコの音楽は作られる。そのことを全力で伝えていただいた３日間でした。

先生から

最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、少しずつ照れがなくなり、身体を動かしながら、楽しんでいる様子が見られました。ＣＤやＤＶＤ等では分からない生の芸術に触れることができると感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上郷小学校＋リリス 歌唱力・表現力向上ワークショップ

担当アーティスト	中岡太志（ピアニスト、テノール歌手）、髙部さち（ソプラノ歌手）
実施校	上郷小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／5 学年 3 学級 97 名
実施日程	2019 年 9 月 19 日(木)、2019 年 10 月 9 日(水)、2019 年 10 月 23 日(水)

授業のねらい

学校内で 11 月に開催される「上郷音楽祭」に向けて、高学年になった５年生を対象にしたワークショップを開催する。課題曲(With you smile) のさらなる歌唱力・表現力の向上を目指す。

主な内容

＜１日目＞講師紹介、講師演奏、声出し運動、発声練習、パートごとの練習、合唱の発声とは＜２日目＞発声運動、通し練習、音程確認、言葉の大切さについて、ピアノ指導＜３日目＞発声運動、各クラス最終練習、質疑応答、３クラス合同練習

アーティストから

合唱指導を通して音楽の楽しみ、音楽の可能性、そして団結力を養うことはとても有意義な時間でした。３回の指導によって子どもたちが見違えるような合唱を歌い、そして団結していく姿は、学校教育としても音楽がいかに優れた教材か立証することとなりました。専門の指導者（合唱や合奏など）のいない学校において、今回のような取組をどんどんと広めてほしいと思います。それはプロの音楽家から指導を受けることで、音楽以外の夢や希望を子どもたちに与えることにもなるのですから。

コーディネーターから

学校では、主に各パートの音程や声量などを中心に教えることが多い中、今回はプロの指導による歌唱力アップということで、学校の授業とは異なるアプローチで指導を行いました。主に発声と表現力を中心に、発声のための運動・発声方法・姿勢・表情など、歌を歌う前段階から始まり、一つひとつの言葉を理解し大切に歌うことで、子どもたちの表情も変わり、３日間のワークショップで見違える表現力を身に付けることができました。課題としては、本番は３クラス一緒に歌うことになっていたのに、ワークショップではクラスごとでの練習となり、同じことを１日３回行うことが効率的ではありませんでした。学校のカリキュラムの問題もありますが、調整ができればより多くのことを子どもたちに教えることができたと思います。次回は、打合せ段階で学校に調整の協力を求めていきたいです。

先生から

アーティストが限られた３時間の中で精いっぱい尽くして、子どもたちの力を伸ばそうと計画・実践してくださったことは、日々の指導に通じるところが多く、学ばせていただきました。子どもの関心を高める発声の仕方や、楽曲に向き合う妥協のない姿勢は、自分自身も大切にしていきたく、共感を覚え、新たな希望へとつながりました。

子どもたちから

ウォーミングアップが楽しかった（発声）。／歌う楽しさを感じた。／プロの方のすごさを感じた。／しきを見せたとき上手だね！っていってくれたことが思い出に残っている。／先生のおかげでアルトパートが歌えるようになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立小菅ヶ谷小学校＋横浜みなとみらいホール ジャンベにチャレンジ！３

担当アーティスト	松井イチロー（ラテンパーカッショニスト）
実施校	小菅ヶ谷小学校（栄区）
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3 学年 3 学級 91 名
実施日程	2020 年 1 月 17 日(金)、2020 年 1 月 20 日(月)、2020 年 1 月 21 日(火)

授業のねらい

ジャンベと学校にある打楽器の音を自由に出してみることで、自分でこんなに大きな音が出せることや、楽器を通じてコミュニケーションができることなど、遊び感覚・ライブ感覚でパーカッションの魅力を体験する。また、最終日には講師とのセッションをしながら、全クラス合同での発表会を行って、記憶に残る機会とする。

主な内容

＜１日目＞導入、楽器紹介（講師持ち込みのジャンベ・トーキングドラム、学校の打楽器）＜２日目＞ジャンベ練習（２人で１台を基本に)、３日目の発表会に向けたリハーサル＜３日目＞３クラス合同で、１コマ目：リハーサル／２コマ目：発表を実施

アーティストから

担当の先生の熱心さが伝わる印象深い学校でした。３年生でコンガとボンゴを間違いなく答えられた学校は、私としては初めてで驚きました。発表会では５年生の担任の先生がギターで飛び入り、思わぬセッションに会場は盛り上がりました。縦横のつながりで体験教室の内容も大きく変化するものだと実感、打合せ時に周囲の情報を聞き取りすることも重要だと感じました。

コーディネーターから

３日間のプログラムを、土日は挟んだものの、ほぼ連続した日程で実施したことで、導入から発表まで、子どもたちのテンションが高いまま展開することができました。さらに発表会では、学校の小型の打楽器を最大限活用することで、ステージのメインに立っている子だけでなく、クラス全体で発表している空気を作れたこと、保護者参観日だったため多数の観客が見守っていたこと、ギターを弾ける先生が参加してくれたことなども重なって、大いに盛り上がりました。

先生から

コーディネーターの方は、とても慣れた様子でこちらの希望に沿って素晴らしいワークショップにしてくださいました。学校は困ることなく、安心してスムーズに進められました。アーティストの方も親しみやすく、技能はもちろん、知識、人柄、子どもや先生たちとのコミュニケーションなど申し分ありませんでした。空いた時間で楽器のたたき方、音楽のルーツなどたくさん教えていただき、本当に自分も勉強になり刺激のある３日間になりました。アーティストがいない時でも自分の授業でできるヒントを得ました。

子どもたちから

ともだちにおうえんしてもらったのがうれしかったので自分もおうえんした。／はずかしさをふっしょくできた。／たたきおわったらみんなとタッチをしたからなかよくなれた。／手のいたさをわすれるくらい楽しくてたまらなかった。／講師に「いいね」ってほめられた。／講師のえんそうにあこがれて、最後は自分もできたのでうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立千秀小学校＋横浜シティオペラ「ヘンゼルとグレーテル」３

担当アーティスト	大隅麻奈未（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、中山千恵（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、君島広昭（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、山本竹佑（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、平川寿乃（ピアノ）、山本ひで子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）、佐藤玲子（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ）
実施校	千秀小学校（栄区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	特別活動（行事）
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年 9 学級 236 名
実施日程	2019 年 10 月 17 日(木)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや楽しさを知ってほしいです。また今後の音楽表現や人間関係を作る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

天井は高いわけではないが、子音が聞こえづらい体育館なので、かなり注意して本番にのぞみました。物語を通して児童たちの反応も良く、特に魔女のソロでの反応が良かったと感じています。質問コーナーでは、オペラに興味を持っていただけていたと分かり、「大きくなったらオペラ歌手になりたい」などとの声に、低学年から高学年まで楽しんでくれていたことがうかがえました。

コーディネーターから

決して大きな小学校ではありませんが、全校児童で同じものを鑑賞して、先生と共に感じ話し合えるという環境は素晴らしいと思いました。皆さんからの感想は本当にうれしかったです。

先生から

プロのアーティストたちの歌や演技などを実際に見る（鑑賞する）機会をいただき、子どもたちの豊かな感性を育むことにつながっていると強く感じました。また今回は、オペラ歌手の皆さんと全校児童が一緒に歌う場面も設定することができ、アーティストの方と連携して鑑賞会を盛り上げることができ、良かったです。

子どもたちから

オペラは役に合わせて迫力のある高い声を出していてすごいと思った。すき通った声だった。／マイクがなくても一人ひとりの声が体育館中に響いて、聴いていてワクワクした。／オペラをこんなに近くで見れたのは初めてで感動した。／「あしたのうた」をオペラの方といっしょに歌って協力できたので心に残った。／高い声を出せるかわからないけど、私もオペラ歌手を目指したい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立伊勢山小学校＋テアトルフォンテ
友達の音を聴き合いながら表現することを楽しもう

担当アーティスト	片野真吾（作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者）
実施校	伊勢山小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／3 学年 2 学級 46 名
実施日程	2019 年 10 月 31 日(木)、2019 年 11 月 18 日(月)、2019 年 11 月 28 日(木)

授業のねらい

歌うことが大好きで、非常に高い音感を持っている３年生の児童全員が、個人で歌う爽快感からステップアップし、「友達と声を合わせて歌うのってこんなに気持ちがいいんだ」という喜びの瞬間を味わうことが目標です。聴いたものをまねして歌うところから、言葉・歌詞の意味をよく考えて、相手に伝えられる音楽表現を楽しみながら行える姿を目指します。

主な内容

＜１日目＞身体を動かして発声練習、リズム練習、歌唱練習（音楽室）＜２日目＞身体を動かして発声練習、歌唱指導（歌詞の意味、二部合唱の練習）（音楽室）＜３日目＞発声ストレッチ、リズム練習、歌唱練習、本番をイメージした入退場、歌唱時の立ち位置の確認、歌唱姿勢の指導（体育館）

アーティストから

区の音楽会発表に向けて、クラスごとの授業を２回、合同でのリハーサルを１回行いました。音程、リズム、言葉を捉えて、気持ちを自由に歌で表現することの楽しさ、伝えることの楽しさを実演交えて精いっぱい伝えました。初めはただ歌ってしまいがちの子どもたちでしたが、本番に向け集中力も高まり、最後には合唱に一体感が出てきました。今回の指導を通じて、子どもたちがより歌うことを楽しんでくれればと願っています。校長先生をはじめ、現場の先生方が愛情深く子どもたち一人ひとりの個性を大切に指導されているのが印象的でした。

コーディネーターから

片野先生の全身を使った楽しく丁寧な指導に、子どもたちのにぎやかな笑い声が響く中での授業となりました。集中が途切れてしまう子どももいましたが、担任の先生はもちろん他の先生方も一緒に参加し、協力してくださいました。今回は歌う前にボディパーカッションを入れ、決めのポーズで歌う姿勢を作るということになっていたのですが、３回目の授業ではどの子も同じ姿勢が作れていて、普段の授業でもきちんと練習を重ねていたことがよく分かりました。

先生から

発声練習の中で、身体全体を使って音を捉えて声にする方法を実際に感じられたことで、子どもたちは自然と力強く歌えるようになっていました。該当学年のカラーに合ったご指導で、子どもたちも楽しく学んでいました。今後もこのような機会を作っていただけるのであれば、難しい音程を取る場合、または音程が取りにくい児童への指導法を教えていただきたいです。

子どもたちから

「口をもっと大きくあけた方がいいよ」と教えてくれて歌えるようになった。／教えてくれたことを他の歌でも生かしたい。／声を出す運動が楽しかった。／歌を教えてもらってみんなで区の音楽会で歌ったことが思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立緑園西小学校＋Offsite Dance Project
声や呼吸のリズムを使って

担当アーティスト	宮内康乃（作曲家、つむぎね主宰）／アシスタント：尾形直子（ダンサー、振付家）
実施校	緑園西小学校（泉区）
コーディネート	ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	自立活動、音楽、体育、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／個別支援学級５名
実施日程	2019 年 11 月 1 日(金)、2019 年 11 月 5 日(火)、2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

昨年ダンスを体験した児童５名が対象。特性の異なる子どもたちに、音楽を用いて表現することの楽しさや喜びを感じる機会を要望しており、個別支援学級でのワークショップが経験豊富な作曲家・宮内康乃を起用。声や呼吸など、身体の自然なリズムを生かした多様な遊びを通して、子どもたちのコミュニケーションや学習意欲の高まりを期待している。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、ハミング、声のまねっこ、声のリレー、声のボール、クールダウン＜２日目＞ウォーミングアップ、大きな声・小さな声、声のまねっこ、声の森、お茶ケチャ、クールダウン＜３日目＞ウォーミングアップ、オリジナルケチャ＆踊り、祭りの歌、クールダウン／父兄参観あり

アーティストから

個別支援学級の子どもたち５名ほどとこぢんまりした人数ではありましたが、それぞれが大変豊かな表現力、個性を発揮して、全身を使って思いっきり表現してくれました。小さな音に耳を澄まして集中することもとても上手にでき、好きな食べ物の名前を連呼してリズムを作る際は、思いがけない面白いアイデアが飛び出したり、全てにおいてこちらの期待を大きく上回る素晴らしい表現が生まれ、何より子どもたちの人なつこい愛くるしさにたくさん幸せをもらった、とても楽しい時間でした。

コーディネーターから

昨年のダンスの体験を通して、音楽的なアプローチが子どもたちに向いているのではとの先生の提案から、宮内康乃さんを迎え、身近な声を使った音遊びをテーマに、さまざまな試みを行いました。音で風景を描写する「声の森」、バリ島でおなじみのケチャを独自の日本語で楽しむ「お茶ケチャ」などに子どもたちも夢中。アーティストが紡ぎ出す穏やかな時間が流れていて、それが子どもたちの身体や心を自然に解きほぐしていたように思います。最終日には父兄にも参加していただき、オリジナルのケチャまで展開。新鮮で楽しい音楽体験になったと思います。

先生から

環境を整えること（楽しくなるリズムや音あそびなど）で楽しく活動できることが多くなると感じました。毎回感じることですが、アーティストの方と子どもたちとの関わりがとても素晴らしいです。教えるというよりも一緒に楽しむ、子どもたちの感覚をつかもうとしているところがとても勉強になります。人数が少ないこと、２年後には緑園東小学校と一緒になることなどから、来年度は緑園東小学校と一緒に活動できるといいなと考えています。

子どもたちから

いろいろな音を聞いた（音を伸ばしたり大きくしたり）。／一緒に給食を食べた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立浦島丘中学校＋かなっくホール 合唱祭へ向けて

担当アーティスト	澤原正行（テノール歌手）、倉田莉奈（ピアニスト）
実施校	浦島丘中学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／3 学年 5 学級 182 名（※１日目は全学年全学級 600 名）
実施日程	2019 年 10 月 15 日(火)、2019 年 10 月 16 日(水)、2019 年 10 月 17 日(木)

授業のねらい

合唱祭へ向けて、プロの歌手より表現力と感受性を養う。課題曲と自由曲を３年生に指導し、初回には全校生徒にデモンストレーションと発声方法などを指導する。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞合唱指導

アーティストから

指導したクラスは、どのクラスも声がしっかり出ていて、身体の使い方などを伝えるとすぐに反応し、さらに声が出ました。クラスによっては選択した自由曲が難しく、音が取りきれていないところもありましたが、課題曲はどのクラスもよく歌えていました。指導する側としては、１時間の授業の中で２曲を扱うのは時間的にも難しいと感じました。各クラスに合った的確なアドバイスを送り、指導することが必要だと強く感じました。中学生の意欲的な姿勢と反応の良さは指導しやすく、楽しい時間でした。

コーディネーターから

限られた時間で全校生徒へと３学年５クラスの指導は、アーティストが疲弊するほどのアウトリーチになりますが、学校側の快い助けもあり、無事に３日間を終えることができました。指揮や歌については少しのアドバイスでより良くなりましたが、ピアノの生徒にもアドバイスが欠かせないのではと感じましたので、今後は全日程ピアニストを同行させようと思います。後日伺った合唱祭では、驚くほど飛躍されていて感動させられ、指導者の澤原さんと共に喜び合いました。

先生から

合唱コンクールに向けて、全校生徒に共通していること（姿勢などの基本的な内容）を振り返りながら、生徒の反応に応じて分かりやすくアドバイスをいただけたことが良かったです。３年生のクラス別レッスンについては、短時間にも関わらず課題曲と自由曲の２曲にそれぞれアドバイスをいただけたこと、また生徒からの質問にも的確に答えてくださいました。３年生へのクラス別レッスンの内容（共通項目）について、１・２年生へも担当者より伝達し、全校の共通理解になるようにしました。

子どもたちから

プロの歌声がすごかった。／ストレッチ（スクワット）を教えてもらった。家でやってみよう。／歌が人の心に響く気がした。僕も相手に届くように歌いたい。／声は腹から出す！／全校の歌声がきれいになった。／前よりも高い音が出るようになって、全体の声量が確実に上がったと思う。／この授業を受けてみんなの合唱コンへの意識も高まったと思う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立錦台中学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ 合唱コンクールに向けて

担当アーティスト	阪口喜江（声楽家）
実施校	錦台中学校（神奈川区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／3 学年 5 学級 200 名
実施日程	2019 年 10 月 2 日(水)、2019 年 10 月 3 日(木)、2019 年 10 月 4 日(金)

授業のねらい

合唱への意欲を高め、音楽的な合唱に仕上げるための考えるきっかけにしたい。

主な内容

＜１日目＞講師演奏／発声など基礎的な内容を全員で体験（全学年）＜２日目＞１クラス 50 分授業で、合唱曲の仕上げ指導（３クラス）＜３日目＞１クラス 50 分授業で、合唱曲の仕上げ指導（２クラス）

アーティストから

初日に全校生徒に向けて演奏しましたが、鑑賞時の態度が良く驚きました。２日目から校内の合唱コンクールに向けての指導でしたが、コンクールまでに日数があったため、指導する時は音取りが終わった程度でした。まだ全てを歌いこなしていないながらも、注意点を指摘するとすぐに改善できた時はうれしかったです。コンクール当日には、どのクラスも歌い込みがしっかりできており、素晴らしい演奏を聴くことができました。指導する日があと１週間遅ければ、生徒たちも歌えるようになっていて、もっと違うことも伝えることができたのではないかと悔やまれます。

コーディネーターから

講師演奏、合唱指導については、生徒も真剣に取り組んでおり、講師の指導を理解し、各クラス１回のみ 50 分と短い時間の中でもレベルアップが見受けられました。生徒にとっては良い機会となったと思われます。ただし、昨年に比べて１週間早い実施との事だったので、プログラムの実施までに歌い込みが間に合っていないようで、基礎的な内容に留まってしまい曲を仕上げるまでには届かなかったのが残念でした。スケジュールも含め、もう少し学校側との調整・コミュニケーションが必要だったと感じました。

先生から

昨年度より 10 日ほど早かったので、クラスの曲が仕上がっておらず、基礎的な指導だけになってしまいました。日程調整をしっかりしなければいけなかったです。全体指導では、発表していただく時間が少し長かったかもしれません。子どもたちが身体を使ったり歌ったり、体験する時間が長い方が飽きなくていいと思いました。

子どもたちから

体育館で聴いた歌がすごかった。／知っている歌もあって楽しかった。／クラスでもっと曲が仕上がってから見てもらえばよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立笹下中学校＋ひまわりの郷
歌声で情景を表現しよう！

担当アーティスト	浅野美帆子（声楽家）
実施校	笹下中学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／2 学年 5 学級 171 名
実施日程	2019 年 9 月 30 日(月)、2019 年 10 月 3 日(木)、2019 年 10 月 8 日(火)

授業のねらい

本校は合唱コンクールを通し、生徒たちの課題解決の力や表現する力を伸ばしたいと考え、総合的な学習活動の一つとしている。今回の歌唱指導を通し、さまざまな視点から表現する方法を学び、生徒が自ら気付き、より表現豊かに演奏できるような指導とアドバイスをいただきたい。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞声楽における基本発声の練習。指導曲「モルダウの流れ」についての作曲者の思いや時代背景の説明など。
＜３日目＞５クラス合同の指導成果発表とアーティストによるミニコンサート。

アーティストから

２年生５クラス、男女共に無理のない発声で歌っており、強弱表現も試みていたので、その必然性を説明しながらレベルを上げる指導を心がけました。最初のトレーニング法としては「リップロール」「巻き舌」「早口言葉」「ロングトーン」などを指導しました。指導曲「モルダウの流れ」については、作曲家の人生や時代背景を説明して、曲への理解を深めて歌うように指導しました。声のボリュームを徐々に出すことや、フレーズの山場に向かって息の流れを増やしホールに響かせることなどは、生徒の指揮では変化が出ないため、私が指揮をして、指揮者やピアニストにもアプローチの仕方を指導しました。最終日の５クラス合同の演奏ではその成果が出たと感じました。

コーディネーターから

プラットフォーム事業に関わって、初めて中学生を担当させていただきました。小学校以上に授業スケジュールなどの調整が大変なところを担当の先生たちがとても協力的に対応していただいたので、打合せ時からスムーズに進めることができました。中学生ともなると、指導されたことの吸収力も速く、当初、各クラス１時間ずつの指導では時間が足りないかなと心配しましたが、指導したアーティストの要求をすぐに理解して成果につなげていくのに驚きました。また、学校の行事として、長年に渡り合唱コンクールを続けていることは、学年や各クラスの仲間との絆を深めることに大きな意味を持つ、大変有意義な行事だと感じました。

先生から

私自身がピアノ科なので、声楽科のプロの歌声に触れ、具体的な発声方法や息の吸い方を教わり、子どもたちが生き生きと表現するのが感じられ、とても勉強になりました。相手を褒めて伸ばすこと、見本を示すことの大切さを知り、今回受講できなかった１、３年生にも学んだことを伝えたいと思いました。

子どもたちから

浅野先生の歌声は遠くまで響きわたる声で感動した。／いつもと違う視点から教えてもらい楽しかった。／プロの声を生で聴けて良かった。／教えていただいたことを合唱コンクールに生かすことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立泉が丘中学校＋テアトルフォンテ
プロから学ぶ歌唱法～合唱コンクールに向けて～

担当アーティスト	片野真吾（作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者）
実施校	泉が丘中学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／3 学年 4 学級 160 名
実施日程	2019 年 9 月 30 日(月)、2019 年 10 月 1 日(火)、2019 年 10 月 7 日(月)

授業のねらい

学校教育目標である「自立」＝主体性を持つこと、「共生」＝人を思いやり仲間も自分も大切にできること、そして「挑戦」＝前者の二つを土台に自分の世界を広げていくための取組としたい。合唱コンクールに向けて、教師ではない大人（しかもその道のプロフェッショナル）と活動を共にする時間を創造し、生徒の世界を広げていきたい。歌唱法（発声法・発音・表現方法など）の指導を受けたことで、生徒たちが「歌える」という自己有用感を高め、互いの力を認め合い伸ばしながら、自分たちの合唱を深めようとする姿を目指したい。

主な内容

＜１日目＞自由曲「青い鳥」、「虹」の歌唱指導（３年４組、３年３組の指導）＜２日目＞課題曲「大地讃頌」の歌唱指導（３年１組、３年２組の指導）＜３日目＞学年全体でのリハーサル

アーティストから

各クラス１時間ずつの授業と、全体リハーサルにて合唱指導を行いました。楽曲は決して簡単ではないものの、各クラスとも生徒が中心となり熱意を持って挑戦していました。音程やリズムはもちろん、言葉を明瞭に、響きを感じ、そしてクラスでイメージを共有し心情を感じながら聞き手にニュアンスを伝える、歌で表現することを実演交え指導しました。私の話や歌を聴く生徒たちの真剣なまなざしがとても印象的でした。彼らが一層歌を楽しむ一助となれば幸いです。

コーディネーターから

「コンクールでより良い合唱を歌いたい」という熱い思いで、アーティストの指導を一言も逃さないようにと真剣に取り組む姿が印象的でした。アーティストより「表情が明るいと声も明るくなる」「音楽には音色が大事！最初にどれだけのインパクトを与えられるかがポイント」「どういうイメージでこの曲を歌いたいかをクラス全体で共有することが大切」というアドバイスがありました。短い時間ではありましたが、みんなで声を合わせて歌うことの楽しさを味わうことができたのではないかと実感しています。先生方にも大変きめ細やかな配慮をいただき無事に終了することができました。

先生から

合唱指導というと教員は精神論に走りやすいですが、発声の仕方や歌い方、曲へのイメージの持ち方などを細かく指導していただいたことで、教員としても良い研修になりました。生徒は今まで以上に合唱そのものに向き合い、アーティストという大人と出会うことで、生徒の前向きな気持ちや、敬意を持って人と接することができる面を引き出せてもらえたと感じています。

子どもたちから

楽しかった。／こんな指導は初めてだった。／片野先生の歌がうまかった。／先生のおかげで優勝できた。ありがとう！／細かいことを教えてもらえて、自分たちが上達しているのが分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立岡津中学校＋テアトルフォンテ
合唱コンクールに向けて～心に響く合唱を作る～

担当アーティスト	沢崎恵美（ソプラノ歌手）
実施校	岡津中学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／3 学年 8 学級 300 名
実施日程	2019 年 10 月 10 日(木)、2019 年 10 月 17 日(木)、2019 年 10 月 18 日(金)

授業のねらい

聞く人の心に響く合唱を作り上げることを目標として、発声の仕方、歌う姿勢、歌唱の表現など、技術面の指導を受けるとともに、合唱に取り組む姿勢を学び、力を合わせて合唱を作り上げる充実感・達成感を味わえるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞中間発表。全８クラス・全体へアドバイス＜２日目＞クラス別歌唱指導（３年３組、３年５組、３年４組、３年１組）＜３日目＞クラス別歌唱指導（３年７組、３年６組、３年８組、３年２組）

アーティストから

中間発表を聴かせていただき、日数的には多くなりましたが、指導に生かすことができました。各クラスそれぞれのカラーがあり、基本的なラインは変えず、歌う前に歌詞の理解、曲目のイメージ、またはステージマナーなども伝えさせてもらいました。生徒さんたちの声、表情が変化し、音楽の素晴らしさを伝えられたのではないかと感じました。45 分の中で、課題曲、自由曲、指揮、ピアノの指導を行い、時間的には厳しいように思います。

コーディネーターから

１クラス 45 分ずつという短い時間の中、各クラスのそれぞれの良さを引き出しながら、歌だけでなく、ピアノ、指揮、ステージマナーまで指導するというとても中身の濃い授業となりました。ただ歌うだけではなく、歌詞の意味を考えること、イメージをしながら歌うこと、表情や入場してから退場するまでが一つの音楽である、というアドバイスは生徒の皆さんにとってとても貴重な経験となったに違いないと思います。ただ全てを平等にするために１日４クラスずつ、２日間で８クラスを１クラス 45 分という短い時間の中で行う必要があり、日程的にも体力的にもアーティストにとってかなりの無理を強いてしまいました。コンクールという目的があるために平等に行いましたが、その目的とやり方を再考する必要があると実感しました。

先生から

プロのアーティストの方との出会いで生徒たちが変化していく様子は、目を見張るものがありました。実際に歌声を聴いて、指導していただいたことで、さまざまなことを生徒も私自身も考えることができました。アンケートをまとめてみると、素直な気持ちで指導を受けたクラスほど、その後の上達につながり、コンクールでも力を発揮していたようで、興味深かったです。

子どもたちから

こんな楽しい授業があるのだと感じた。機会があればまた指導してほしい。／１回だけの授業でこんなに変わると思ってもみなかったのでプロの人はあらためてすごいなと思った。／芸術の仕事をしていて、それを誇りにしている人というのに初めて会ったが、「楽譜を投げないでほしい」など、想像がつかないほど音楽を愛しており、また、あのような大きくきれいな声が出るまでに努力したんだなと思った。このような貴重な機会はそう無いので非常にありがたかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立盲特別支援学校＋かなっくホール
チェコ語で少年合唱団ボニ・プエリと交流しよう！

担当アーティスト	チェコ少年合唱団ボニ・プエリ（合唱団）
実施校	盲特別支援学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／合唱／全学年全学級 100 名
実施日程	2019 年 12 月 6 日(金)

授業のねらい

海外から来日した同世代の少年合唱団の歌に触れ、国や言葉を超えて音楽を通したコミュニケーションをグループに分かれ活発にし、共にチェコ語で歌を歌い、交流の時を持つ。

主な内容

合唱団からクリスマスの歌２曲と、共に歌う「0 LASKO」を歌っていただき、その後は２～３人のグループに分かれ合唱団が１、２名グループに加わり、コミュニケーションを図りながらチェコ語で歌を教え、最後にみんなで合唱しました。

アーティストから

とても温かい雰囲気の会場で、気持ちよく歌えました。交流会ではとても良い体験ができました。僕たちの歌に手拍子や拍手もたくさんしてくださり、皆さんの気持ちが伝わってきてとてもうれしかったです。グループの活動では先生方が一緒に歌って、協力してくださいました。どの人も一生懸命で大変うれしかったです。またぜひ来たいと思います。

コーディネーターから

ホールから車 10 台での移動になったり、事前にグループ分けが難しくその場で分けていたのにも関わらず、先生方が協力を惜しまず臨機応変な対応をしてくださり、おかげさまで、言葉の障害も越えての楽しい交流のひとときを持つことができました。最後に全員で歌った時に、会場全体から美しいハーモニーが沸き立ち、鳥肌が立つほど感動しました。また終了後に、歌った曲を口ずさみながら教室へ戻る児童の姿が印象的でした。

先生から

チェコ語の歌を教えてもらい、歌うということをメインに掲げていましたが、実際時間が足りず、事前の準備や打合せも十分にできなかったため、ハミングで歌うことでコンサートの後半を終えることができました。コンサート前の訪問で、なかなかたくさんの歌を歌えない事情は分かりますが、よりたくさんの美しい歌声とパフォーマンスを体験したかったです。ともあれ、英語以外の言葉に触れる体験は得難いものだったと思います。

子どもたちから

合唱をもっと聞きたかった。／歌は難しかったけれど、一緒に歌えて良かった。／鈴が優しく鳴っているような歌声だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中村特別支援学校＋吉野町市民プラザ ヴァイオリンとチェロの演奏を楽しむ

担当アーティスト	鍵冨弦太郎（ヴァイオリニスト）、湯原拓哉（チェリスト）
実施校	中村特別支援学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	鑑賞型／弦楽器／全学年全学級 71 名
実施日程	2019 年 9 月 13 日(金)

授業のねらい

演奏家による音楽を間近で鑑賞することによって、日常では感じることのできない音や響きを味わい、感じる力を生きる力に結び付けてもらいたい。周りの人と感情の高まりや感動を共有することで喜びが大きくなることに気付いたり、自分自身の存在をより強く意識するようになってほしい。

主な内容

ヴァイオリンとチェロの生演奏、楽器の紹介など

アーティストから

昨年度に続き２回目となる、ヴァイオリンとチェロのデュオを演奏しました。前回はインフルエンザの猛威もあり、急遽３回での実施となりましたが、今回は児童生徒の皆さん全員で聴いていただけました。息をのむ音は実際に聞こえるわけではありませんが、細かな音にまで表情豊かに聴いてくださるので、音楽家としての根本をいつも考えさせられます。より良いものを伝えられるよう一層精進していきたいと、改めて気を引き締められました。

コーディネーターから

今年度もレスパス弦楽四重奏団から、お二人に来ていただきました。選曲に関しては、今回の授業用に特別に考えていただき、普段はあまり演奏していない曲なども選んでいただきました。知っている曲が始まると、子どもたちは楽しそうに手拍子を始めたり、一緒に口ずさんだり。初めて聞くクラシックの曲では、お二人のテクニックに聞き惚れているようでした。なかなか体験できない目の前での生演奏は、心に強く残ったと思います。

先生から

本校ではより教科としての目標を意識した教育課程を編集中であり、音楽などは全校の子どもたちが取り組んでいる科目です。プロのミュージシャンによる生の演奏を聴ける機会は貴重であり、音楽に親しむという意味でも、とても良い経験になったと感じました。これを機に、子どもたちの中にも、実際に楽器を演奏したいとか、この曲を聴きたいといった感情が芽生えることを期待したいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立港南台ひの特別支援学校＋ひまわりの郷
いっしょに歌おう！体験しよう！～みんなで歌とマイムを楽しもう～

担当アーティスト	青い卵（宮城摩理（オペラ歌手）、ＹＡＭＡ（クラウン＝道化師）
実施校	港南台ひの特別支援学校（港南区）
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽、パントマイム／小学部 12 学級 78 名
実施日程	2019 年 12 月 17 日(火)、2019 年 12 月 18 日(水)、2019 年 12 月 19 日(木)

授業のねらい
言葉だけでなく、身体の動きや顔の表情を生かすことで気持ちを伝える体験やマジックの体験、オペラ歌手の生の迫力ある歌声を体験したり、一緒に歌ったり、視覚的、聴覚的に音楽、芸術の素晴らしさを感じてもらいたい。

主な内容
＜１日目＞学年ごとにアーティストと一緒に歌ったり、マジックの体験をした。（１年生、２年生、５年生）＜２日目＞学年ごとにアーティストと一緒に歌ったり、マジックの体験をした。（３年生、４年生、６年生）＜３日目＞小学部全学年でアーティストの歌やパフォーマンスの鑑賞と体験をした。

アーティストから
子どもたちと触れ合う時、何を見てもらうか、何を聞いてもらうかよりも、人に慣れてもらう、興味を持ってもらうことが何より大切だと実感しました。今回、３年目の実施となり、１年生以外は顔や名前を覚えてくれていたので、一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりと一体感が高まった気がしました。子どもたちのノリが全然違い、成長をすごく感じ、同じ場所に何度も行く意味は信頼関係を築くことだと気付かされました。また成長した子どもたちに会えるのが楽しみです。

コーディネーターから
今年で３年連続で担当させてもらうこととなり、学校側の希望も考慮しながら、アーティストにプログラムを考えてもらいました。２日間のワークショップも、３日目の鑑賞会につながるキーワードを子どもたちに覚えてもらったり、鑑賞会もみんなで楽器を持って歌ったり、お菓子の家を作るのに参加してもらったりと、一体感のあるプログラムにしてもらいました。多くの児童たちが集中して楽しんでいるように感じました。今年も担当の先生をはじめ、学校側の協力により全体的にスムーズに実施できたと思います。

先生から
青い卵さんは今年で３年目だったので、本校の児童の特性や興味を理解した上で、芸術鑑賞会の構成を考えてくださっているのが感じられました。ワークショップ２日間、芸術鑑賞会１日、計３日間来ていただきました。ワークショップでアーティストとの距離が縮まり、芸術鑑賞会への期待が高まっているのを感じました。児童が芸術を身近に感じられる、本当に良い機会をいただきました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立若葉台特別支援学校＋サンハート
みんなで盛り上がろう！打楽器コンサート

担当アーティスト	Rythmission（打楽器アンサンブルユニット）
実施校	若葉台特別支援学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	特別活動（行事）
実施概要	鑑賞型／打楽器／小・中・肢体不自由クラス 89 名
実施日程	2019 年 10 月 2 日(水)

授業のねらい

視覚、聴覚、触覚的など多方面で刺激を受けられるような演奏会を希望。学校見学をした際に、児童生徒にどんな楽器が好きかと投げかけたところ“太鼓”と答えた子どもたちが多く、打楽器演奏者による演奏会に決定した。さまざまな打楽器の音・魅力を感じられる演奏会を望む。

主な内容

打楽器コンサート

アーティストから

子どもたちが思い思いの楽器を持ってきてくれていて、その楽器の音が聞こえてくると一緒に楽しんでくれているんだなぁとますます私たちの演奏にも熱が入りました。じーっと真剣に耳を傾けてくれる子や、手拍子や歌で喜びを全身で表現して参加してくれる子、みんなそれぞれ素直な反応で音を楽しんでいる様子を間近で感じられることは、私たちにとって、とても貴重で幸せな時間でした。また、各クラスを回って感想や質問などお話をしながら直接交流できたのも、とても楽しかったです。

コーディネーターから

リズミッションの皆さんが大変盛り上げ上手だったため、子どもたちの反応が良く、身体・声を出して自由に音楽を楽しんでいるようでした。またテンポが速いプログラムだったため、飽きさせずに聴くことができたのではないかと思います。子どもたちの好きな曲や、運動会で取り上げた曲など、事前の打合せの際に担当の先生とご相談させていただいたおかげで、プログラムに取り入れることができました。子どもたちの雰囲気を十分理解した、素敵なコンサートになったかと思います。

先生から

ただ演奏を披露するだけでなく、子どもたちにパフォーマンスで魅せるような演奏の仕方が非常に刺激的だったと思います。昼食時にアーティストが各教室を回ってくださり、児童生徒だけでなく、教員からも好評でした。今後ともよろしくお願いいたします。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷特別支援学校＋リリス 教室に響く弦楽器の音色

担当アーティスト	清岡優子（ヴァイオリニスト）、福井綾（チェリスト）
実施校	本郷特別支援学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／弦楽器／中学部 6 学級 45 名
実施日程	2019 年 12 月 6 日(金)

授業のねらい

障害のある子どもたち向けということで、これまでは出音が大きく、見て楽しい楽器を中心にアーティストを選んできたが、今年は担当の先生より弦楽器を聴きたいとの希望から、ヴァイオリンを中心とした弦楽アンサンブルを実施することに決定。事前に頂戴した生徒からのリクエスト曲を多く取り入れ、ヴァイオリンとチェロをより身近に感じてもらうように工夫する。

主な内容

鑑賞会

アーティストから

今までは管楽器や打楽器での演奏ばかりで、弦楽器は初の試みと伺い、弦楽器にしか出せない繊細さや奥深さも体感してもらえたらなと思い準備していきました。生徒さんたちからのリクエスト曲を取り入れての選曲でしたが、どの曲も真剣に聴いていただき、ものすごい集中力でした。先生方も、生徒さんたちと一緒になって楽しんでくださっている様子がとても印象的でした。また手遊びを混ぜたプログラムでは、積極的に前に出て一緒にやってくださる生徒さんも多く、日ごろから伸び伸びとこの学校で過ごせているのだろうなと感じ、ほほ笑ましかったです。「うまい！」と声をかけてもらえた時は、本当にうれしかったです！

コーディネーターから

継続実施している学校ということもあり、顔合わせから本番まで、一切問題なく順調に進めることができました。担当の先生が今回初めてということでしたが、引き継ぎもしっかりとできており、不安材料はありませんでした。ただ開催時期について、１週早かったらインフルエンザの学級閉鎖があったと伺ったので、可能であればもう少し早い時期（寒くなる前）が望ましいと思います。

先生から

なじみのある曲、お気に入りの曲の際に身体を揺らしながら楽しむことができました。演奏者の方にとても注目している姿も見られました。目の前でプロの演奏を聴くことの迫力だったり、響きを感じることで生徒たちから自発的な動き、反応がたくさん見られたので、やはり生演奏は素晴らしいなと感じました。

演劇分野の取組

自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。
学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立善部小学校＋サンハート ブロードウェイミュージカルに挑戦！

担当アーティスト	高木真里子（声楽家）、川村千鶴子（エレクトーン、オルガン奏者）
実施校	善部小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ミュージカル／5 学年 3 学級 86 名
実施日程	2019 年 10 月 9 日(水)、2019 年 10 月 23 日(水)、2019 年 10 月 30 日(水)

授業のねらい

目標や役割を与えながら、ミュージカルソングを通して音楽の素晴らしさを学ぶ。歌や動作を取り入れることにより、少しでも自己表現ができるようにする。英語が好きな学年と聞いているので、英語の歌詞を取り入れたプログラムを目標とする。

主な内容

＜１日目＞男子児童、女子児童、それぞれの課題曲を練習。全体の課題曲の音取り＜２日目＞男子児童、女子児童、それぞれの課題曲を練習。全体の課題曲の音取り、振り付け＜３日目＞せりふ確認、練習、本番

アーティストから

今回のミュージカル体験では、自分を表現すること、英語で何か行いたいとご依頼をいただきました。小学５年生ということもあり、題材はブロードウェイミュージカルを用い、最終日に演奏会形式の発表を行いました。３回のタイトスケジュールの中、音取りから立ち稽古までしっかりとこなしてくれました。今回の根幹である表現することでは、役として人前に立ち、その人として生きる(演じる)ことの大切さを伝えました。普段の自分のままでは恥ずかしい気持ちが強いですが、自身とは全く違う存在であることを理解した上で、表現することが芝居の上で最も重要であると考えます。最終日には、多くの親御様にいらしていただき発表を行いました。その演じている姿は、子役としてではなくミュージカル俳優そのものでした。魅せること、伝えることの自信ができなければ堂々と立つことすらできません。児童の皆さんは思いを伝える素質があります。その恵まれた才能をさらに磨き、さまざまな場面で発揮してくれることを心から願っております。そして、児童の一人ひとりが演者になれたのは、間違いなく先生方がオープニングアクトを務めてくださったことだと確信しています。演奏中も真剣なまなざしで見つめ、演奏後自然に湧き出た児童からの拍手と笑顔、どんな舞台よりも素敵でした。

コーディネーターから

子どもたちにとっても身近な作品を選んでくださり、子どもたちがミュージカルに触れ合う導入としてとても良かったかと思います。歌の意味を考え、どう感情表現するか振り付けを通して学び、一部ではありますが作品に対する理解を深めてくれたと思います。高学年になり、演じることに対し少し気恥ずかしい部分もあったかと思いますが、役割を明確に与えると行動に移してくれる素直な子どもたちでした。

先生から

講師の方々に来ていただき、生で歌や演奏を聴くことができたことは、普段の学校教育ではできないことなので、子どもたちにとって良い経験になりました。口を開けて言葉をはっきり伝えることを、見せてご指導いただきありがとうございました。恥ずかしさが抜けない子もいましたが、ミュージカルという新しい世界を知れたことは良かったです。

子どもたちから

男女の仲が深まった。／緊張した。／いろいろな歌が歌えて良かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立不動丸小学校＋Media Global 創作「ショータイム」

担当アーティスト	中川梨恵（振付家、ダンサー、俳優）、櫻井由佳（俳優、ダンサー、シンガー）、佐藤真代（俳優、シンガーソングライター）
実施校	不動丸小学校（旭区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／ミュージカル／4 学年 3 学級 105 名
実施日程	2020 年 2 月 10 日(月)、2020 年 2 月 17 日(月)

授業のねらい

学年末授業参観日に発表する。音楽やダンスなど身体を動かしながら楽しさを味わう体験をする。

主な内容

＜１日目＞クラスごとに練習。子どもたちが選んだ歌の練習。ダンス振り付け。＜２日目＞クラスごとに体育館で、本番へ向けて全体の流れ・せりふ・歌とダンスの練習。

アーティストから

子どもたちが選んだ３曲を使い、ダンスに歌、せりふを入れた盛りだくさんのショータイム！ダンスや歌が苦手な子も得意な子も、真剣に取り組む姿がすてきでした。１回の授業でお渡しする情報量が多かったにも関わらず、クラスでよく練習してくれて、その子どもたちの変化に感動しました。発表会として完了できなかったことは非常に悔やまれますが、この期間に感じたさまざまなことが今後の生活に生きてくれるといいなと思います。

コーディネーターから

新型コロナウイルスの影響で、３回予定のところを２回で中止。ステップなど猛練習を重ねた２回目を終え、歌い踊り、夢のシュプレヒコールで元気に楽しく発表することができず、心残りのプログラムになりました。インフルエンザの学級閉鎖も乗り越えての実施だっただけに、とても残念でした。がんばった４年生に拍手を送ります。

先生から

子どもたちは生き生きと表現（歌やダンス）していました。普段踊るようなことがない子も踊っていることから、表現力が培われたと感じました。プロの歌やダンスに触れることができ、子どもたちにも刺激になり、貴重な経験となったと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立洋光台第一小学校＋杉田劇場
「伝える」～声を使って、人に伝えること、思いを伝えること～

担当アーティスト	中村源太（声優）
実施校	洋光台第一小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／朗読／4 学年 3 学級 86 名
実施日程	2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 1 月 23 日(木)、2020 年 1 月 31 日(金)

授業のねらい

・お互いに向き合って、言葉で伝えることを体験する。　・一人からたくさんの人たちに向かって、伝えることに発展していく。　・20 分程度のお話を、気持ちを込めて「伝える」ことを目標にして演じる。（朗読劇）

主な内容

＜１日目＞「向き合って伝える」　・滑舌の練習・発声練習・相手の目を見て話す＜２日目＞「一人からたくさんの人に伝える」　・滑舌の練習・発声練習・大勢の前で話す＜３日目＞物語を気持ちを込めて「伝える」

アーティストから

今回のプログラムでは驚きの連続でした。朗読を教えることは自分としても初めての経験でしたので、期待するような結果にならないのではと不安もありましたが、回数を重ねるごとに、成長していく子どもたちの姿にとても驚かされました。最後は保護者の前で発表するということで、みんなやる気に満ちていました。中にはせりふを全て覚えてくるくらい練習した子もいたので、彼らのひたむきさにとても驚かされました。自分にとっても、良い経験、刺激になりました。

コーディネーターから

第一日目は、なかなか声を出すことのできない児童が多くいて、先行きに不安を感じてしまっていました。特に個別支援学級の子どもたちは、読むこと、声を出すことが難しい様子でした。アーティストの「源ちゃん」は、とても明るく元気で、児童たちのアイドルのよう。最終日の発表では、心配を見事に打ち砕いてくれました。成長は目を見張るものでした。特に、個別支援学級の児童のうれしそうな笑顔が素晴らしく、じわっと涙が出てきてしまいました。

先生から

子どもたちは、伸び伸びとしている姿や、一つひとつの文章を声で表現するにあたって、どのように伝えたら良いか、考えながら取り組んでいる様子でした。本校児童に身に付けさせたい「伝える力」がとても付いたと考えます。人にものを伝えていく力が、プロの方の支援のおかげで楽しく身に付きました。また機会があったらやりたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立瀬ヶ崎小学校＋急な坂スタジオ
表現するために必要なことを考えてみる

担当アーティスト	山下恵実（演出家、振付家）
実施校	瀬ヶ崎小学校（金沢区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／6 学年 2 学級 70 名
実施日程	2019 年 11 月 7 日(木)、2019 年 11 月 11 日(月)、2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

自分の思っていること、感じていることを伝える力や、それを受け止め認める力を高められる活動。12 月の「ふれあいフェスティバル」で発表する演劇上演で応用できる表現方法を身に付ける。

主な内容

＜１日目＞擬音語・擬態語でダンスを作ってみる＜２日目＞音楽に合わせてダンスを踊ってみる＜３日目＞同じ言葉を使って多様な表現を探す

アーティストから

１日目と２日目はダンスのワークをメインに、３日目は演劇のワークをメインにさまざまなことに挑戦していただきました。言葉の音や形、意味からイメージを広げて動きを作ってもらったり、台本を使って短いシーンを作ってもらったりしました。言葉に対する解釈や、それを身体に置き換える発想力がとても豊かで、ワークショップを行う中でこちらも気付かせていただいたことがたくさんありました。普段学校では行わないことの数々に、最初は緊張していた子どもたちも、回を重ねるごとに自由に、自分なりの楽しみ方を見つけてくれていたのが印象的でした。

コーディネーターから

毎年６年生が演劇発表を行うことが定例化しているため、子どもたちは作ること・発表することにはとても慣れていましたが、多様な表現方法に触れるのは今回初めての機会でした。山下さんが、ヒントや少しのコツを子どもたちに伝えると、素早く反応し、豊かな発想がたくさん出てくる様子がとても印象的でした。

先生から

やはり「本物」（今回の場合はプロの方）と出会うことの大切さを感じました。さまざまな大人の方たちと出会うことで、子どもの世界は広がり、表現することの楽しさを味わえるものだと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立西柴小学校＋Media Global
音楽劇「光あふれる西柴」

担当アーティスト	中川梨恵（振付家、ダンサー、俳優）
実施校	西柴小学校（金沢区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ミュージカル／3 学年 3 学級 81 名
実施日程	2019 年 12 月 12 日(木)、2019 年 12 月 16 日(月)、2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

歌う楽しさを体験し、思いっきり表現する。

主な内容

＜１日目＞クラスごとのテーマに沿ってせりふを作る。クラスのテーマ曲の練習。＜２日目＞クラスごとの練習。午後は体育館で立ち位置、出ハケ練習。＜３日目＞体育館で合同練習。クラスで見合う。３時間目に保護者の前で発表。

アーティストから

歌詞を作るところからスタートしました。学校や地域について調べたことを子どもたちから聞いていくワークは、大盛り上がり。すてきなところ、面白いところ、学校自慢、自分たちが研究したことなどをたくさん教えてもらいました。そこからみんなで作ったオリジナルの作品。各クラス違った課題がありましたが、見事にクリアした子どもたち。今回も子どもたちのパワーと創造力に驚きました。

コーディネーターから

３クラスの個性が出た作品になりました。保護者の方の前で発表した子どもたちは、歌いながら踊り、楽しそうでした。短時間で仕上げる練習は大変だったと思いますが、本番の子どもたちは輝いていました。

先生から

子どもたちが楽しんで表現することができ、講師の方が優しく接してくださり、子どもたちがこの授業を「また受けたい」と感じることができたことに感謝します。これまで各クラスでの教科学習をベースにしていたので、子どもたちの関心意欲も高く、自分の思いを思い切り表現することの良さを感じることができたことが、これからの音楽活動・音楽表現に生きてくると思います。コーディネーター・アーティストの方には柔軟に対応していただきありがたかったです。

子どもたちから

みんなで歌っておどったのが楽しかった。／学習をふりかえって歌にしたのが楽しかった。／これからも歌とおどりをもっとやりたい。／きんちょうしたけれど本番うまくいってよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立荏子田小学校＋関内ホール 演劇の鑑賞と体験を通したコミュニケーション～絵本を題材に～

担当アーティスト	とみやまあゆみ（俳優、ワークショップファシリテーター）
実施校	荏子田小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市市民文化会館関内ホール
実施科目・教科名	特別活動（行事）
実施概要	鑑賞型／演劇鑑賞／全学年 15 学級 372 名
実施日程	2019 年 10 月 31 日（木）

授業のねらい

自身で感じたことを表現して伝えることが苦手な子が多い傾向がある。演劇体験を通し、気持ちの表現やコミュニケーションの面白さ、表現の自由・多様性を知ること。また、チームで協力して一つのものを作り上げるという成功体験とともに、自発的に動くことの大切さや仲間に対する感謝なども学べる機会にする。

主な内容

演劇の鑑賞と体験

アーティストから

鑑賞も含む体験がメイン、しかも演劇での実施は初めてということで、受け入れ担当の先生も子どもたちが活動できるかどうか心配しておられました。しかし鑑賞が始まれば、何が起きるかみんなが集中して見てくれて、笑い声が上がる瞬間もあり、どの学年も楽しんでくれました。そこから発展する創作活動では、どのグループも工夫を凝らしたものを創り、また人前で発表することができました。活動後、先生方が子どもたちの創った演劇をとても喜んでくださったことが印象的でした。

コーディネーターから

鑑賞＋体験、全学年を対象に１日をかけ、ハードなプログラムになりました。事前にしっかり学校の先生と打合せができ、それをもとにアーティストのこれまでの経験値を生かした新たな実施プログラムを準備することができました。最初は少し遠巻きに見ていた子どもたちも、最後の発表では生き生きと笑顔で参加してくれました。自分の考えや思いを表現・発表し、みんなと共有することの楽しさを、この経験から少しでも感じてもらえればと願っています。

先生から

初めは、本校の児童にこのような内容ができるのか、とても不安でした。しかしさすがプロ！引き付け方がとても上手で、児童がどんどん解放され、表現していく姿に感動しました。低学年・中学年・高学年という大きなくくりで、多いところは 140 人超えの人数となり、体育館での開催でした。講師の先生方にご負担をおかけして申し訳ありませんでした。コーディネーターの方にもたくさん相談にのっていただきありがたかったです。

子どもたちから

自分たちでげきを考えて発表したことがおもしろかった。／数人でグループを作って、モノマネをするのが楽しかった。／だるまさんがころんだを多人数でやったことがなかったので、とても印象に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立豊田小学校＋横浜こどものひろば 演劇の作り方「ももたろう」

担当アーティスト	望月純吉（文学座演出家）
実施校	豊田小学校（栄区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／創作／6 学年 3 学級 101 名
実施日程	2019 年 11 月 21 日(木)、2019 年 12 月 5 日(木)、2019 年 12 月 12 日(木)

授業のねらい

2020 年２月の「卒業を祝う会」で発表する作品を先生と児童で創作する。劇のみならず、音楽演奏や体育（跳び箱やマット運動など）も取り入れた作品を検討する。ついては、望月氏に劇作りの指導を依頼したい。

主な内容

＜１日目＞台本の読み合わせ。＜２日目＞台本を持って立ち稽古。＜３日目＞体育館に３クラスが集合し、各クラスの「ももたろう」を鑑賞。お互いの良さを発見し合い、望月氏の講評で締めくくる。

アーティストから

今回は６年生３クラスで演劇の作り方について授業を行った。同じ台本を使い、各クラスが工夫しながら作り、学年発表の機会を設けた。場ごとにグループを作りながら個性的な表現を入れ込み、「想像したことが現実になる」という楽しみ方ができた。担任の先生も児童の隠れた才能を新たに発見し、今後のクラス運営に有益な時間を持つことができた。子どもたちに表現をするルールを伝えながら、それを理解し自由に表現できる場所を共有できた。

コーディネーターから

子どもたちの熱意と面白がれる才能に驚かされました。積極的に身体で表現しては次のアイデアを出し合い、指導の望月さんをも面白がらせました。さらに表現の可能性を高めるための質問などで、多数の手が上がりました。そもそも多くの子どもたちが学校に通うのを楽しみにしているようで、そのエネルギーと共鳴できたことが何よりうれしい３日間でした。

先生から

学校教育では、人権的に好ましくない言葉を児童の前では使いたくないと思っていますが、実際の社会では大人がそういった言葉を使う場面があります。その言葉を隠して劇をすることに、意味があるのかないのかを考えるきっかけとなりました。

子どもたちから

協力しながら楽しめてよかった。／みんなの劇の面白さが心に残っている。／劇の楽しさを知ることができ、祝う会に向けてがんばることができた。／祝う会に生かせると思ったことは、ジェスチャーを付けて演技をするということ。／短期間でも最高の劇ができることが分かった。この授業を「卒業を祝う会」に生かしたい。／もうちょっと表現力を出したほうが良いかなと思った。祝う会でがんばりたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立阿久和小学校＋アートの時間
教えて！みんなの発見

担当アーティスト	とみやまあゆみ（俳優、ワークショップファシリテーター）
実施校	阿久和小学校（瀬谷区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／創作／3・4 学年 2 学級 33 名
実施日程	2019 年 9 月 18 日(水)、2019 年 9 月 30 日(月)、2019 年 11 月 26 日(火)

授業のねらい

この体験を通して、自分を表現することの楽しさや友達の表現の面白さを見つける。

主な内容

＜１日目＞アーティストと子どもたちがお互いを知り合う。演劇のルールをゲームを通し伝える。＜２日目＞グループでモノやコトを短時間で表現、発表を繰り返し「まち探検」の演技へつなげる。＜３日目＞学習発表会に向けて「まち探検」２場面を表現してみる。

アーティストから

３回目の実施は少し離れた日程でしたが、どの子も楽しみに待っていてくれたようでした。学習発表会に向けた活動でしたが、回を追うごとに発想が豊かになっていきました。最終日には２つの場面を３グループずつ練習し、発表しました。活動に取り組むことも発表を楽しむことにも積極的で、先生方が子どもたちの発表をとても喜んで見てくださっていたのが印象的でした。今回のワークショップをきっかけに、自分を信じ、他者を楽しみ、学習発表会に臨んでくれたらと思います。

コーディネーターから

「どんな髪型でもできる」ことを表現するため理髪師さん役の子どもが見せた、４人のお客さんを早回しで同時に切りまくる演技は、アニメーションのような楽しさでした。子どもの小さな動きも見逃さないアーティスト、笑顔で楽しんで関わる先生方。そして素直で楽しむことに長けた３、４年生との出会いでした。今回の演劇体験が、学習発表会だけでなく、これからの生活の中で自信を持って表現できる心と身体の準備体操になっていたらうれしいです。

先生から

「町のすてき」を学習発表会“あくわ博”で発表する児童の姿を見ていて表現力や創造力、感受性、協調性が培われたと感じました。教科と関連させることは難しいと感じています。実演をもう少し見させていただけると、さらに学びにつながると感じました。

子どもたちから

いろいろなことをグループでやったことが楽しかった。／いろいろな演技ができて楽しかった。またやりたい。／劇は自分のことをみんなに教えられるから楽しい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立北綱島特別支援学校＋Media Global
パントマイムを楽しもう

担当アーティスト	栗原一（パントマイムパフォーマー）／アシスタント：中川梨恵（振付家、ダンサー、俳優）
実施校	北綱島特別支援学校（港北区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	ひろがりそうごう（自立活動）
実施概要	鑑賞型／パントマイム／全学年全学級 70 名
実施日程	2019 年 9 月 17 日(火)

授業のねらい

普段の授業とは異なる場での体験や鑑賞の中で芸術の素晴らしさを感じ、気持ちが表現できるようになることを目標とする。心豊かな生活を送る意欲や態度を育てるきっかけとしたい。

主な内容

パントマイム鑑賞

アーティストから

身体表現で物語をつづるパントマイム。それを身体に障害のある子たちに教える。さて、どうしよう…何を教えればいいのだろうかと考えつつみんなの前に立っていました。みんなしっかりと自分を見てくれています。そう、何も悩むことはない、パントマイムを、それに向かう気持ちを教えればいいのだと気付きました。いや気付かせてくれました。教えに行ったのに逆に何か大切なことを教えてもらった貴重な時間でした。

コーディネーターから

学校として、今回は初めて演劇系の鑑賞会を実施したいとのお話でパントマイムのご希望でした。私たちも対象が全学年で、年齢差もあり全ての児童生徒の皆さんにとって楽しい時間になればと思い実施しましたが、振り返りを終え、今後同様の授業実施の場合さらに寄り添うことが重要と感じました。

先生から

パントマイムは本校ではあまり例のない内容だったので、とても面白かったです。動きを見てイメージできる子はくぎ付けになっていました。ただ、視覚障害がある生徒にとっては刺激が足りなかったり、後ろにいる子、知的に理解が難しい子には伝わりにくさもありました。派手な効果音があったり、もっと生徒のそばで直接関わる体験などがあると良かったです。事前の出演者との打合せはできなかったため、改めて事前の打合せの必要性を感じました。

子どもたちから

とにかくすごかった。パントマイムがすごかった。／「くりちゃん」が友達の名前に似ていた。／全部が心に残った。

ダンス分野の取組

言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。
自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだを動かしてみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚の大切さを体験します。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立西寺尾小学校＋Offsite Dance Project
自由な発想でダンスを踊ろう

担当アーティスト	Co.山田うん（ダンスカンパニー／リーダー：川合ロン／アシスタント：山崎眞結、吉崎裕哉、山根海音）
実施校	西寺尾小学校（神奈川区）
コーディネート	ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 2 学級 67 名
実施日程	2019 年 6 月 4 日(火)、2019 年 6 月 5 日(水)、2019 年 6 月 6 日(木)

写真撮影：bozzo

授業のねらい

平成 24 年から継続している Co.山田うんとの活動を通して、子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し、伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、コミュニケーションの大切さ、自己や友達に対して新たな発見ができ、豊かな感性と創造性を育む体験型のワークショップを３日間実施。最終日には、同校の体育館にて発表する（他学年も参加）。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ（まねっこダンス）、オリジナルポーズ、振り付けで踊る＜２日目＞ウォーミングアップ、振り付けの確認、伝言ゲーム、自由ダンス（ポーズ・ソロ）＜３日目＞ウォーミングアップ、振り付けの確認、通し稽古、発表

アーティストから

学校で伝統になっているダンスワーク、待ちに待ったこの時間。小さな身体にやる気がみなぎっていました。例年より日数が少なく、発表の日を含めて３日間でのパフォーマンス作り。細かい振り付けも一人ひとりが責任を持って覚えて踊っていました。普段なかなか来られていない児童がダンスに３日間参加し、楽しむ姿に先生方が涙ぐんでいたり、発表が終わった後、６年生からのアンコールが鳴りやまず、時間いっぱいまで体育館全体を使って踊る５年生の姿が印象的でした。

コーディネーターから

今回で８回目となる西寺尾小学校では、子どもたちは今年は自分たちの番！と張り切って取り組んでいました。最終日には体育館で発表が行われ、４年生と６年生や保護者を招き入れて 20 分間のパフォーマンスを行いました。曲に合わせて自由に踊るシーンや一人ずつポーズをとってみんなの前で披露するシーン、みんなで列になって移動するシーンなど、児童らはさまざまな動きを体験し自信を持って披露していたと思います。発表の最後には他学年も一緒になって全員で踊るなど、学校が一体となってダンスに取り組む空気が感じられました。

先生から

はじめは緊張していた児童も練習を重ねるごとにとてもいい表情で踊っていました。発表後も表現することを楽しむ子が増えました。アーティストが心の底から楽しんで表現する姿を見て、子どもたちも一緒に踊ることを楽しんでいました。指導者が楽しむこと、場の雰囲気をどう作るか、私たち教師も大変勉強になりました。

子どもたちから

はじめはむずかしそうで、きんちょうもしたけど、やってみて楽しかったし、自由になれた気がした。／ダンスワークショップをやって、空気の大切さを学べた。／たった３日であれだけのふりつけができたことがうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立桜岡小学校＋急な坂スタジオ
楽しく身体を動かそう！

担当アーティスト	Rie Tashiro（振付家、ダンサー）
実施校	桜岡小学校（港南区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	生活
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 17 名
実施日程	2019 年 11 月 20 日(水)、2019 年 11 月 26 日(火)、2019 年 11 月 28 日(木)

授業のねらい

できる喜びを実感できるダンスの取組。１年生～６年生まで、理解力やできることに差があるが、みんなが一緒に楽しめるようなもの。

主な内容

＜１日目＞振り付けを踊ってみる①＜２日目＞振り付けを踊ってみる②＜３日目＞ちょっと難しい振り付けに挑戦してみる

アーティストから

今回のワークショップの内容を、年度末の発表の場で披露したいという要望を受け、３日間で１曲の振り付けを行いました。１年生～６年生合同クラスのため、低学年に合わせた内容が中心となりましたが、最終日には高学年にも難しい振り付けにチャレンジすることができ、今後の課題も子どもたちに与えることができました。非常に多くの笑顔と笑い声にあふれ、充実した時間となり、私自身とても有意義な時間となりました。ダンスの必修化を受け、子どもたちにとってダンスはより身近なものになりました。ダンスを通して音楽と共に楽しんで表現すること、周りと協力すること、言葉以外のものでつながることなどは、情動を発散することがうまくできない子どもたちにとって、貴重な経験になると考えます。今後もこのような機会が教育の場で増えていくことを期待しています。

コーディネーターから

今回、１年生～６年生まで一緒に楽しめる内容が先生からのオーダーでした。幅広い年齢が対象のため、どんなふうに全員で一つのことにチャレンジしてもらうか？ということがとても難しいところでしたが、タシロさんが全員で楽しく踊れる振り付けをしてくだり、子どもたちにとって楽しく充実した時間を過ごせたと思います。

先生から

今回の取組のダンスをもとに学習発表会の内容を考えようと思っていたので、子どもたちが楽しんで踊っている姿を見て、とても良かったと思いました。子どもたちの考えた動きを取り入れてほしいという希望もありましたが、そのようなことに慣れていないので、今回はアーティストの方に引っ張ってもらって良かったです。われわれは普段子どもの様子を見ながら指導していますが、今回のようにパワフルに引っ張っていくような指導でも子どもたちは楽しんで活動していけるということは新たな発見でした。

子どもたちから

楽しかった。／りえ先生と体操をしたことが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立常盤台小学校＋Offsite Dance Project
ありのままにダンス

担当アーティスト	Co.山田うん（ダンスカンパニー／リーダー：川合ロン／アシスタント：西山友貴）
実施校	常盤台小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 3 学級 120 名
実施日程	2019 年 11 月 14 日(木)、2019 年 11 月 28 日(木)、2019 年 12 月 5 日(木)

授業のねらい

本校はプラットフォーム初の取組となる。今回は、Co.山田うんによる体験型のダンスワークショップを３日間、クラス別で実施。子どもたちが自分の思いをありのままに、等身大で表現する体験に挑戦する。本活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、ラインを歩く、つながる（円・輪くぐり）、振り付けで踊る＜２日目＞ウォーミングアップ、ペアワーク、ジャングルジム、声のリレー＜３日目＞ウォーミングアップ、つながるダンス、自由ダンス

アーティストから

一人ひとりの気持ちも身体も、クラスの関係も複雑な過渡期の５年生。大人と子どもが混在する気持ちの中で揺れ動いていて、初回から全員伸び伸びというわけにはいきませんでした。しかし、給食を一緒に食べ、回を重ねる中で、２回目、３回目、友達の順番を待つ、全体を想像してゆっくり動く、つながりを想像する、イメージを身体でやってみるなど、次第に解きほぐれ、一人ひとりとゆっくり向き合う中で、おのおののモチベーションを発揮できるようになっていったように思います。

コーディネーターから

今回初のプラットフォームとのことで、クラス別で３日間。５年生の子どもたちとの豊富なワークショップ経験を持つ川合ロンに担当していただきました。初めてのダンスの取組に、なかなか積極的に乗れない子どもたちが多い中で、ダンサーたちとの活動を重ねる中で、少しずつ身体も心もほぐれていったように見受けられました。コンテンポラリーダンスのワークの特徴として、身体いっぱい動くことだけではなく、直接的に触れ合わないまでも、感じ合うことの大切さを伝える方法としても有効だと思います。

先生から

日ごろの児童指導や学級作り、風土が大きく関与していることに気付かされました。自分の思いを言葉を使わずに身体で表現することは、高学年にも差し掛かると、やりづらさ、恥ずかしさを払拭できるまでに時間がかかるということ。毎日のコミュニケーションが開かれた環境にないと、今回のような取組を入れても効果が得にくいのではないかと、自分の反省だと感じました。この活動を通して「どんな子どもたちになってほしいか？」というビジョンをこちら側が持ち、コーディネーターやアーティストさんと共有することの大切さを学びました。継続は力なりですね…。

子どもたちから

みんなでジャングルジムを作ったのが面白かった。／声を出してリレーをしていくのが面白かった。／初めは緊張していたけれど、３回目くらいにようやく慣れた気がした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立初音が丘小学校＋急な坂スタジオ ダンスの楽譜をつくってみよう！

担当アーティスト	ＢＡＴＩＫ（ダンスカンパニー）
実施校	初音が丘小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年 3 学級 114 名
実施日程	2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 17 日(火)、2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

自分の考えや思いを、自信を持って表現できるようにしたい。また表現する面白さを感じられるきっかけにしたい。

主な内容

＜１日目＞音を聞いて、それに合わせて踊ってみる。＜２日目＞チームに分かれて、踊るための擬音の楽譜を作ってみる。＜３日目＞擬音で作った楽譜から動きを考えてみる。チームごとに発表。

アーティストから

ＢＡＴＩＫダンサーが主体となって小学校でワークショップを実施するのは今回が初めてでしたので、コーディネーターの方と細かく打合せをさせていただけたことが大変ありがたかったです。おかげで当日は滞りなく進行できたと自負しております。今回は、振付家ではなくダンサーによるワークショップということで、言葉ではなく、一緒に踊ったり、踊りを見せたりすることで表現の場に誘うことを目指しました。また音楽の授業の枠組みということで、当初は悩みましたが、多様な音楽の使用や楽譜に見立てた舞踊譜の作成など、結果的にたくさんのアイデアがそこから導き出されました。子どもたちからは「最後は恥ずかしがらずにやれた」「こんなのもダンスなんだ」などの感想があり、短い時間に何かしらの気付きがあったことをうれしく思います。私たちにとって、社会とのつながりを感じ、表現活動に立ち返る大変有意義な機会となりました。

コーディネーターから

今回、音と身体を使った表現を子どもたちに体験してほしい、もっと表現することを楽しんでほしいと初回の打合せでお伺いし、生演奏の音楽との作品が多いＢＡＴＩＫの皆さんにご担当いただきました。子どもたちの感覚はとても鋭く、ＢＡＴＩＫの皆さんが次にステップアップしてやろうと思うことを、何も伝えなくてもすでに取り組んでいたり、いろいろな表現に積極的にチャレンジしている様子が印象的でした。

先生から

「言葉、オノマトペ」という形のないものから表現を生みだそうとする姿が見られました。音楽の授業でも生かせることが多く勉強になりました。あれから、恥ずかしがらずに表現しようとする子が増え、音楽の楽しみ方をまた一つ知ったように思います。

子どもたちから

ダンサーの人は才能があるから上手だと思っていたけれど、はずかしがらずに身体全体を使って動くから上手に見えるのだとわかった。／はずかしがっていてはもったいないと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立今宿小学校＋Offsite Dance Project
想像力を使ってダンスを踊ろう

担当アーティスト	Co.山田うん（ダンスカンパニー／リーダー：川合ロン／アシスタント：山崎眞結、河内優太郎）
実施校	今宿小学校（旭区）
コーディネート	ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 32 名
実施日程	2019 年 11 月 25 日(月)、2019 年 11 月 29 日(金)、2019 年 12 月 2 日(月)

授業のねらい

昨年に続いて２年目となる今回は、個別支援学級での豊富な経験を持つ Co.山田うんによる体験型のダンスワークショップを３日間実施。子どもたちが表現することの楽しさや友だちと協力して何かを作り上げる喜びを感じられる様な体験とする。また、本活動を通して、体育の表現運動の学習につなげていくことを目指す。

主な内容

＜１日目＞ウォーミングアップ、ラインを歩く、空気のおにぎり、みんなでつながる、海の中＜２日目＞ウォーミングアップ、つながる、やさしいダンス、身体ジャングルジム、みんなでダンス！＜３日目＞レッツダンス！、いろんなポーズ、つながる、ラインを歩く、自由ダンス

アーティストから

初回のあいさつから穏やかな笑顔で始まった授業。音楽に乗って踊ることも、海の中の生き物を想像して、海藻や魚、そこから鳥、飛行機、など柔軟に想像力を使って、伸び伸び踊る姿が印象的でした。初回から一人ひとり違う動きをする「空気のおにぎりの具はなに？」というテーマにも躊躇することなく、挑戦しました。２回目、３回目と回を重ねるごとにグングン自由になっていき、最後にはテーマを自分で設定して、クリスマスソングで踊ることもできました。

コーディネーターから

Co.山田うんの川合ロンによる個別支援学級の子どもたちとのワークショップ。ROCO さんの童謡など、聞いているだけで幸せになるような音楽を随所に使い、また、だるまさんが転んだやグーチョキパーなどの遊びをダンスにつなげていったり、イメージを引き出す言葉を投げかけるなど、子どもたちが自然に、身体を動きやすい状況に作り上げていくのが特徴です。先生方も一緒にワークを行い、優しいまなざしで見守ってくださったことで、いい時間が持てました。アーティストにとっても充実した時間だったと思います。

先生から

子どもたちは、プラットフォームの活動を昨年も体験していることもあり、意欲的に伸び伸びと活動しているなと感じると共に、子どもたちの自由な表現力に負けじと担任たちも一生懸命踊っていました。今年度は３回の活動でしたが、回数を重ねるごとに、子どもたちの動きも発想も柔軟になっていたように思います。子どもたちが２時間、飽きることなく「もっとやりたい」「またやりたい」という思いを持って取り組むことができたのは、“Co.山田うん”さんのメンバーの皆さんの分かりやすい指示や温かい言葉かけ、タイムリーな称賛によるところが大きかったと思います。いろいろな面で大変勉強になりました。

子どもたちから

クリスマスソングを自由に踊って、クリスマスが楽しみになった。／とても上手な友達がいてびっくりしたので、まねしてみた。／ゴブリさんともんまさんの対決が面白かった。／曲と踊りが心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立白根小学校＋サンハート
発表会に向けてダンスを練習

担当アーティスト	遠田誠（ダンサー、振付家）、鈴木綾香（ダンサー、振付家）
実施校	白根小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽、体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 38 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 6 日(金)、2019 年 12 月 10 日(火)

授業のねらい

２月の発表会で披露するダンスの指導。ダンスの表現力、自由度を表すワークショップの形も取り入れつつ、そこで得た柔軟性を生かしたダンスを発表会に取り入れていける内容とする。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞低学年と高学年で課題曲を設けたダンス練習＜３日目＞合同発表

アーティストから

いつものワークショップでは、子どもたちから発生した動きを拾い集めて、即興性の高い踊りをその場で作っていくことが多いのですが、今回は「２月の学習発表会で披露できるよう、曲で踊れるダンスを…」という学校側の要望に合わせ、事前に振り付けを用意しました。既成曲への振り付けというのは普段やり慣れないだけに、むしろ新鮮な気持ちで作業を進めることができました。まずはどんな曲が相応しいかあれこれ悩んだ結果、いずれも自らの力で強く生きていこうというメッセージソングを選曲しました。難易度に気を付けたつもりでしたが、実際どの程度の動きならできるのか？２～３回の稽古で果たして覚えられるのか？もろもろ手探り状態ではありました。実際、低学年の振り付けは動きがシンプル故に難しく、初日終了後に軌道修正を施す事態に。逆に高学年に振り付けた方は、ノリの良さが受けた印象。この先の練習で飽きてしまわないよう、通常版の他に難易度を上げたステップアップバージョンを用意しました。初日はやや遠慮気味だった子たちも、回を重ねるうちに元気良く踊ってくれるようになっていき、最終日はアンコール含め３回も踊ってくれたりと大盛り上がり。終了間際「もう１回お願い」とせがむ前のめりな子を「もうすぐ給食の時間だから」となだめつつ、そんなに気に入ってくれたのかと内心うれしかったです。２月の発表会では振り付けがどのように変化していったのか、この目で確認しようと思っております。

コーディネーターから

この３日間の授業が始まる前に一度、講師の希望もあり、クラスの様子を見学させていただきました。学校の先生方には、お忙しい中時間を作っていただいたおかげで、今回のプログラムを進行する上でスムーズになったかと思います。遠田さん、鈴木さんのお人柄とご指導は子どもたちの心をつかみ、キラキラとしたまなざしで与えられた振り付けを楽しんでいました。３日間で、発表会に向けての土台作りをしっかり出来上がった状態で引き渡せたので、楽しんで本番を成功させてほしいです。

先生から

教える側も楽しんでいることが、子どもたちにも良い影響を与えるのだと改めて実感しました。また、ちょっとのことも、たくさん、大きく褒めることで子どものやる気をどんどん引き出していたので、今後自分もやっていきたいと思いました。

子どもたちから

まこと先生やあやか先生のダンスがかっこよかった。／ほめられてうれしかった。／おもしろい名前（キャピ足とか山賊ダンスとか）が印象に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立四季の森小学校＋ＳＴスポット横浜 からだで遊ぶ

担当アーティスト	入手杏奈（ダンサー、振付家）／アシスタント：北川結（ダンサー、振付家）、涌田悠（ダンサー、振付家）
実施校	四季の森小学校（旭区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人 ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／個別支援学級 11 名
実施日程	2019 年 9 月 6 日(金)、2019 年 9 月 12 日(木)、2019 年 9 月 18 日(水)、2019 年 9 月 26 日(木)

授業のねらい

恥ずかしがらずに自信を持って表現できる経験や、関わり合いの中で、自分を認めていく経験を積ませたい。

主な内容

＜１日目＞ご挨拶ダンス、ウォーミングアップ、出会った人と身体のいろいろなところでタッチ。円になって誰かにボールをパスする～ボールと一緒に自分も行く～ボールなしで踊りながら行く。誰かにタッチした形で止まる、ダンサーの動きをまねていく。＜２日目＞ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（裸足の足を触る、だるま転がり、２人組になって背中合わせで立つ、手と手・足と足をつないでバランス）。動物の動きをまねる。タンバリンの音に合わせて動く、一人ひとりの名前にちなんだ動きで遊ぶ。＜３日目＞ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（裸足の足を触る、お尻で歩く、だるま転がり、２人組で背中合わせ、バランス）。タンバリンの音に合わせて動く。海の中のいろいろなものの動きをまねる、食べ物になる。空間に、身体のいろいろなところで名前を書く、円になって一人ひとりの名前ダンスを見合う。＜４日目＞ご挨拶ダンス、身体で遊ぶ（軽くストレッチ、お尻で歩く、２人組になって背中合わせ、バランス、タンバリンの音に合わせて動く）。円になって誰かにボールをパスする～ボールと一緒に踊りながら誰かにパス、アイテムを変えていく（新聞紙、ペットボトル、ひも）。一人ずつ、ダンサーとのデュオダンス。

アーティストから

子どもたちは観察することと、発明することを繰り返して、とても繊細にその場で起こる全てのことからいろいろなものを受け取っているようでした。回数を重ねるごとに私と子どもたちとの関係や場の空気そのものがなじんでいったように感じました。子どもたちはここにいながら、別の世界とも交信しているような豊かさがあって、みんなの身体から生み出されたダンスをずっと忘れたくないなぁ、と思っています。これからもたくさんのひらめきと小さな感動をエネルギーに生きていって欲しいです。

コーディネーターから

回を重ねるごとに、誰かがやっていることをじっと見守る、待っている、ということが起こっていました。全４回の中にふんだんに「誰かの動きを見て、それを受けて自分が何をするか」と考える機会が仕掛けられ、遊びながら経験したことで、自分の表現を誰かが受け取ってくれている、その実感が持てたからこそ、誰かの表現に関心を持てたのかもしれません。誰かの表現を受け取って、それに応える、その身体でのコミュニケーションが自然と生まれていました。身体を使った発想豊かな遊びをたくさん経験したことで、自分のこの感覚が好きだな、というのを見つけるきっかけになっていれば、と思います。

先生から

事前にコーディネーターさんとの打合せもしっかりやっていただき、アーティストさんも見学に来ていただいたおかげで、子どもたちもスムーズに参加できました。活動はアーティストさん主導でやっていただきましたが、その後の学習の中でも、児童が自分たちで楽しみながらできるような内容だったので、いつまでも楽しめています。担任も、子どもたちの補助もしつつ一緒に参加させていただき、一緒に楽しむことができました。

子どもたちから

ボールの活動が一番楽しかった。なまえのやつが楽しかった。／あんなさんと一緒におどった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立駒林小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館 オリジナルダンスをつくる

担当アーティスト	辻本知彦（振付家、ダンサー）
実施校	駒林小学校（港北区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／6 学年 3 学級 97 名
実施日程	2019 年 7 月 16 日(火)、2019 年 7 月 17 日(水)

授業のねらい

３クラスそれぞれに、同じパート分けした振り付けをアーティストから伝授してもらいます。教えてもらうのは７～８人のグループに分かれて２～３フレーズずつ。児童たちは自分が教えてもらった振り付けをクラスメートに教えます。その後、それぞれのクラスで選曲した楽曲で教えてもらった振り付けを組み立てます。クラスごとのオリジナルダンスが完成、３月の卒業を祝う会で発表します。それぞれの個性を引き出し、思い出になるオリジナルダンスをクラスメートと一緒に楽しく踊ることを目標とします。

主な内容

＜１日目＞振り付けを教えてもらって、みんなで踊る＜２日目＞アレンジして踊ってみよう

アーティストから

内容的なものはダンスの振り付けを覚えるに執着したものでしたが、少人数でできたことがうまくいった要因かとも思います。多人数に大人一人で触れ合うと、必ずといって良いほどサボる子や不真面目な子が出てしまうものだと思いますが、３クラスとも誰一人やる気のない子がいなかったことがうれしかったです。普段の指導が良いのかたまたまなのかは分かりませんが、実際はいてもおかしくなく、もしくはいたとしてもそれを認めてうまくやってみようと思い挑んでいました。作品作りは今後も先生と連携を取り発表するまでしっかりと行っていきたいと思います。ダンスというものは、芸術という部分に寄り添っているものと私自身思っています。個性の尊重をどこまで理解しそれを伸ばすことができるか、自由とは何か、人と違う価値観で話せるか、見られることへの恥ずかしさなど、今後先生自身も同じ壁を超えなければとても難しいことだろうなと思いました。ですが児童たちとよく話し、先生が必ずしも上の立場に立つことなく児童と向き合い、できないことも素直にできないと言えないと、うまくいかないだろうなと感じました。ダンスの本質が持つものを理解して、先生が児童と共にクリエーションしていることを望みます。ダンスは心です。学校的に申しますと、それと身体表現の工作と美術だと思っています。全員一人ひとりがアーティストです。

コーディネーターから

１日目は一生懸命振り付けを覚えて踊りました。１グループにダンサー１人が付いていたこともあり、全員が最後までダンスを楽しめました。２日目はその振りを自分なりに表現（発想の転換）する子が出てきて、教わるだけでなく、自ら提案することができました。２月の卒業を祝う会で各クラスで選んだ楽曲でオリジナルダンスを披露します。教えられたピース（振り付け）を、どうクラスメートに伝えるか（伝達力）、そのピースをどう組み立てていくか、各担任の先生が子どもたちの想像力を生かしながらそれぞれのオリジナルダンスができることを期待します。

先生から

プロの真剣さ、厳しさ、完璧を追求する、妥協しない姿勢をひしひしと感じました。教室がマンパワーにより「ダンススタジオ」になり、子どもの表情がパッと明るく躍動的になったこと、本当に、さすがプロ、ｔｈｅプロと思いました。

子どもたちから

さいごにみんなでおどったのが思い出に残った。／ダンスチームのみんなと仲が深まった気がした。／笑いながらみんなで楽しくおどったのが思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立高田東小学校＋芸術家と子どもたち
新しい表現に挑戦して、クラスのダンスをつくろう！

担当アーティスト	加藤紗希（振付師、ダンサー、俳優）
実施校	高田東小学校（港北区）
コーディネート	ＮＰＯ法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／4 学年 2 学級 55 名
実施日程	2019 年 9 月 4 日(水)、2019 年 9 月 24 日(火)、2019 年 9 月 26 日(木)

授業のねらい

高学年の入り口にいる４年生たちにとって、今回のワークショップが、自信を持って積極的に行動するきっかけになること、また、小さくても「できた！」という実感につながる体験となることが目標。ゴールをみんなで共有して、友達同士が認め合いながら回を重ねていけるように、クラスごとにグループワークを経て小作品を創作し、最終日の最後には２クラス合同で発表の時間を設けることで合意した。

主な内容

＜１日目＞アーティスト紹介／準備運動／手足で空中や床に文字を書く→２人組で書いた文字を当て合う／紙を使ったダンス（Ａ４の紙を１人１枚、手のひらから落とさないように歩く・走る・２人で交換する・移動しながら出会った人と交換・グループで動きの発明）→グループごとに動きを発表／アップテンポの曲に合わせて振り付け（ユニゾン）を踊ってみる＜２日目＞好きな食べ物やスポーツの名前を手足で空中に書く（寝転んで・立って）／ポーズリレー（３～５人グループで、前の人に関連させたポーズをつなげていく）／２～３人で紙を使った動きの発明／ユニゾンを発展させて踊る(生まれ月ごとに踊る･隊形を変えて踊るなど)＜３日目＞クラスのダンスを完成させる（空中文字ダンス・紙を使ったダンス・ポーズリレー・ユニゾンを組み合わせて、２クラスで異なる構成）／クラスごとに発表（保護者と２年生が見学）

アーティストから

２クラスの個性を生かしたパフォーマンスにする、クラス単位で個性をくくるのは少々横暴かもと思いますが、同じことをやってもそれぞれの反応が全く違いました。しっかり誘導しないと積極的には動けないけれど、自分たちのやるべきことをつかんだらぐっと進むクラスと、多くを伝えなくても自分たちで創作ができて個々人の主張もあふれ出るクラス。考えて創っていったものに加えて、その場の雰囲気に合わせて柔軟に対応していくことが合いそうだなと思い、３日間でパフォーマンスを作りました。個別支援学級の子を自然と輪の中に入れて楽しそうにしていたことが印象的でした。

コーディネーターから

アーティストとの出会いを通して、子どもたちの表現の引き出しが増え、「とにかくやってみよう」という前向きな気持ちが、回を重ねるごとに彼らの身体や表情から見て取れるようになっていきました。紙を使ったりポーズをつなげていったりと、ごく簡単なルールのあるワークも子どもたちに合っていたようで、それらに取り組む中で、身体（表現）の可能性や面白さに自然と気付くことができ、友達の表現を受け入れながら自分のアイデアを体現することを、一人ひとりが楽しんでいたと思います。異なるカラーの２クラスでしたが、アーティストもまたその違いを受け入れ尊重しながらワークショップを進め、最終日は、クラスとしての個性や各自の即興性が十分に生きる構成をその場で考えていき、要素は同じでも、全く異なる２つのパフォーマンス作品が完成しました。子どもたちの達成感が一層高まったようでした。

先生から

コーディネーターやアーティストの方が、毎回子どもたちの様子から次の活動を提案してくださり、子どもたちに合った取組を行うことができました。また、子どもたちにとって身近なものを使って動いてみることで、子どもたちの表情がどんどん変わっていく様子を見ることができ、とても良かったです。

子どもたちから

みんなで考えて作ったので、終わった時に達成感があった。／いろんな人に見てもらえて良かった。／みんなと練習するのも楽しかった。／ダンスを通して一つになれることが分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立新田小学校＋大倉山記念館
カシャっとダンス

担当アーティスト	リナ・リッチ（ダンサー）、木檜朱実（ダンサー）、サエグサユキオ（パフォーマー兼コンポーザー）、椎名利恵子（ダンサー）
実施校	新田小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 112 名
実施日程	2019 年 12 月 12 日(木)、2019 年 12 月 16 日(月)、2020 年 1 月 20 日(月)

授業のねらい

３名ずつの小グループに分かれて、お気に入りの音楽で自分の気持ちを伝える表現力を養います。実際に演じている子どもだけでなく、それを見たり、応援したり、曲を提供することで、場の空間にみんなで参加し、作り上げる活動を目指します。何でもありの即興表現を用いることで、世の中にはいろいろな表現方法があるんだということ、お互いに認め合う思いやりの気持ちを大切に活動をしていきます。

主な内容

＜１日目＞身体を動かそう、動きの発明をまねしてみよう＜２日目＞意識して身体を動かしてみよう、動きの発明をしてみよう＜３日目＞音楽に合わせて、動きをつなげて、表現しよう

アーティストから

私たちは、ダンスの固定観念にとらわれずに、場の空気に呼応する「即興」のエッセンスをどうやって伝えられるか、子どもたちの出してきたものを尊重しながら、どうやって身体の感覚をたどる面白さを伝えられるかを、毎回楽しく模索しました。新田小学校３年生は、どのクラスもとても元気で好奇心にあふれていました。子どもたちの思わぬ創造力を何度も目撃しました。活発な子もシャイな子もみんな真摯に向き合ってくれたことに、私たちは感動しました。

コーディネーターから

出演者の皆さまには、打合せの段階から学校側のご要望と限られた時間、子どもたちのことを考えて何を伝えることができるか何度も打合せをしていただき、安心してお任せすることができました。また、裏方的な作業も学校側の負担にならないように熱心に取り組んでいただき、当日はとても実りのある楽しい事業をお届けすることができたと思っています。学校の先生方も当日は一緒に身体を動かしていただいて、一体感を醸成することができました。「表現することに失敗はない」というテーマのもと、表現するだけでなく、他者を認める双方の視点を養うことができたと思います。

先生から

正解がない動き（ダンス）をチームで考える楽しさがあり、授業ではなかなか教えられないことが学べました。体育科との関連では、表現運動の学びがありました。また、教師自身もアーティストの方による動きを参考に、ゼロから作る楽しさを感じました。

子どもたちから

いろいろな音楽に合わせておどることが楽しかった。／少しはずかしかったけど、思い出に残った。／みんなの前でダンスを発表するとき、まちがえたらどうしようと思っていたとき、「まちがえてもいいよ」といってくれたので、じしんがついて、楽しくおどれたことが心にのこった。／ダンスをすれば友達となかよくなれることが分かった。／チームで動きを考えて練習して歌に合わせて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立竹山小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
からだ遊びの達人★マキバンバンとあそぼう！おどろう！

担当アーティスト	森下真樹（ダンサー、振付家）
実施校	竹山小学校（緑区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	体育、生活
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年 1 学級 31 名
実施日程	2019 年 9 月 2 日（月）、2019 年 9 月 4 日（水）、2019 年 9 月 6 日（金）

授業のねらい

上手に踊れるかどうか、ではなく、お互いが「百人百様」の良さを認め合えること。ダンスといって構えずに、心と身体をほぐしていき、遊びの感覚で動いているうちに、日常的な何気ない動作がダンスに変化していく面白さを発見する。

主な内容

＜１日目＞森下さんから初めましてのダンス、身体遊び、子どもたちの歌披露、ダンス。＜２日目＞身体遊び、空想の動物の絵から動きを想像して動いてみる、ダンス。＜３日目＞２日目までに行ってきたことを１、３年生の前で発表。最後は３学年全員で身体遊び。

アーティストから

「あ、こんな表現があってもいいんだ」と自分らしい表現を恐れず自信へと導くものは、必死になっている大人の姿を見ることなのかもしれない。羽生田先生が全力で踊る姿は子どもたちの心をつかんでいた。学校の先生が児童に混じって、全力で身体を動かすことは大切なことだと実感。「身体で自分の名前を書く」というワークをし、その後、人前で動きを披露するとなった途端に涙を流す子がいた。緊張からか反射的に泣く子がいたが、当人から「身体で名前を書く動きが楽しかった」という感想をもらい驚いた。「泣く」という一つの反応をしっかりと受け止めたいと思った。学校の先生とは違ったアプローチで、百人百様、答えは決して一つではなく、いろいろな見方ができ、視野が広がるようなワークを目指して続けているが、学校によっても反応はさまざまで、結果が見えにくく、すぐにつながるものでもない。教育者ではないアーティストという立場で外から扉をたたくことで、子どもたちに何か新しい風を吹かせられると信じる。

コーディネーターから

人前で話したり踊ったりすることをためらう子もいれば、その反対の子もいて、さまざまな個性の子どもたちがいました。森下さんが語る「踊りには百人百様ある」通り、講師の皆さんが丁寧に子どもに向き合いながら、その子らしさを引き出して、終始遊びを通して楽しい雰囲気で進められました。大小さまざまなチャレンジが子どもたちの中で起こっていたはずですが、発表会を終えると、それぞれの顔に達成感を得た時の明るさが見えました。場を盛り上げてくださった先生方にも大感謝です。

先生から

授業前後にコーディネーターとアーティストと数回打合せをすることで、お互いにゴールのイメージを共有しながら活動することができ、良かったです。普段の授業で行うことが難しい内容を、子どもたちに教えてくれるので、とても有意義な活動ができました。また、アーティストの方だからできる活動をしてくれるので、子どもも担任も楽しむことができました。

子どもたちから

もっとやりたかったし、このようなじゅぎょうをまたやりたい。／おして回してがすごく楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立南山田小学校＋象の鼻テラス “好き”をエネルギーに踊ってみよう！

担当アーティスト	下司尚実（振付家、演出家、ダンサー）／アシスタント：渡辺芳博（俳優、パフォーマー）
実施校	南山田小学校（都筑区）
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／3 学年 4 学級 132 名
実施日程	2020 年 1 月 28 日(火)、2020 年 1 月 29 日(水)、2020 年 1 月 31 日(金)

授業のねらい

ダンスなどの身体表現を通して、正解を求めない自由に伸び伸びとした表現を体験できるような授業にする。下司さんの個々の表現力を生かす振り付け・演出で、子どもたちに発想力・表現力を発揮してもらう。また、それをお互いに見たり・振りを覚え合うことで、他者を認め・学び・考えるような機会となるようにする。「演出」した動きを、最終的に映像撮影しミュージックビデオのようなものを作成予定。そのことにより、個人ではなく団体で創作活動する際の連携感や、達成感を感じてもらう。

主な内容

＜１日目＞「アブラハムの子」を踊りながらウォーミングアップ。体育館の中を歩きながら挨拶としてハグやアイコンタクトなど、普段ではしないことを体験。複数で輪になり、目隠しした人が不安にならないように周りで助け合いながら誘導するなど、相手を思いやり、気遣うことを意識した身体的なコミュニケーションを考えながらやってみた。下司さんの指示で「ふわふわ」「ドスンドスン」「遊園地」「お花」などを一人でやってみたり、数人で組んでやってみたり、身体で表現し合って見せた。最後は、５人１組で一人ひとりが考えたオリジナル振り付けを曲に合わせて踊る。この日は１、２組で実施。＜２日目＞3.4組で１日目と同じ内容を実施。＜３日目＞各自作ったオリジナル振り付けを練習した後、各組ごとにミュージックビデオを撮影。５人が三角(３列:１人+２人２人)に並び、リズムに合わせてグループのセンターを交代しながら決められた目印に沿って進み、各グループが行き交うような動きを下司さんが演出した。撮り収めたミュージックビデオは、下司さんが編集し、後日各クラスにＤＶＤをプレゼントした。

アーティストから

会う前は、今の小学３年生ってどんな感じなのかなとドキドキしていたのですが、会ってみたらみんなの身体から“楽しもうとする気持ち”があふれていて、「付いて来て！」ではなく「一緒にやろう！」というポジティブな時間になれたことが良かったなと思います。最終日のオリジナルダンスでは、おのおのの自分のペース、自分の色、その違いをみんなが気にせず楽しんで、一緒に踊ってくれことがうれしかったです。

コーディネーターから

４クラス 132 人が全員参加するためには、目標とプロセスを明確にする必要がありました。各クラスの先生と下司さんで話し合える場を設けられたので、先生たちの要望もうまく取り入れられたと思います。楽しそうに自分の振り付けを踊りつつ、友達の振り付けをまねして踊ってみることで、自分とは違う他者の振りをどう感じたか気になりました。そんな時に、下司さんやアシスタントの渡辺さんが、友達の踊りはどうだった？と質問したり、感想を言い合ったり、常に声をかけ続けて子どもたちとコンタクトを取ろうとしていたおかげで、その時の素直な感想を聞けて良かったです。

先生から

子どもたちの多くが、楽しみながら表現する様子が見られましたが、恥ずかしがって参加できない児童も数名いました。自分が望む方法で表現活動に取り組むことができるとなお良いと感じました。自分が考えた動きを、リズムを合わせて考えるところが面白かったです。一方で、表現が乏しい児童に対し、どのような声かけや支援をすると表現がより良くなるのか。このあたりのアーティストの支援の仕方をもっと見てみたいと感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立市場中学校＋Offsite Dance Project
自分らしく踊ろう

担当アーティスト	森下真樹（ダンサー、振付家）／アシスタント：酒井直之（ダンサー、振付家）、中村駿（ダンサー）、伊藤奨（俳優、ダンサー）、根本和歌菜（ダンサー、振付家）、宮崎あかね（ダンサー、ピラティスインストラクター）
実施校	市場中学校（鶴見区）
コーディネート	ＮＰＯ法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年 5 学級・個別支援学級 227 名
実施日程	2020 年 1 月 15 日(水)、2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 1 月 17 日(金)

授業のねらい

今回当法人初となる本校での取組では、アート教育に豊富な経験のある森下真樹による体験型のダンスワークショップを３日間実施。プロのダンスアーティストのもとで、仲間との交流（コミュニケーション、協調性、共感力）や表現力などを身に付け、感受性を育む機会とする。

主な内容

＜１日目＞自己紹介ダンス～太鼓ゲーム～まねっこダンス～ペアでワーク～みんなで踊る！＜２日目＞自己紹介ダンス～太鼓ゲーム～まねっこダンス～ペアでワーク～みんなで踊る！＜３日目＞自己紹介ダンス～太鼓ゲーム～まねっこダンス～ペアでワーク～みんなで踊る！

アーティストから

素直で明るい子たち。クラスによっても雰囲気は異なるが、わーっと弾けたい気持ちはあるのに、集団になると周りの様子を気にして弾け切れない思春期の中学２年生。２クラス 80 名 100 分を１回限りではやれることは限られてしまう。私は一人ひとりとじっくり目を合わせて、時間をかけ回数を重ねることでもう一歩踏み込んだダンスの時間が持てると思っている。全員で一体感を感じられる時間が持てるのが理想だ。難しいことのように思うが、スイッチ一つで何かがふっと変わりそうだとも感じる。しかし、子どもたちそれぞれの楽しみ方、感じ方があり、表面的な反応が全てではなく、見えにくい小さな反応も私は見逃したくない。

コーディネーターから

２クラス合同で３日間。初めて出会った大勢の子どもたちとの100分のワークショップは相当に難しいと考えて、ワークショップ経験豊富な森下真樹さんにお願いしました。森下さんは、瞬時に子どもたちを巻き込んでいきました。太鼓の音の数によってさまざまに動く「太鼓ゲーム」、日常の動きや発想が気が付けばダンスの振り付けになっていて、曲に合わせて踊り切ることに。「うまく踊ることはないよ、大きく踊ろう！」森下さんの声が響く。森下さんのワークはダンスに留まらず、子どもたちに自分らしい表現の方法があるんだ、みんなそれぞれでいいというメッセージとして伝わったのではないかと思います。

先生から

生徒が恥ずかしがって活動できないかと心配しましたが、講師の方の声かけに楽しく活動することができました。また、生徒と年齢的にも近いスタッフの方が、上手に声かけをして生徒を引き付けてくれていたので、活動の意欲が上がっていました。表現は、人によっていろいろあり、その一つひとつが表現なのだと分かりました。個性とも結び付く新しい発見でした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立矢向中学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
みんなで踊るって楽しい！

担当アーティスト	倉重円（PLANETS 所属インストラクター）、佐々木夏波（PLANETS 所属インストラクター）、中村美紅（PLANETS 所属インストラクター）
実施校	矢向中学校（鶴見区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	保健体育
実施概要	体験型／チアダンス／1 学年 7 学級 255 名
実施日程	2020 年 1 月 17 日(金)、2020 年 1 月 20 日(月)、2020 年 1 月 22 日(水)

授業のねらい

「ダンスを楽しむ」ための導入となること。

主な内容

＜１日目＞講師パフォーマンス、ウォーミングアップ、振りを覚える（７クラスを２・２・３クラスに分けて実施）＜２日目＞ウォーミングアップ、振りの確認、振り付けで踊る、発表会に向けたフォーメーションの確認＜３日目＞ウォーミングアップ、踊る時のコツを知る、７クラス合同での通し練習、発表会

アーティストから

初挑戦のチアダンスを先生方の協力のもと、懸命に取り組む姿勢が素晴らしかったです。各クラス特色があり、声を出し元気なクラスや団体技に挑戦するクラス、アレンジを加えるクラスなど、表現力の豊かさを感じました。苦手な子も、全員で一つの振りに向かう中で一体感が生まれ、楽しめたようでうれしかったです。一人では出せないパワーがあることや、みんなで踊ることの楽しさ、気持ちを表に出すことなど今後の人生に少しでもプラスになれば幸いです。

コーディネーターから

全７クラス 255 名と生徒数が多いこともあり、曲に合わせてみんなで楽しく踊るチアダンスのプログラムとしました。１日の中で７クラスを３チームに分け、チームごとに異なる振りで踊りました。時折、生徒同士で振りを確認したり、ポーズを考えるなど、回数を重ねるごとに自信を持って踊っていたように感じます。発表会では３チームのダンスをつなげ一つの作品とし、体育館全体がステージとなりました。１学年全体で一つのものを作る良い機会になったと思います。また、ダンスの中で声を出したり、周りの動きに連動して動くことで、「みんなで踊っている」ことを感じ、チアダンスの「踊る側も見る側も楽しく！」という思いが生徒に伝わっているようでした。学校の先生方には準備から当日のサポートまで多くのご協力をいただきました。

先生から

打合せから細かく内容を一緒に考えることができたので、コーディネーターさんとアーティスト、教師みんなで準備したことが良かったです。生徒たちがアーティストに憧れを持ったり、外部の方が言うことで、教師が言う（指示を出す）より伝わるなど、いつもと違う生徒の姿が見られました。アーティストの教え方も勉強になりました。来年も同じ内容で３年間やっていきたいと教科でも話題になりました。

子どもたちから

他のチームの発表を見ていてもすごく楽しそうで、ダンスは人と人との心をつなぐものになるんだと思った。／ダンスが苦手だったが、わかりやすく教えてくれたので、たのしくダンスができた。／友達とダンスを楽しめるように工夫してやれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立二つ橋高等特別支援学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館
自分のアイデアを踊りにしよう

担当アーティスト	長井江里奈（振付家、ダンサー、山猫団主宰）
実施校	二つ橋高等特別支援学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	音楽、国語
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 6 学級 47 名
実施日程	2019 年 11 月 29 日(金)、2019 年 12 月 13 日(金)、2020 年 1 月 24 日(金)

授業のねらい

2020年２月７日に予定している学習発表会で発表する一つの作品（パフォーマンス）を３年生全員で作ることをゴールに見据え、下記の目標ポイントを共有。
・校歌に生徒がオリジナルの歌詞を盛り込み、アーティストが振り付けを考える。　・歌詞やメッセージ、アイデアなど考えた表現やパフォーマンスを在校生への励みとなるメッセージにする。
【目標ポイント】(1) 生徒のアイデアを尊重 (2) 生徒が自ら考え実行するプロセスを大切にする (3) 卒業後の生徒たちにとってもプラスとなるよう生徒同士のコミュニケーションを図ること、個々の表現の幅を広げること、新しいことにチャレンジする姿勢を重要視。

主な内容

＜１日目＞ダンスを楽しむ／各クラスの表現のアイデア出し＜２日目＞各クラスで考えた表現・パフォーマンスを発表／各クラスへフィードバック＜３日目＞本番に向けた最終練習

アーティストから

身体も大きく大人びた風貌の生徒も多かったのですが、見た目に反して非常に純真で素直な生徒さんばかりでした。褒められるとうれしくてさらにがんばるという好循環が１回目のワークショップから生まれており、踊ること、自分でアイデアを出すこと、それをやってみること
を楽しいことだと認識するのが早く、回を重ねるごとに解放されていくのが見えました。それを一緒に喜び、伸ばそうとしてくださる先生方の協力もプラスに働いていました。

コーディネーターから

新しい挑戦にも楽しむという気持ちを常に忘れずに取り組む生徒の皆さんと、生徒のアイデアや意見を尊重して、その過程を一緒に楽しみ、環境づくりをする先生方の姿勢が、アーティストとともに表現を考える有意義な時間となりました。表現やパフォーマンスを考えるにあたり、アーティストの長井江里奈さんからのアドバイスやメッセージを受け取り、回を重ねるごとに振り付けもしっかりと覚える生徒の表情が「表現を魅せていく楽しさ」に変わっていく様をはっきりと感じ、表現を「届けたい、伝えたい」という意識の変化も感じました。この取組を通して、新しい表現を作ること、それ以上に生徒同士が意見を出し合い、お互いを尊重することの重要性を改めて認識する時間になったと思います。

先生から

アーティストの長井江里奈さん、ピアニストの北園優さんの引き付けるような話し方、表現など、私たち教職員にも必要な要素であり、見習いたいと思うところでありました。コーディネーターの中冨さんとアーティストのお二人の連携も素早く、安心して取り組むことができました。

美術分野の取組

自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを
体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや
感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。
自分や友達の多様な表現に触れる機会となります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立稲荷台小学校＋横浜市民ギャラリー
ボール紙＋新聞紙でつくってみよう

担当アーティスト	宇田川純子（美術家）
実施校	稲荷台小学校（西区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／4 学年 2 学級 57 名
実施日程	2020 年 1 月 14 日(火)、2020 年 1 月 15 日(水)

授業のねらい

アーティストが制作した作品に実際に触れて鑑賞し、その作品の作り方（張子のような方法）を体験する。制作のために使用する材料は、お菓子の箱や新聞紙など、子どもたちが生活の中でよく見かける身近なものばかり。身近な材料が表現のための素材となり、表現のきっかけになることを取り上げる。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞ボール紙＋新聞紙で作ってみよう

アーティストから

私はネコをモチーフに紙で作品を作っています。今回子どもたちは、初めに私の作品を見て触ってから、同じ作り方で球を作りました。一つずつの説明を真剣に聞いて、地道な作業を丁寧にしていました。下地作りをがんばって、やっとたどり着いた仕上げの新聞紙貼りは楽しんでいる様子でした。特別な材料でなくても作品を作れることを知ってもらえたし、私の作品にも興味を持ってもらえて良かったと思います。

コーディネーターから

子どもたちの身の回りにあるお菓子などの箱から、球体の芯材を自分で組み立て、新聞紙を貼るというシンプルな内容でありながら、作ることの大変さ、自分の手を使って作ることの地道さ、そして出来上がった時のうれしさなど、作ることの大切な要素を体験することができました。子どもたちが体験した方法と同じ方法で作られた作家の作品を、実際に手に取って鑑賞できたことも良かったと思います。

先生から

また来年もやってほしいです。もう少し子どもが自分の発想を広げられるプログラムなら、共感力、コミュニケーション能力、言語能力が付くと思います。実現するとなると、多分４時間（２週）必要になると思います。宇田川先生、素晴らしいアーティストです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立永田台小学校＋横浜美術館
デコ車と割ピンアートをつくろう

担当アーティスト	三ツ山一志（造形教育家）
実施校	永田台小学校（南区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 27 名
実施日程	2019 年 9 月 20 日(金)、2019 年 10 月 16 日(水)、2019 年 10 月 30 日(水)

授業のねらい

子どもたちのモチベーションが上がり、楽しい制作の時間となるよう、自分で作って動かせるおもちゃを作ることにした。なるべく自力で意図することを導けるよう、①子どもたちが素材に関わる内容を具体的にする②それぞれのペースで関われるよう２種類のアプローチを用意する③教師と協働し、サポート体制を手厚くすることを取り決めた。工作的な作業は少し負荷がかかるが、それぞれが乗り越えて自分で意図して取り組む楽しさを見いだしてほしい。

主な内容

＜１日目＞「デコ車でゴー」作業のテーマ：かたちづくり　作業内容：発泡スチロールをカットし、車輪付きの板（デコ車／教材）の上に構成する。＜２日目＞「デコ車でゴー」作業のテーマ：着色　作業内容：初日に作成したデコ車にアクリル絵の具で着色する。できた作品を動かして楽しむ。＜３日目＞「割りピンアート」作業のテーマ：動くオブジェ（平面）をつくる　作業内容：薄いスポンジ板を好きな形に切り、割りピンで接続する。できたものを動かして変化を楽しむ。

アーティストから

今回は「自分でできることは自分でする。困った時には相談することができる」ことを目的にして、発泡スチロールを自在に加工してオリジナルの自動車を作る活動と、割りピンを使って動かせるものを作る活動をしました。発泡スチロールを加工する活動では、初めてなので戸惑いが見られましたが、練習をして作りたいものが決まってからの集中力には感心させられました。割りピンを使っての活動では、先生に付けてもらうはずの割りピンを、自分たちで付けて楽しいものを作っていました。

コーディネーターから

三ツ山氏が今回設定したテーマは「工作」でした。子どもたちには、講師の話を聞き、手を動かすうちに「こうしてみたい」という意志が芽生え、手を加えていくうちに夢中になっていく様子が見て取れました。最後に「自分でできた！」という実感が自信につながった子も多くいました。造形活動の目的と方法が的確であったことと、講師と先生方との連帯感が心地良く、子どもたちが安心して取り組める空気を作り出していたと感じました。

先生から

普段、学校の授業では使えないような教具や教材、材料を使う中で、子どもが伸び伸びと活動していました。全３回の取組でしたが、子どもたちが夢中になって活動する中で、新たな一面も発見することができました。また、コーディネーターやアーティストの方との関わりや、話の聞き方、質問の仕方などのコミュニケーションや、人とのつながりを作ることができたのも、子どもたち、大人にとってもとても価値のあるものでした。今回の活動を次年度も継続し、子どもたちにとって楽しみで有意義なものとなるようにしていきたいと、担任一同強く感じています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立芹が谷南小学校＋吉野町市民プラザ 自分の服をリサイクルして旗をつくろう！

担当アーティスト	こいちりょうじ（造形作家）
実施校	芹が谷南小学校（港南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／4 学年 2 学級 56 名
実施日程	2020 年 2 月 5 日(水)、2020 年 2 月 19 日(水)、2020 年 2 月 26 日(水)

授業のねらい

このプログラムを通し、表現には正しい答えはなく、自由に表現する楽しさに触れてほしいと思います。また、友達の表現の良さに気付き、友達の気付かなかった良いところに目を向け、友達と共に互いを尊重し合うきっかけになればと思います。

主な内容

＜１日目＞編み機作りと服を紐にする＜２日目＞編み始める＜３日目＞編みの続き、終わり方、ロープに付ける

アーティストから

自分の着なくなった服を裂いて紐にし、自作の編み機で小さな旗を織りました。一生懸命に創作をする子どもたちの様子を見ていると、自分の身体に伝わる手触りや音、リズムよく繰り返す一編み一編みといった、身体感覚に訴えるような時間が、子どもたちを伸び伸び創作させていることに気付くことがたくさんありました。「じぶん自身でつくる時間」の楽しさ、このような豊かな時間が子どもたちにいつまでもあり続けることを願っています。

コーディネーターから

作業工程が多いプログラムでしたが、子どもたちは興味を持って、最後まで楽しそうに一生懸命作り上げていました。最後に２クラス分の旗を１本のロープに付けて見渡した時は、壮観でした。作業中は一人ひとりの特徴が出て、それぞれの旗も個性的に仕上がりました。お互いに紐を交換したり、他の子の作業を手伝い、教えてあげたりして、協力し合いながら作っていく姿も印象的でした。こいち先生からの「一つのものを、使い方を変えながら最後まで使い切る」というリサイクルに関しての大事なお話も、みんなの心に届いたと思います。

先生から

コーディネーターの方がとても丁寧に打合せをしてくださり、当日もスムーズに授業を行うことができたと思います。アーティストの先生も、子どもたちに根気よく教えてくださって、子どもたちは自分の思いを創作に表していくことを楽しんでいたように感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上星川小学校＋横浜市民ギャラリー
おおきな紙に絵をかこう

担当アーティスト	三ツ山一志（造形教育家）
実施校	上星川小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／造形／個別支援学級 18 名
実施日程	2019 年 11 月 5 日(火)

授業のねらい

体育館を使い、赤、青、黄、白の４色の絵の具でそれぞれ好きな色を作り、大きな紙にみんなで絵を描く。普段の授業とは異なり、広い空間を使って大きく手を動かしながら描くことによって心を解放し、みんなで一つの大きな紙に制作する一体感を感じられる授業とする。また、授業を通して、「分からないことは聞く」ことを練習し、「教えてもらえばできる」という経験により、児童たちが自信を得る機会としたい。

主な内容

大きな紙に全員で絵の具で絵を描く

アーティストから

赤、青、黄、白の４原色の絵の具を混ぜて作った“自分だけの色”で、体育館に広げた４ｍ×７ｍの大きな紙２枚の好きな場所に、思い思いの絵を描くという活動をしました。ねらいは「自分でできることは自分でする。困ったら相談をする」ことで、これは描き作る活動に必要な姿勢ですが、生活にこそ必要なことです。絵の具をスプーンですくう仕方とポタポタ垂らす仕方で色の加減をすることを教えてあげると、「オレンジ色は？」「黄色をスプーンで１杯、赤をポタポタ」というやりとりができるようになり、「自分でするのが楽しい」という様子がたくさん見られました。

コーディネーターから

子どもたちは講師の話をしっかりと聞き、活動に取り組んでいました。大きく広がった真っ白な紙に、初めは遠慮がちに描き始めましたが、やってみると次第に「次はこんな風にしよう！」とアイデアや意欲が湧いてきた様子でした。それぞれのペースややり方で楽しんでいたようです。先生方の協力も得て、とても良い雰囲気で授業を行うことができました。

先生から

子どものアトリエのような体験が、学校でもできたら良いなという思いで応募しましたが、私たちではできない授業を作っていただき大満足でした。大きな紙を用意していただき、マイカップに自分で色を作ることは、実験をするみたいで、みんなわくわくし、広い画面に伸び伸びと描ける体験はなかなかできないので、あっという間に終了時間が来てしまいました。自分の描きたいものがあり没頭できる子、友達と協力して絵をつなげる子、色にこだわり微妙に違うピンクを作る子、一人ひとり個性あふれる行動で、寄り添っている私たちも、子どもたちの新たな一面を見ることができました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立川島小学校＋岩間市民プラザ
大きな紙と木炭で羽ばたく鳥を作ろう

担当アーティスト	こいちりょうじ（造形作家）
実施校	川島小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／造形／4 学年 2 学級 75 名
実施日程	2019 年 11 月 22 日（金）

授業のねらい

10 才を節目に成長した自分の姿を伝えるために、いろいろな伝え方を工夫してきた。芸術家に毎年たくさんの魅力を引き出してもらっているので、今年度も引き出してもらいたい。

主な内容

大きな画用紙を切り抜いて鳥を作り、木炭で絵を描く。

アーティストから

大きな紙と木炭を使い、羽ばたく鳥を制作しました。身近なモチーフということもあり、自由でユニークな形をした鳥が多く見られました。模様を描く際は、紙に手で力いっぱい塗ったり、擦り込んだりしながら、初めて使う木炭を使って伸び伸びと創作している様子でした。完成した鳥を手に教室の中をふわふわと羽ばたかせていた子どもたちは、自分の作った鳥と一緒に空を飛び遊んでいるように楽しんでいました。その時の笑顔が今もとても印象に残っています。

コーディネーターから

造形教室を１日間でという条件の厳しい中、充実したワークショップが実施できました。ただ、事前の授業を１週間前に講師に行ってもらったおかげで、すぐに制作に取りかかることができたので、本来であれば２日必要なワークショップだったと思います。

先生から

新しい教材開発ができたのが、担任として一番勉強になりました。今回の作品は動かして味が出るものなので、どのように活用できるか悩みました。炭で書いてパンで消すという体験も、子どもたちにはあまりできない体験で良かったです。次回があればぜひ３日開催でお願いしたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立市沢小学校＋横浜こどものひろば
自分なりの楽しみを見つけよう

担当アーティスト	造形ユニット ドゥイ（造形作家）
実施校	市沢小学校（旭区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 14 名
実施日程	2019 年 10 月 4 日(金)、2019 年 11 月 27 日(水)、2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

お手本もマニュアルもなく、自分なりの楽しみを、造形、カタチあそびを通して見つけていく時間を作り出す。

主な内容

＜１日目＞かぜのみち　～風に触り、風を感じ、工作した物をびゅんびゅん飛ばして遊ぶ～＜２日目＞うかんだり、しずんだり～３つの光と３つの影、空中に浮かぶ風船に造形してみると～＜３日目＞いろ×いろまん　～こねる、あそぶ、むす、たべる～

アーティストから

昨年に続き２回目の訪問でしたが、子どもたちも前回のことをよく覚えていてくれて、今回のワークショップも楽しみにしてくれていたのがうれしかったです。子どもたち自らが持っている「楽しみたい！」という気持ちが集中力やひらめきを生み、全体を通して良い時間にしてくれた気がします。新しいことでも、みんな躊躇せずそれぞれ制作していく姿が印象的でした。

コーディネーターから

前年度に引き続いてのドゥイさんの造形教室となりました。昨年を体験している子どもたちは期待を持って受け止めてくれ、教室ににぎわいが生まれました。先生方にも子どもたちにも自由感があり、創作の現場としては自分らしさが出しやすく、アーティストの立場としても楽しく関われる時間となりました。

先生から

子どもたちが毎回目を輝かせながら、用意された空間に入っていきました。初めて見る材の感触に歓声を上げていました。「これをやったらどうなるだろう」と試すことができたのも、良かったです。まずは、生活の中のちょっとしたことを材にしてしまう観察力、実行力、発想力がとても素晴らしかったです。そして、できるだけ子どもたちを自由に活動させてくださる温かさがありがたかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立さわの里小学校＋杉田劇場 うみのなか～ニバル

担当アーティスト	寺道健一朗（横浜メリ～ゴーランド研究所代表）
実施校	さわの里小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／幼、保、1 学年 2 学級 52 名
実施日程	2019 年 9 月 10 日(火)、2019 年 9 月 17 日(火)

授業のねらい

・未就学児と小学生との間の垣根を、文化・芸術の力で取り払う。
・みんなで、作品を作る楽しみを学ぶ。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞子どもたちの感性を生かして作品を作る

アーティストから

幼稚園、保育園、小学生のみんなが仲良く楽しく過ごすために、夢のある取組ができてとても良かった。子どもたちも大人もみんなで「うみのなか～ニバル」を思い切り楽しんでくれたので、とてもうれしく思いました。

コーディネーターから

大人が仕掛けたことに対し、大人の立場から想定しているリアクション以上に反応が良く、また自由かつさまざまな受け止め方をすることで、コーディネートする側としても、次回以降をより発展的なものにしなければという使命感とともに、アーティストと子どもたちの懸け橋として、両者が持つ文化的かつ世代間をつなげられる話題を探すことに対し、情報感度を高めることが重要であると認識しました。

先生から

今回、小学１年生の児童だけでなく、幼稚園・保育園の年長組（約 70 人）との交流の場でもありました。児童と園児が交流できるようにさまざまな工夫をしていただきました。小学１年生の児童は、年下に教えることのうれしさを感じ、胸を張っているようでした。作る楽しさ、作品で表現活動をする楽しさを、子どもだけでなく教員も味わいました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立六浦南小学校＋長浜ホール
巨大な筆で自分史上最大の絵を描こう！

担当アーティスト	浅葉弾（クリエイティブディレクター、子どもデザイン教室主宰）
実施校	六浦南小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市 長浜ホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／絵画／4 学年 3 学級 84 名
実施日程	2019 年 10 月 29 日（火）、2019 年 10 月 30 日（水）、2019 年 10 月 31 日（木）

授業のねらい

グループでモチーフを決め、幅５m×長さ 14mの布に、身の丈くらいの大きな筆で描いていきます。テーマは「地球の命」。力を合わせて一つの作品を仕上げていく過程で、コミュニケーションを取り合いながら、伸び伸びと表現する楽しさを理解してもらうことを目標とします。作品を発表し、多くの人に成長した子どもたちの姿を感じてもらえたら最高です。

主な内容

＜１日目＞プランニング／背景を描く（各自描く生き物を決める・クラスで背景を決める・巨大道具で背景を描く）＜２日目＞生き物の下書き（原寸大でスケッチを描く・配置を決める・布に下書きを描く）＜３日目＞生き物仕上げ・全体の装飾（生き物に着色。隙間を埋め完成を目指す）

アーティストから

たったの３日間でしたが、84 人の児童たちとは目標に向かってしっかりワンチームになれたと思います。今回の作品はみんなで計画を考えること、個人で計画を考えること、みんなで協力してがんばること、自分一人でがんばることの４つのポイントがありました。うまくまとまるか！計画通りに進行できるか！などチャレンジがたくさんありましたが、見事に乗り越えてくれました。超特大の絵画作品を作れた経験以外にも得るものがたくさんあったプロジェクトになったと思います。

コーディネーターから

先生方と打合せを重ねたにも関わらず、体育館を占める巨大な布を見た時、無謀の二文字がよぎりました。絵の具に水を含ませすぎ、背景色がボケるという当方の想定ミスもありました。しかし子どもたちはものともしません。体育館中に４年生の世界が広がります。ラスト 10 分間のハイペースは圧巻でした。布の余白がどんどん埋まり、この冒険は終わりました。学校中の支援を受けたこの３作品。来年の１／２成人式に彩りを添えてくれることでしょう。

先生から

図工専科になり、今回せっかくの機会なので、普段の授業ではできないことを経験させたかったです。アーティストの方からもいくつか提案していただき、学年の先生とも相談し、大きな絵を描こうということになりました。そして、10 才を祝う会で披露しようということになりました。コーディネーター、アーティスト、担任、専科が連携して、子どもたちにとっても貴重な経験になったと思います。スタッフの方もたくさんお手伝いしていただき、子どもたちにもアドバイスしていただきました。一人ではできないことをたくさんの方々と一緒に活動することができ、自分自身も良い経験となりました。

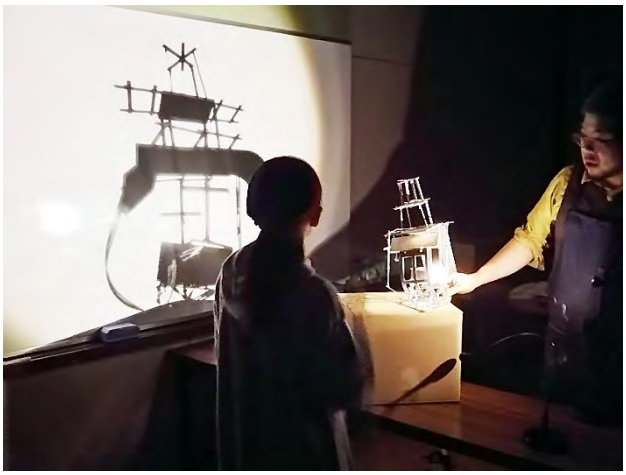
子どもたちから

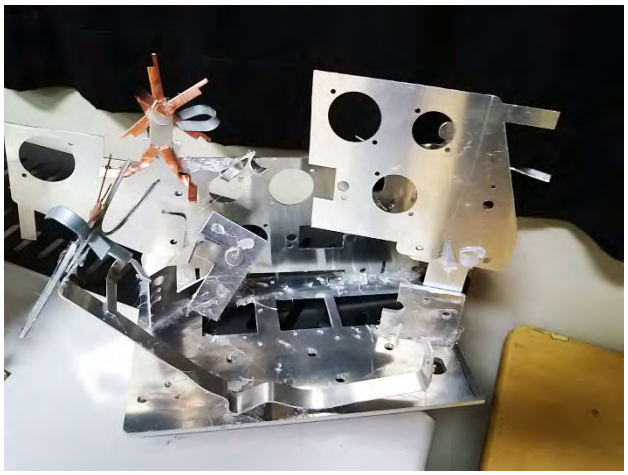
いろいろな先生と出会って、いろいろなことを教えてもらって楽しかった。／大きな布に自分の好きな絵をかけてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立新吉田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
工業部品を使ってアートな作品を作ろう！

担当アーティスト	山田裕介（造形作家）
実施校	新吉田小学校（港北区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー あざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／金属加工／5 学年 3 学級 120 名
実施日程	2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 1 月 17 日(金)、2020 年 1 月 23 日(木)





授業のねらい

工場で作られた工業部品を用いて、自分だけのすてきなアート作品を制作する。工場見学をしながら、そこで作られている工業部品を提供してもらい、アーティストの指導を受け、児童はアイデアを具現化する。友達の作品から刺激を受けたり、作りながら思ってもみなかった表現に出会うことで、多様な価値を見いだしていきたい。１日目は工場見学と、工場で部品をもらい自分の作品イメージを考える。２日目は作業。３日目は作品に光を当て影を作り、おのおのの発表、講評会を行う。

主な内容

＜１日目＞工場見学をしながら、作品素材として工業部品をもらう。グルーガンの使用方法を学ぶ。＜２日目＞素材を各自のイメージに沿って工作する。＜３日目＞作品を各自発表する。ライトで照らして影を投影し、多様な見方で講評し合う。

アーティストから

子どもたちが町工場へ出向き、工業資材をもらって学校に帰ってきて制作をする。社会科見学と図画工作が一体になったような授業が実現したことにまず感謝します。この授業では、工業製品になりたてほやほやの資材を使えることに、そして、子どもたち自身の手で取り出し作り出した物が、自分の思考のフィルターを通すことにより、工場に行く以前とは全く異なった作品になることに、その面白さがあります。町工場のパワーと子どもたちのパワーが絡み合い完成した作品であり、授業そのものが作品であったように感じました。

コーディネーターから

企画をするのは大人の仕事です。工場の廃材を利用した金属加工というのは、社会包摂と社会貢献という理にかなった大人の企画です。しかし大人も不安になります。「バラバラでいろいろな形をしている部品を使って、本当に子どもたちの作品が出来上がるだろうか？」と。しかし子どもたちは難なく、大人が思いもしない形を見つけ、作品として理路整然と制作していきます。ある児童が「みんなの作品を見て、こんな見方があるんだ、生まれて初めての経験でした」と感想を述べていましたが、それはそのまま、大人が子どもたちを見て思った感想だと感じました。

先生から

コーディネーターの方がこまめに連絡を取ってくださり活動のイメージを持つことができました。私が打合せの時にインフルエンザにかかってしまい、細かな打合せをすることができなかったのですが、当日しっかりと準備をしていただき、何から何まで本当に助かりました。私たち教師にはないアーティストの方の技術や言葉がけのおかげで、子どもの「表したいな」という思いがとても大きかったと思います。これからの教育は「社会に開かれた教育課程」を理念としてやっていかなければなりません。今回の取組は、まさに目指しているものだったといえます。この取組は、市の研究会で発表させていただきました。この活動をもっと多くの学校にやっていただきたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立高田小学校＋横浜美術館
みんなでヘンシン！

担当アーティスト	伊東純子（アーティスト）
実施校	高田小学校（港北区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／造形／1 学年 3 学級 80 名
実施日程	2019 年 11 月 22 日（金）

授業のねらい

洋服や、作ることを通して個人の表現を手助けする活動を行っているアーティストを招聘し、「創作・表現体験」を実施します。「変身」をテーマに、クラスごとに“なってみたいイメージ”を考えて、色とりどりの素材（不織布など）を使い、衣装を作ります。出来上がったら、それぞれの作品（衣装）を身にまとって、広い空間でクラスごとに動き回り、みんなで考えた「変身」を身体を使って表現します。

主な内容

不織布を使った制作とクラスごとでの発表

アーティストから

工作が楽しかった！という感想に救われました。１年生２コマのみ、寒い体育館でのワークショップとなかなか予測が難しい条件でした。道具や素材の扱い方、チームで動くことに不慣れなことなどから、工作時間をメインにして、着地点を集合写真にしても良かったかと思います。もう少し準備段階で対象学年への適切な理解が必要でした。プラットフォーム事業を今後も充実した内容にしていくために、今回の反省点を共有し、学校側とのコミュニケーションをより積極的に行うこと、予算含め物理的条件の相互的調整が不可欠と思います。次回、機会をいただけるのでしたら、より子どもたちが夢中になる、記憶に残るワークショップを実現したいと思います。

コーディネーターから

限られた時間をいかに充実した内容にするか、アーティストの経験をもとに準備段階から真摯に向き合っていただき、２時限の中で「工作」と「表現」の時間を設けました。「工作」では慣れない素材に躊躇する場面も見受けられましたが、マントの裾をギザギザに切り取ったり、端材で「手袋」を作ったりと手を動かすごとに見本を飛び越え、豊かに表現する子どもたちの姿が印象的でした。「表現」ではピアノ伴奏を行っていただくなど、先生方の細やかなお力添えのおかげで、無事に実施することができました。高田小学校の皆さまとの出会いの中で、そこでしか表現できない貴重な時間となりました。

先生から

素材がたくさん用意してあったので、子どもたちが意欲的に活動できました。場の設定の仕方や、プロジェクターで映すなど、普段は難しい学習に取り組むことができました。新しいものを生み出す経験をすることができました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立綱島小学校＋ART LAB OVA
見方を変えると世界が変わる

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）
実施校	綱島小学校（港北区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／3 学年 3 学級 105 名
実施日程	2020 年 1 月 22 日(水)、2020 年 1 月 28 日(火)、2020 年 2 月 4 日(火)

授業のねらい

活発な子が多いので、普段はできないような自由な活動をして解放してあげたい。一方で、見立てが苦手な子も多いので、想像力を広げてあげたい。

主な内容

＜１日目＞大きな紙の上で絵の具を使って筆や手で描く＜２日目＞「見立て」の経験とシュールレアリスムの技法を利用して友達と絵を描く＜３日目＞１日目に描いた大きな紙の上で模様を見立てながら思う存分絵を描く

アーティストから

珍しく３クラス 100 人という大人数だったのですが、体育館の利用ができなかったので、収容人数的にはギリギリな多目的ホールを使わざるを得なかったなど、授業の進行上難しい部分もありました。しかし、先生が子どもたちの集中を無理なくこちらに向けて、分かりやすく説明してくださるなどフォローしてくださったので、なんとか乗り切ることができました。季節が真冬だったこともあり、１日目、３日目の手足に絵の具を塗って描くダイナミックな活動が多少限定されてしまったことが残念でしたが、子どもたち自身は積極的に楽しんでいたようでした。

コーディネーターから

システムの問題でメールのやりとりが難しく、先生方にも負担をかけてしまいました。それにも関わらず、当日はとても好意的にいろいろとお手伝いいただき、感謝しております。まだ３年生ということで、６時間授業の日がほとんどなかったので、学級閉鎖になってしまった場合の振り替えが困難だったのですが、予定通り開催できて安心しました。

子どもたちから

「地」と「図」をみて、ちがう絵になることは知らなかった。／えのぐを使ってかいたり、トリックアートを見るのがとても楽しかった。／手や足にぬれた絵の具をつけ、友だちと歩いたのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立綱島東小学校＋大倉山記念館
みんなで作ろう！木木（もくもく）教室

担当アーティスト	島村健二（もくもくはうす取締役）、大場公喜（もくもくはうす取締役）
実施校	綱島東小学校（港北区）
コーディネート	横浜市大倉山記念館
実施科目・教科名	クラブ活動
実施概要	体験型／木工／4〜6 学年 30 名
実施日程	2019 年 12 月 17 日(火)、2020 年 1 月 21 日(火)、2020 年 1 月 28 日(火)

授業のねらい

自然の素材である木のぬくもりを感じながら、豊かな感性と創造力を生かしてみんなで作品を作り上げます。友達と協力しながら作品を作ることで、学年の枠を超えたコミュニケーション能力を育み、お互いを認め合うことのできる協調性を養います。出来上がった作品は来年度のクラブ活動見学にて発表します。

主な内容

＜１日目＞木のぬくもりを感じよう、道具を使ってみよう＜２日目＞協力して作品を作ってみよう①＜３日目＞協力して作品を作ってみよう②

アーティストから

木工教室は、年に何回かいろいろな所でさせていただいているのですが、今回は学校関係で、しかも図工教室での木工教室はわれわれも初めての体験！何を用意して、子どもたちがどのくらいのことができるのか、少し未知でした。３回（約３時間）という時間、小学生に何が作れるか？どこまで作業してもらえるか？などなど、いろいろな問題を抱えつつ準備させていただきました。１回目の時間は楽しんでいただいた感じで、何か私たちの不安も子どもたちに飛ばされました。そういえば、当初は内気な子が多いとか…。一緒に３時間過ごさせてもらいましたが、結果的には何も心配なく、こちらが元気をいっぱいいただきました。

コーディネーターから

木材の選定から端材の大きさまで、対象学年に扱いやすい物を事前にご準備くださっていて、当日の作業が大変スムーズに進みました。クラブ内では女の子の児童が多い印象でしたが、積極的に道具を使いこなして、個性あふれる作品を作り上げていました。３日間通して、大きなけがもなく順調に進めたのも、アーティストと学校の先生のフォローがあったおかげです。限られた時間の中でしたが、協力したり、何もないところから形を作る創造力が育まれたと思います。

先生から

子どもたちが自分なりに形を工夫している様子が見られました。教員だけではできないような取組ができて、とても良かったです。クラブ活動の内容が毎年マンネリ化してしまうので、とても新鮮でした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立三保小学校＋みどりアートパーク
言葉以外で伝え合って絵を描こう

担当アーティスト	門秀彦（画家）
実施校	三保小学校（緑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／絵画／3 学年 4 学級 156 名
実施日程	2019 年 10 月 23 日(水)、2019 年 10 月 24 日(木)、2019 年 10 月 25 日(金)

授業のねらい

耳栓をして絵を共同制作することで、言葉以外のコミュニケーションをしながら他者と関わる方法を体験する。絵の上手い下手ではなく、コミュニケーションの手段として絵を描くことを体験する。グループごとに共同制作した絵を途中で交換して完成させることで、それまで何を描こうとしていたのか、つまり伝えようとしていたのか考える想像力を養う。

主な内容

＜１日目＞３・４組でのワークショップ＜２日目＞１・２組でのワークショップ＜３日目＞全クラス合同で体育館でライブペインティングの鑑賞と他クラスの絵の鑑賞

アーティストから

子どもたちに「耳栓」をしてもらい、声が聞こえない（聞こえにくい）状況を作り出したことで、意識的にジェスチャーや顔の表情の表現が大きくなり、自然とお互いが向き合って目と目を合わせるコミュニケーションが生まれたと思います。また、一人で「自由」に描く絵に比べ、チームでの共同制作の絵には、思い通りにいかない「不自由」も感じたと思いますが、それこそが「意志を持った表現」「伝えるための表現」のスタートだと思います。

コーディネーターから

子どもたちは思っていたよりも柔軟で、提示した条件に早く順応していました。積極的かつ大胆に描き進める子どもが多く、表現することに対する前向きさを感じました。アーティストの意図として、あまり説明しすぎないで子どもたちの関わり合いに任せることにしましたが、子どもたちを信頼することがこのようなワークショップの肝だと感じました。最終日のライブペインティングは 100 名を超える人数で、かなり遠くから見ることになる子どもたちもいたため途中で自由に動き回らせましたが、子どもたちの関心を引く仕掛けが必要と感じました。

先生から

普段の授業では出会うことのできない内容で、子どもたちにとって新しい発見や学びにつながりました。黙々と集中して取り組む子どもたちの姿が印象的でした。アーティストの方のパスの使い方も、子どもたちにとって新たな発見だったようで、本物に出会う貴重な機会をいただきました。

子どもたちから

みんなで会話をせずに絵を描くこと（一つのものが完成できること）に感動した。／のびのびと自由に描けて、心が楽しくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立奈良の丘小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
絵の具遊び

担当アーティスト	山田佐映子（造形作家）
実施校	奈良の丘小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／1 学年 2 学級 56 名
実施日程	2019 年 9 月 5 日(木)、2019 年 9 月 13 日(金)

授業のねらい

１日目は１クラスずつ１コマの授業を行い、絵の具や筆の基本的な使い方を学ぶ。２日目は２クラス合同で行い、体育館の広いスペースで、大きなロール紙に、絵の具で描く。自由なテーマで描く。自分の身近に存在する対象を自由に、そして他の児童と共同しながら、１つの大きな作品として制作する。

主な内容

＜１日目＞クラスごとに授業を行い、筆の使い方、絵の具の溶き方を指導。＜２日目＞２クラス合同で、みんなで協力し合いながら、大きい絵を描く。後片付け、掃除。

アーティストから

絵の具を混ぜる体験の中、色の変化に目を輝かせ「こんな色ができた！」とうれしそうに伝えてくれました。自由に絵を描くと個人で楽しんだり、次第に友達と「まちにしよう！」と子ども発信のテーマを発展させるグループもいました。動物をテーマにすると戸惑う様子の子もいましたが、友達と一緒にまねて描いたり、オリジナル動物を描く子もいました。一人ひとりのこだわりと学年全体で共有する楽しみが見える活動となりました。

コーディネーターから

１日目の絵の具の使い方指導を行ってから１週間が経ち、２日目に行われた大きな絵の作画に取り組みましたが、経験を積み上げていくことができなかったのが残念でした。期間を空けないで授業を行う方が良いと考えます。感想に「いろんな色を作れて楽しかった。すべての色を混ぜると黒い色になることが分かった」など、色の配分で違うことを、他の児童の色を見ながら体験できていました。絵のテーマ「動物」を共同しながら具現化していきました。最後に全員で後片付けを行い、体育館を雑巾がけしました。

先生から

図画工作の授業では、限られた大きさの用紙に、なるべく周囲を汚さないように描く活動であることや、これまでに絵の具を使った経験も少ないことから、絵を描くことに対して苦手意識を持った児童も多いです。しかし、今回の活動では、楽しかったと感じた児童がほとんどでした。中には、これから６年生になるまでの間の図画工作の授業が楽しみになったと、感想を持った児童もいました。このような場で良い経験をさせていただいたことで、児童により良い成長をする機会を与えられたと思います。これからもできる限り、本校に来ていただきたいと思いました。

子どもたちから

色をまぜたり、絵をかいたりして楽しかった。／６年生になっても新しいものがでてくるから、またやりたい。／絵の具でかくのをまたやりたい。／いろんな色をつくりたい。／みんなでつくるのが思い出にのこった。／色を混ぜて新しい色がつくれるのがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立荏田小学校＋アートの時間
見えないもの、形のないものを描いてみよう！

担当アーティスト	都守太朗（作家、ギャラリー経営）
実施校	荏田小学校（都筑区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／絵画／3 学年 2 学級 51 名
実施日程	2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 18 日(水)、2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

目の前の題材に興味を抱き、自分だけの表現方法に自信を持って、想像を広げ、伸び伸びと表現できることを目指す。

主な内容

＜１日目＞スピードドローイング（ウォーミングアップ）と「音楽を描く」＜２日目＞「水を描く」＜３日目＞２日目の仕上げと鑑賞

アーティストから

伸び伸びと表現することだけではなく、見えないもの、形のないものを描くための工夫や観察を、もう少し丁寧に伝えられればと後悔しております。とても楽しそうに制作されていましたが、各自が元々持っているイメージに頼り過ぎた絵になってしまいました。もっと子どもたちの表現力を信用し、落ち着いて対話をすれば、また違った発見が伝えられたのではと後悔もあります。しかし驚く作品も多く、非常に勉強させられました。

コーディネーターから

都守太朗氏は子どもの力をとことん信じる作家です。具体的な指示を求めがちな子どもたちに「そこはまぁ適当に」とほほ笑みます。音楽室に移動し、多様な音楽が次々と流れ始めると、子どもたちの様子は一変します。身体を大きく揺らしたり、目を瞑ったり、両手にペンを握ったり、それぞれの「適当」を探り、恐ろしいほどの集中力で線を描き続けました。「音楽は空気の振動」「適当って自由」などの感想も聞くことができました。難しすぎではと疑心暗鬼だった私にとって、改めて子どもの潜在能力を見せつけられたプログラムでした。

先生から

「絵を描くことってこんなに楽しいんだと感じた」と感想を書いている子が数名いました。今回の授業がとても魅力的であったことが分かりました。見えないものを描くという題材も、子どもたちは感じたまま、自由に描いていいんだと捉え楽しく取り組んでいました。アーティストの都守さんが、子どもの発想を「いいねえ」と褒めてくださる姿は、私たちも刺激を受け、「褒め上手になりたい」と思いました。

子どもたちから

30 秒ドローイングや、音楽を聴いて絵を描くことが楽しかったので、またやりたい。／絵を描くことがこんなに楽しい、おもしろいんだと思った。／ちゃんと正直に描くことが大事だと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立すみれが丘小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
工業部品を使って自分の作りたいイメージをカタチにする

担当アーティスト	山田裕介（造形作家）
実施校	すみれが丘小学校（都筑区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／金属加工／5 学年 2 学級 63 名
実施日程	2019 年 7 月 11 日(木)、2019 年 7 月 12 日(金)、2019 年 7 月 18 日(木)

授業のねらい

昨年 2018 年 7 月に行ったワークショップを継続して実施する。古河電工パワーシステムズより作品素材の提供をいただき、送配電システム会社の工業部品を用いて、各自が思い思いの造形アート作品を作る。自分の視点で作った作品を暗室で光で影を付け投影しながら、お互いに講評し合う。影に映る自分の作品が別の表現に見えたり、他の意見を聞くことで、自分の表現とは違う多様な視点を認め、共鳴できる感性を育みたい。

主な内容

＜１日目＞金属素材の説明。自分の作りたいイメージを子どもたちが絵に描いて考える。＜２日目＞金属素材の選択、作品の制作。＜３日目＞制作した作品を光で投影して、作品の講評を子どもたちの間で行う。

アーティストから

材料に使用した工場の部品。初めて見た時は、ただのボルトに見えたり、へんな形のプラスチックだなと思う程度だけれど、「創造」というフィルターを通すことにより、大人も子どもも物の見方を大きく変える。「ただのボルト」だった物が「恐竜の目」に変わり、「へんな形のプラスチック」が「未来のロケットの胴体」に変わる、その瞬間から今まで何の気なしに見ていた物の形を少しだけ多面的に見る力を生む。今回の授業では子どもたちの経験や体験から湧き上がる創造する力が見えたように思う。

コーディネーターから

金属素材を古河電工パワーシステムズ株式会社より昨年に引き続き提供いただきました。「初めはどうしたらいいのか分からなくて不安だったけれど、だんだんと自分が作りたい物が見えてきた」という子どもたちの感想が印象的でした。楽しく作品に取り組んでいました。作品を、暗室の中で光で影を付け、投影しながら講評会をしました。他の人が見た作品のイメージと自分のイメージが違うことをそれぞれが受け入れ、他を評価し合うことができました。会社の製品には社員たちの「魂」が部品の中に組み込まれています。それが熱を帯び、子どもはそこからインスパイアされ、子どもの「魂」を揺さぶったのではないだろうかと感じました。

先生から

図工で造形遊びとして、自然材やダンボール、布などから発想を広げ何かを作るというのはするのですが、工業製品を材にすることは、企業から協力をいただかないと材料が集まらないので、今回はとても貴重な体験をさせていただいたと思います。普段触れたことのない材だったため、子どもの自由な発想から面白い形が次々に生まれ、楽しい活動となりました。

子どもたちから

いろいろな物を作ることは楽しいなと思った。／作ったあとにライトをあてるのがおもしろかった。／影で遊んだときに、想像していた影とはちがう形ができたので楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立飯島小学校＋ＳＴスポット横浜
「地面のことば」を聞いてみよう

担当アーティスト	岩田とも子（アーティスト）
実施校	飯島小学校（栄区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	図画工作、生活、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 32 名
実施日程	2019 年 11 月 26 日(火)、2019 年 11 月 29 日(金)、2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 18 日(水)

授業のねらい

この体験を通して、いろいろな表現方法を知り、自信を持って自分の思いを伝えようとすることができるきっかけとしたい。失敗したくないという思いが強い子もいるので、自然に思い思いに表現できる体験を積ませたい。

主な内容

＜１日目＞アーティストより自己紹介と、４回の授業を通して子どもたちとやってみたいことを提案。草木の様子や落ちている自然のものから「地面のことば」を探り、地面が何か言おうとしているかもしれないと、想像して遊んでみることに。一人ひとり袋を持って校庭へ出て、落ち葉や石などの自然物を収集、それを画用紙の上に広げて虫眼鏡で観察した。＜２日目＞前回収集したものの中からお気に入りの３つを選び、標本作成。どのようにボンドで接着させるかなどのレクチャーを受け、どの側面をよく見えるように置くかこだわりながら試行錯誤。70 枚近い標本を並べて鑑賞すると、単なる落ち葉や石が特別なものに見えてくる不思議を味わった。＜３日目＞前回までの活動の振り返りを簡単に行い、作った標本から、この葉っぱや石はどんなことを言っているかな、何の文字に似てるかな、どんな気持ちなのかななど「地面のことば」をみんなで探ってみた。その後一人ひとり、気に入った標本を３つ選び、どんな「地面のことば」が聞こえるのかを想像して書き出した。＜４日目＞自分で収集した自然物の標本のうち一つを選び、箱に入れて、その「地面のことば」を書いた（キャプションをつけた）、標本箱の作品を作った。

アーティストから

「地面が何か言っている…かもしれない。」こんな思いつきを言うのは結構勇気がいるし不安もあった。でもその小さな思いつきに一歩一歩近づいてくれる子もいれば、ぴょんっと飛び込んできてくれる子、通り越していくような子もいて一緒に地面を歩いているうちに私の不安は冬の風に吹かれてどこかへ。何気ない葉の曲線や石の立ち姿、空気や時の移ろいまでも目で拾うような子どもたちの作品をみて思う。地面はやっぱり何か言っている…。

コーディネーターから

敷地内に里山のような草木があり、校庭の周りをぐるりと散策できる飯島小。個別支援学級の子たちはその中でもバラ園のお世話をしながら自然の不思議を学んでいるとのことで、地面に起こる小さな変化や不思議の楽しみ方を、アーティストの岩田さんに教えてもらいました。自分で見つけてきたお気に入りの葉っぱを、よく観察し、どんなことを言おうとしているのかと空想で対話し、誰かに見せる作品にする。子どもたちは、一人ひとりのこだわりや感性を他者と共有する、その素敵なコミュニケーション手法を知り、このような形で表現する喜びを感じていたようでした。

先生から

子どもたちが里山や自然に興味を持っていたため、活動に自然と入ることができました。活動の中で「地面のことば」を子どもたちがどのように捉えているのかがとても興味深かったです。里山で拾った身近なものに価値を与えることで宝物になることに気付き、面白い発見をすることができました。

子どもたちから

４回の活動すごく楽しみだった。／作品作りが楽しかった。／いろいろなことを教えてもらって楽しかった。／とても意外性があって楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立笠間小学校＋横浜こどものひろば かぜのみち

担当アーティスト	造形ユニット ドゥイ（造形作家）
実施校	笠間小学校（栄区）
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／幼、保、1 学年 3 学級 120 名
実施日程	2019 年 9 月 20 日(金)、2019 年 9 月 25 日(水)、2019 年 9 月 27 日(金)

授業のねらい

幼稚園、保育園との関わりを大切にし、小学生だけが楽しむのではなく、接点が生まれるようにする。幼稚園児、保育園児と小学生が工作した物を合体させるなど、具体的な行動の中に交流が生まれるようにプログラムする。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞かぜのみち　風に触り、風に絵を描き、工作物を風で飛ばす

アーティストから

小学校での開催でしたが、１年生と近所の幼稚園、保育園の子どもたちとの合同の時間となっていて、１年生と年長さんとまぜこぜの班を作っていたのもあり、みんな分け隔てなく楽しんでいたのが印象的でした。人数が多かったので個別に対応できる時間は少なかったですが、作った物を見せに来てくれる子もいて、それぞれ違う工夫が見られて面白かったです。

コーディネーターから

大型扇風機の風を利用して透明な風のトンネルが７～８ｍ出現すると、子どもたちから大きな歓声が湧いて一気にドゥイさんのマジックに掛かった様子でした。さまざまなカラーペン、シールなどが配られると躊躇なくやってみたい！のトリコに。少し満足する頃、さらに次の素材が届けられ、子どもたち自身の何かを創りたい！という気持ちに応えます。小学生が年長さんに手を貸すシーンも見られ、自分の、そして自分たちの楽しい！を見つけられたようでした。

先生から

教科や領域の縛りがなく、自然な流れで風に触れる→自分たちでも飛ばしてみる→自分たちで作ったものを飛ばしてみる、と活動が広がっていったところが、子どもたちが生き生きと活動に入り込める流れで良かったと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立瀬谷さくら小学校＋横浜市民ギャラリー
日本画材で描いてみよう

担当アーティスト	泉桐子（画家）
実施校	瀬谷さくら小学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／日本画／6 学年 2 学級 80 名
実施日程	2019 年 12 月 17 日(火)、2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

日本画との出会いとして、和紙や墨、膠、絵の具など、日本画の画材に実際に触れて学び、それらを使って絵を描く体験をしてみる。見本作品のうち好きなものを選び、まずは墨で線描、その後顔料を砕き、膠と混ぜて絵の具を作り、着彩する。素材や技法を知るとともに、日本画の基礎を学ぶ際に行う「模写」を通して、見る力を養い、表現の仕方の多様さに気付く機会とする。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞日本画材で「鳥獣戯画」の動物を描く

アーティストから

「鳥獣戯画」に描かれた動物をモチーフに、日本画の画材を使って絵を描いてみることに挑戦してもらいました。鳥獣戯画は授業で習ったばかりだったらしく、早い段階で興味を持ってもらうことができたようで、少し難しい話にもしっかり耳を傾けてくれました。第一印象ではとても元気いっぱいだった子が、筆を握るととても集中していた姿が印象的でした。筆で絵をなぞったり、絵の具を自分の手で作ってみることで、アイデアを出すだけじゃない絵の楽しみ方に触れてもらえたかなと思います。

コーディネーターから

前半は墨をすり、お手本の線の強弱や表情を読み取って写す工程。自由に絵を描くのとも習字とも異なる「絵を写す」ことが子どもたちには新鮮だった様子で、筆の扱いを練習しながら真剣に取り組んでいました。日本画特有の画材や道具、色の名前など、講師の話に興味津々に耳を傾け、また顔料を筆を転がして砕いたり、指で絵の具を混ぜる感触など、なかなか出会う機会のない未知のお話や体験を、一つひとつ楽しんでくれていました。

先生から

普段、触ることはもちろん、目にすることも少ない「日本画」に、体験を通じて触れたことが、子どもたちにとって貴重な経験でした。水彩絵の具の経験しかない子どもたちが、岩絵の具に触れて、発色の美しさや指での手触りにとても感動していました。

子どもたちから

自分で色を作るのは初めての体験だった。／絵がきらいだったけど楽しく感じた。／にかわと粉絵の具を手で混ぜるのがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立横浜吉田中学校＋ART LAB OVA
美術も人生も正解なんてないよね

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）、清水恵美（アーティスト）
実施校	横浜吉田中学校（中区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／造形／3 学年 4 学級 143 名
実施日程	2019 年 12 月 19 日(木)、2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

実際にアーティストの作品を鑑賞することを中心に、普段はなかなかできない体験をさせてあげたい。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞プロセスが重要とされている作品例を見て実際に描いてみる体験をした

アーティストから

当団体は、親の都合で日本に呼び寄せられた海外につながる子たちが、日本の文化や言語の習得に苦労しているのを長年見てきているので、今回在中国 16 年のアーティスト清水恵美さんと協働して、実験的に日中二カ国語での授業を企画しました。プレゼンシートの準備に相当時間をかけましたが、それだけの手応えも感じました。この事業はカテゴリーごとに分かれていて、普段「美術」でパフォーマンスを扱う機会が少ないが、多様な表現方法を試みている清水さんからの提案でパフォーマンス作品を上映したところ、どのクラスでも生徒たちのおしゃべりがやみ、集中して鑑賞していたのは興味深かったです。授業の最後の質問コーナーでは、生徒たちから鋭い質問も飛び出したが、時間のない中で答えきれないこともあり、後日のフォローができない一度きりの授業の難しさを改めて感じました。(ART LAB OVA)

下見や準備を密にしていましたので、授業目的から実技の導入まで滞りなく進めたのが良かったです。また、生徒の多くが中国系なので、中国語で授業を進めたことが生徒の制作中の感情の機微を拾うことになり、専科の先生に喜んでいただけたことにもやりがいを感じました。また、生徒の中から「美術とは何か。芸術との違いは何か」という大事な質問をいただいたのですが、時間の関係で満足に答えられなかったのが心に残っています。芸術を思考する脳部位は、サバイバルの思考と同じ箇所にあります。サバイバルの思考としての美術を知ってもらえたらと思いました。(清水)

コーディネーターから

先生にはご多忙の中ご協力いただき、一番良い形でスケジューリングをしてもらえたので、１日目の授業の様子を見て、２日目にマイナーチェンジをして臨むことができました。学年の６割近くが海外につながる子で、その多くが中国につながるということで、今回長く中国で活動をしていたアーティストに通訳や翻訳をしてもらい、完全に日中２言語での授業を企画しました。今回のアーティストはジャンルを横断して多様な活動をしている人だったので、映像でパフォーマンス作品を見せましたが、どのクラスでも生徒たちが一瞬で作品に引き込まれてゆく様子に、改めて非言語の表現であるアートの可能性を感じることができました。

先生から

海外につながる子たちが 53%を越える学校に着任して、１年半「分かりやすい」ことを大事にして授業をしてきました。今回生徒の多くが「何も考えず、色の組み合わせすら考えず、指で道具さえ使わずに描くことが楽しい」とアンケートに答えていました。これを機会に美術にしかできないこと、美術でしかできない表現を授業に取り入れてみようと考えました。ただ、１年間の授業を通して、子どもたちの中に育ってきた部分もあり、次年度以降の教育課程の中に工夫して配列していこうと思います。

子どもたちから

青一色何も考えずに作品を作るのはとても楽しかった。／ダイナミックだったり色彩が豊かなものだけがアートではなく、形の変化や色の変化を楽しむことも立派なアートだと発見した。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立小田中学校＋横浜美術館
アニメーション美術監督の仕事

担当アーティスト	林孝輔（アニメーション美術監督）
実施校	小田中学校（金沢区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／アニメーション／3 学年 4 学級 125 名
実施日程	2019 年 12 月 23 日（月）

授業のねらい

・アニメーションの制作には多くの人が関わり、たくさんの工程を経て完成することを知る。　・仕事では、物事を突き詰める根気と、時間や予算などの条件とのバランスを取ることの両方が必要なことを知る。
・目標を持ち、自分の決断を前向きに捉えて努力することと、どのような状況でも自分を肯定することの大切さを知る。　・授業を通して感じたことを自分の言葉で表現する。

主な内容

スライドレクチャー、背景原画の鑑賞、質疑応答

アーティストから

アニメーションの背景美術という仕事の説明を通して、ものづくりにかかる時間と労力の大きさを知ってもらおうと思った。また、自身の学生時代の経験を伝えることで、進路選択を控える生徒の助けとなればとも考えていた。生徒は映像資料や実物の作品への興味が強く、より多くの資料を紹介できると、さらに興味を引き付けられたかもしれない。伝えることの難しさを感じたが、個人的には非常に有意義な時間となった。

コーディネーターから

生徒たちが目を輝かせて講師の話を聞いていたのが印象的でした。休憩時間にはじっくりと原画を鑑賞したり、講師に話しかけたりする積極的な様子が見られました。また、講演後の質疑応答では、普段自ら発言することは少ないという生徒からも質問がありました。林氏は、自身が中学生の時から大人になるまでの挫折や、それを乗り越えた経験に重点を置いて語ってくださったので、進路選択を控えた中学３年生を大いに刺激することができたのではないかと思います。

先生から

作者の意図やねらい、制作の過程を見たり聞いたりすることで、美術の絵の良さや美しさを感じ取ったり、制作のアイデアを知ることができました。進路について悩んでいる生徒たちが、絵を仕事にしている実際について触れられたことで、将来への展望や興味、関心が持てました。プロの方と触れ合える貴重な機会となりました。

子どもたちから

絵の話だけでなく、人生や生き方の話を聞けて刺激を受けた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立篠原中学校＋ART LAB OVA
なりきり模写

担当アーティスト	ART LAB OVA（アーティストグループ）／写真撮影：福田依子（写真家）、今井紀彰（写真家）
実施校	篠原中学校（港北区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／造形／個別支援学級 17 名
実施日程	2019 年 9 月 24 日(火)、2019 年 9 月 26 日(木)、2019 年 10 月 1 日(火)

授業のねらい

生徒たちは美術用の副読本を数冊ずつ持っているが、実は美術の授業はあまり行われていない。この機会に身体を使うなど表現する楽しさを体験し、さらに中学生の美術らしい課題で昨年とは違う取組をする。

主な内容

＜１日目＞大きな紙に、手足を使って絵の具で描き、アクションペインティングを体感する＜２日目＞森村泰昌氏などの作品を鑑賞後、自分がなりきる名画を探し、プロの写真家に撮影をしてもらう＜３日目＞撮影した写真を１日目の紙に貼り付け、原画を見ながら模写をしていく

アーティストから

２～３年生はすでに昨年授業を受けているので、リラックスした雰囲気で始められた。昨年の様子を知っている生徒に関しては、状況を見てアドバイスもできた。森村泰昌氏が人間だけでなく、ゴッホのひまわりやセザンヌのりんごにもなっている作品も見せたところ、セザンヌの陶器やマチスの椅子になった子もいて興味深かった。「２作品目は自分の好きなアニメキャラになりたい」と言っていた子に、元になる絵を持ってきてもらったところ、友人たちと話し合って、共同でシチュエーションを再現し始めたのは、想定外の素晴らしい展開だった。

コーディネーターから

昨年に引き続き２回目だったので、お互いに確認をするポイントがよく分かり、スムーズでした。交流級に行くために参加しない子がいた点は分かりにくかったのですが、全体に、私たちの活動のしやすいようにご支援くださり、大変やりやすかったです。今回はアーティストの他に技術者としてプロの写真家を呼んで、一人ひとりを本格的に撮影をするなど、14 人という人数だったからこそできた企画でした。写真のプリントアウトや写真の拡大コピーなどの雑務を先生方が引き受けてくださり、なんとかやり遂げました。

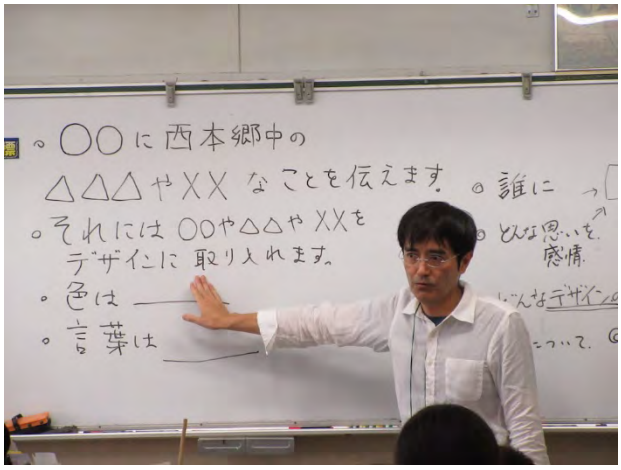
先生から

見本と同じポーズを撮っていただいたものを、自分なりに加工するという取組に、良く取り組めていました。プロのカメラマンに撮っていただくことで、生徒が非常に良い表情をするということ。名画の持つ良さを再認識することができ、美術を苦手とする生徒も楽しく参加している様子が見られました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立西本郷中学校＋リリス
学校のシンボルとなるエンブレムを作る

担当アーティスト	満島弘（グラフィックデザイナー）、岩上百合子（さかえ de つながるアート）、大塚宏（さかえ de つながるアート）
実施校	西本郷中学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／デザイン／1 学年 4 学級 160 名
実施日程	2019 年 7 月 16 日（火）、2019 年 9 月 3 日（火）、2019 年 10 月 25 日（金）



授業のねらい

学校創立 40 周年に向け、新調される制服エンブレム・デザイン案の企画から制作までを生徒が体験し、プロのグラフィックデザイナーのデザイン手法を学ぶ。併せて、情報デザインの意義と意味を体験的に学ぶ。

主な内容

＜１日目＞デザインとは＜２日目＞デザインコンセプト・グループワーク＜３日目＞作品発表（文化祭）

アーティストから

エンブレムに関して調べたり、身近な人へのインタビューから始め、グループワークでコンセプトを考え、発表による共有の時間を設けました。分かりづらい部分も多々あったのではとの反省もありますが、デザインするとはどういうことなのかを少しでも体験してもらい、将来のヒントになれば幸いです。担当していただいた先生が、生徒の成長に応じて、公平なサポートを行っていることを拝見できたことも、大変貴重な時間となりました！

コーディネーターから

美術の授業で創立 40 周年エンブレム・デザイン案を作るに際し、デザイナーのレクチャーを受けたい、という担当教諭の話を伺い、かねてより中学生に情報デザインを教える機会を作りたいと相談していたデザイナーを紹介しました。学校側のカリキュラムの工夫・講師との連携、各クラスの進捗状況・生徒の理解度のバラつきなど、対応が柔軟に行われたことにより信頼関係も生まれ、すてきなデザインが完成しました。文化祭後、区民文化センターでも展示され、多くの方々に見ていただけました。

先生から

生徒同士でグループワークを行う様子を見て、コミュニケーション力や互いを認め合う力を感じました。また同じ内容でも、パワーポイントや先生の話し方などで生徒に入りやすいと思いました。コンセプトを決めることの重要性、プレゼンテーションの方法や、デザインについて自分の思いを発表する方法など、創造的な技能よりも、考えることの大切さを生徒と共に学ぶ機会になったと思いました。

子どもたちから

エンブレムはこんなに身近にあるんだなと思った。／デザインの世界はまだ知らないことがあって面白かった。／デザインをすることは「大切な人にプレゼントを届けるようなこと」という表現が思い出に残っている。／エンブレムに込められたそれぞれの思いが違っていて面白かった。／デザインは人の心を変えられてすごいと思った。／美術の楽しさを改めて知ることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立本郷中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野 ワークショップ「きもちのかたち」

担当アーティスト	保科晶子（美術家）
実施校	本郷中学校（栄区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／現代美術／2 学年 4 学級 155 名
実施日程	2019 年 12 月 5 日(木)、2019 年 12 月 6 日(金)、2019 年 12 月 17 日(火)

授業のねらい

フランスのルーヴル美術館などにも所蔵されている La bulle enveloppe（ラ･ブル･オンベロップ）／玉状の封筒（約紀元前 3100 年から 3400 年）は記録を伝達する方法であった。この土の玉から発想を得て、粘土で大小異なる「きもちのかたち」を作り、この中に小さな気持ちの形を封じ込める。窯で焼成し、最後の授業では作品の展示と鑑賞法について学ぶ。それぞれが心に抱く「気持ち」をテーマに、目に見えない心の形を粘土で造形化することで、陶芸技法と美術表現について実践から学ぶ。古代の記録、表記、伝達方法を紹介し、それを踏まえ現代の伝達方法について考える。さらには、フランスピレネー山脈地方のマルセルフォッシュ中学校の中学生たちと作品を通じて交流することで海外への意識や視野を広げる。

主な内容

＜１日目＞アーティスト活動紹介、作品構想、粘土による制作。＜２日目＞制作の続き、形が完成したら乾燥した粘土を半分にし、中身を削り出す(後日乾燥、焼成)。＜３日目＞学年合同で鑑賞会。フランスの生徒たちとの交流会も有志で開催。

アーティストから

見えない思いを形にする。テーマを理解し、短時間で作品を仕上げた本郷中学生の表現力は素晴らしいものでした。このような成果をもたらしたのは、粘土の柔らかな触感により生徒の想像力がより膨らんだことです。事前準備や教科横断授業により、生徒たちの集中力や好奇心が高まっていたことによると思います。山田香織先生、コーディネーターの岡崎智美さんと何度もメール対談を行い、授業の目的や内容を熟考し信頼関係を築けたこと、諸先生方の多大なご協力により、夢と希望にあふれたフランスとの交流授業が実現したことは大変有意義でした。

コーディネーターから

学校とアーティストの持てる力を最大限に生かした連携授業となりました。フランス在住の保科さんと本郷中学校との出会いにより始まったこの授業は、12 月の授業に至るまで、事前に時間をかけて日仏の学校双方で異文化理解・交流の授業が行われ、最後は朝・夕の時差を越えたネット経由の日仏交流会が行われるなど、一大プロジェクトの様相にまで成長しました。進取の精神にあふれた先生方のご理解とご提案の数々に、保科さんが真摯に応えてたどり着いた成果です。交流会では英語で懸命に交流する生徒の姿が見られ、授業を通じてこの後の人生に残る「種」がいくつも植えられたのではないかと、感慨深くなりました。

先生から

今回は年度が始まる前に、美術の表現を通してフランスの中学校と交流する学習という具体的なお話をいただきました。そのため、長期間にわたる学習プランを組むことができました。題材と題材をつないだり、教科横断的な学習に発展させたりして、アーティストの授業へと結びつけることができました。本校の学校教育目標にもある「多様性」や「広い視野」を、豊かな学びの中で生徒たちが獲得していく姿が見られました。また、コーディネーターの岡崎さん、アーティストの保科さんとの密な連携の中、教育活動を広げていく力をいただきました。クライマックスのアーティストの授業とインターネット交流は、参加した人全てが感動を分かち合えたと思います。

子どもたちから

学年全員の作品を見た時、一つとして同じ形がなくおもしろいと思った。／フランスの中学生と、手紙やインターネットや美術の作品で交流できたことがとても楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
触れて見て聴いて～素材をじっくり味わう時間

担当アーティスト	造形ユニット ドゥイ（造形作家）／ゲストアーティスト：テニスコーツ（音楽家）
実施校	上菅田特別支援学校（保土ケ谷区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	美術、音楽
実施概要	体験型／造形／高 1～3 学年 13 名
実施日程	2020 年 1 月 14 日(火)、2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 1 月 21 日(火)、2020 年 1 月 28 日(火)

授業のねらい

「感覚を媒体とした身体意識の形成」「社会性、認知、コミュニケーション能力の拡大」を重点に、普段なかなか体験できないような授業を期待。

主な内容

＜１日目＞ただの白い紙や、お花紙、色紙、厚めの紙、アルミホイルなどさまざまな素材を手渡し、それぞれに感触を楽しんだり、紙の音を楽しんだりした後に、教室に張り巡らせた紐にセロテープでつけていき、装飾的な空間を楽しんだ。生徒たちは、気になる色や硬さの紙に興味を示したり、ぶら下がる飾りに手を伸ばして反応したりする様子が見られた。＜２日目＞透明なビニール袋で作った大きな筒状のチューブに大型扇風機で風を通し、そこにちぎったお花紙や色紙、ビニールテープ、小さな風船などを入れて、中でくるくる回る様子や、流れて飛んでいく様子を楽しんだ。空気の入ったビニール袋の感触が気に入った生徒や、風に乗って物が飛び出す様子に見入る生徒など、いつもと異なる経験に興奮気味の姿が見られた。＜３日目＞一人ずつ紙を渡して、破る・丸める・揺らすなどをしての紙の音や質感、感触を楽しんだ。アーティストが音楽に合わせて「紙を鳴らそう」などと歌うと、さまざまな場所から紙の動く音が響き、演奏する音楽に混ざり合っていた。紙を丸めて筒状にして耳に近づけると、周りの音がいつもと違う響き方になることを面白がって、ちょっとした音も聞き逃すまい、という表情が生徒たちからも伝わってきた。＜4 日目＞長いロール紙を生徒同士をつなぐように張り巡らせ、紙に包まったり、紙で造形したりした。レインスティックや大きなペンキ缶などを手に取って、それぞれの耳元で不思議な音を楽しんだ。会場を少し暗くして、光を当てながら大きなミラーボールを近づけると、自らボールを動かして光の動きが変わることを試していた。最後は一人ひとりに名前を呼び掛けながら即興の歌をプレゼント。

アーティストから

５年前に一度同じメンバーで伺ったことがあったのですが、その時はどうやったら伝わるのかが予測がつかず、焦って毎回これでもかといろんなことをやって、一方的になってしまった側面もあったなという反省がありました。今回は余裕があったかというとそういう訳でもないのですが、参加している子どもたちが何を感じているかに耳を澄まし、対話できるように心がけていました。音楽が入ることで子どもたちの反応が変わったな、と感じることがあったのですが、自分の感覚も音楽で変化していくのを改めて感じて、同じものを同じように共有できるのかもしれない、と思えるような体験になりました。（ドゥイ）
前回は、生徒さんたちに私たちの演奏がどのように届いているのか不安なところがありました。今回は、わ！みんなよく聴いてる、すごく敏感なんだな、などと感じられることが多かったです。ドゥイの創作をはじめとして、そこにおられる先生やスタッフのみなさん、そして、生徒のみんなが一つの場となり、私たちはそこに色を付けるように、演奏していきました。よく考えたら、普段のライヴでも、こういった姿勢は重要な指針であり、この体験を通してそれを再認識することができました。大切にしていきたいと思います。（テニスコーツ）

コーディネーターから

授業のはじめに、アーティストから「目標やゴールを決めずに、それぞれに楽しめることを見つけてやってみてほしい」ということを教員に伝えて活動を始めました。それによって「今目の前にある素材で、どう生徒と楽しめるかを探る時間なのだ」という共通認識を持つことができたと感じています。教員との振り返りの中で、「次から次へ展開する授業に教員自身が慣れていることもあり、一つの素材をじっくりと味わってみるというアプローチが新鮮に感じられた」という言葉が印象的でした。

先生から

ずっと紙を使った活動を取り入れていただいたおかげで、１回目と４回目では生徒たちの表情が違いました。継続って大切だなと思いました。活動の中で子ども同士の関わりがもっとあると、より充実した、広がりのある活動になったかな、と思いました。教員だけではできない、ダイナミックな活動をたくさんさせてもらえて良かったです。アーティストの方々も生徒の顔と名前を覚え、何が好きかなどを、さまざま考えて授業を行っていることを感じました。

伝統芸能分野の取組

古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している
伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、
普段触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。
知らない世界と出会う楽しさがひろがります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立上末吉小学校＋サルビアホール
和楽器に触れ、日本音楽に対する関心を高めよう

担当アーティスト	鎌田美穂子（箏奏者、宮城社師範）、片岡由紀（箏奏者）、傍島香緒里（箏奏者）、高松万里代（箏奏者）、小松崎剛（尺八奏者）
実施校	上末吉小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 3 学級 110 名
実施日程	2020 年 1 月 27 日(月)、2020 年 1 月 28 日(火)、2020 年 1 月 29 日(水)

授業のねらい

和楽器の演奏を聴くだけでなく、本物の和楽器に触れ、演奏を体験することによって情操教育的な効果を目指す。

主な内容

＜１日目＞～＜３日目＞箏と尺八の演奏を聞く、「さくら変奏曲」を練習

アーティストから

１クラス（37 名）が３クラス、それぞれ２時間分の時間をいただけて、学校からのリクエストで鑑賞も入れてほしいとのこと、大変ありがたいものでした。歴史も、伝えるには言葉だけでなく音も共にあると、より記憶に残ります。何より体験後に聴く演奏の音は、またさらなる印象になるようです。実際、学校の先生からは、聴く態度や集中力が増していた、とのこと。音楽であるからには目の前での演奏が必須であることがよく分かるものでした。鶴見邦楽連盟としても、体験授業を行うことは初めてのことでした。地域での活動は演奏会を催したり、イベント内で演奏することが主でした。このたび直接交流ができたことは、会員同士にも良い機会となりました。他流派の会員がおりますので、子どもたちに対してもより充実した授業ができました。

コーディネーターから

搬入から音楽室の準備、資料の印刷など、担当の先生に大変ご協力をいただきました。実際に自分たちで楽器に触れてから聴く生の音色と技術に、食い入るように演奏を見ている児童たちが印象的でした。箏の他にも尺八や三絃の演奏を間近に聴くことができたこと、「さくら変奏曲」で実際に箏に触れ、演奏をすることで、楽器の難しさや面白さを体験できた授業になっていたと感じました。

先生から

本物に出会わせることの大切さを改めて感じました。素晴らしい演奏に出会うと、子どもたちは引き込まれます。今回は、特に音楽室という狭い空間の中で、アーティストとの距離も近かったため、よりそのことを感じられました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立汐入小学校＋サルビアホール
日本の伝統文化、箏を体験しよう

担当アーティスト	石川弥生（生田流箏曲演奏家）、神保佐香枝（生田流箏曲演奏家）、里風会（生田流箏曲演奏家）
実施校	汐入小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 1 学級 33 名
実施日程	2019 年 12 月 17 日(火)、2019 年 12 月 19 日(木)

授業のねらい

体験を通じ、日本の伝統文化がどのようなものか理解をする。そして、みんなで活動することで、自分の感動や思いを伝え合う、友達の良さを認め合う機会となるようにする。

主な内容

＜１日目＞「さくら」練習＜２日目＞「さくら」アレンジ練習と合奏／鑑賞「六段の調」「春の海」「かぐや姫」（箏・三絃・尺八）

アーティストから

箏で「さくらさくら」の演奏指導をいたしました。児童の集中力、吸収力の良さで初日にみんなが弾けるようになり、２日目には篠笛、尺八、三絃との合奏も楽しんでいる姿が見えました。また鑑賞では、江戸時代の地歌から箏、尺八、語りなど現代曲まで興味深く聴いてくれました。学校には箏が四面備えられており、伝統楽器への取組の深さを感じました。これからも楽器に触れられる機会を多く持ってほしいと思います。

コーディネーターから

昨年に引き続き、箏の体験鑑賞を実施しました。学校の協力も手厚く、担当の先生だけでなく、多くの先生にご協力をいただけました。箏の搬入から音楽室の準備、資料の印刷など、学校全体で協力する体制があったからこそできたことが多々ありました。児童たちにとってなじみの薄い伝統楽器の体験でしたが、要所要所、先生が児童のそばで声をかけていて、安心感のある体験・鑑賞の授業になったように思えます。

先生から

丁寧に一人ひとりに声をかけながら教えてくださり、子どもたちも演奏できるようになってとてもうれしそうでした。本物の音に触れることができ、感動している子どもも多く、授業をしていただいてとても感謝しております。

子どもたちから

演奏できておもしろかった。／箏の演奏の大変さがわかった。／ちょっと難しかったけど楽しかった。／なかなか見ることができない楽器を見ることができて、いい経験ができた。／演奏がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立鶴見小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう！１

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、吉田信海（大蔵流狂言師）
実施校	鶴見小学校（鶴見区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 112 名
実施日程	2019 年 9 月 12 日(木)

授業のねらい

この体験を通して、昔から続いている伝統芸能の魅力や楽しさを味わい、進んで表現しようという意欲を高めたい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ

アーティストから

真面目に聞くところはしっかり聞き、笑っても良いところは目いっぱい楽しんでくれていた。こちらからの問いかけにもすぐに反応してくれたので、こちらから一方的に説明や公演をするのではなく、一緒に楽しむことができ、うれしく思う。

コーディネーターから

ワークショップでは友達と一緒に楽しんでもらうことができ、笑いの絶えない時間となりました。表現することの楽しさを感じてくれていたらうれしいです。授業が終わった後も狂言師のもとへ行き、積極的に話しかけており、狂言や狂言師に興味を持ってもらえたと思います。

先生から

プロの方と直接触れ合い、学ぶことが多かったと思います。想像することで見えてくる表現を教えていただき、そのことを生かそうという児童も増えました。劇団四季の劇を見る機会には、演者の表現の違いに着目しようとする児童もいました。

子どもたちから

文字と実際に見るのは全く違って実際に聞いた方が迫力があった。／声の出し方笑い方や椅子にのって高いと思わせるところと声が一人ひとり違った。／教科書で柿山伏を読んでから見たのでなんとなく話の感じが分かって楽しめた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立矢向小学校＋神奈川県立音楽堂
響け、届け、お箏の音

担当アーティスト	丸田美紀（箏奏者）／アシスタント：中川佳代子（箏奏者）、上田弘子（箏奏者）
実施校	矢向小学校（鶴見区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 4 学級 146 名
実施日程	2019 年 10 月 17 日(木)、2019 年 10 月 18 日(金)、2019 年 10 月 19 日(土)

授業のねらい

普段はあまり触れる機会のない日本の伝統音楽・伝統楽器に実際に触れ、音楽の楽しさや、日本特有の旋律をより身近に感じてもらうこと。また、プロのアーティストと実際に触れ合うことで、子どもたちの伝統音楽・伝統楽器への興味関心を高め、箏の魅力を伝えること。

主な内容

＜１日目＞講師による箏の説明、箏について学ぶ。３人１グループで箏一面を使用し、「さくらさくら」を題材に実際に楽器に触る。＜２日目＞１日目に引き続き、３人１グループに分かれ「さくらさくら」を演奏。楽器の音色、特色を体感し、いろいろな奏法を学び、「さくらさくら」の演奏にアレンジを加えていく。＜３日目＞保護者へ向けて発表会の実施。子どもたちと講師が共演し「さくらさくら」を合奏。その音を録音し、後日学校へ郵送。講師による演奏。「横浜市立矢向小学校 校歌」を箏の伴奏で合唱。

アーティストから

どのクラスも好奇心旺盛で、音を出した後は印象も変化していました。個人差も出ますが、おのおののできた！を大切に指導しました。そこには自信が生まれ、楽しさと、さらに集中力も増し、子どもたちの適応力にも驚かされた３日間でした。弾くだけでなく３人１組で協力すること、箏を使用しても旋律、伴奏、リズムとその音楽的役割も意識させながら、最終日には一体感に包まれる良い授業になったと思います。体感する大切さ、和楽器の適応力も再認識しました。記憶に残る音、授業を目指し、この経験を今後に生かしていきたいと思います。

コーディネーターから

箏に触れる機会がないので、十分な体験をさせたい。というご要望から、３人１組で全員が同じ内容の体験ができるプログラムを実施しました。グループに分かれることで、分からない箇所を教え合っていた点や、周りの音を聴きながら「音楽を奏でる」ということを意識しながら取り組めていた点が良かったです。また、１日目・２日目で少しずつ子どもたちの「できる」を増やしていくことで、子どもたちも達成感を持って取り組めていたかと思います。講師による演奏で子どもたちのよく知る楽曲の鑑賞や、校歌の合唱をしたことで、さらに伝統音楽に親しみを持てたと感じます。

先生から

箏の音色を身体全体で感じることができた３日間は、子どもたちにとってとても良い経験になりました。当日までのご準備、そして当日の運営に感謝いたします。土曜参観にあてて発表を保護者にしたことは、保護者からもとても好印象と好評価でした。

子どもたちから

３パートでひいたのが思い出に残った。／初めて箏に触って、うれしかった。／先生方の演奏に「すごい」と感じた。サプライズもおどろいた。／先生方がやさしく教えてくれて、分かりやすかった。／楽譜が、ドレミではなく一二三だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浦島小学校＋かなっくホール
箏に親しむ～さくらさくら～

担当アーティスト	吉澤延隆（箏奏者）
実施校	浦島小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 3 学級 96 名
実施日程	2019 年 12 月 19 日(木)、2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

学校が保有する７面の箏に親しみを持ち、邦楽に触れる機会を１クラス１時間持ち、さくらさくらが弾けるように指導する。

主な内容

＜１日目＞箏の仕組みを知り、さくらさくらを演奏する。（１クラス）＜２日目＞箏の仕組みを知り、さくらさくらを演奏する。（２クラス）

アーティストから

今回の浦島小アウトリーチでは、いくつかのクラスの中に、大半の児童とは違い、外国にアイデンティティーを持つ児童がいました。最初はなかなか集中できない様子でしたが、そのルーツが古来の中国にあることを知ると、熱心に楽器体験に取り組んでいました。当日は「日本の伝統楽器」とされる箏の授業でしたが、その芸術文化はいつの時代も多様な関わり合いを重ねてきました。音楽の時間を通して、そういった相互理解の芽が育まれていけばと思います。

コーディネーターから

打合せの際に担当の先生より、授業に集中できない子どもが何人かいると心配されていらっしゃいましたが、どの子も少しずつ興味を持ち、集中し始めると得意げにさくらさくらを何度も繰り返し演奏し、楽しんでいました。講師の模範演奏では、弦をたたいたり、こすったりするモダンテクニックに「えー！」「うわー！」と子どもたちから声が漏れたのが印象的でした。

先生から

実際にプロの方の演奏を聴き、その楽器に触れるという経験は、子どもたちの伝統的な音楽への興味を高める良いきっかけとなりました。また、子どもたちが楽器に触れる時間を多く取れるようにと、２人で一台使用できるだけの楽器を用意していただいたことも、児童が集中して授業に取り組むことにつながったと思います。

子どもたちから

先生の演奏が心に残った。また聞きたい。／みんなで「さくら」を演奏した。／楽器について知ることができて良かった。／予想していたよりも難しかったが、楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立神奈川小学校＋かなっくホール
歌舞伎囃子方の表現方法を学び、日本の古典芸能を知る

担当アーティスト	望月秀幸（囃子方）、望月実加子（囃子方）、東音佐藤さくら子（三味線）、杵屋五子（三味線）、住田福十郎（囃子方）、藤田和也（笛奏者）
実施校	神奈川小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／4 学年 2 学級 57 名
実施日程	2019 年 11 月 6 日(水)、2019 年 11 月 13 日(水)、2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 4 日(水)

授業のねらい

わが国のリズムや旋律に親しみ、自分たちの表現を工夫することを目的に、まずは歌舞伎について知り、歌舞伎囃子方が使ういろいろな楽器や音色に親しみ、五線譜では表せない日本の楽器を、お囃子古典フレーズの「狂言カッコ」を演奏し、水や雨、雪、風など自然の音を工夫しながら表現し、５チームに分かれ作曲をし、発表する。

主な内容

＜１日目＞歌舞伎とお囃子について知り、狂言カッコのリズムを歌う。＜２日目＞グループごとにお話を作り作調（作曲）する。＜３日目＞狂言カッコのリズムに作曲した箇所をつなぎ、通して演奏する。＜４日目＞リハーサルを重ねて完成度を上げ、発表する。

アーティストから

小学校４年生にはとても難易度が高い授業だったと思いますが、自主的に授業時間外にもみんなで集まり相談するなどして、真剣に取り組んでくれました。楽曲制作を通してのコミュニケーションや、演奏する上でのチームワークなど、ただ音楽を学ぶ、伝統芸能を体験するだけでなく、それ以上の時間を子どもたちが作り上げてくれました。終始真面目で堅実に曲を演奏してくれる子もいれば、授業中に悪ふざけをして楽器で遊んでしまった子が、発表会では、その遊び心を生かし魅力あふれる演奏をしてくれたことが印象的でした。講師としてもたくさんの気付きを得ることができ、子どもたちの成長も感じることができました。

コーディネーターから

お囃子の創作活動は、４年生という多感な時期に自分を何度も矢面に立たせる場面が多く、自信のない子にはかわいそうだなと感じたこともありましたが、１カ月を通してグループ内でのコミュニケーションも活発になり、発表会直前には助け合いも始まり、回を追うごとに子どもたちの成長が見られ、胸を張って堂々と発表会で演奏する姿には感動しました。長机２台に収まり切らない楽器の準備や運搬を快く手伝ってくださり、時間外にも子どもたちと共に活動してくださった先生方に心から感謝します。

先生から

プロの先生が来てくださったことで、子どもも真剣に音楽と向かい合い取り組めていたと思います。楽器一つでも、さまざまな様子を表せることが分かったことで、子どもたちも今後の楽器への見方が少し変わるのではないかと感じました。

子どもたちから

今までにないことができた。／いろいろな場面の様子を想像して音楽をつくれた。／和太鼓でいろいろな表現ができた。／先生方の演奏に迫力を感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立神大寺小学校＋かなっくホール
狂言に触れ、日本の古典芸能に親しむ

担当アーティスト	高澤祐介（狂言師）
実施校	神大寺小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／狂言／6 学年 4 学級 148 名
実施日程	2019 年 11 月 7 日(木)、2019 年 12 月 16 日(月)、2019 年 12 月 17 日(火)

授業のねらい

３回の体験型で、日本の古典芸能である狂言に親しみ、教科書だけでは分からない狂言の奥深さを知り、学びを深める。また、狂言師から直接指導を受けたり話を聞くことにより、伝統芸能を守る狂言師の思いや昔の人々の思いにも触れる。

主な内容

＜１日目＞狂言について、謡や型から感じる。＜２日目＞舞や謡と柿山伏に触れる。＜３日目＞柿山伏の所作を体験し、発表する。

アーティストから

現在６年生の国語の教科書で「柿山伏」が扱われていますが、大抵の学校では授業時間に余裕があれば、一度だけ音読をする程度の授業だと聞くことが多いです。それは、教員に狂言の知識がない→見たことがない→興味がないことが原因だと思います。その中で神大寺小学校は積極的に取り組まれ、６年生児童もしっかりと課題をこなして、大きな声で発表ができました。子どもの個性、表現力を伸ばす授業に狂言は非常に有効だと思います。

コーディネーターから

教科書での事前学習をせずに、狂言に触れるとお聞きしましたので、狂言についてのレクチャーや「柿山伏」の読み方に重点を置きました。マスクをしている児童が多かったので、声が出るかと心配しましたが、皆さんは元気に大きな声を出してくださり、講師の指導もより熱が入りました。舞や所作にも積極的に取り組み、子どもたち同士で教え合う様子も見られ、ほほ笑ましかったです。

先生から

柿山伏などに取り組む姿を見て、表現力や想像力、感受性、言語力が培われたと感じました。教員や教科書では不可能なことをしてくださって、子どもの学習に良い効果があったように感じます。

子どもたちから

狂言をやったことがなく、不安だったけれどやってみたら楽しかった。／初めて見て、狂言はしゃべり方や動き方のどうさも工夫されているなと思った。／昔の伝統が今までつながっていてすごいと思った。／自分ではあまりできないことを教えてもらってうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校＋ＳＴスポット横浜
にじいろの音探し

担当アーティスト	山野安珠美（箏演奏家）／アシスタント：森梓紗（箏演奏家）
実施校	浅間台小学校（西区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 2 学級 43 名
実施日程	2019 年 12 月 16 日(月)、2019 年 12 月 19 日(木)、2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

教科書教材は西洋の音階による楽曲が中心なので、そうではない、伝統音楽の魅力に触れることができるような体験活動を通し、子どもたちの音楽表現の幅を広げたい。

主な内容

＜１日目＞はじめにアーティストより１曲演奏。３回の授業を通して、箏の演奏家であり作曲家になってもらおうと思う、ということを伝え、簡単な箏の説明。３人１組になって、箏の基本の弾き方を習い、さくらさくらの始めの部分を練習。(クラスごとに実施) ＜２日目＞教員の方で前の時限に、お気に入りの場所で聞こえてくる音を絵や記号で「音探しカード」に書き出してみる課題を行い、そこに書かれていた音のいくつかを黒板に書き出し、アーティストがそれらの音を箏で表現してみる、という遊びを行った（葉がこすれる音、水や風の音など)。さまざまな箏の奏法を紹介し、いろいろな音を出して遊んでみた後に、グループごとに、さくらさくらの冒頭に続く旋律を創作した。(クラスごとに実施) ＜３日目＞クラスごとに各グループの作品の練習をした後、２クラス合同でそれぞれのグループの作品を鑑賞し合った。最後のアーティストによる演奏では、子どもたち自らさまざまな奏法を体験したがゆえに、プロが演奏する姿に釘付けになって鑑賞していた。

アーティストから

今回のワークショップは、伝統楽器としての姿を知ると共に、箏を通じて音楽の面白さを子どもたち自身で発見してもらうことをテーマに、３人１組で、弾く、音採集、創作を行った。チームごとにさまざまな色で描かれ、大人にとっての特別が、子どもたちには自然なこととして生み出されたように感じる。創造と挑戦は、ドレミの向こう側に広がる箏だけの魅力を知る宝探しで、３回を経て一人ひとりが、勇者のごとき輝きに満ちていたことが、非常に印象的であった。

コーディネーターから

音楽や楽器が得意な子もそうでない子も、等しくゼロからのスタート。「できた！」という喜びの声があちこちから聞こえ、そのうれしさが「いろいろ試してみたい」というやる気に火をつけたようでした。先生の方で課題を出しておいてくれた「音探しカード」には、お気に入りの場所で聴こえたさまざまな音が言葉や図形楽譜のように描かれており、それをどうやって箏で表現するか、アーティストがいろいろと試してみるのを、子どもたちはワクワクしながら見入っていました。それから子どもたちの番になると、３人１組での役割分担により、一面の箏からいろいろな音が同時に聞こえてくるよう工夫されていたり、実際にあるような現代奏法を子どもたち自ら考案していたり、グループでの創造力が発揮されていました。「箏は遊び甲斐のある楽器」と山野さんがおっしゃるように、子どもたちの発想により箏の可能性が存分に引き出されたように感じられました。

先生から

箏の演奏を体験させていただきました。子どもたちにとってはほとんど初めて触れる楽器でしたが、大変意欲的に取り組んでいました。アーティストからのご提案で、曲を弾くことに終始するのではなく、自然音までも表現するような箏のさまざまな奏法を教えていただき、それを用いて自由に表現する活動になりました。３人グループで旋律や音を組み合わせていきましたが、活発に音の聴き合いや話し合いが行われ、活動が広がっていきました。大人が想像していたのとは異なる思いがけない表現が生まれ、型にとらわれない創造的な表現がどのグループでも見られました。とても充実した活動になりました。いつもと違う子どもの姿が見られて良かったです。０からのスタートだったので、お互い対等な立場で活動できたことが良かったのではないかと思います。知らないものだからこそ興味津々、意欲的に取り組んでいてとても良かったです。

子どもたちから

ことにしか出せない音があるんだなと思った。／他の人の音をきくのがとてもたのしかった。／みんなで発表してみて、それぞれのきれいな音が出ることを学んだ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立本牧南小学校＋横浜能楽堂 太鼓演奏

担当アーティスト	政所和幸（和太鼓奏者／HIBIKUS 横浜）
実施校	本牧南小学校（中区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	体験型／和太鼓／6 学年 2 学級 46 名
実施日程	2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 13 日(金)

授業のねらい

クラスごとに一つの曲を作り上げて発表する。太鼓をただ単に演奏するだけではなく、太鼓の歴史、製造方法も学ぶ。またクラスでの演奏を通じて、お互いを見て音を合わせることで協調性を学ぶ。

主な内容

＜１日目＞模範演奏、太鼓の説明、簡単なリズムを演奏など＜２日目＞復習、身体の使い方で音の変化を感じる、曲の練習など＜３日目＞曲の練習、お披露目

アーティストから

最後のお披露目では、在校生、先生、保護者の方、総勢 300 名の方にお越しいただき、児童たちは堂々と演奏することができました。初日は声を出すこと、音を出すことも恥ずかしがっていましたが、最終的には元気いっぱいの演奏ができました。同じ曲を用意しましたが、クラスごとの特性を生かし、別の曲が出来上がったのも良かった思います。準備、片付けまで児童が手伝ってくださり、とても協力的で礼儀正しかったです。

コーディネーターから

講師の方にはいろいろな種類の太鼓を一人一台以上用意していただき、子どもたちにとって充実した体験になったと思います。模範演奏では、大きな太鼓を使った力強い演奏で、その音と迫力に子どもたちが圧倒された様子が印象的でした。太鼓の歴史や製造について、フリップを使用した説明や、口唱歌から実際に打ってみるといった段階を踏んだ体験など、分かりやすくプログラムを工夫していただき、子どもたちも楽しそうに取り組んでいてとても良かったと思います。

先生から

全員が１時間の中だけでも、ずっと楽器に触れられていて良かったです。とにかく、短い時間の中で発表会まで行えるほどの上達に感動しました。指導も分かりやすく、子どもたちも安心して行えていました。貴重な時間になりました。

子どもたちから

和太鼓を間近で見るのもはじめてだし、それをたたかせてもらえてとてもうれしかった。／たいこの音が一つひとつ違くて、音が高いのと低いのを合わせてみんなで演奏できたのが良かった。／たいこには種類がたくさんあって、とっても楽しかった。きいているだけでもわくわくして、身体中に音が入ったみたいだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立石川小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう！１

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	石川小学校（南区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 70 名
実施日程	2019 年 11 月 6 日(水)

授業のねらい

今回のプログラムを通して、本物に触れて、声の大きさなど、本物のすごさや迫力を実感する。伝統文化を学び、その表現方法などに興味を持ち、自分自身で表現することの楽しさを味わう。

主な内容

解説（狂言について）、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験、質疑応答

アーティストから

狂言「柿山伏」は集中して鑑賞していただきました。また、体験では皆さん積極的に参加して、大きな声がよく出ていてうれしかったです。来年はオリンピックがあり、外国からも多くの人が日本にやってきます。外国の方は自分たちの国の歴史や文化についてよく知っていて、語ることができる人がたくさんいます。皆さんも日本の伝統文化に目を向け、今日体験したことなどを伝えていってほしいと思います。

コーディネーターから

初めは少し緊張している様子でしたが、だんだんと発言も多くなり、体験の時は盛り上がりつつしっかりと取り組んでいてとても良かったと思います。本物に触れることで、教科書からだけでは伝わらない部分を感じ取ることができるのではと思います。今日のプログラムを今後の学校生活に生かしていただければうれしく思います。

先生から

本物に触れることができて、直接、声の大きさや動きの大きさを感じることができたのが、子どもたちにとって貴重な経験になったかと思います。発声や動きの体験コーナーも、とても楽しんで参加していました。子どもたちがお話の内容のイメージを膨らませながら、真剣に観劇している姿が印象的でした。

子どもたちから

体験ができたり、実際に見たりすることができたので面白かった。／他の表現の仕方も知りたい、見つけたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南小学校＋吉野町市民プラザ 身体で感じる「日本の響き」

担当アーティスト	奥田雅楽之一（地唄三弦・生田流箏曲演奏家、作曲家）
実施校	南小学校（南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／箏／6 学年 3 学級 90 名
実施日程	2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 11 日(水)、2019 年 12 月 13 日(金)

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」を通して伝統文化に触れ、伝統の中にある創造性を身体に感じ、芸術を味わう力や感受性を育てる機会となることを目指します。また、芸術性の高い演奏を身近に感じ芸術体験の場とするとともに、実際に楽器に触れ１曲をクラス全員が演奏できるよう練習し、発表する中で、クラスの連帯感と個々の達成感を育みます。

主な内容

＜１日目＞「日本の響き」について考える、箏について学び触れてみる、曲の練習＜２日目＞三味線について学ぶ、曲の練習＜３日目＞曲の練習、合同発表会、講師の実演鑑賞

アーティストから

小学校６年生を対象に箏の体験授業として行った今回のプログラムは、代表的な和楽器である箏について考えること、体験することの両面からアプローチしました。楽器の構造、歴史などについて議論を行いながら､｢さくら｣などを教材とした箏の演奏を通じ、箏の響きを全身で感じてもらうよう指導に努めました。最後の授業では全クラス合同の発表会を行い、子どもたちの高い集中力と純粋な取組によって、大きな成果を得ることができました。

コーディネーターから

聞いたことはあるけれど、触ったことは全くないという児童が大半の日本の伝統楽器である箏。３日間と限られた時間にも関わらず、真剣に取り組み、みるみる上達していく子どもたちの吸収力は見事なものでした。最終日の発表会には、保護者も見守る中、堂々たる演奏を披露してくれました。普段あまりすることがないであろう正座なども体験し、箏を通して培った日本伝統文化を、これからも大切にして成長してもらいたいと思います。

先生から

子どもたちにとっても、自分にとっても、日本の伝統文化・音楽に触れる良い機会になりました。私自身、箏に触れるのが初めてで、このような機会がないと一生箏に触れることがなかったのかもしれないと思いました。また、初めてのことを子どもたちと共に経験することも貴重な体験でした。子どもたちと純粋な気持ちで教え合い、箏を弾く喜びを共有することができました。この機会が多くの子どもたち、先生にあることを強く望みます。

子どもたちから

思ったよりも難しくて苦戦したけど楽しくひけてよかった！／今まであまり知らなかった箏のことが分かってとても楽しかった。／あまりふれることのない日本の楽器にふれられてうれしいし、ほかの日本楽器もひいてみたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立六つ川小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう！２

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、小梶直人（大蔵流狂言師）
実施校	六つ川小学校（南区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 65 名
実施日程	2019 年 11 月 11 日(月)

授業のねらい

国語科や社会科で学ぶ「伝統文化」について、実際に体験することを通して、日本の文化の素晴らしさや継承していくことの価値に気付き、文化を形成する一人として自覚できるようにする。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ

アーティストから

積極的に質問に答えたりワークショップに参加してくれたので、スムーズに進行できた。ワークショップでは元気に声を出して楽しんでもらうことができて良かった。これをきっかけに能楽堂にも足を運んでいただき、さまざまな狂言を見てもらいたい。また狂言だけではなく、能や歌舞伎、日舞など、日本の伝統芸能にも興味を持ってもらえるとうれしい。

コーディネーターから

狂言ワークショップで狂言の姿勢や発声などを体験してもらったので、代々日本に伝わってきた伝統芸能の技を体験してもらうことができました。また狂言というものは、いわゆる「お笑い」の演劇で、身近なものなんだということも理解してもらえたので、楽しく鑑賞してもらえました。

先生から

今回は、国語の「柿山伏」の学習に直結するご指導をいただき、ありがとうございました。狂言が「面白いもの」ということを改めて感じました。善竹富太郎さんのお話が大変素晴らしく、子どもたちを引き付け、笑いを取りながらもお話をされる姿が、私自身も勉強になりました。本日のお話や、生で狂言を鑑賞させていただいた経験を通して、狂言に興味を持ちました。また、狂言を見に行きたいと思いました。

子どもたちから

教科書に出ていたすべての場面の狂言が見たかった（おもしろかったので…）。／質問コーナーがあるとよかった。／狂言がおもしろいことがわかった。／せりふの言い方や狂言のときの姿勢がわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立港南台第三小学校＋吉野町市民プラザ
お箏の響きを身体で感じよう

担当アーティスト	奥田雅楽之一（地唄三弦・生田流箏曲演奏家、作曲家）
実施校	港南台第三小学校（港南区）
コーディネート	横浜市吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／5 学年 2 学級 46 名
実施日程	2020 年 2 月 12 日(水)、2020 年 2 月 13 日(木)、2020 年 2 月 14 日(金)

授業のねらい

本校の児童は伝統芸能に触れる機会があまりないので、ぜひプロの方の生演奏を聞くことにより、芸術を味わう力や感受性を育てる機会にしてもらいたい。また日本の代表的な伝統楽器「箏」をクラス全員で演奏できるよう練習する中で、クラスの連帯感と個々の達成感を育むことを目指す。

主な内容

＜１日目＞箏について学び触れてみる＜２日目＞曲の練習＜３日目＞曲の練習、合同発表会、講師の実演鑑賞

アーティストから

５年生２クラスを対象に、３日間、箏の体験授業を担当しました。授業の目的は、日本の伝統楽器「箏」の演奏を通し、和楽器の魅力を体感することです。１日目は箏の歴史、楽器の構造、実演を交えた演奏法などを講義し、２日目は３人１組となって課題曲「さくらさくら」「うれしいひな祭り」の実習に時間を充てました。３日目は２クラス合同の発表会を行いました。発表会には保護者参観の中、ご関係者の協力もあり、児童一人ひとりが勉強の成果を発揮することができ、達成感を持って体験授業を終えました。

コーディネーターから

全員が初めて箏に触れることからのスタートでしたが、最後の授業ではお互いの演奏を披露し合う発表会まで進み、保護者の方々にもその成果をご覧いただき、大きな拍手をいただけました。休み時間になっても練習を続ける子どもたちも大勢いて、日本古来の「箏」に興味を持ってもらう良い機会になりました。初めは自信なさげに弾いていた子も、なんとか弾けるようになろうと努力をしていて、諦めずに続けることの大切さも学んでもらえたと思います。講師の皆さんの実演の際は、箏を弾く手元に皆さん目がくぎ付けになっていました。

先生から

３日間とても楽しく、また集中して活動に取り組む姿が見られました。講師の方の進め方、話し方がとても良く、とても勉強になりました。プロの演奏や所作を近くで見ることができ、本物の力を強く感じました。

子どもたちから

先生の演奏が素晴らしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立野庭すずかけ小学校＋関内ホール
お箏を体験してみよう

担当アーティスト	奥田雅楽之一（地唄三弦・生田流箏曲演奏家、作曲家）
実施校	野庭すずかけ小学校（港南区）
コーディネート	横浜市市民文化会館関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 2 学級 52 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 4 日(水)、2019 年 12 月 6 日(金)

授業のねらい

日本の伝統芸能である邦楽、箏に触れ、箏の魅力を知る貴重な機会にする。本体験を通し、箏の美しい音色や歴史、日本独特の旋律を学ぶ。また、最後にみんなで演奏する発表の時間を設け、協力して合奏する楽しさや達成感を感じられる時間にしたい。

主な内容

＜１日目＞箏に触れる、箏について学ぶ、模範演奏、発表曲練習
＜２日目＞発表曲練習「さくらさくら」「荒城の月」＜３日目＞発表会リハーサル、合同発表会、アーティスト演奏

アーティストから

授業の目的は、箏の奏法を学び、最終日に設定された全クラス合同の発表会で課題曲である「さくらさくら」「荒城の月」を弾けるようになること。担任の先生や専科の先生のお力添えもあり、子どもたちは授業態度が良く、好奇心もあって、想定のペースを上回る早さで課題曲を会得していきました。子どもたちの姿勢には眼を見張るものがあり、大人に比べ伝統楽器に対する偏見などもなく、むしろ自由であり、伸び伸びと取り組んでいるように見受けられました。

コーディネーターから

日本の伝統芸能に触れる機会が減っている中、このような機会をコーディネーターとして提供できるのは大変うれしいことです。短い時間でしたが、みんな真剣に取り組み、中には思うようにできないことに悔し涙を流す子もいて、その姿勢に感動しました。最後の発表会の後は、それぞれやり切った表情が見られました。この経験が心に残り、鑑賞や習い事など、今後生活の中で日本の伝統芸能に関わっていくきっかけになれば幸いです。

先生から

４学年の音楽の授業の中の「郷土や諸外国の音楽の特徴を感じ取ろう」の主題の活動として、今回の体験ワークショップをお願いしました。この主題は、子どもの意欲を持続させながら活動することが難しく、苦労することが多いのですが、今回の体験では箏の演奏を通して、日本の旋律や和楽器の音色の良さに十分に触れることができ、また楽しんで体験することができて、とても良かったです。「その道」を極めているアーティストに先生として来ていただき、教えていただくことも、子どもたちに「本物」と触れ合う機会を作ることができたと思い、良い機会となりました。

子どもたちから

むずかしそうな曲をひけるようになってうれしい。／友達と協力して学習できてよかった。／ことの音色がとてもよかった。／先生のひいてくれた曲がとてもよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立日野小学校＋あっちこっち
お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！１

担当アーティスト	望月太左衛（邦楽囃子方）
実施校	日野小学校（港南区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／4 学年 2 学級 58 名
実施日程	2019 年 11 月 1 日(金)、2019 年 11 月 5 日(火)、2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

日ごろあまり関われない和楽器の体験を通し、本物の伝統芸能の独特な雰囲気を感じ取らせたいとの目標がある。お囃子の演奏体験を通し、日本文化の理解を深め、楽しさを知ってもらう。最終日には子どもたちの祭囃子の演奏発表と、先生方のお囃子の伴奏で子どもたちと交流する。

主な内容

＜１日目＞先生たちによる祭り囃子の演奏を聞かせた後、担任の先生を交えて五人囃子を演奏、説明した。五人囃子の並び順をクイズで覚えてもらい、鼓の構えと打つ練習をした。次に締太鼓、大太鼓、鉦の拍子を練習し、実際に楽器体験をして演奏練習を行った。最後に三味線の楽器について説明し、奏法も紹介した。＜２日目＞五人囃子の復習をしてから、実際に鼓を打って「三番叟」の練習をした。次に締太鼓、大太鼓、鉦を使って祭り囃子の練習をした。＜３日目＞７人ずつ舞台に上がり、鼓で「三番叟」を披露。その後、14 人ずつ舞台に上がり、締太鼓、大太鼓、鉦で祭り囃子を披露した。子どもたちの発表の後は、先生方による「越後獅子」の演奏を披露。最後は子どもたちの「にじ」の合唱と先生たちによるお囃子の共演を行った。

アーティストから

「継続は力なり」という言葉を実感することができた。学校サイド、コーディネーター、実演者と、この三方の役割分担が抜群だったのは、この事業が継続されていることで実現した。また今回も短時間だが、児童全員が数種類の和楽器体験をできたことはとてもうれしい。そして長唄「雛鶴三番叟」を歌詞を見ながら最初は何となくで始め、だんだんきちんと歌えるようになっていく子どもたちの姿を見て感動した。子どもたちの能力、可能性は無限だ！

コーディネーターから

さまざまな伝統和楽器の説明と演奏に始まり、お囃子や合いの手を目の前で聴いた子どもたちは、何が始まったのかと戸惑い、分からないながらもリズムを取り、歌詞をたどり、だんだんと望月先生の世界に引き込まれていく様子が印象的でした。最終日は全員が順番に楽器をこなし、歌を歌い、合いの手を入れ、会場が一体となる感動的な発表会となりました。望月先生が投げかけた伝統芸能に関する質問に、的確に答える子どもたちがいたことに、アーティスト、スタッフ共々驚くと同時に、伝統芸能を伝承してもらえるだろうという期待に胸を躍らせた、大変有意義なワークショップでした。

先生から

音楽の授業では実際に手に取って演奏できない和楽器を、全員が演奏できたことはとても貴重な体験でした。アーティストの先生方が一生懸命に子どもたちに教えてくださっていることを強く感じていました。先生の歌声を聴きながら、初めての「三番叟」をまねして歌えていたのには驚きました。最後の発表会では先生方の演奏の音色の良さを感じながら集中して聞いていました。

子どもたちから

和太鼓・しめ太鼓・小鼓・かねにさわれ、先生に分かりやすく教えてもらえ楽しかった。／先生がやさしくてたったの３回でも上手に演奏できた。／先生の歌い方が自分たちが歌っているのと感じが違っていた。／みんなで息を合わせて声かけして、演奏できて良かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立岩崎小学校＋岩間市民プラザ
尺八、箏に触れてみよう！

担当アーティスト	大山貴善（尺八奏者）、中嶋ひかる（箏奏者）
実施校	岩崎小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／5 学年 2 学級 46 名
実施日程	2019 年 12 月 11 日(水)

授業のねらい

この体験を通して、自分の思いを表現する喜びや楽しさなど、達成した時の成就感を味わってほしい。また、楽しく楽器に触れることで、箏という楽器と日本の文化について知識を深めたい。

主な内容

アーティストの演奏後、尺八と箏の説明、体験。１クラス 60 分のプログラムを２回実施。

アーティストから

今回の岩崎小学校プログラムでは、子どもたちの熱心な表情が印象的で、「春の海」演奏前に「シンプルな楽器だからこそ生まれた演奏上の創意工夫が特徴だから、そこを特に見ながら想像力を使って聴いてほしい」と言ったところ、箏の手元や尺八の首の動きをしっかり見ている子どもたちが多く、体験の際にもその動作をまねようとしているのが見られました。このプログラムをきっかけに、音楽だけに限らず、より視野を広げてほしいと思います。

コーディネーターから

昨年に引き続き、尺八と箏の演奏の鑑賞と体験をしてもらいました。鑑賞の時間は、少しでも近くで見ようと、子どもたちが講師を取り囲む姿が印象的でした。体験の時間をたくさん取りたいという学校の要望にお応えし、プログラムの時間を昨年より 15 分延長した結果、全員が十分に尺八にも箏にも触れることができ、満足感の得られるものになりました。講師の方には負担が増えることになりましたが、気持ちよく引き受けてくださいました。

先生から

コーディネーターの方とは何度かＦＡＸでのやりとりと、実際にお会いしての打合せができ、細かいところや要望などを伝えることができました。子どもたちは日本の伝統的な音楽に触れることはこの先少ないので、良い機会でした。生の演奏を目の前で聴き、それと同じ楽器に触れることができ、良かったです。

子どもたちから

しゃくはちが思ったよりも大きかった。／ＣＤで聞いたときとちがって、すごくすてきなねいろですごいと思った。／昔の人が自分でくふうして楽器の音の種類をだしていたことにおどろいた。／おことがいがいと糸がかたかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立権太坂小学校＋岩間市民プラザ 箏の鑑賞と体験

担当アーティスト	上田恵子（邦楽演奏家）／アシスタント：磯野善子
実施校	権太坂小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽科
実施概要	鑑賞型／箏／4 学年 3 学級 91 名
実施日程	2019 年 7 月 1 日（月）

授業のねらい

伝統芸能、伝統楽器に触れる機会が少ないことから、一歩進めた箏の体験（聞く、弾く）を実施したい。自ら奏で箏の世界を知り十分に理解し楽しむことで、箏を含めた日本の伝統文化に興味や関心を深めてもらいたい。

主な内容

箏の演奏（講師）、箏の説明・譜面の読み方（さくらさくら４小節）、実際に弾いてみる（さくらさくら４小節）、箏の演奏（講師２人）、質疑応答

アーティストから

音楽専科の先生、各担任の先生方、コーディネーターの方のおかげで、あまりにも時間のないところでの調整でしたが、とてもスムーズに楽しく児童たちと授業をすることができました。みんなとても素直に熱心にこちらの演奏や話を聴いてくれて、日ごろの先生方のご指導の賜物だと感じました。これからも、たくさんの児童たちが生の邦楽に触れる機会を作っていただけたらと思います。

コーディネーターから

先生から、授業内容に対していくつかのご希望がありましたが、100％受け入れられず当館の提案内容でほぼ採用していただきました。初回打合せから実施まで１ヶ月を切るスケジュールでした、あと数か月の準備期間があり煮詰めればご希望に近づけた授業が可能だったと考えます。先生のご希望を少しでも実現できるよう日程調整、制作工程管理などを含め当方から提案（実現のためには後３か月ずらすなど）の必要性を感じました。

先生から

ほとんどの子どもたちが約７分間の「春の海」を静かに聴くことができていました。講師の先生の演奏を、そばで聴くことができたのも要因であると思います。あくまでも授業であることから、そこには教師のねらいや学習目標があります。事前学習もしっかりと行ってきました。また、子どもの実態もあることから、教師の意向を優先することが重要だと思います。アーティストの思いも大切ですが、曲目、授業の流れ、教室設定など学校の意向を聞き入れてもらえると良かったです。

子どもたちから

箏のきれいな音色を聴くことができてよかった。／むずかしかったけど、弾くことができたので達成感があってよかった。／弾くたびにすごくおもしろいなと感じた。／「春の海」「さくらさくら」「世界に一つだけの花」を聴いたとき、きれいだなと心に残り思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立瀬戸ヶ谷小学校＋岩間市民プラザ 和太鼓に触れてみよう！

担当アーティスト	和太鼓集団 撥當（ばちあたり）（和太鼓奏者）
実施校	瀬戸ヶ谷小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／和太鼓／2 学年 3 学級 75 名
実施日程	2019 年 10 月 17 日(木)

授業のねらい

集中してみんなで一つのものを作り上げていく楽しさ、伝統文化の持つ良さを感じてほしい。

主な内容

アーティストの演奏後、和太鼓の説明、体験。

アーティストから

今年も瀬戸ヶ谷小学校でのワークショップを担当させていただきました。太鼓、楽器ごとに４つのグループに分かれ、子どもたちに思い思いに力いっぱい演奏をしてもらいました。大きな太鼓の大きな音に驚いていた子どもたちも、グループごとのかけ合いと音の強弱で変化を付けた即興演奏を体験し、太鼓の音の力強さと演奏の魅力をたっぷりと堪能できたと思います。私たちも子どもたちの楽しむ姿を見ることができ、とても充実した時間になりました。

コーディネーターから

たくさんの子どもたち全員が、大きな太鼓から小さな太鼓を全て体験できるよう工夫していただきました。その分アーティストの方々には、休憩時間もそこそこに３時間続けてワークショップを進めていただき、ご負担も多いところ、最後まで充実したプログラムを実施していただきました。学校の先生も、先にグループ分けしていただくなど協力的で、今回もスムーズに実施することができました。

先生から

音楽は学んでいますが、和楽器には触れたことがない、見たことがない子が何人もいるので、とても良い機会だと思いました。実際の演奏を見て、和楽器に興味を持ち、音楽の「おまつりの音楽」の授業にもとても意欲的に取り組んでいます。本物を見ること、触れることはとても大切だと思いました。

子どもたちから

太鼓が好きになった。／演奏がすごかったです。体育館中に響いていた。／みんなで音を合わせて演奏したのが楽しかった。／たたき方や太鼓によって音がちがうのがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立保土ケ谷小学校＋岩間市民プラザ
地域で生まれ育った伝統芸能を知ろう

担当アーティスト	藤塚太鼓（和太鼓奏者）
実施校	保土ケ谷小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	横浜市岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／和太鼓／4 学年 1 学級 34 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 10 日(火)、2019 年 12 月 17 日(火)

授業のねらい

学校プログラムを通じて、自由に伸び伸びと表現したり、創造するなど、何事にも諦めず失敗を恐れないで挑戦する、粘り強くたくましい心を育てたい。

主な内容

＜１日目＞講師による模範演奏～課題曲練習（８チームに分け太鼓を打つ時の基本となる型を理解、実践する～課題曲の前半部を練習）＜２日目＞課題曲の中盤部と後半部の１部を練習。４時間目は児童２人を大太鼓、締め太鼓に担当を変更し練習。＜３日目＞後半部の残りを練習～通し練習～発表。(１学年～３学年と保護者が見学)

アーティストから

今回、３日間６時間という少ない授業時間でしたが、児童たちの一生懸命さと吸収力に驚かされました。教えた内容は翌週までにきっちり復習してくれていて、次の指導もスムーズに行うことができ、最終日には完成した曲を発表することができました。発表した時のうれしそうな表情と堂々とした姿に私たちもとても感動しました。これからも、さまざまな可能性にチャレンジしてほしいと思います。私たちも貴重な時間を過ごさせていただきました。

コーディネーターから

３日間、全児童が参加できました。講師の話をしっかり聞き、一生懸命練習に取り組んでいました。４人１チームの編成で順番に演奏をしながら輪唱（奏）スタイルを取る複雑な構成でしたが、発表までに全児童が吸収し、伸び伸びと元気に演奏しました。２日目と３日目の間に講師の太鼓を借り、教室で練習に励んでいました。(教室の黒板には復習用にリズムパターンをカタカナで書いた用紙が貼られていました。)講師は４人参加いただき、適宜実技、口頭を交え適切な指導をいただきました。担当の先生からも練習指導のフォローをしていただき、円滑に進めることができました。

先生から

藤塚太鼓を通して、和楽器がとても身近に感じられることができました。今まで応援団での太鼓の使用しかしてこなかった子どもたちにとっては、とても違うものに感じているようでした。太鼓の美しい響きを改めて感じ取ることができているようでした。藤塚太鼓の方々にはとても良くしていただきましたが、もう少し授業の見通しが持てるとより良いものになったかと思います。

子どもたちから

ふじづか太鼓のすごさとむずかしさをかんじられてよかった。／最初はふじづか太鼓について何もしらなかったけど、ししょう達がやさしく教えてくれてどんどん上達していった。／最後の発表がうまくやりきったときが、気持ちよかったし、楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立希望ヶ丘小学校＋あっちこっち
お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！２

担当アーティスト	望月太左衛（邦楽囃子方）
実施校	希望ヶ丘小学校（旭区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 3 学級 102 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 6 日(金)、2019 年 12 月 13 日(金)

授業のねらい

和太鼓中心の邦楽の楽器に関わり、楽しいお囃子を体験することで、６年生は音楽性、感受性をさらに高め、１・２年生への発表という目標を持ってがんばることで、自己有用感も高めさせる。

主な内容

＜１日目＞望月先生による「雛鶴三番叟」の演奏を聞かせた後、小鼓について説明し、エア鼓でリズムの練習をした。次に担任の先生を交えて五人囃子を演奏。五人囃子の並び順をクイズで覚えた。三味線を紹介し、ひく、すくう、はじくの３つの奏法を実演してみせた。祭り囃子の締太鼓、大太鼓、鉦の拍子を練習した。＜２日目＞五人囃子の復習をしてから、実際に鼓を打って「三番叟」の練習をした。次に締太鼓、大太鼓、鉦を使って祭り囃子の練習をした。＜３日目＞７人ずつ舞台に上がり、鼓で「三番叟」を披露。その後、21 人ずつ舞台に上がり、締太鼓、大太鼓、鉦で祭り囃子を披露した。子どもたちの発表の後は、先生方による「越後獅子」の演奏を披露。そして「希望が丘音頭」を先生方とのお囃子で子どもたちが踊った。最後に、児童のピアノ、校長先生のギター、音楽の先生のフルート、先生方のお囃子で合奏して「ふるさと」を演奏し、子どもたち全員で歌った。

アーティストから

希望ヶ丘小学校は昨年に引き続き２回目の訪問となり、コーディネーターの調整を介して、昨年以上に学校側と実演者の心が通い合ったものとなった。大人同士の協力度合いは、子どもたちにまず雰囲気として必ず伝わることなので重要だ。今回は発表会前に、リハーサルのためにありがたいことに１コマの時間を設定していただき、発表会の内容は演奏前にお辞儀をするなど、落ち着き、充実したものになった。継続から生まれるものは大きいと思う。

コーディネーターから

重要無形文化財であるお囃子の望月先生の熱のこもったご指導に、子どもたちは邦楽の世界にどんどんと入って来てくれました。「雛鶴三番叟」を唄い、小鼓を奏でる、さらに祭囃子も演奏してしまいました。いろいろなハードルを越えていける、子どもたちのたくましさと興味に対する力を感じました。最後の発表では、子どもたちが「ふるさと」を合唱し、それに合わせて望月先生方がお囃子を奏でました。きっと子どもたちの心に何かが残ったのではないかと思います。

先生から

普段の音楽学習では、ほとんどが西洋音楽を扱っているので、今回は和楽器の響きの良さを体感し、日本の音楽の良さを味わうことができました。プロの方の演奏や話が聴けた意義は大きいです。さらに子どもたちの中には、箏や三味線などにも多く興味を示している児童がいるので、２～３日さまざまな楽器にどっぷり触れると良いと思いました。全体の発表はなくても良かったかなと思います。

子どもたちから

こつづみの持ち方、たたき方が難しかった。／初めて体験する楽器が楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南本宿小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう！２

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	南本宿小学校（旭区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／5・6 学年 4 学級 133 名
実施日程	2019 年 12 月 2 日(月)

授業のねらい
普段接する機会がほとんどない本物の伝統芸能に触れ、教科書（紙面）の学習だけでは分からないことを実際に体験して学ぶ。

主な内容
解説（狂言について）、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験、質疑応答

アーティストから
元気でありつつまとまっていて、とてもメリハリのある取組で良かったと思います。「狂言」というものを言葉で説明するのではなく、実際に見たり、体験したりすることで、何かしら感じ取ってほしいと思いながらやっていますが、今日の子どもたちは、質問も含めてそのあたりが伝わってきたのでとてもうれしかったです。

コーディネーターから
５、６年生合同でのプログラムとなりました。人数が多かったですが、担任の先生方のご協力もあり、よくまとまって取り組めていたと思います。意見や質問も、学年を問わず積極的に上がっていたので感心しました。体験時にはとても盛り上がりつつ、講師の先生方のお手本をよく見て、皆さん真剣に取り組んでいる様子が印象的でした。今後授業で狂言を勉強する際に、今日の経験を生かしてほしいです。

先生から
狂言は国語の教材として魅力的ですが、教科書だけではどうしてもその良さが子どもに伝わらないし、映像でも十分ではないと思います。今回、実際の狂言を間近で見て、さらに体験できたことで、古典芸能の良さを子どもは十分に感じたと思うし、教師自身にとっても楽しく参考になる鑑賞でした。

子どもたちから
教え方がわかりやすかった。体験がよかった。笑う練習をしたのが面白かった。／昔のことがわかって面白かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立磯子小学校＋民族歌舞団 荒馬座
みんなでソーラン節を踊ろう

担当アーティスト	民族歌舞団　荒馬座
実施校	磯子小学校（磯子区）
コーディネート	民族歌舞団 荒馬座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／ソーラン節／6 学年 3 学級 100 名
実施日程	2019 年 9 月 25 日(水)

授業のねらい

５、６年生が毎年ロックソーランを運動会で踊っているので、その踊りの元になったソーラン節から、踊りの振りの意味やどんな作業をしているのかなど、運動会に向け踊りを深める機会にする。ニシン漁のことや漁で使う道具などを調べ、よりイメージが持てるよう事前学習にも取り組む。

主な内容

①講師自己紹介～ソーラン節の説明～荒馬座のソーラン節の実演　②櫓こぎ、網引き、たもすくいの動きを体験　③休憩後、３つの動きをつなげ、唄に合わせて踊る　④大漁旗の説明　⑤クラスごとに発表

アーティストから

事前に調べ学習で「櫓・たも・もっこ」といった振りに出てくる道具を調べてくれていたので、イメージを持って踊ってくれた。ロックソーランとの違いや振りの意味、かけ声の大事さなどを伝えつつ、ロックソーランの振りにも意味があることが分かったようだった。全体に集中も良く、最後までしっかり踊っていた。

コーディネーターから

ロックソーランのひとつひとつの振りの意味やニシン漁に使う道具についてイメージを膨らませるため、事前に調べ学習をしてもらえていたことで、イメージが持てスムーズに進行できたようでした。時期的にも、運動会に向けて練習が始まる前に体験したことで、ロックソーランを深めるきっかけとなる授業でした。

先生から

事前に授業のねらいを「心を一つにして踊ることの大切さを学ぶ」と設定し、アーティスト側と学校側が共有したことで、子どもたちを同じ方向に導くサポートができました。運動会の１ヶ月前に来ていただいたことで、子どもたちが切実感を持って学ぶことができました。

子どもたちから

生の太鼓と歌が迫力があった。／プロの踊りも迫力があった。／運動会でも力強い動きで踊りたいと思った。／一体感を大切に踊りたい。／もっといろいろな種類のふりつけも挑戦したかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浜小学校＋杉田劇場
箏の奏法を知り実際に演奏する

担当アーティスト	外山香（箏演奏家）
実施校	浜小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 3 学級 87 名
実施日程	2019 年 10 月 16 日(水)、2019 年 10 月 17 日(木)、2019 年 10 月 18 日(金)

授業のねらい

・箏の歴史や楽器についてのお話、奏法の説明　・箏の演奏鑑賞　・実際に箏で「さくら」を練習し、お互いに発表／鑑賞し合う場を設けることで、より集中力を持って体験に臨めるようにしてもらう。

主な内容

＜１日目＞４年１組を対象に、箏について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。＜２日目＞４年２組を対象に、箏について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。＜３日目＞４年３組を対象に、箏について学び「さくらさくら」を演奏体験。アーティストの演奏鑑賞。

アーティストから

４年生の音楽の授業で勉強したばかりの「さくらさくら」を、約 60 分という短時間で練習し、最後の発表会では伴奏に合わせながら友達と息を合わせて合奏する楽しさも味わえたと思います。初めて触れる楽器でしたが、３～４人で一面の楽器を使用して練習するため、ほとんど全員が習得することができて、一曲を仕上げるという達成感も経験することができました。４年生という学年もちょうど良い学年だと思いました。

コーディネーターから

日本の伝統的な楽器に、小学４年生で触れることができることはとても貴重で、幸せなことだと思います。児童たちの顔を見ていると、初めのうちは困ったような様子にも見えましたが、何度も挑戦するうちに多くの児童たちは楽しそうに、また積極的に取り組む姿勢が見えました。こうした取組を継続して行うことができれば、日本の文化を大切にする心も育ち、文化の発展、さらには人間形成にもつながっていくのではないかと感じています。

先生から

今の浜小の児童は、素直に受け止め、新しいことに挑戦する意欲があるように見えます。しかし、最後まで自信を持って臨むことが苦手で、力はあっても出せず…もどかしさを感じています。今回、外山先生のように、小さいころから一つのことを続けて、世界で活躍されている先生の演奏を目の前で聴くことができ、心に残った児童が多くいました。５、６年生になり、心も成長して、希望を持って卒業してほしいと思います。子どもたちの貴重な体験を生かし、音楽の楽しさ、深さを学習させていきたいと思います。

子どもたちから

最初はどんな音がでるのかわからなかったけれど、今日の授業でどんなひきかたをするのか、どんな音がでるのかわかった。／最後の演奏会がうまくできたので、またやりたいと思った。／先生の演奏が心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立洋光台第三小学校＋杉田劇場
本物の雅楽を体験

担当アーティスト	真鍋尚之（雅楽演奏家、作曲家）
実施校	洋光台第三小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／雅楽／3 学年 2 学級 53 名
実施日程	2020 年 2 月 4 日（火）

授業のねらい

・雅楽の歴史や楽器について　・雅楽で使う楽器の紹介、音を鑑賞　・雅楽の演奏を鑑賞する

主な内容

雅楽の歴史や楽器を紹介し、実際の演奏（越殿楽）を鑑賞する。

アーティストから

３年生と一緒に唱歌（しょうが－雅楽の楽器を習得するために習う歌）を歌ったり、打楽器のリズムをたたくなどすることにより、雅楽の音楽の仕組みをよく理解できたと思う。１時間という短い時間の中で、また５名という少人数で雅楽の歴史や楽器を一通りを説明し理解を深めるという作業はとても難しい。しかしながら、ＣＤや映像などでは伝わらない本物の演奏を、超一流の演奏家たちによって体感してもらえたのは意義深いことだと思う。

コーディネーターから

子どもたちの変化は、コーディネーターとして参加した私にとって驚くべきものでした。雅楽という、おそらく彼らが全く触れてこなかった楽器、音楽に、瞬く間に入り込んでいき、楽しんでいる。とても貴重な時間を過ごしていると、私は感じていました。日本の伝統音楽を身近に感じることができた彼らは、とても幸せだと思います。その道を極めてきた一流演奏家の力の偉大さにも、大いに感動を覚えながら時間を過ごしました。

先生から

今回、体育館から音楽室に変更してしまいすみませんでした。場の設定も大事だと思いました。普段見慣れない楽器を見たり、音を聴いたり、良い機会になったと思います。いろいろな音楽を知ることで、とても勉強になりました。

子どもたちから

楽器が少ないのにすごい盛り上がっていた。／今度はお寺に聴きに行ってみたい。／歴史の長さや、口伝でできるようになるまで楽器を持てないと知って、大変なんだなと思った。／楽器がピカピカで、いつも手入れをして大切にあつかっているんだなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立洋光台第二小学校＋杉田劇場
高砂を歌ってみよう

担当アーティスト	山井綱雄（金春流能楽師）
実施校	洋光台第二小学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／能／5 学年 2 学級 76 名
実施日程	2019 年 12 月 3 日(火)、2019 年 12 月 4 日(水)、2019 年 12 月 11 日(水)

授業のねらい

日本の伝統文化「能」を学び、触れることにより、日本古来の伝統文化への理解を深め、育み、素晴らしさを理解する。児童たちは、「能」について自発的に研究し、その結果を壁新聞にまとめて発表する。

主な内容

＜１日目＞「高砂」を歌えるように稽古する。「能」について、簡単な所作を学ぶ、体験する。＜２日目＞「高砂」を歌えるように稽古する。「能」について、簡単な所作を学ぶ、体験する。＜３日目＞児童たちが作った解説（壁新聞）の発表、クラスごとに「高砂」を発表する。

アーティストから

「高砂」の謡の稽古を主に、日本伝統挨拶の座礼・能の構え・擦り足の体験、能面・能装束を鑑賞。「高砂」の謡は全員が詞章を暗唱・体得し最後に大きな声で斉唱。日本伝統文化の奥深さ・意義を会得し、日本人アイデンティティー構築に大きくつながったと実感できた。

コーディネーターから

体験学習を行った２クラスは、比較的消極的に感じる１クラスと大変に活発な１クラスと、対照的な雰囲気を持っていました。体験学習の初めは、やはり声のあまり出ない印象のクラスと、大きな声で反応の良いクラスになっていて、心配もしました。山井先生はどちらのクラスにも同じようにしっかりとご指導くださり、２日目からはどちらのクラスも積極的に「高砂」を楽しんでいる様子でした。１週空けて３回目は、クラス対抗で「高砂」を披露し合い、伝統文化を大いに吸収している様子を見ることができました。山井先生は、流石に素晴らしい能楽師であり、教育者でもありました。大変に良い取組ができたと感じました。

先生から

まず、地域に能楽師の講演もなさる方がいらっしゃったということを知れたことが良かったです。打合せでも詳しく、古典芸能の日本での知名度（子どもたちがあまり知らないこと）や、未来につなげていく上での古典芸能界の危機感についてお話してくださり、このようなプログラムの重要性を感じました。来年も継続して、同じ講師にいらしていただきたいです。

子どもたちから

能のおめんなどが、すごくこまかく作られていて「すごい」と思った。能で使うきものもデザインがきれいだったし、ちょくせつ見ることができてうれしかった。／「たかさご」の音ていがふしぎなかんじがして、おもしろかった。／いろいろな知らなかった日本の文化が知れたし、日本にきた外国の人に「日本てどんな国」ときかれたとき、のうの歌を歌ってみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立金沢小学校＋Media Global
落語を楽しもう

担当アーティスト	立川晴の輔（落語家）
実施校	金沢小学校（金沢区）
コーディネート	Media Global
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 2 学級 64 名
実施日程	2020 年 1 月 29 日(水)

授業のねらい

生で伝統芸能を鑑賞する

主な内容

落語鑑賞

アーティストから

金沢小学校では、6 年生を対象に視聴覚室で 60 分の落語会を行いました。とても素直に反応する子どもたちで、さらに伸び伸びとした雰囲気も感じました。横浜市内とはいえ、学校のすぐそばには海があり、間近に大きな公園や海岸があるからかもしれません。校内には金沢八景の浮世絵や子どもたちが描いた絵、学校のキャラクターのロボットが飾られていて、学校でありながらも楽しさが散りばめられていました。児童も校舎も明るい小学校でした。

コーディネーターから

６年生の皆さんに、身近で伝統芸能の鑑賞体験をしていただけて良かったと思います。先生方からも楽しい時間だったというお声をいただき、落語を提案できて良かったと思います。

先生から

落語の授業でしたが、話す内容がとても面白いので、まずはそこに引き付けられました。日本の伝統芸能を教えるという意味でも、狂言とはまた違ったものであったので、そこも良かったです。担当の方も、丁寧にたくさん連絡してくださったので良かったです。子どもたちも「見に行きたい」と言うほど好評でした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立釜利谷東小学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
お箏を体験しよう

担当アーティスト	荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邉勝代（箏奏者）
実施校	釜利谷東小学校（金沢区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 2 学級 48 名
実施日程	2019 年 12 月 16 日(月)、2019 年 12 月 17 日(火)、2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

日本の音楽の美しさ、素晴らしさを知る。日本の伝統楽器に親しむ。グループ練習で曲を仕上げることによる協調性を培う。

主な内容

＜１日目＞箏に関するクイズ、「さくらさくら」練習、発表＜２日目＞「カントリーロード」（前半）練習、発表、講師演奏＜３日目＞「カントリーロード」（後半）練習、発表、講師演奏

アーティストから

３日間、４年生がお箏に挑戦してくれました。お箏＝昔の音楽のイメージが強かったようですが、カントリーロードを実際に弾いてみたり、講師の演奏を聴いてイメージが変わったようでした。また、体験では音符が苦手な子も、漢数字が楽譜なので、抵抗なく接してくれました。ただ弾くだけではなく、姿勢や良い音の出し方など、子どもたちの間でも教え合いながらミニ発表会まで演奏できたと思います。（荒井）

４年生２クラスと学年全体の人数が少ないこともあってか、子ども同士でアドバイスをしたり、隣で絃を指差して教えてあげたりと、「お互いに協力し合って弾いてみよう」という目標を、より感じることができた子どもたちでした。日ごろ子どもたちがよく耳にし、歌ったり踊ったりしている曲を演奏すると、日本の伝統楽器でもピアノと同じ曲が弾けるの！？と驚いたようです。今回の授業を通して、和楽器への距離を少しでも近くに感じてくれたらうれしく思います。（渡邉）

コーディネーターから

普段見慣れない箏という楽器にたくさん触れ、体験できたことが良かったと思います。４年生ということで、２日目の課題曲からは少し難しさも出てきましたが、協力し、教え合ったりして取り組んでいました。また、講師演奏の時間では薩摩琵琶という、これもまたあまり見たことのない楽器の音色、語りも聴くことができ、貴重な体験となりました。

先生から

講師の先生方の演奏を聴いていた時の反応で表現力や感受性、集中力、協調性が培われたと感じました。実際にプロの方たちに教えていただくことで、本物を身近に感じることができたと思います。

子どもたちから

講師の先生たちの本気の演奏がすごい迫力だった。／難しいと思っていたけど、意外に簡単だった。／象のキバで音をならしていたのを初めて知った。／びわもひいてみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小机小学校＋横浜にぎわい座 寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する１

担当アーティスト	古今亭今いち（落語家）、小泉ポロン（マジシャン）
実施校	小机小学校（港北区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 3 学級 116 名
実施日程	2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物（寄席の演芸）」を鑑賞します。先人の知恵や経験が現在まで伝えられている伝統芸能を実際に体験することで、その奥深さや面白さを知り、そして「伝え合う」ことの面白さを実感するきっかけとなる機会を目指します。

主な内容

落語解説、体験（小噺、所作など）、落語・色物（太神楽曲芸）鑑賞

アーティストから

11 月 15 日に小机小学校の体育館で公演を行った。古今亭今いちと小泉ポロンが出演し、寄席、落語の解説・体験を行い、ポロンが奇術、今いちが落語を一席やった。体験は男子２名がサルとインコの小咄、女子１名は覚えてきた死神をやった。パーカーを着ていて、死神になる時フードをかぶるという工夫をしていて感心した。小学生だと落語をやる時にあらすじになるので、上下を振るよう促した。とても興味を持って積極的に参加してくれた。

コーディネーターから

最初の挨拶からぐっと子どもたちの心を引き付ける話術はさすがプロ。「見立て」の説明では、手ぬぐいや扇子が本や刀などさまざまなものに変化していく様子に、子どもたちは興味津々でした。間近で見るマジックの技にも思わず声が上がるなど、全体的に素直で反応の良い子どもたちだなという印象でした。体験コーナーでは、オリジナル演出を積極的に披露する子もいて、この時間が「伝え合うことの面白さを実感するきっかけ」に少しでもなってくれていたら幸いです。

先生から

日本古来の伝統文化に触れるのは、とても有意義なことだと感じました。子どもたちも、日本の文化をより好きになることにもつながると思います。また「本物」（今回は落語家やマジシャン）に触れることもすごく良かったと思いました。話のうまさはもちろん、迫力もあり、驚きの連続で、子どもたちにも良い時間になりました。

子どもたちから

またやってほしい。／落語はとってもおもしろくて、また見たいと思った。／マジックのやり方をおしえてもらいたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新治小学校＋みどりアートパーク
和楽器に親しむ

担当アーティスト	和楽団煌（和楽器奏者（箏、三味線、尺八）、ピアニスト（作編曲））
実施校	新治小学校（緑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／全学年 10 学級 223 名
実施日程	2019 年 11 月 28 日（木）

授業のねらい

人数限定でも和楽器に実際に触れられる体験コーナーを入れる。日本の典型的な和楽のプログラムだけではなく、和楽器の可能性を感じられる現代曲や洋楽のプログラムを入れる。

主な内容

和楽器演奏の鑑賞、体験、質疑応答

アーティストから

演奏した曲が流行った時期は赤ちゃんであったであろう下級生の盛り上がり具合に驚きました。知っている曲への驚異的な反応がうれしかったです。皆さん真剣に聴いていただきうれしく思っています。自然と手拍子が生まれて、子どもたちとの一体感を感じました。体験は２人しかできませんでしたが、少しでも音を出すことができ、また本人も喜んでいるようで、それが何よりうれしく感じました。どの曲もとても興味深く聴いていて、メドレーで曲が変わるたびに、知ってる！とか一緒に歌ったりという反応がとてもうれしかったです。質問コーナーでは楽器のことだけでなく、いろいろな角度からの質問があり、それも勉強になりました。

コーディネーターから

日本の古典だけでなく、現代曲やクラシック曲を入れたことで、飽きないプログラムにできたのではないかと思います。少人数でも体験を入れたことで、実際の難しさと演奏者の技量の高さをより実感できたのではないかと思います。子どもたちから積極的に質問が出たのは良かったのですが、質問に出なかった事柄については、話す時間があまり持てませんでした。和楽や演奏者の現状についてなど、もう少し話せれば良かったです。

先生から

やはり、本物が子どもに与える影響はすごいと感じました。ステージにかける意気込み、素晴らしい音色など、こちらが思った以上に子どもは感じていました。和楽団の方も構成をよく考えており、楽器の紹介や体験コーナー、校歌の演奏など、こちらのリクエストに応えてくれた部分も多かったです。コーディネーターの方もうまく橋渡しをしてくれて、上手に進めることができました。今後もアーティストによる授業を学校に取り入れていきたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立鉄小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう！３

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、吉田信海（大蔵流狂言師）
実施校	鉄小学校（青葉区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 1 学級 37 名
実施日程	2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

鉄小学校は創立 145 周年で、学区も伝統と歴史がある地域で、「おはやしクラブ」もある。児童は伝統芸能に触れる機会はあるものの、その中の個性や表現についてはあまり自由がないと感じている。そこで今回のプログラムを通して、一人ひとりが思いを持ち、表現する楽しさを感じてほしい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ　④質問コーナー

アーティストから

狂言の発声練習の際、人数は少なかったが、それが気にならないくらい大きな声で参加してくれていた。鑑賞態度もとても真面目で良かった。授業で狂言の発表を行っていたこともあり、発声の仕方は素晴らしかった。表現する楽しさは体験してもらえたと思う。

コーディネーターから

ワークショップでは狂言のせりふだけでなく、怒り方や笑い方など、日常的に使っている表現を体験することができたので、狂言を身近に感じてもらえたのではないかと思います。男女で違う表現があったり、さまざまなバリエーションがあり、近くの友人と楽しく体験してもらえました。表現することの楽しさを感じてもらえたと思います。

先生から

狂言は、独特な声の出し方があると思います。ＣＤを聴いたり、映像を見たりしますが、やはり本物を見られることはすごく力があり、子どもたちに直接指導することで生きていくと感じました。これからも続けて取り組めると良いなと感じました。

子どもたちから

狂言とか難しいから話を聞くだけのつまらない授業かと思ったら、とみちゃんとしんちゃんが漫才をしているみたいでおもしろかった。／笑い方がとてもおもしろくて自分でも練習した。／かきの木がなくても、想像して聞くことで本当にあるように見えた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立嶮山小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう！４

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、吉田信海（大蔵流狂言師）
実施校	嶮山小学校（青葉区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 52 名
実施日程	2019 年 12 月 20 日(金)

授業のねらい

この体験を通して表現することの面白さを知り、思いを交流し合える寛容さを育てるきっかけを作りたい。国語「柿山伏」の学習で日本の古典芸能に触れ、文化を知ることの良さを体感させたい。そして、それらを未来につなげる意義を実感させたい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ　④質問コーナー

アーティストから

最初は緊張していたようだが、だんだん質問にも積極的に手を挙げて答えてくれるようになり、「参加しよう」という意欲がうかがえた。ワークショップでは狂言の姿勢や発声を体験してもらった。最後の質問コーナーでは、時間が足りなくなるくらいたくさん質問をしてくれて、狂言や狂言師に興味を持ってもらえたと思う。これをきっかけに、狂言はもちろん、伝統芸能にも興味を持ってもらえたらうれしい。

コーディネーターから

狂言は自分からは疎遠なものという認識があったかもしれませんが、今でも使う言い回し・表現が少し違うだけだということを理解してもらえたので、柿山伏も楽しく鑑賞してもらえました。その後の質問コーナーでも、狂言や狂言師について興味を持ってもらえたのか、積極的に質問する様子がうかがえました。これをきっかけに、狂言のみならず、さまざまな伝統芸能に興味を持ってもらえるとうれしいです。

先生から

今回は伝統芸能である狂言師の方をお招きしての授業でした。今まで狂言の単元は、教科書だけでなくＣＤやＶＴＲで授業してきましたが、それでは感じることのできない生の声、音の振動が子どもたちにとってもとても刺激的であったと同時に、生きた教材を使った授業の有用性を感じました。また、敷居の高そうな伝統芸能に関わる方が、あえて面白いトークを交えて敷居を下げ、伝統を伝えていく姿は、感心したと同時に伝統を受け継ぐ苦労も見え隠れしていました。キャリア教育の側面も持ち合わせており、今回の体験を今後も有効に使いたいです。

子どもたちから

狂言について知れてよかった。／事前に見た狂言のアニメはおもしろい。実際の狂言も、想像以上におもしろかった。／他の狂言も見てみたくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立奈良小学校＋フィリアホール 「笙」の第一人者が紹介する奥深い伝統楽器の世界

担当アーティスト	宮田まゆみ（笙演奏家）
実施校	奈良小学校（青葉区）
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／雅楽／6 学年 3 学級 88 名
実施日程	2019 年 12 月 16 日（月）

授業のねらい

日本に伝わるさまざまな伝統文化を学んでいく中で、自分たちがこれから作っていく日本を「古き良き、そして、時代の流れと共に姿を変容させながら次世代につなげる」思考力を育成していきたい。文化に触れて子どもたちの視野を広げさせ、伝統音楽を通し、知識だけでなく感性も豊かに育んでもらいたい。

主な内容

笙という楽器の歴史を学びながら、一流の音に触れてみよう。

アーティストから

今回のアウトリーチでは、奈良小学校の６年生の皆さんととても楽しい「対話」ができました。一方的な授業ではなく、お互いの考えが交流する「対話」です。もちろん「越天楽今様」のリコーダーと笙の合奏なども得難い体験でしたが、音楽と歴史、社会、また漢字の歴史などを含めた文化の話題に皆さんが生き生きと反応して、活発に自分の意見を述べてくれたことを大変うれしく思います。「日本の未来は明るい」と感じさせてくれる子どもたちでした。

コーディネーターから

学校の先生より依頼された「一流」を感じさせたいという目的は達成することができたと思います。笙の歴史や楽器の説明を、楽しみながら分かりやすく伝える工夫がされており、子どもたちの興味を引き出していました。笙の美しい和音が音楽室中に響き、子どもたちも笙の世界に引き込まれていく姿が印象的でした。クラスによって児童のカラーが異なりましたが、各クラスの雰囲気に合わせた授業内容を行ってくださるので、子どもたちの反応も良く、安心して見ていることができました。

先生から

演奏はまさに一流で、子どもたちも大変感動していました。専門的な知識が多く、笙に伝わる歴史的背景の学びも充実していました。ただ、子どもたちはアーティストさん自身にも興味があったように感じます。「どんな道のりをたどって、今の一流にたどり着いたのか」などの生き様を知れると、より良かったように感じます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立山内小学校＋横浜にぎわい座
寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する２

担当アーティスト	瀧川鯉丸（落語家）、鏡味よし乃（太神楽曲芸師）
実施校	山内小学校（青葉区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 3 学級 108 名
実施日程	2019 年 9 月 27 日(金)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、日本の伝統芸能である「落語」と「色物（寄席の演芸）」を鑑賞します。普段触れる機会の少ない伝統芸能を直接体験することで、いつもとは違う方法で表現することの楽しさを実感してもらいます。またその体験を通して、仲間と体験することの良さや楽しさを味わい、共感力や協調性を養う機会となることを目指します。

主な内容

落語解説、体験（小噺、所作など）、落語・色物（太神楽曲芸）鑑賞

アーティストから

初めに落語の解説と体験、そして太神楽曲芸、最後に落語「狸の恩返し」の一席でお付き合いいただきました。２コマでしたので時間的にも余裕がありましたし、最上級生の６年生ということもあり、落語の成り立ちや寄席の習慣、ものの考え方など細かいところまで解説できました。中学入学を控えて気恥ずかしさが出てくる年代と思いますが、小噺としぐさの体験も前のめりで参加してくれました。代表の児童３名いずれも、私が用意したものでなく、それぞれ自身で考えた小噺としぐさを披露してくれました。それを聞く児童の皆さんもいいお客さん。「話し上手は聞き上手」。気持ちよく公演させていただき、ありがとうございます。

コーディネーターから

冒頭の解説部分での「落語は聞いた人がおのおのの頭の中に想像することで成り立つ、108 人いれば 108 人分の落語がある」という内容の説明が印象的でした。難しい勉強ではなく、自由に聞いて、感じて、楽しめば良いのだ、ということを子どもたちも分かって、リラックスして鑑賞・体験していたようです。最後の質問コーナーでは、おすすめの落語や、芸人になったきっかけ、人前でうまくしゃべるコツなどの質問が出て、いろいろ参考になる話が聞けたのではないでしょうか。

先生から

しぐさをまねしたり、自分で演じる子どもが何人もいました。本物に触れることができる、というのは子どもにとってとても貴重だ、ということと、子どもたちのやる気が違ってくるということを強く感じました。発表会で落語を演じるグループが大変参考になりました。

子どもたちから

とてもおもしろかった。／昔のものだと思っていたのに、今でもおもしろい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立牛久保小学校＋みどりアートパーク 落語っておもしろい！１

担当アーティスト	瀧川鯉丸（落語家）、桂小すみ（音曲家／落語芸術協会所属）
実施校	牛久保小学校（都筑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語・音曲／6 学年 3 学級 105 名
実施日程	2019 年 11 月 12 日(火)

授業のねらい

・落語を聞くことを通して、わが国の伝統的な言語文化に親しむ。・作品の内容から昔の人のものの考え方や見方を感じる。　・落語の所作を体験することにより、日本の伝統文化についての理解を深める。　・日本の伝統的な楽器や唄を聴くことにより、わが国の音楽の特徴を感じ取る。

主な内容

伝統芸能「落語っておもしろい！」／落語解説・体験コーナー、三味線音曲、落語「狸の恩返し」／質問コーナー（質疑応答）

アーティストから

初めに私が落語の解説と体験、桂小すみさんの俗曲、そして最後に私の「狸の恩返し」の一席でした。６年生だと気恥ずかしさも出てくる年頃と思いますが、初めから元気いっぱい。こちらの問いかけへの反応も良く、気持ちよく進めることができました。体験コーナーでも「みんなの代表として学年全員の前で演技をする」というのはなかなか難しいことですが、それを聞き役のみんなで後押しするような姿勢で聞いてくれましたので、代表の子どもさんも演りやすかったのではないかと思います。

コーディネーターから

伝統芸能の場合、特に会場環境が重要であり、人数に見合った音楽室という空間選択と本格的な高座舞台の持ち込み設営は、臨場感を高めて大正解でした。解説体験コーナーでは、学校備品の太鼓を使っての実演に引き続き、高座舞台への期待感が高まって、本物の舞台体験ならではの良い反応が引き出せたと思います。校長先生、ご担当の先生にも温かく迎えていただき、給食を共にいただきながら学校の様子を伺うことができて、こちら側も有益かつ今後の参考になりました。

先生から

日本の伝統文化に触れるという点で、とても貴重な体験となりました。子どもたちのほとんどが落語を初めて聞いたと言っていたので、これを機に、落語に限らずいろいろな伝統文化に興味を持つきっかけになったと思います。国語科との関連性もとてもありました。コーディネーターの方もスムーズに、分かりやすく活動の流れを説明してくださったので、とてもありがたかったです。また、来校していただいた瀧川鯉丸さんも桂小すみさんも、子どもたちの心をすぐにつかみ、さすがプロだなと思いました。

子どもたちから

今まで落語に興味がなかったけれど、興味をもつようになった。／昔の文化を残すことが大切だと思った。／落語がとてもおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立荏田南小学校＋みどりアートパーク 落語っておもしろい！２

担当アーティスト	瀧川鯉丸（落語家）、桂小すみ（音曲家／落語芸術協会所属）
実施校	荏田南小学校（都筑区）
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	国語、音楽、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／落語・音曲／6 学年 3 学級 119 名
実施日程	2019 年 11 月 15 日(金)

授業のねらい

・キャリア教育の視点から、仕事としての落語について知る。
・落語家を志したきっかけ、それを仕事とした現在について知る。　・伝統芸能の楽しさ、良さを知る。

主な内容

落語解説・体験コーナー、三味線音曲

アーティストから

解説コーナーでは、高学年の皆さんでしたので、少し難しい小噺も聞いていただきました。寄席の世界のものの考え方や習慣といった内容にも触れることができました。体験コーナーでは、代表の子どもさんがその場で自分で考えたしぐさ（みかんの皮をむいて食べる）や小噺（お小遣いをなくした子どもと親のやりとり）を発表してくれました。発想力も高いし、度胸もすごい。日常の世界のちょっとした場面が全て「落とし噺」になる、笑いになることが体験していただけたかと思います。最後に聞いていただいた「狸の恩返し」でも、スジをちゃんと聞いていないと面白くない箇所も笑ってくださいました。

コーディネーターから

６年生ということでしたが、はつらつとして元気な雰囲気が伝わってきました。体験コーナーは積極的にみんなで盛り上がり、体験の共有ができました。個別支援学級の児童も一緒に参加され、終了後別教室で講師のお二人に質問を受けていただき、交流できたことが良かったです。会場環境を見直し、当初の体育館から音楽室へ変更できたのが集中力を高めました。

先生から

来ていただいた方は、子どもとのやりとりや距離感もうまくやってくださいました。また、少し距離が近い場所での公演を希望されていましたが、当日になってその必要性が分かりました。私自身、生の落語を見たことがなかったのですが、距離感が近いことによって子どもたちの没入感を高め、より楽しむことができたと思います。

子どもたちから

落語をするには表現力や勇気が大切なんだと思った。／実物を使わないで表現しているのがすごいと思った。／一人が何役もしているのがすごいと思った。／落語家さんの大変さを知ることができた。／落語の楽しさをみんなで共有して一緒に笑えた。／三味線の音が綺麗だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立上矢部小学校＋さくらプラザ 箏を体験して“さくら さくら”を弾こう

担当アーティスト	内田裕子（箏曲 生田流 宮城社大師範）、鈴野懸山（尺八奏者）
実施校	上矢部小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏・尺八／5 学年 4 学級 133 名
実施日程	2019 年 12 月 17 日(火)

授業のねらい

・本物に触れる中で、発見や気付きを感じてもらいたい。　・実際に触れることで、和楽器や音楽に親しみを持ってもらいたい。　・６年生で雅楽体験があり、５年生のうちに勉強する箏との違いを感じてもらいたい。

主な内容

鑑賞：「春の海」「みずうみの詩」／体験：箏、尺八

アーティストから

昨年、一昨年に続き、同内容の鑑賞・体験を行いました。子どもたちは年々飲み込みが早くなっており、弦の呼び名や楽器を大切に扱うことなど、先生が事前によく指導されていらっしゃる印象がありました。尺八体験もよく音が出ていました。冒頭の鑑賞もとても集中して聴いてくださり、驚きました。礼儀正しく素敵な学校ですね。

コーディネーターから

ご担当の先生とご一緒するのは３年目。今回も先生にご協力いただき、箏・尺八・ピアノによる素晴らしい「みずうみの詩」を演奏していただきました。長めの鑑賞時間にも関わらず、子どもたちは集中して聴いており、音楽への関心が高いと感じました。どのクラスも仲が良く、互いに教え合い、褒め合いながら、箏・尺八を楽しそうに練習していた姿がとてもうれしかったです。これからもぜひさまざまな音楽に触れてほしいと思います。

先生から

和楽器はＣＤで聴くだけでなく、ぜひ体験することで感じるものがあると思っていました。学校には箏が３面しかなかったため、30 人以上のクラスで授業を行い、子ども一人ひとりが体験できるように、昨年に引き続き、今回もプラットフォームにお願いしました。さくらプラザのコーディネーターの方がアーティストを探してくださり、昨年と同じ方をお願いすることができました。アーティストの方とも事前に打合せを行い、鑑賞曲である「春の海」と、箏と尺八と私のピアノで「みずうみの詩」を演奏しました。和楽器とピアノを合わせるのは私自身経験があまりなかったのですが、日本の音楽の独特のゆれや間の取り方など、私も感じることができました。子どもたちだけでなく、私自身にとっても、良い経験をすることができました。

子どもたちから

箏の糸の長さは同じなのに、１曲目と２曲目の箏の響きが違ってびっくりした。２曲目のピアノとの一体感がすごかった。先生の箏のソロパートがとてもきれいだった。／生で聴いたから迫力があった。箏と尺八の音が重なっているのが一番心に残った。／１時間目に見せてもらった時は、かっこいいな、やりたいなと思った。けれど実際にやってみると難しくてすごいなと１つの発見ができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立川上北小学校＋さくらプラザ 小鼓で感じる歴史と音楽１

担当アーティスト	今井尋也（マルチパフォーマンスアーチスト（演出家、俳優、音楽家（小鼓）））
実施校	川上北小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／6 学年 4 学級 145 名
実施日程	2019 年 12 月 20 日（金）

授業のねらい

この体験を通して、友達の演奏の良さに気付き、その良さを伝え合いながら、みんなで協力して一つの音楽を奏でる楽しさを体験させたい。

主な内容

小鼓の歴史の座学や体験

アーティストから

40 人学級が４クラスとマンモス校でしたが、どのクラスも質問や感想なども積極的に発言し、45 分の授業があっという間でした。熱心に小鼓の楽器としての特性や扱い方、かけ声の出し方などに取り組んでいました。今回の授業をステップにして、次は曲の演奏などにもチャレンジできたらと思います。

コーディネーターから

１クラス 40 人規模で体験・鑑賞を行うというタイトなスケジュールでしたが、アーティストの協力を得ることで非常に有意義な時間になったと思います。子どもたちの小鼓や日本の伝統音楽への興味は、初めは距離を感じましたが、実際に楽器に触れることでぐんと近くなったと感じました。伝統音楽が子どもたちの興味の対象の一つとして心に残れば何よりです。

先生から

アーティストのご尽力により、140 名近くの児童全員が小鼓を体験できる素晴らしい授業になりました。今井先生の小鼓の歴史についての話や演奏も興味を持って聞き、小鼓が身近に感じられる時間になりました。コーディネーターの方も子どもの支援に入っていただき、とてもありがたかったです。

子どもたちから

安土桃山時代の物が今も大切に使われていることや、300 年も使わないと良い音が出ないと知り、長く使えば使うほど良い物になるのだと思った。／小鼓は、昔からある楽器でとても歴史が長く、飛鳥時代から使われていることに驚いた。／もともと人のために演奏するものではなく、神様のためにやり、戦国時代にブームになったことに気付いた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小雀小学校＋さくらプラザ
箏で感じる日本の音楽～一緒に「さくらさくら」を演奏しよう！～

担当アーティスト	寺井奈美（生田流 宮城社師範）
実施校	小雀小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏／4 学年 2 学級 64 名
実施日程	2020 年 2 月 26 日(水)

授業のねらい

・表現力、コミュニケーション能力を高める。　・自らの表現力を高め、相手のことを思いやる、互いに成長できる子どもになってほしい。　・ただ鑑賞をするだけでなく、アーティストと児童が一緒に演奏したり、体験ができたりする工夫が欲しい。

主な内容

鑑賞：「春の海」「六段の調べ」など／一緒に「さくらさくら」を演奏しよう／体験：箏

アーティストから

子どもたちは箏演奏の鑑賞中は集中し、気になる奏法が出てくると、動きをまねしながら、しっかりと聴いてくれました。リコーダーとの合奏でも箏体験でも、積極的に目をキラキラさせながら取り組んでくれたのが印象的でした。少しでも身近に感じてくれていたらうれしいです。

コーディネーターから

箏と児童のリコーダーの演奏のコラボレーションをしたいというリクエストに、快諾いただいた琴美会の皆さま、また学外から箏を集めていただいた中嶋先生に感謝いたします。なかなか箏との接点を生むチャンスが少ない時代の中で、大変有意義なワークショップになりました。短い時間でしたが、児童の皆さまも箏の音色を聴き、触り、そしてコラボレーションをすることで、一層箏や邦楽への興味関心を培えたのではないかと思います。

先生から

箏の奏法を学び、音色を確かめながら、より良い音を奏でようと努力する姿が見られました。コーディネーターの方がアーティストの先生と蜜に連絡を取ってくださったので、当日の運営がスムーズでした。和楽器の魅力を多く感じることができ、子どもたちも、たくさんのことが心に残っていたようです。

子どもたちから

たくさんお箏をさわって楽しく音を出すことができた。／お箏で和の曲のみならず知っている曲がきけて楽しかった。／お箏をひくときに、おす時との音の違いを感じた時が一番楽しかった。／はじめてお箏にさわって、げんがすごくかたくてびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立境木小学校＋久良岐能舞台
みんなで狂言を体験しよう！５

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、小梶直人（大蔵流狂言師）
実施校	境木小学校（戸塚区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 104 名
実施日程	2019 年 11 月 11 日(月)

授業のねらい

体験を通して、昔の人の考え方や感じ方など、日本古来からある狂言の独特な表現方法に触れたり、面白さを気付かせたりしたい。

主な内容

①狂言について解説　②狂言鑑賞「柿山伏」　③狂言ワークショップ

アーティストから

狂言の解説の際に、歴史についての問題を出したのですが、みんなすぐに答えてくれていて、とてもよく勉強していると感じた。狂言の鑑賞中もしっかり話の内容を理解した上で見てくれていた。柿山伏だけでなく、さまざまな狂言を見てもらいたい。

コーディネーターから

狂言師からの質問に対して手を挙げて答えたり、積極的に参加してもらえました。実際に狂言の姿勢や発声を自分でも体験することで、狂言の難しさ・面白さを理解してもらえたのではないかと思います。次はぜひ能楽堂に足を運び、生の狂言をたくさん鑑賞してもらいたいです。

先生から

今回、国語の単位「柿山伏」との関連で授業をしていただきました。以前６年生の担任をした時には、このような機会がなく、教室での授業のみでした。その時の児童はイメージが広がっておらず、理解も定着していないようでした。しかし、今回事前にアーティストの方々に教えていただいたことで、理解が定着し、読み取った後に行った柿山伏の劇でも、高い表現力で行うことができました。

子どもたちから

狂言を深く学んだことがなかったが、今回知れてよかった。／動作・言い回しがおもしろかった。／狂言の声がふつうの声とぜんぜん違っていたのでびっくりした。／室町時代から続いている芸が今にもうけつがれていて、その芸が今の時代にそのままの形で見れることがすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東汲沢小学校＋さくらプラザ 小鼓で感じる歴史と音楽２

担当アーティスト	今井尋也（マルチパフォーマンスアーチスト（演出家、俳優、音楽家（小鼓）））
実施校	東汲沢小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 3 学級 87 名
実施日程	2019 年 11 月 18 日(月)、2019 年 11 月 19 日(火)、2019 年 11 月 20 日(水)

授業のねらい

未知のことに出会う面白さ、新たなことに挑戦する面白さを感じるとともに、表現することの楽しさを感じながら表現の幅を広げたい。また、学習している歴史への理解を実体験として深められたらなお良い。

主な内容

＜１日目＞小鼓の歴史の座学や体験（１組）＜２日目＞小鼓の歴史の座学や体験（３組）＜３日目＞小鼓の歴史の座学や体験（２組）

アーティストから

３クラス共に元気が良く、質問や感想なども積極的に発言し、熱心に小鼓の楽器としての特性や扱い方、かけ声の出し方など取り組んでいました。また、現代を生きる子どもたちの感性と、千年以上前からの古典芸能の楽器がクロスオーバーする授業に、みんなが興奮していてやりがいがありました。

コーディネーターから

小鼓が重ねてきた歴史や、その音の鳴り方に子どもたちは興味津々でした。初めは緊張も見られましたが、アーティストと子どもたちが対話しながら進めることで、徐々にその距離感は縮まっていたように思いました。日本の伝統芸能でありますが、現代において小鼓を見る機会、ましてや実際に音を鳴らす機会は珍しいです。今回のアウトリーチをきっかけに、音楽の興味の裾野が広がれば何よりです。

先生から

本物と出会い、体感することで、知識や映像では得られない日本の音楽の魅力や歴史を感じさせることができ、このような機会をいただけたことを、とても感謝しています。日本の音楽は身近でない上に、拍節がなかったり、音の高さが一定でなかったりと難しく、演奏もできず歌えないので、子どもたちに魅力を伝える難しさを感じています。今回、直に楽器に触れ、アーティストの演奏や思いに触れたことで、子どもたちは十分に日本音楽の特徴と魅力を感じ取っていました。また、歴史で習ってきた古い時代に生まれた楽器がたくさんの人に大切にされ、守られてきたことで、今、目の前にあって音を出すことができる貴さを感じました。

子どもたちから

聖徳太子や徳川家康が聞いたと言われる古い時代からある楽器がたたけて楽しかった。／作っている人がもういないと聞いて、大事なもので数が少ないと分かった。／新しいものでも 100 年以上前に作られたと聞いて、歴史があるものだと感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東品濃小学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう！３

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	東品濃小学校（戸塚区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 83 名
実施日程	2019 年 11 月 5 日(火)

授業のねらい

普段の生活で触れる機会の少ない本物の伝統文化に触れ、感受性を高める。また狂言独特の表現方法について鑑賞し、自ら体験することで興味・関心を深める。

主な内容

解説（狂言について）、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験、質疑応答

アーティストから

型についてクイズを出した際に、いろいろと意見が出ました。さらに「ずかずか」という言葉だけから「砂の上を歩いている様子では」と具体的な考えが出て、とても想像力が豊かな子どもたちだと思いました。「狂言の未来、これから」について質問が出ましたが、皆さんも日本独自の文化にもっと目を向け、大切にしていってほしいと思います。今日の体験を通して、何か感じることがあればうれしく思います。

コーディネーターから

体育館の舞台を能舞台のようにしつらえ、本物の装束を付けて「柿山伏」を上演していただきました。子どもたちは集中して鑑賞している様子でした。また、体験の際は盛り上がって参加していて、メリハリの利いた取組で良かったと思います。キャリア教育の一環で、狂言師の仕事についても質問が出て、狂言師の先生方にはご自身の経験やお考えをお話しいただきました。保護者の方の見学も多かったので、ぜひご自宅でも今回のプログラムについて話してみてほしいと思います。

先生から

教科書に載っている、山本東次郎さんの直々の門下に来ていただき、大変貴重な機会となりました。事前の準備では、コーディネーターと、当日に至るまで、大変きめ細かく連携を取ることができ、不安なく本番を迎えることができました。私自身も、狂言を生で鑑賞することは初めての経験であり、お二人の演技に圧倒されました。また今回は、総合的な学習の時間のキャリア教育の一環として、狂言師としての誇りや使命についてもお話しいただけたことも、大変ありがたかったです。

子どもたちから

本物の狂言はとても迫力がある。／平和の心を育てたいというのが良いと思った。／柿山伏が、教科書で見たよりもおもしろくて、狂言のうごきを体験することもできて、とても楽しかった。／細かいことにも意味があることがわかって驚いた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立平戸小学校＋さくらプラザ 落語を鑑賞しよう

担当アーティスト	入船亭小辰（落語家）
実施校	平戸小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／4・5 学年 6 学級・個別支援学級 200 名
実施日程	2019 年 11 月 26 日(火)

授業のねらい

日本の伝統文化の面白さや奥深さに触れ、言葉や表現することへの興味関心を高めたい。また落語を鑑賞することで、表現力、想像力、言語力を育てる。

主な内容

落語について知る・体験する・鑑賞する

アーティストから

平戸小学校の４、５年生の前で落語をやらせていただきました。前半に落語の解説をして、児童と先生に体験をしていただき、後半は実際に落語を一席聞いていただくという流れでしたが、全体を通して子どもたちの聞く姿勢ができていて驚きました。体育館で公演を行うと、音響の関係もあり集中できない子もいたりしますが、全くそんなことはなく、目の前で行われているものを素直に楽しんでいる子たちばかりでした。戸塚区の環境と学校の校風、先生方の指導のたまものでしょうか。給食もおいしかったです。また折に触れ、落語を楽しんでいただければ幸いです。小辰ならなお良し。よろしくお願い致します。

コーディネーターから

落語家による分かりやすい落語解説と、実際に高座に上がり落語体験をすることで、「落語」の楽しみ方をより深く感じ取ってもらえたと思います。またその後の鑑賞の時間では、きちんと理解しながら話を聞くことができており、話し手と聞き手(子どもたち)が同じ「笑い」を共有できていたように感じます。心から落語を楽しんでいる子どもたちの姿が印象的でした。

先生から

昨今、落語を見る機会は少ないので、楽しみながら古典芸能に触れることができました。音で聴くだけでも楽しいので、昔はテープで聞いていることもありましたが、最近はなかったので、改めてやはり楽しいと感じました。機会があれば今後もぜひ見たいです。本物（キャリア教育的観点）に触れることの大切さも感じました。また、教師の見識が深まりました。単純に、大人も楽しめる時間でした。

子どもたちから

今回の授業がとてもおもしろかったので、きかいがあれば、落語をみにいきたいと思った。／きんちょうすると思うのに、前にでてやっていてすごいなぁ～と思った。私なら、きんちょうしすぎてセリフをわすれちゃいそう。／長い話をおぼえるのもそうだけど、どんな時でも人を笑わせるのがすごいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南舞岡小学校＋民族歌舞団 荒馬座
荒馬踊り

担当アーティスト	民族歌舞団 荒馬座
実施校	南舞岡小学校（戸塚区）
コーディネート	民族歌舞団 荒馬座
実施科目・教科名	生活、総合的な学習の時間
実施概要	体験型／荒馬踊り／4 学年 1 学級 30 名
実施日程	2019 年 7 月 17 日(水)、2019 年 10 月 15 日(火)、2019 年 12 月 7 日(土)

授業のねらい

年間を通して稲作と芸能を結び付けて学習していく上で、まずは踊りの基本をしっかりと専門家から教わり、合わせて踊りの意味や願いを学習し、自分たちのオリジナルの踊りへとつなげていく。また、踊りだけでなく、お囃子（笛、太鼓、チャッパ）も含めて一体感のある荒馬踊りを目指す。

主な内容

＜１日目＞①講師自己紹介。②荒馬踊りについての話と実演。③基本となる二つ跳びや四つ跳びなどを全員で習得する。④２回目の授業までに練習できるよう、踊りの構成・お囃子のポイントなどを実演を交えて繰り返し伝える。＜２日目＞①１回目以降の練習の成果を見せてもらう。②発表に向けて全員で踊りの構成を確認する。③お囃子と踊りに分かれて練習する。④踊りを見ながら、踊り手はお囃子を聞きながら全体の完成度を高めつつ、踊る楽しさ囃す楽しさを感じながら繰り返し踊る。＜３日目＞ふれあい文化祭での発表当日のため、発表に向けたリハーサルを朝一番に行う。全児童、保護者、地域の方々への披露を時間を区切って３回実施。３回目のお囃子を講師が担う。

アーティストから

荒馬踊りが授業として年間通した取組になり、調べ学習と合わせて踊りの取組も夏から始まったことで、基本の踊りや全体像が早い段階からつかめたのが、後半の取組の深みにつながった。子どもたちは何事にも積極的に取り組み、先生の指導力でクラス全体のモチベーションがどんどん上がっていって素晴らしい発表となっていた。

コーディネーターから

プラットフォーム事業の初年度から取組が始まった南舞岡小学校の荒馬踊りが、昨年から総合的な学習の時間の年間通した取組へ進化した中で、その集大成となった荒馬踊りでした。５年生の米作りにつながる芸能の取組として、荒馬座が講師として呼ばれた中では、学校内に伝統芸能として受け継がれている唯一の学校として誇らしく思います。毎年同じようにはいかないと思いますが、今年の流れが踏襲されていけると良いです。

先生から

生活科・総合的な学習の時間において、子どもたちが「本物」に接し、憧れや目標を抱くチャンスはとても有意義なものになると感じました。子どもたちは荒馬座の皆さんと関わりながら、互いの感じたことを分かち合い、高め合うことができました。本番の発表会では、本格的なお囃子の伴奏のもと、子どもたち全員が踊り手となり、踊りました。保護者の皆さんや地域の皆さんにも成長した姿を見せる機会ができました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小山台小学校＋あっちこっち
お囃子を奏でよう！小鼓、太鼓演奏で合奏に挑戦！３

担当アーティスト	望月太左衛（邦楽囃子方）
実施校	小山台小学校（栄区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人あっちこっち
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／4 学年 1 学級 41 名
実施日程	2019 年 12 月 23 日(月)

授業のねらい

アーティストと触れ合うことで、アーティストや友達との新たな気付きが得られ、コミュニケーション能力を伸ばす。美しいもの、本物を見ることで集中して見聞きする楽しさに気付かせる。また、アーティストや友達と一緒の体験をすることを通して共感する機会とする。

主な内容

望月先生による「雛鶴三番叟」の演奏を聞かせた後、小鼓について説明し、エア鼓でリズムの練習をした。次に担任の先生を交えて五人囃子を演奏。五人囃子の並び順をクイズで覚えた。三味線を紹介し、ひく、すくう、はじくの３つの奏法を実演して見せた。祭り囃子の締太鼓、大太鼓、鉦の拍子を練習した。

アーティストから

小山台小学校では、１コマ目で演奏の練習、２コマ目で全校生、保護者の方の前での発表会という初めての設定だったが、小鼓発表曲「雛鶴三番叟」の時に舞台の下で待機しながら一緒にかけ声をかけたり、三味線に合わせて長唄を歌ったり、ライブ感いっぱいとなった。祭囃子の演奏も締太鼓、大太鼓、鉦と担当楽器を事前に決めて練習、本番となり集中力のある演奏となり、学校、コーディネーター、実演者のチームワークが実りうれしく思った。

コーディネーターから

マスクをした児童が多く、体調の悪い中、練習から発表まで体育館で３時間近く集中して取り組めるか、少し不安に思いました。ウォーミングアップもそこそこに練習が始まり、子どもたちはついていくだけでしたが、７名ずつのグループで繰り返し繰り返し練習するうちに熟練していきました。発表には全校児童と父兄が集まってくださり、望月先生が全体を盛り上げてくださったことで、最後は観客席からの手拍子とイエーと言うかけ声で大合奏・大合唱、一年を締めくくる見事な大団円でした。

先生から

時間が短い中「ここは大事！」というポイントに気をつけると、新しい音楽が演奏できるようになりました。本校の実態に合わせて内容や時間配分を考えてくださったので、子どもたちはこの経験を楽しむことができました。何よりも、望月先生が音楽を愛し、楽しむ姿に感動しました。

子どもたちから

昔からあるがっきとふれあえてよかったと思った。／小鼓の持ち方などがよくわかった。／おまつりの中で発表した気分になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立下和泉小学校＋テアトルフォンテ
日本と世界の音楽に親しもう～日本の音楽「雅楽」～

担当アーティスト	真鍋尚之（雅楽演奏家、作曲家）
実施校	下和泉小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／雅楽／6 学年 3 学級 93 名
実施日程	2019 年 12 月 19 日(木)、2020 年 1 月 16 日(木)、2020 年 2 月 4 日(火)

授業のねらい

日本の伝統芸能の一つである「雅楽」を鑑賞し、日本の響きを体験する。鑑賞するだけでなく、唱歌を歌ったり代替楽器で打ち方を学ぶことで、雅楽の間や雰囲気を体験し、日本の伝統芸能への興味関心を深める。最終日には本物の楽器を使用して打物の体験をしていただきつつ、実際にどのように演奏されているのかを鑑賞する。

主な内容

＜１日目＞雅楽奏者５名による雅楽鑑賞会＜２日目＞雅楽の唱歌と代替楽器を使った発表会に向けての練習＜３日目＞本物の楽器を使っての体験発表会

アーティストから

初回が、５名の演奏家での演奏会の形式で、雅楽の歴史や楽器を一通り説明。２回目は、１名で唱歌（しょうが一雅楽の楽器を習得するために習う歌）を歌ったり、打楽器のリズムをたたく、越天楽今様を歌うなどの練習。３回目は、５名の演奏家と一緒に打物を体験してもらい、合奏したり、越天楽今様を歌い、演奏家が伴奏するという理想的な形で行うことができた。日程的に間が空いてしまい、前回のことを忘れてしまう部分もあったが、３回の中で細かく説明し繰り返すことにより、雅楽の持つ間合いや音楽性をしっかりと感じてもらえることができたと思う。

コーディネーターから

今回は、３日間の雅楽の鑑賞＋体験プログラムを実施しました。雅楽の名曲「越天楽」の演奏を聴き、生の雅楽を聴いたことがない児童が大勢の中、初めは慣れない雰囲気に緊張している様子でしたが、３日間の授業を通じてだんだんと興味を持ち始め、楽しんで授業を受けている様子を感じることができました。最終日には、本物の楽器を使ってプロのアーティストと一緒に演奏体験をすることもでき、児童の皆さんだけでなく、先生方にとっても、めったにできない貴重な体験になったのではと考えています。終了後、学校より児童たちによる感想文集をいただき、いかに充実した授業であったかを実感しました。

先生から

プロのアーティストの佇まいを直に感じ、アーティストとのやりとりを通してしか得られない特別な身体、生の演奏を聴くことの素晴らしさを改めて実感することができました。子どもたちにとって、実体験がいかに大きな意味があるかがよく分かりました。

子どもたちから

楽しかった。／雅楽のことがわかった。／日本の音楽にも興味をもつことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立飯田北いちょう小学校＋テアトルフォンテ 雅楽を鑑賞して「日本の響き」を体験しよう

担当アーティスト	真鍋尚之（雅楽演奏家、作曲家）
実施校	飯田北いちょう小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	特別活動（行事）
実施概要	鑑賞型／雅楽／全学年全学級 233 名
実施日程	2019 年 12 月 19 日(木)

授業のねらい

日本の伝統芸能の一つである「雅楽」を鑑賞し、日本の響きを体験する。鑑賞するだけでなく、唱歌を歌ったり打ち物を打ったりしながら、雅楽の間や雰囲気を体験することで、日本の伝統芸能への興味関心を深める。打ち物のリズムを練習し、楽器の特徴を知り、実際にどのように演奏されているのかを鑑賞する。

主な内容

「越天楽」の演奏、楽器と演奏法の紹介、打ち物のリズム体験

アーティストから

１時間という短い時間の中、また５名という少人数で雅楽の歴史や楽器を一通り説明し、理解を深めるという作業はとても難しい。一緒に唱歌（しょうがー雅楽の楽器を習得するために歌う歌）を歌ったり、打楽器のリズムをたたくなどをすることにより、雅楽の音楽の仕組みをよく理解できたと思う。また、ＣＤや映像などでは伝わらない本物の演奏を、超一流の演奏家たちによって体感してもらえたのは意義深いことだと思う。

コーディネーターから

雅楽の鑑賞プログラムを実施しました。雅楽の名曲「越天楽」の演奏を聴き、演奏している楽器とその演奏法の説明、打楽器のリズムを身体をたたいて体験するなど、盛りだくさんの内容となりました。「実際に打楽器をたたいてみたい人？」のアーティストの声に大勢の児童の手が挙がり、この授業を楽しんでいる様子を感じることができました。とても興味深く演奏を聴いている姿が印象的でした。日本古来の音楽でありながら、なかなか聴くことのできない雅楽の音色を生で聴くという体験は、児童の皆さんだけでなく、先生方にとっても貴重な時間になったのではないかと思います。先生方にもきめ細やかな配慮をいただき、滞りなく無事に終了することができました。

先生から

日本の伝統文化を実際に見ることができ、さまざまな国のルーツを持つ児童にとって大変貴重な時間を過ごせたと思っています。一方、ずっと座っている（体育館で）ことが苦痛だった児童もいました。体験する機会をもう少し取れたらな、とも感じました。

子どもたちから

龍笛がすごかった（音におどろいた。きれいだった）。／音のひびきが大きかった。／きれいな音だった。／1300 年前からあることを初めて知った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立二つ橋小学校＋横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
本物を体験する！

担当アーティスト	荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邉勝代（箏奏者）
実施校	二つ橋小学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／箏／5 学年 3 学級 96 名
実施日程	2019 年 11 月 19 日(火)

授業のねらい

自分の表現を見直し、自分に気付き、これからの自分の表現に生かしたい（表現力、コミュニケーション能力、感受性、協調性、共感力など）。

主な内容

２時間目～４時間目：各クラス体験、５時間目：講師演奏鑑賞

アーティストから

体験授業では、各クラスとも、子ども同士が積極的に協力する姿が見られました。楽譜の数字の音を、声を出して教え合ったり、弾くことに夢中になって姿勢を崩してると教えて直したり、できることも大事ですが、がんばる過程に感動しました。また鑑賞授業では、一緒に歌で参加するプログラムを入れて歌ったのですが、恥ずかしがることもなく全員大きい声で歌ってくれました。児童がまず積極的に参加してみよう！との姿勢を感じ、両授業とも将来お箏に触れたこと、和楽器の音を聴いたことを、大人になっても覚えてくれていると感じられる授業になったと思います。(荒井)
授業を進めるにつれ、開始時よりも楽器への興味が深くなっていくのを、班ごとに積極的に協力し合う子どもたちの空気から感じることができました。「七七八」ではなく「さくら」と歌うように弾いてみようとの声がけに、本当に素直に、思うままにそれぞれのさくらを表現してくれていた子どもたち。触れば音が出る楽器だからこそ、心の持ち方一つで別の表現もある。私自身も大変貴重な体験をさせていただきました。子どもたちからは、箏に関することだけでなく、他の和楽器について、また私自身のこれまでの箏との関わり方や着物について、現在の活動など、さまざまな質問がありました。残念ながら今回も和楽器を習っているお子さんはいませんでしたが、この体験授業を通して「和楽器」に直接触れ、日本に伝わる楽器について少しでも頭の片隅に残ってくれたらうれしく思います。(渡邉)

コーディネーターから

体験授業では、初めてお箏に触れる児童も多く、自分が弾いたらどんな音になるんだろう…という興味・わくわく感が伝わってくるようでした。お互いに教え合ったり、他の人の音を聴いて合わせるなど、自分だけでなく、周りを意識しながら体験することができていたと感じます。鑑賞の時間も、聴くだけでなく、お箏と琵琶の演奏に合わせて子どもたちが歌い、心地良い一体感に包まれました。

先生から

音楽主題「わが国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ろう」では、なかなか良さを感じ取るまでには至らない普段の音楽ですが、参加児童全員が楽器に触れ、良さを感じることができた今回のこの授業は、児童にとっても素晴らしい体験となりました。コーディネーターの方の親切な関わりも良かったです。

子どもたちから

日本人には日本の音楽がしみる。やってみてすごく感動した。／アーティストの方の生の本気の演奏がすごかった。／箏と琵琶と自分たちの合唱とピアノ伴奏、合わせて演奏できたことが心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新羽中学校＋横浜にぎわい座 寄席の芸（落語・色物）を鑑賞する３

担当アーティスト	古今亭今いち（落語家）、鏡味よし乃（太神楽曲芸師）
実施校	新羽中学校（港北区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間、音楽
実施概要	鑑賞型／落語／2 学年 3 学級 94 名
実施日程	2019 年 10 月 29 日(火)

授業のねらい

導入で「寄席入門」となるレクチャーを聞き、「落語」と「色物（寄席の演芸）」を鑑賞します。日本の伝統芸能の一つである「落語」をみんなで実際に体験することで一体感を味わい、また、古い寺社などの多い自分たちの居住地域に対する理解や愛着を持つきっかけとなることを期待します。

主な内容

落語解説、体験（小噺、所作など）、落語・色物（太神楽曲芸）鑑賞

アーティストから

10 月 29 日、新羽中学校の音楽室で公演を行った。古今亭今いちと鏡味よし乃が出演し、寄席、落語の解説・体験を行い、よし乃が太神楽、今いちが落語を一席やった。体験は男子１名、蕎麦のしぐさをやり、見た目より難しいという感想をもらった。１学年入る広い教室で距離が近く、やりやすかった。途中でチャイムが鳴ったので、事前に止められるか確認をすると良かった。ほとんど落語を見たことなかったので、これからは中学校もやっていくと良いと思った。

コーディネーターから

中学校での実施は初めてで、どのような雰囲気になるか少し心配していましたが、講師の方々が生徒さんたちの反応に合わせて、臨機応変に進めてくださいました。最初は全体的におとなしめの反応でしたが、ほとんどの生徒たちが落語や太神楽を生で見るのは初めてということもあり、だんだん芸に引き込まれてリラックスしていく様子が見られました。途中、チャイムで中断してしまうアクシデントもありましたが、密度の濃い時間が過ごせたのではないでしょうか。

先生から

10 月 17、18 日が文化祭・合唱コンクールで、事前に生徒に落語についてあまりレクチャーできていませんでしたが、生徒はとても楽しんでいました。素直に落語に耳を傾け、大神楽曲芸に感動し、興味を持っていました。演者の方々に対しても尊敬と親しみの両方を感じているようで、ほぼ全員がアンケートで「また受けたい」を選んでいました。また、大人が「子どもには難しいかな？」と思って、接触する機会を設定しないことはもったいないと思いました。今回はコーディネーターの方とも何度かやりとりをさせていただき、職員の方が楽しみに待っていた部分も実はありましたが、生徒と共に本当に楽しい時間を共有させていただき、感謝しています。

子どもたちから

曲芸がすごかった。きっとたくさん練習したんだろうなと思った。／落語がおもしろかった。難しいかと思ったけど、とても楽しかった。／また見てみたいと思った。参加できるのがよかった。／そばのすすり方が分かった。日本の文化ってスゴイ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立西金沢義務教育学校＋横浜能楽堂
狂言を体験しよう！４

担当アーティスト	狂言方大蔵流 山本東次郎家（狂言師）
実施校	西金沢義務教育学校（金沢区）
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 88 名
実施日程	2019 年 11 月 28 日(木)

授業のねらい

本物の伝統文化に触れ、興味・関心を深める。狂言を鑑賞することで、動きや声、目線、間など、その表現方法について知る。

主な内容

解説（狂言について）、狂言「柿山伏」鑑賞、実技体験、質疑応答

アーティストから

とても元気な子どもたちでした。寒い中の実施となりましたが、意見もいろいろと出て、しっかり見てくれていることが分かりました。狂言は一度笑うと気持ちが乗ってきて、リラックスして見られるようになりますが、そのあたりができていて良かったと思います。体験では、目を見て真剣に取り組んでいる子がいて感心しました。また、舞台の「松」について質問が出て、興味を持って参加してくれていることが分かり、うれしかったです。

コーディネーターから

中学部の体育館を借りて実施しました。子どもたちは移動距離が長くなってしまいましたが、とても元気に取り組んでくれました。鑑賞の際には、狂言師の方の迫力のある声に圧倒されている様子が見られました。小学校・中学校一貫の義務教育学校ということで、今回の取組を中学校でも生かしていただければ幸いです。

先生から

実際に狂言師の方々のお話を拝聴して、伝統文化に携わる方々の真摯な姿勢を強く感じました。また、体育館に響き渡る声に狂言師の方々の身体から発せられるエネルギーを感じ、狂言そのものに素晴らしさも感じました。その思いが児童にも伝わっていたと思います。

子どもたちから

いろいろな体験があり、また受けたい。／伝統芸能を大切にしていきたい。／姿勢・声の大切さが分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東俣野特別支援学校＋さくらプラザ 小鼓で感じる歴史と音楽３

担当アーティスト	今井尋也（マルチパフォーマンスアーチスト（演出家、俳優、音楽家（小鼓）））
実施校	東俣野特別支援学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／全学年全学級 45 名
実施日程	2019 年 7 月 4 日(木)、2019 年 7 月 11 日(木)

授業のねらい

・外出に制限があり、気軽にライブに行くことができない子もいる。人生を通しての経験が少なくなってしまうので音楽の体験の幅を広げたい。　・生の音楽を聴いて、音や振動などを感じてほしい。　・音楽を通して、人とつながる楽しさやつながりを広げたい。

主な内容

＜１日目＞～＜２日目＞小鼓の歴史の座学や体験、鑑賞

アーティストから

東俣野特別支援学校において、小鼓ワークショップを初めて担当しました。私は 20 年間横浜市港北区の知的障害者の作業所で約 20 名を対象に演劇、音楽、ダンスのワークショップを週に１回継続して蓄積してきたノウハウを駆使して、重度の肢体不自由者や知的障害の方たちと日本文化の極みであり、日本音楽の源泉である小鼓（能）に触れ、音を聴き、かけ声を出したりすることで、心と身体を解放し、彼らの笑顔と共に楽しい時間を過ごせたと思っております。そして彼らにとってこのような時間が大変必要であることを実感しました。このような貴重な機会を横浜市でより普及拡充していけるようにさらに努力をしていきたいと思います。

コーディネーターから

子どもたちは、小鼓の生の音や振動に新鮮な驚きを感じているように見えました。アーティストが小鼓の歴史や構造、たたき方や発声といった演奏作法まで丁寧に進行をしてくださった結果であると思います。特に能の演目である「熊野」の演奏は、参加者みんなが集中して聴き入っていました。伝統芸能はどうしても鑑賞までの敷居が高くなってしまうため、今回はそれをフラットに演奏を聴いていただける機会を用意できたことは、子どもたちの何かしら心に残る体験にできたのではないでしょうか。目標であった音楽体験の幅を広げることを達成したと考えています。

先生から

難しい内容や説明の長さは、本校児童にとっては少し難しいところもありました。楽器の特色もあり、必要なことだったと思いますが、できればもう少し曲をいろいろ鑑賞する割合を増やしていただけるとありがたいです。生の小鼓の音は、児童生徒にとってとても貴重な体験として鑑賞させていただきました。

ハートフルルームでの取組

ハートフルルーム十日市場＋ＳＴスポット横浜
身体と音で遊んでみよう

担当アーティスト	福留麻里(ダンサー、振付家)／アシスタント：白井愛咲（ダンサー)、高橋牧（パフォーマー）
実施施設	ハートフルルーム十日市場（緑区）
コーディネート	認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／中学1～3年生7名、支援員ほか4名
実施日程	2019年9月19日(木)、2019年12月5日(木)、2019年12月12日(木)

授業のねらい

やったことのない活動に触れ、自分が楽しめることを見つける機会としたい。また、自分が何を感じているのかを確かめたり、人に伝えたり受け取ったりすることが少しでも楽しいなと感じられる時間としたい。

主な内容

＜１日目＞教室内を歩いてみる。簡単なストレッチで身体をほぐす。教室内の自分が落ち着く場所を探して留まる。１分間周りの音に耳を澄ます。自分でも音を出してみる。円になって拍手を順番にまわしていく、見えないボールをまわしていく。ダンサーの動きをまねして身体を動かす。新聞紙を自由に使って遊んでみる。
＜２日目＞身体をほぐす。円になって拍手を順番にまわしていく。まわす方向を自由に変えてみる。拍手の代わりに木の葉やスリッパなど、いろいろな物をまわしてみる。糸電話の先にスプーンを付けて鳴らして音を聴いてみる。ペットボトルや瓶、洗濯ばさみなどで遊んで、自分の好きな音を見つけてみる。
＜３日目＞身体をほぐす。ペットボトルを動かしてその動きを身体でまねる。本を頭の上や背中に乗せて歩いてみる。マスキングテープや落ち葉などを使って、空間に自由に描いたり飾り付けたりしてみる。他の人が作ったものにも付け足していく。

アーティストから

ハートフルルームでのワークショップは、今年度で２度目だった。前回も強く感じたが、表面には見えないレベルで、気持ちや感覚や雰囲気のやりとりがざわざわと行き交っているようだった。今回、「物」を介して動くことに焦点を当てていった。物が間にあることで、感じること、動くことに接続しやすくなったり、感覚を物に託したり、場や自分自身、他者とやりとりしやすくなることがある。ということが、中学生たちの取り組み方のささやかな変化を通じて感じられた。そして、継続することで場の状態や関係性が少しずつやわらかく解放されていく可能性を感じた。

コーディネーターから

昨年とはまた雰囲気の異なる子どもたちの様子に戸惑いつつも、その時その時の様子を察して、やる内容を臨機応変に調整してくださったアーティストの絶妙なさじ加減が見事でした。回を重ねるごとに、一人ひとりの興味を持つポイントや得意なことが見えるようになっていくと、すかさず「いいね」と肯定していく。何をしても間違いがない、ということが分かった中で、小さな範囲で「相手の反応を見て対応する」「自分でどうするかを決める」ことを重ねられた時間でした。

担当職員から

上手下手がなく自分の好きなように身体を動かしていいところや、肯定的な声掛けに、安心して活動できました。子どもの状態を見取り、臨機応変に対応していただいたことに感謝しています。子どもの発想を生かした展開は、安心できました。内容的には、ここにいる子どもたちにとって苦手な活動をしなければいけない場面もあり、少し厳しい面もあったように思いました。ただ、終了後にはアーティストたちと子どもたちが語り合う場面が見られ、そうした時間を最初から設定しておいても良かったかなと思いました。

子どもたちから

ペットボトルの形や大きさで音が変化するのがすごかった。／物を使って遊ぶことが楽しかった。特にマスキングテープを使ったことがおもしろかった。／テープを使ったり、いろいろな物で音を出したり、とってもおもしろかった。／マスキングテープをぺたぺたしたのが楽しかった。／新聞を使ったのがとてもおもしろくて楽しかった。のんびりと身体を動かせたので、心がスッキリしてよかった。

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したアーティストのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

青い卵（宮城摩理（オペラ歌手）、ＹＡＭＡ（クラウン＝道化師）

【宮城摩理】

東京音楽大学声楽科卒　二期会オペラスタヂオ修了後、一年間、横須賀市立浦賀中学校教諭着任。後に、新国立劇場、二期会の多数のオペラや演奏会に出演。テレビＣＭ「おくすりのめたね」「ポケモンヌードル」等の歌、ＭＣ担当。また、ディズニーシー ホテルミラコスタでソプラノ「マリアベリッシマ」役として出演。最近ではチビッコ向けバンド「トイ・ボックス」「サンタ・ブラザーズ」の歌のお姉さんとしても活躍中。オペラ、クラシックのみならず、童謡、唱歌、演歌もこなす基盤の出来たマルチシンガー。

【ＹＡＭＡ】

誕生日がチャップリンと一緒。生まれ変わりだ！と信じパフォーマンスの道へ。独学に限界を感じ、ロシア国立モスクワサーカス学校に留学。TV ドラマ「僕の魔法使い」「外交官 黒田康作」に出演。2008 年 SMAP コンサート出演。その他、東京ディズニーシーや東京タワー等各イベントにと幅広く活躍。自ら代表を務めるセカンドジェネレーションによる舞台公演にも力を注いでいる。マイム、ジャグリングもこなし、こどもから大人まで愛されるクラウン。

秋山貴之（フルート奏者）、糸井奈々（クラリネット奏者）、進藤稀（ホルン奏者）、斎藤舞（オーボエ奏者）、殿岡芽依（ファゴット奏者）、野川かおる（ピアニスト）

【秋山貴之】

千葉県出身。洗足学園音楽大学卒業。7 歳よりピアノを、15 歳よりフルートを始める。東京オペラシティで開催されたコンポージアム 2011 サルヴァトーレ・シャリーノの音楽に出演。これまでにフルートを小倉知子、岩花秀文、上野由恵の各氏に、ピアノを永井理江、西脇千花の各氏に、室内楽を河村幹子氏に師事。Flute Quartet MoLa、Ensemble Halo メンバーとして自主公演の他に教会やレストラン等での演奏会にも出演。2014 年より楽器店の講師として後進の指導にあたる。

【糸井奈々】

栃木県出身。2015 年洗足学園音楽大学クラリネット科を首席で卒業。優秀賞を得て卒業演奏会に出演。ヤマハ新人演奏会クラリネット部門に出演。ジャズもクラシックも吹ける特色を生かし、両面の要素を盛り込んだソロリサイタルを東京・大阪で行い、好評を博している。クラリネットを木幡仁清、角田晃、松本健司の各氏に、室内楽を藤田雅氏に、ジャズクラリネットを谷口英治氏に師事。NonStringsOrchestra _japan メンバー。

【進藤稀】

東京都出身。洗足学園音楽大学卒業。武蔵野音楽大学別科修了。これまでにホルンを飯笹浩二、西條貴人に師事。室内楽を曽我部清典、酒井秀明、上間善之の各師に師事。2010 年韓国にて漢陽大学校創立 50 周年記念演奏会に参加。2013 年洗足学園内にてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者、トーマス・イェプストル氏の公開レッスンを受講。2014 年第 3 回音楽大学フェスティバルに選抜メンバーとして参加。同年洗足学園音楽大学内にてエサ・タパニ氏のレッスンを受講。2015 年台湾にて新竹教育大学と共に台日節慶管樂團のメンバーとして演奏会に参加。2018 年 OMF 室内楽勉強会参加。現在、洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、同大学演奏補助要員。2016.2017 年度桐朋学園嘱託演奏員。

【斎藤舞】

福島県相馬市出身。12 歳よりオーボエを始める。東京音楽大学音楽学部卒業。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール 2015、2016 ともに特別賞受賞。福島県初のプロオーケストラであるふくしま復興祈念オーケストラ(現・福島フィルハーモニックオーケストラ)のオペラ魔笛公演、ふくしま国際音楽祭 2019 に出演。第 55・61 回そうま夢工房主催のロビーコンサートに出演。川口マンドリンアンサンブル第 25 回定期演奏会にて、アルビノーニ作曲のオーボエ協奏曲 Op.9 No.2 を演奏し、好評を博す。セリーヌ・モアネのマスタークラス受講。これまでに、木立至、宮本文昭の各氏に師事。室内楽を伊賀あゆみ、山洞智、水谷上総、水野信行、安原理喜の各氏に師事。現在フリーランスオーボエ奏者として、オーケストラ、吹奏楽、室内楽などで活動している。

【殿岡芽依】

神奈川県葉山町出身。2014 年洗足学園音楽大学卒業。同大学卒業演奏会に出演。在学中、特別選抜演奏者、前田記念奨学生に認定。2016 年東京藝術大学別科修了。これまでにファゴットを石井淳、岡崎耕治の両氏に師事。室内楽を岩花秀文、酒井秀明、高橋知己、千葉直師、辻功、藤田雅、日高剛、山根公男の各氏に師事。現在、オーケストラや室内楽を中心にフリーランスで活動。洗足学園音楽大学演奏補助要員。21st Century Orchestra Tokyo メンバー。横浜市民広間演奏会会員。

【野川かおる】

武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーゾ学科卒業。同大学修士課程修了。愛知ピアノコンクール高校 B.C 部門銀賞。日本クラシックコンクール高校の部全国大会入賞。第 12 回公開オーディションによる岐阜市新進演奏家コンサートに出演。武蔵野音楽大学福井直昭記念奨学金授与。第 16 回日本演奏家コンクール ピアノ部門 大学の部第 3 位入賞。武蔵野音楽大学ニュー・ストリーム・コンサート 27 に出演。武蔵野音楽大学卒業演奏会出演。これまでに林邦子、長野量雄、山城浩一各氏に師事。伴奏法を三ツ石潤司、横山修司に師事。現在は室内楽や合唱団の伴奏、コンクールの伴奏等をメインに活動しながら、芝浦工業大学附属中学高等学校で非常勤講師を務める。

浅野美帆子（声楽家）

国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラスタジオ 37 期マスタークラス修了。ウィーンにてコンラート・リヒター・マスタークラス修了。1995 年「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ役でオペラデビュー後、数々のオペラに出演。NHK ニューイヤーオペラコンサート、NHK 交響楽団定期演奏会への出演や、ガイナックス社映画「ワンダフルデイズ」の挿入歌を歌うなど幅広く活躍中。2015 年ハンガリーのソルノク市立オーケストラ定期演奏会にてオルバ

ーン作曲「ミサ曲 NO.11」とカールジェンキンス作曲「レクイエム」のソプラノソロを歌う。CD「薫風」「Souvenir aria et Duo」をリリース。二期会会員。東京室内歌劇場会員。横浜シティオペラ会員。

浅葉弾（クリエイティブディレクター、子供デザイン教室主宰）

1972 年横浜生まれ。神奈川県立神奈川工業高校デザイン科、東洋美術学校グラフィックデザイン科を経て、(株)浅葉克己デザイン室に入社。浅葉克己の元で約 8 年間グラフィックデザインとタイポグラフィーの修行を積み、2002 年 6 月に(株)博報堂 C&D に入社し広告クリエイティブ、メディアプランニングなどの経験値を積む。そして 2005 年 10 月 DAN DESIGN CO.,LTD.を設立。広告クリエイティブ、ブランドデザイン、イベント企画・デザイン、パッケージデザインを中心に活動中。日本グラフィックデザイナー協会会員。金沢文庫芸術祭実行委員長。アサバアートスクエア主宰。

アベタカヒロ（作曲家）、大塚雅仁（声楽家、合唱指揮者）

【アベタカヒロ】

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。合唱、童謡などを主軸にオリジナル曲やアレンジを手がけている。第 20 回かぶらの里童謡祭作曲公募で最優秀賞を受賞。主な作品「混声（女声）合唱のための 最愛」（全音楽譜出版社）、「うち 知ってんねん」（教育芸術社）。また、今夏発売開始となった小学校向け音楽劇シリーズ 9「旅人とクマ」「ロバを売りにいったおじいさんと孫の話」（東京書籍）の全曲を作曲。これまでに作曲を尾高惇忠、加羽沢美濃の両氏に、ピアノを加羽沢竹美、青柳晋の両氏に師事。日本童謡協会会員。

荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、渡邉勝代（箏奏者）

【荒井靖水】

神奈川県出身。6 歳より祖父・中谷襄水、母・荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを受ける。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、他ジャンルとの競演も試み、 荒井美帆と共に唯一の「薩摩琵琶・二十五絃箏 DUO」としても活動中。メディアへの出演、舞台での音楽担当、吉田兄弟『和の祭典』への参加等、 国内外問わず各種公演多数。幅広い演奏活動を展開している。

【渡邉勝代】

静岡県富士宮市出身。3 歳でピアノに触れ、9 歳より箏の手ほどきを受ける。外山香氏に師事。NHK 邦楽技能者育成会第 44 期卒業。卒業演奏会ではコンサートマスターとしてソロパートも演奏。NHK 邦楽オーディション合格。NHK-FM「邦楽のひととき」に出演。生田流沢井箏曲院教師試験にて優秀賞を受賞。第 19 回「静岡の名手たち」オーディションに合格、同コンサートに出演。また併せて邦楽部門では初となるロダン賞を受賞。静岡県立美術館主催による「ロダン館に響く優雅な箏の調べ」に出演。静岡市主催による「第 199 回 HOT ひといきコンサート・邦楽特集」出演。現在は東京・横浜・静岡などでの演奏活動のほか、邦楽器の普及活動として小学校音楽授業や公共スペースでの体験講座に注力するとともに、横浜自宅教室・富士宮教室にて後進の指導にあたっている。

イーガル（現代音楽作曲家）、米澤一平（タップダンサー）

【イーガル】

現代音楽の作曲家、ピアニストとして活躍する一方、ポピュラー音楽の作曲、映画、舞台等にも楽曲を提供。ソロライブは真面目に且つ面白く、「あやちクローデル× イーガル」では硬派なオリジナル曲を中心に行う。大道音楽劇団「遊侠サーカス」や、ピアニストとして参加する「マカロニと世界」等で東京都公認ヘブンアーティストとして活動している。またモデル、俳優としても活躍している。横浜市緑区主催「森のサーカス」にも音楽として出演している。

【米澤一平】

1989 年東京生まれ。世界的タップダンサー熊谷和徳に師事。タップダンスの根源的なルーツをアフリカ、黒人の音楽であると捉えその文化伝統をリスペクトしながらも、現代としてのタップダンスの新しいアートへの可能性の追究として、音楽家、ダンサー、美術家、俳優、大道芸人、映像作家、エンジニア等様々な業界、アーティストと関わりながらタップダンサーとしては異例な程様々なコラボレーションによる共同作品発表、即興パフォーマンス等、クリエイティブに活動している。

石川弥生（生田流箏曲演奏家）、神保佐香枝（生田流箏曲演奏家）、里風会（生田流箏曲演奏家）

【石川弥生】

生田流地歌箏曲演奏家。幼少より太田里子、太田久子に箏三絃の手ほどきを受け、現在九州系地歌を安藤恵美師に師事。NHK 邦楽技能者育成会で現代邦楽を学ぶ 1977 年卒。第一回賢順箏曲コンクール入選。世界民族音楽祭参加（ドイツ）。初リサイタルを鎌倉市で開催 1996 年神奈川県内で小中高音楽教師に音楽講座、小中学校体験講座担当。

【神保佐香枝】

箏・三味線を箏曲生田流 宮城道雄直門坂井敏子に師事。１３弦・１７弦・２５弦の箏を演奏。祭囃子・神楽・寿獅子舞・八木節・佐原囃子など現地で習得。ウィーン・ブダペスト・西安・北京・ニュージーランド・ブラジルなど各団体の文化交流のための海外公演に参加。長唄囃子笛・能管を四世望月太八に、長唄囃子太鼓を堅田喜春に、長唄を杵屋勝幸佳に師事。

泉桐子（画家）

1992 年生まれ、神奈川県出身。武蔵野美術大学大学院日本画科を修了し、2019 年より同大学日本画科非常勤講師を務める。主に日本画の画材である和紙や墨等を用いて絵画を制作。2018 年初個展「天秤座の話」開催（東京/西荻窪・数寄和）。第七回日経日本画大賞展入選。
https://www.tokoizumi.com

市川和彦（トランペット奏者）

国立音楽大学で故祖堅方正氏に師事。同大学在学中に新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。文化庁の在外研修員としてオーストリアに留学、ウィーン国立音楽大学で故アドルフ・ホラー教授に師事。新日本フィルハーモニー交響楽団アンサンブルアペルト主宰。

伊東純子（アーティスト）

オリジナルブランド「un:ten」を立ち上げ、横浜を拠点に活躍中。洋服や、作ることを通して、個人の表現を手助けする活動も行っている。横浜美術館子どものアトリエでは、企画展関連ワークショップとして、特別講座を実施（親子講座 いとじゅんさんとファッションショー！/2017 年）。また、「横浜市民ギャラリーあざみ野」では大規模な個展も開催（あざみ野こどもぎゃらりぃ 2018「みんなでみんなでモンスター

EVERYBODY,MONSTER!」
https://un-ten.com/

伊藤祐里子（ガムラン演奏家）
2001 年よりバリ島のガムランを始める
2008～2009 年バリ島留学
帰国後ガムランの古典演奏を中心に演奏活動開始
2010 年～ガムランの楽器グンデルワヤンの演奏ユニット Yuri＊Maki 結成

稲津清一（ギタリスト）
1967 年生まれ。静岡県浜松市出身。武蔵大学在学中よりフラメンコギターを染谷ひろし氏に師事。91～92 年渡西、舞踊伴奏等修行する。現在各地のライブハウス、劇場等に出演。『Vino de Indigo』というジャズバンドでも演奏。傍ら、ギター指導、パルマ（手拍子）指導も行う。レコーディングに カプリッチョ『Experience』(ユニバーサルミュージック)がある。全国各地で子どもたちとのワークショップも行う。

金井恵理花（ゴスペルディレクター）
10～15 歳の時に地元の横浜少年少女合唱団に所属。ミュージカル女優入絵加奈子氏の付き人としてミス・サイゴン初演の 1 年半にも及ぶロングランを経験。その後、元宝塚花組トップスター大浦みずき氏の付き人を経て、1997 年に亀渕友香率いる「The Voices of Japan」(VOJA)へ参加。現在はゴスペルチーム「ゴスペルスパークル」とミュージカルユニット「ミュージカルスパークル」を主宰。ゴスペルを軸にミュージカルの要素を加えたショークワイアとして活動する他、定期的に東日本大震災の被災地を訪れ、魂の歌を届けている。

今井尋也(マルチパフォーマンスアーチスト：演出家、俳優、音楽家（小鼓））
幼少より祖父から能楽を学び、十代で初舞台。その後、国立能楽堂研修生・東京芸術大学音楽学部を卒業、多数の能舞台に出演した後、渡仏し、現代演劇、コンテンポラリーダンス等を学ぶ。現代劇からコンテンポラリーダンスまで幅広く活躍。アートパフォーマンスユニット「メガロシアター」を主宰。アウトリーチ活動にも積極的に参加し、障害者の施設や小中高学校でワークショップを実施。新作能の脚本・演出・音楽も多数。また、フリーの小鼓演奏家として国内外を問わずジャンルを超越して活躍中。

入手杏奈（ダンサー、振付家）
幼少よりクラシックバレエを学ぶ。桜美林大学在学中よりコンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。2009 年より【まことクラヴ】に参加。2011 年より【21 世紀ゲバゲバ舞踊団】の活動を開始。個人としてソロ作品の発表や、多数の音楽 PV（world's end girlfriend、赤い公園、YUKI、凛として時雨、等)への振付・出演を行う。2015 年 5 月、入江雅人作・演出グレート五人芝居「デスペラード」に出演。2015 年 10 月、ソロ公演「入手杏奈日常見附」を上演。第一回ソロダンサフェスティバル 2014 最優秀賞受賞。

入船亭小辰（落語家）
2008(平成 20)年 02 月 入船亭扇辰に入門。2008(平成 20)年 09 月 01 日 前座となる。前座名「辰じん」。2012(平成 24)年 11 月 01 日 二ツ目昇進 「小辰」と改名。＊受賞歴＊2013(平成 25)年 第二回噺家の手ぬぐい大賞受賞。2017(平成 29)年 第九回前橋若手落語家選手権 優勝。2018(平成 30)年 平成 30 年度ＮＨＫ新人落語大賞本戦出場。2019(平成 31)年 平成 30 年度花形演芸大賞 銀賞受賞。

岩田とも子（アーティスト）
身近な自然物の観察・採集から宇宙的なサイクルを体感するような制作をするアーティストとして活動。2014 年に香川県粟島で自然物を“季節の積荷”として採集するプロジェクト「粟島自然観察船」、2015 年種子島の自然物から模様を集め工作の材料として使える場つくるプロジェクト「自然の暗号代理店」、2018 年福島の只見町の子どもたちと展開した「ブナの森の道具屋さん」では森の採集物をつかった動物のための道具を想像する場とするなど自然観察と表現について模索している。自然学校の講師と共同で森や公園で子どもワークショップも定期的に行っている。
http://shizenkansatsu.net/

音楽団体 incontro（声楽家、古楽器奏者、俳優などのメンバーによる公演団体）
incontro（インコントロ）とはイタリア語で「出会い」を意味します。私たちの公演テーマは『古楽との出会い』です。普段古楽と接する機会の少ない方にも古楽を楽しんでいただくことを目的に活動しております。2017 年 3 月発足、年二回の定期公演他、各種依頼公演を行っています。

上田恵子（邦楽演奏家）
東京藝術大学音楽学部邦楽課卒業。NHK 邦楽オーディション合格。古典演奏会、地歌ソロライブ、大学研究室とのコラボレーション、洋楽器とのジョイントコンサートなど幅広い活動と共に後進の指導にも力を入れている。2007 年、地歌をテーマにしたオリジナルアルバムを発売。2012 年アルバム「和の音 いにしえより」発売。

上水樽力（ピアニスト、作曲家)、宮原健一郎（テノール歌手)、池羽由（ソプラノ歌手）
【上水樽力】
1990 年生まれ。東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科を経て、同大学院修士課程音楽文化学専攻音楽音響創造研究分野を首席にて修了。修了時大学院アカンサス音楽賞を受賞。同大学院博士後期課程修了。創作活動と並行して、米国のカートゥーン・アニメーション音楽における創作技法とその周辺を対象に研究を行う。東京芸術大学講師。
【宮原健一郎】
東京芸術大学音楽学部声楽科テノール専攻卒業。 大学在学中に劇団四季のオーディションに合格し、聴講生としてミュージカルの基礎を学ぶ。これまでに多数のコンサートや、ミュージカル、演劇の舞台等に出演。また「歌のおにいさん」として全国各地のファミリー向けコンサート・イベント等で 100 ステージ以上出演している。
【池羽由】
日本大学芸術学部音楽学科声楽コース卒業。同大学院芸術学研究科音 楽芸術専攻博士前期課程を修了。大学在学中より、様々なコンサートや オペラに出演する。2010 年より歌のおねえさんとしての活動を開始。遊び歌や自作曲等を取り入れ、保育関係の様々なイベント・多数のファミリーコンサートに出演している。また、イベントの司会やステージ MC、幼児音楽講師としても活動中。

宇田川純子（美術家）
トキワ松学園女子短期大学(現在の横浜美術大学)グラフィックデザインコース卒業後、同学彫刻研究生として 2 年学ぶ。横浜

美術館市民のアトリエにてテラコッタのインストラクターを 2 年間務める。厚紙で成形した立体に新聞紙を貼った彫刻で、主にネコをモチーフとして制作している。2018 年個展開催（ギャラリー巷房）。横浜美術大学黄金町サテライトスタジオにて 2 ヶ月間滞在制作。

内田裕子（箏曲 生田流 宮城社大師範）
昭和 37 年より宮城社直門 故 牧田 和子師に、平成 5 年より宮城社直門 千島 千賀子師に師事。公益社団法人 日本三曲協会会員、戸塚区三曲協会会員、戸塚区三曲協会企画委員。箏 三弦演奏集団さつき会主宰。宮城社演奏会、戸塚区三曲協会演奏会、船橋三曲協会演奏会、尺八演奏会にて活動している。平成 12 年より戸塚区の小学校にて邦楽授業を担当している。

遠田誠（ダンサー、振付家）、鈴木綾香（ダンサー、振付家）
【遠田誠】
ダンサー、振付家。日常のはざ間にダンスその他諸々を割り込ませた『まことクラヴ』、屋内空間に特化した『&ルフィン』を主宰。2018 年より、街をダンス混じりに紹介していく『“街（ガイ）”ダンス』シリーズを開始。作曲家・野村誠率いる異ジャンルコラボレーションバンド『門限ズ』メンバー。第 1 回日本ダンスフォーラム賞、他を受賞。地域創造公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）支援登録アーティスト。
【鈴木綾香】
幼少よりモダンダンスを始める。2010 年、日本女子体育大学・舞踊学専攻卒業。様々なジャンルを経て現在はコンテンポラリーダンサーとして活動中。 近年では遠田誠、柴田恵美、三東瑠璃、北尾亘等の作品に参加。 長井江里奈率いる、自称世界一小さなサーカス団・山猫団の団員。日本各地にて市民参加型公演を製作。WS アシスタントとしても活動中。嫌いなもの：海。好きなもの：うどん。

大江馨（ヴァイオリニスト）、白瀬元（ピアニスト）
【大江馨】
仙台市出身。5 才よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学ソリストディプロマコースに特待生として入学。同時に慶應義塾大学法学部にて学び、卒業後、ドイツ・クロンベルクアカデミーを修了。2019 年レオポルトモーツァルト国際ヴァイオリンコンクール第 3 位ならびに委嘱作品賞受賞、2019 年アントン・ルービンシュタイン国際コンクール第 2 位、2013 年日本音楽コンクール第 1 位、併せて増沢賞他全賞受賞等国内外にて数々の受賞。平成 26 年度横浜文化賞芸術・文化奨励賞を受賞。これまでに尾高忠明、山下一史、山田和樹、川瀬賢太郎各氏等の指揮で NHK 交響楽団、ミュンヘン放送管弦楽団、東京フィル、神奈川フィル、新日本フィル、東京交響楽団など数多くのオーケストラと共演を重ねる。
【白瀬元】
4 歳よりピアノを始める。第 5 回野島稔よこすかピアノコンクール第 2 位を受賞。飛騨高山国際音楽祭、宮崎国際音楽祭に出演、2016 年ポーランドでソロリサイタルを開催。

大山貴善（尺八奏者）、中嶋ひかる（箏奏者）
【大山貴善】
神奈川県平塚市出身。三橋貴風師に師事。臨済宗大本山 国泰寺 妙音会に伝承されている稀少な古典本曲数曲を伝承。NHK 邦楽技能者育成会第 55 期修了。NHK 邦楽オーディション合格。 海外公演や寺社仏閣での奉納演奏も多数実施。古典音楽のみならず、 多様なジャンルのアーティストとの共演やメディアを通じて尺八の魅力を発信。後進の指導にも積極的に取り組み、 古典尺八の伝承と尺八音楽の発展に心血を注いでいる。
【中嶋ひかる】
宮城県仙台市出身、東京都文京区千駄木在住。NHK 邦楽技能者育成会第 53 期、修了。2014、東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻、卒業。東京藝大在学中、安宅賞受賞。2017、市川市文化振興財団第 30 回新人演奏家コンクール邦楽器部門において優秀賞受賞。2019、第 25 回くまもと全国邦楽コンクールにて優秀賞受賞。学習院大学和楽器サークル「玉緒」三絃講師。町田ミュージックサロン地唄三味線コース、講師。

奥田雅楽之一（地唄三弦・生田流箏曲演奏家、作曲家）
1979 年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を師事。祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を師事。胡弓を森雄士に師事。又、作物を二代富山清琴に師事する。（平成 16 年度文化庁国内研修生）1985 年国立大劇場にて初舞台。1994 年、歌舞伎「黒塚」に出演後、熱望していた西洋音楽（作曲）の勉強の為、5 年間邦楽器から遠ざかる。復帰した 1999 年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める他、「ＮＨＫラジオ」等にも出演。2002 年、「雅楽之一（うたのいち）」の名を受く。年々増える大舞台を一つ一つ大切に務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組んでいる。しかし何より、古典の習得に余念がない。

おしゃべり音楽館(バリトン歌手東卓治とソプラノ歌手東実和を中心にクラシック音楽の普及を目指すグループ)
長浜ホールを拠点に活動、公演数は 40 回を超える。オペラ、歌曲を中心に、地域へクラシック音楽の魅力を発信し続ける。
【東卓治】
バリトン歌手。関東学院大学教育学部教授。横浜シティオペラ会員。
【東実和】
ソプラノ歌手。関東学院大学非常勤講師。横浜シティオペラ会員。
【頼田恵】
ピアニスト。東京室内歌劇場器楽会員。横浜シティオペラ会員。

鍵冨弦太郎（ヴァイオリニスト）、湯原拓哉（チェリスト）
【鍵冨弦太郎】
12 歳でソリストとして、秋山和慶指揮、東京交響楽団と共演。2002 年、小澤征爾氏の指名でソリストとして共演。2003 年、第 72 回日本音楽コンクール第 1 位、レカウディア賞、鷲見賞、黒柳賞受賞。サンクトペテルブルグ音楽祭に招聘され、また国際交流基金よりカナダ 5 都市に派遣されるなど、国際的にも活躍中。
【湯原拓哉】
3 歳でピアノ 7 歳からチェロを始め、14 歳より蓼科高原音楽祭に参加し、本格的に室内楽を学ぶ。FreshConcert2003 新人演奏会出演、クラシック音楽コンクール好演賞。ライナーシュミットサマースクールを受講し、ファイナルコンサートに出演。鍵冨氏と組んだ、青少年劇場～ヴァイオリンとチェロの演奏会は、好評を得て 7 年目

を迎える。

片野真吾（作編曲家、音楽監督、歌唱指導者、ベース奏者）
明治大学文学部英米文学専攻卒業後、8年間の社会人生活を経て、米国 Berklee 音楽大学へ留学。作編曲を学ぶ。優秀賞を受け卒業し帰国。「音楽は心」をコンセプトに作編曲家・音楽監督・歌唱指導者として活動。全国で多くのミュージカルなど舞台音楽を手掛ける。また愛・地球博、高校総体総合開会式などのイベントや CM 音楽も手掛ける。積極的に現場に出向き、演者・スタッフと共に作品を創り上げることに喜びを感じている。現在は作曲家・編曲家及びベース奏者、ミュージカルやイベントの音楽監督など幅広く活動中。また音楽学校にて作編曲の講師、劇団での歌唱指導も行っている。

加藤紗希（振付師、ダンサー、俳優）
1989 年生まれ、愛知県出身。身長 170 センチ。ダンスカンパニー［ビルヂング］代表。2011 年旗揚げ以降、全作品の作・演出を務める。「ダンスがみたい！新人シリーズ 10」オーディエンス賞受賞。5 歳でジャズダンスを始め、中学 2 年生でミュージカル劇団に入り寮生活を経験。全国巡業に参加する。現在は、ダンサー、俳優として舞台や映画・映像作品への出演のほか、演劇・ミュージカルやアイドル楽曲への振付など、幅広く活動を行う。映画美学校 2017 年度アクターズコース修了。近年では、伊豆諸島での小学生向けワークショップを継続的に行い、地域交流を通して、創作と身体表現の楽しさを子どもたちに教えている。また、豊島晴香との創作ユニット［点と］において、映像作品の製作も行なっている。タップやコンテンポラリーダンスを中心に、疾走感のある踊りやストーリー仕立ての世界観、人間くさい表現を得意とする。

門秀彦（画家）
作品制作の他、国内外でのワークショップや、ライブペインティングを行う。コミュニケーションとしてのアート表現や手話をテーマにした[HAND TALK]をコンセプトに、絵本や絵画作品の制作の他、巨大なキャンバスにみんなで一緒にクレヨンで絵を描く「らくがきワークショップ」やミュージシャンとのライブペインティングを、音楽フェスや企業イベント、ギャラリー、学校、カフェなど様々な場所で行っている。

金持亜実（ソプラノ歌手）、浜野与志男（ピアニスト）、青木海斗（バリトン歌手）
【金持亜実】
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程、及び博士後期課程修了。博士号（音楽）を取得。現在、同大学音楽文芸教育研究助手。
【浜野与志男】
東京藝術大学音楽学部を経てロンドンへ留学し英国王立音楽大学大学院にて修士号ならびにアーティストディプロマを取得。2011 年日本音楽コンクール第 1 位など国内外のコンクールで多くの受賞歴をもつ。また国内外のオーケストラとの共演やリサイタル等演奏活動を積極的に行っている。
【青木海斗】
東京藝術大学声楽科卒業。同大学大学院修士課程音楽研究科オペラ科中退。大学卒業時に同声会賞受賞、同声会新人演奏会に出演。J.S.Bach、G.F.Handel などバロック音楽を中心に教会音楽のバスソリストを務め、古楽演奏の分野において深く研究・研鑽を重ねている。

鎌田美穂子（箏奏者、宮城社師範）
箏・三絃を幼少より宮城道雄直門宮城社大師範・山田ミサ氏に師事。東京芸術大学邦楽科生田流箏曲専攻を卒業。後、現代箏曲を西陽子、二十五絃箏を中井智弥各氏に師事。宮城道雄記念コンクール第 3 位受賞。現在、箏奏者、宮城社師範として箏・三絃の教授活動も行う。「人・生」→「音・言葉・色」→「環・和」から「庭」を追求。音のみにとどまらず、映像も交えての表現追求もしている。「世界遺産コンサート」（下賀茂神社）、「鎌倉鶴岡八幡宮」奉納演奏、財団法人「地域創造」での「邦楽地域活性化事業」になど各地での演奏にも参加。宮城会、森の会、横浜市民広間演奏会、つるみ邦楽連盟に所属。

川村亘平斎（音楽家）
1980 年、東京生まれ。インドネシア共和国・バリ島に 2 年間滞在し、影絵人形芝居【ワヤン・クリット】と伝統打楽器【ガムラン】を学ぶ。アジアを中心に世界各国で影絵と音楽のパフォーマンスを発表。日本各地でフィールドワークやワークショップを通じて、土地に残る物語を影絵作品として再生させる活動も高く評価されている。ガムランを使った音楽ユニット【滞空時間】主宰ほか、絵本や漫画の制作、CM への楽曲提供など幅広く活動している。平成 28 年度第 27 回五島記念文化賞美術新人賞受賞。

清岡優子（ヴァイオリニスト）、福井綾（チェリスト）
【清岡優子】
東京藝術大学卒業・同大学院修士課程室内楽専攻を首席で修了。第 10 回日本クラシック音楽コンクール全国大会第 3 位、第 3 回 Y.B.P.国際音楽コンクール優勝。横浜市栄区民文化センターリリスレジデンスアーティスト、藝大フィルハーモニア管弦楽団、東京藝術大学非常勤講師。
【福井綾】
東京藝術大学器楽科卒業。斎藤章一、宮城健、山崎伸子の各氏に師事。現在オーケストラやミュージカルなど様々な分野で活動中。Quartet Perle、アンサンブル Musica Essence メンバー。

国友淑弘（作曲家、演出家）
大阪音楽大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了（音楽修士）。立教大学大学院キリスト教学研究科博士後期課程修了（神学博士）。音楽大学院修了後、アメリカに渡りゴスペルを学ぶ。帰国後、劇団四季に在籍「オペラ座の怪人」等に出演。現在、川崎、市ヶ谷、小田原、横浜 YMCA でのゴスペル指導と共にミュージカルの創作、演出を行う。桜美林大学芸術文化学群、日本工学院専門学校、日テレ学院の各講師。

倉重円（PLANETS 所属インストラクター）、佐々木夏波（PLANETS 所属インストラクター）、中村美紅（PLANETS 所属インストラクター）
【倉重円】
4 歳から 10 年間クラシックバレエを習う。高校の部活でチアダンスを始め、初めての世界大会に出場する。大学に進学後も部活でチアダンスを続ける。その後、クラブチームプラネッツに所属し全国大会では数多くの優勝・グランプリを経験。世界大会にも出場し世界第 1 位の成績を残す。また競技だけではなく 2 7 時間テレビや

CM などにも出演。現在も競技を続け、全国大会優勝を目指している。チアダンスインストラクターとしても活動し、日々子ども達にチアダンス指導を行なっている。
【佐々木夏波】
高校の部活でチアダンスと出会う。大学進学と同時にチアダンスのクラブチーム pdc に所属。全国大会では数多くの優勝・グランプリを経験。世界大会には 2 度出場し世界第 1 位の成績を残す。また競技だけではなくアーティスト PV に出演。現在も現役チアダンサーとして、全国大会優勝を目指し日々練習している。
【中村美紅】
7歳よりクラシックバレエを、同時に9歳よりチアダンスを習う。中学生より Planet Dancecompany PLANET io として数々の大会にて入賞。世界大会にも出場し世界第1位の成績を残す。現在も現役チアダンサーとして競技を続け、全国大会優勝を目指している。チアダンスインストラクターとしても活動し、日々子ども達にチアダンス指導を行なっている。

栗原一（パントマイムパフォーマー）
1980 年より演劇活動を始める。1984 年パントマイム集団「汎マイム工房」入団。もちまえの個性に富んだキャラクターで注目を浴び、同集団のほとんどの公演に出演しパントマイムの基礎を固める。当時よりジャグリング・一輪車の修行も積み、現在ではオリジナル技一輪車の輪くぐりなどで日本における一輪車の第一人者となる。そのかたわら役者としても活躍を続け、1989 年劇団東少公演「眠れる森の美女」（三越劇場）では、コミカルな王様役で絶賛を浴びた。1997 年「春音芸夢」、1998 年「大道芸的ライブ」、1999 年「横浜ぐるぐる」を主催、エンターテイメントをテーマに様々なジャンルの芸を複合したショーを構成・演出・プロデュースし、新しい活動を始める。現在、幅広い芸域を活かしフリーのエンターテイナーとして活躍するなか、パントマイム教室、尚美学園パントマイム講師、劇団東少ミュージカル・パントマイム指導をおこない、若手の育成にも力を注いでいる

こいちりょうじ（造形作家）
美術造形教室ぷらすあーと代表。東京造形大学非常勤講師。横浜こども専門学校おもちゃ実践コース講師。東戸塚アートスクール講師（小学生クラス・中学生クラス担当）。公益財団法人横浜市芸術文化振興財団あざみ野市民ギャラリー『こどものアトリエ』講師。放課後デイサービス『ことり園』造形講師・監修。

古今亭今いち（落語家）、小泉ポロン（マジシャン）、鏡味よし乃（太神楽曲芸師）
【古今亭今いち】
2012 年（平成 24 年）3 月 千葉大学園芸学部を卒業　2012 年（平成 24 年）8 月 古今亭今輔に入門「今いち」　2016 年（平成 28 年）11 月上席より二ツ目に昇進
【小泉ポロン】
横浜市出身　ウィッチステーション所属、落語芸術協会提携
【鏡味よし乃】
鏡味繁二郎に師事。2015 年 4 月から寄席に出演。

Co.山田うん（ダンスカンパニー）
2002 年設立、山田うん（振付家・ダンサー）が主宰するダンスカンパニー。これまでに国内 31 都市、海外 15 ヵ国 23 都市で公演。常時十数人の新進ダンサーが所属し、舞台公演のほか国内外各地の劇場、学校、福祉施設と連携したワークショップや鑑賞企画、地域交流など間口の広い活動を行っている。

阪口喜江（声楽家）
玉川大学文学部芸術学科音楽専攻 卒業。同大学芸術専攻科音楽専攻修了。二期会オペラ研修所 46 期マスターコース修了。「ヘンゼルとグレーテル」、「メリーウィドー」、「カルメン」に出演の他、第九のソプラノソロなどを務める。2014 年、2015 年とソロリサイタルを開催。声楽を妻鳥純子、故中山悌一、渡辺 典子、日本歌曲を塚田佳男の各氏に師事。現在、認定こども園オーセルわかば幼稚園で園児に歌唱指導を行っている。二期会、二宮演奏家協会会員。

櫻田素子（ガムラン演奏家）
音楽家、作曲家、ガムラン奏者。ガムラングループ Terang Bulan（トゥラン・ブーラン）主宰。東邦音楽大学大学院非常勤講師。演奏、作曲、ジャンル横断的なアート制作、子どもからおとなまでの集団音楽ワーク演出・指導等も手がけ、バリ島芸術祭に度々招聘され参加。ガムランのように有機的に絡み合い共感覚を呼び覚ますパフォーマンスアート・民俗芸能等、人の身体性と関わりの強い音楽を追求する。国立音楽大学卒。横浜生まれ。

沢崎恵美（ソプラノ歌手）
洗足学園音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第 10 期生修了 1991～94 年、イタリアに留学。平成 8 年度文化庁芸術インターンシップ研修員。第 5 回「叱られて」歌唱コンクール第 1 位及び清水かつら大賞受賞。育成部修了オペラ公演「サンドリヨン」のタイトルロールでオペラデビュー。留学中ヴィオッティ音楽院で研鑽を積み、イタリア各地で各種コンサートに出演。「ラ・ボエーム」のムゼッタでは好評を得た。日本オペラ協会には「山椒太夫」の安寿でデビューを飾り、以降「死神（改題：魅惑の美女はデスゴッデス！）タイトルロール、「モモ」一等航海士、「那須與一」静御前、「高野聖」女、「袈裟と盛遠」袈裟、「天守物語」亀姫、「よさこい節」お馬、「ミスター・シンデレラ」伊集院薫で出演し、いずれも華憐で鮮やかな舞台姿は好評を得ている。その他「お七」のタイトルロール、「カルメン」タイトルロール及びミカエラ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「こうもり」アデーレ等、多数出演している。また「サウンド・オブ・ミュージック」のマリア等、ミュージカルにも出演し、歌唱力はもとより演技力も高く評価されている。その他、宗教曲のソリストや、日本歌曲・童謡・唱歌を中心としたコンサート、リサイタルを日本各地で開催。またフコク生命パートナーアーティストとして、被災地などでチャリティーコンサートに出演するほか、ヴォイストレーナーとして活動している。CD「ほしとたんぽぽ～愛するこどもたちへ～」発売中。日本オペラ協会会員、藤原歌劇団団員、地域創造公共ホール音楽特性化事業登録アーティスト。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師。洗足学園音楽大学、昭和音楽大学附属音楽教室講師。神奈川県出身。

澤原正行（テノール歌手）
広島県出身。愛媛大学及び東京藝術大学卒業。同大学院修了。オペラアカデミーin S. アマデウス第 3 期、二期会オペラ研修所修了。現在、桐朋学園大学博士後期課程に在籍。浜田フミエ、木村勢津、関定子、市原多朗、大島幾雄、宮本益光の各氏に師事。

「カルメン」ドン・ホセ役にてオペラ・デビュー。その他「ラ・ボエーム」、「セヴィリアの理髪師」、「愛の妙薬」、「椿姫」、「蝶々夫人」など様々なオペラに出演。また、モーツァルト「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などのテノールソリストを務める。 広島県呉市出身の作曲家藤井清水の歌曲作品の演奏をはじめ、東京藝術大学にて行われた戦没学生の歌曲作品の初演など、日本歌曲の評価も高い。二期会会員。日本ロッシーニ協会会員。日伊音楽協会会員。2019 年 11 月、日生劇場「トスカ」に出演。

篠崎陽子（打楽器奏者）、齋藤綾乃（打楽器奏者）

【篠崎陽子】

2008 年桐朋学園大学音楽学部打楽器科首席卒業。「第 30 回読売中部新人演奏会」出演。 打楽器協会主催、打楽器新人演奏会にて「新人賞」受賞。2007 年第 17 回日本クラシック音楽コンクール全国大会入賞。

【齋藤綾乃】

マリンバ・スピリチュアル最優秀賞 桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。現在、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉 打楽器奏者。

島村健二（もくもくはうす取締役）

横浜生まれ、横浜育ち 横浜在住 。2006 年位から地元に根差した自然素材のこだわりの注文住宅を創ろうとおもい、もくもくはうすという名前を付け、皆さんに助けられながら活動の幅を広げている。主な事業として、注文建築、リフォーム、オーダー家具の制作を担う。他にも「ヴィーガンカフェ＆レストランＳＡＩＲＡＭ」や認可外保育施設 mokumokukids の運営に携わる。事業を通して自然と共存した生活をし、衣食住を通して心と身体の喜びを伝える事を目指して活動中。また、大倉山記念館にて 2007 年より青空木工教室をさせて頂きながら子どもたちと共にものづくりの楽しさを伝える活動を続けている。

清水恵美（アーティスト）

1971 年大阪生まれ。主に行為のパフォーマンスとドローイングを行う。差異・境界性や東アジア美術、及びアジア圏の文化人類学に興味があり、中国絵画の身体性をパフォーマンスの軸にしている。京都造形芸術大学日本画、北京中央美術学院撮影科大学院卒業。中国・モンゴル・韓国・タイで作品を発表。汕頭大学芸術学院・ゲーテ・インスティトゥート北京でのワークショップ。16 年間中国滞在後 2016 年神奈川県に移住。

下司尚実（振付家、演出家、ダンサー）

自由形ユニット『泥棒対策ライト』主宰。個性を活かしたぬくもりのある時間創りを得意とする。自身の演出・出演のほか、舞台作品ダンス、芝居などジャンルを問わず、振付・演出助手としても幅広く活動している。過去出演作に、NODA•MAP、近藤良平、康本雅子作品、ハナレグミ live 謎の女、『あさひなぐ』『不思議の国のアリス』eastern youth MV『ソングゲントジユウ』。また、持田香織 MV 振付『君と僕の消失点』や、野外劇『吾輩は猫である』(演出：ノゾエ征爾)などの振付を行なっている。

善竹富太郎（大藏流狂言師）、吉田信海（大藏流狂言師）、小梶直人（大藏流狂言師）

【善竹富太郎】

1979 年 8 月 10 日生まれ　東京都出身。学習院大学文学部卒。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の時に狂言「靭猿」（うつぼざる）の小猿役で初舞台。その後 20 才で「三番三」（さんばそう）、22 才で「那須」（なす）、24 才で「釣狐」（つりぎつね） を披（ひら）く。現在は東京を中心に活動中。昭和音楽短大ミュージカル学科講師。

【吉田信海】

1976 年 1 月 24 日生。水瓶座。A 型。能楽師大藏流狂言方。(公社)能楽協会会員。埼玉県草加市在住。青森県八戸市より上京し平成 9 年より千太郎（現彌太郎）のもと稽古を始める。平成 12 年より内弟子として、二十五世宗家大藏彌右衛門、及び彌太郎千虎に師事。平成 15 年 「末広がり」。平成 17 年 「千歳」を披く。平成 17 年、(公社)能楽協会に入会。大藏狂言ＳＨＩＮ～千太郎組メンバー代表。

【小梶直人】

1967 年 01 月 22 日生まれ。千葉県出身。2003 年、小舞「土車」にて初舞台。大藏彌太郎を師事し、狂言を学ぶ。狂言の他にも舞台を中心に、映画・テレビドラマ・CM・ラジオなど幅広く活躍している。

曽我大穂（音楽家、多楽器奏者）

映像などを使い 1 本の映画のような物語性の高いライヴを展開し続ける、シネマティック・バンド ”CINEMA dub MONKS” を率いる。〈ハナレグミ〉〈二階堂和美〉〈原田郁子〉〈照井利幸(BLANKEY JET CITY)〉〈キセル〉など、様々なミュージシャンのライブサポートやレコーディングとしての活動でも知られている。2016 年は持田香織（Every Little Thing)の曲のアレンジプデュースを手掛けた。2014 年、現代サーカスグループ【仕立て屋のサーカス】をファッションデザイナー〈スズキタカユキ〉達と結成し、これまでに南青山スパイラルホール・金沢 21 世紀美術館等日本各地の様々な会場で公演を開催。2017 年にはスペインの国際芸術センターに招聘され全公演ソールドアウトさせた。

高木真里子（声楽家）、川村千鶴子（エレクトーン、オルガン奏者）

【高木真里子】

神奈川出身。東京音楽大学音楽学部声楽科卒業。武蔵野音楽大学別科卒業。在学中よりオペラやミュージカルに出演。第一回新宿声楽コンクール審査員奨励賞受賞。ヴォイストレーナーとして指導する傍ら、演奏活動も行う。現在 よみうりカルチャー横浜や、西谷、湘南台にて指導を行っている。２台のエレクトーンによるエレクトーンオーケストラを結成し、ピアノコンチェルト、オペラ、ミュージカルなどの伴奏活動を継続中。

【川村千鶴子】

神奈川県鎌倉市出身。青山学院大学文学部英米文学科卒業。エレクトーンを森口貴文氏、ジャズオルガンを佐々木昭雄氏に師事。エレクトーン、オルガンの指導を３０余年にわたり継続する。藤沢市湘南台文化センター子供館プラネタリウムのリニューアルオープン記念プログラムの音楽制作、演奏に関わる。(2009 年) 日野原重明祝祭管弦楽団のための編曲多。

高澤祐介（狂言師）

狂言方和泉流。公益財団法人能楽協会会員。重要無形文化財総合指定保持者。三宅右近に師事。1973 年生まれ。1987 年「縛り」にて初舞台。現在までに「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。

瀧川鯉丸（落語家）、桂小すみ（音曲家／落語芸術協会所属）

【瀧川鯉丸】

2010(平成 22)年 3 月 早稲田大学第二文学部を卒業。2010(平成 22)年 12 月 瀧川鯉昇に入門。2011(平成 23)年 4 月 前座になる、「鯉〇」。2015(平成 27)年 4 月 二ツ目に昇進、「鯉丸」。

【桂小すみ】

2003 年、落語芸術協会にお囃子として入会。2018 年、桂小文治門下、音曲師「桂小すみ」となり 1 年間の前座修行。2019 年 3 月 前座修行終了。

竹田えり（作曲家、歌手、声優、音楽遊び講師）

国立音楽大学教育科卒業。日本児童教育専門学校講師。ＮＨＫ子供番組の歌のおねえさんを経て「超時空要塞マクロス」の声優や「パタリロ！」などのアニソン歌手としても活躍。作曲家としては主にミュージカルやサンリオピューロランドなどのショー音楽、乳幼児保育向け楽曲の作品を多数手がける。近年はファミリーコンサートや、保育者向け講習会の講師としても精力的に活動中。趣味はスキューバダイビング＆手話。手話ソング作りをライフワークのひとつとしている。

立川晴の輔（落語家）

神戸市生まれ。東京農業大学農学部卒業。1997 年立川志の輔に入門。志の吉拝名。2003 年二つ目に昇進。2008 年東西若手枠後かコンペティショングランドチャンピオン。2013 年真打に昇進。志の吉から晴の輔へ改名。Tvk テレビ「キンシオ」BS 日テレ「笑点　特大号」ニッポン放送「週刊なるほど！ニッポン」「中村こずえの SUNDAY　HAPPY　MAP」などに出演中。

谷川マユコ（作曲家）

洗足学園音楽大学講師、玉川大学芸術学部講師。地域（小学校等）の音楽活動アドバイザー。「絵本と音楽」をテーマにその作曲および演奏。2007 年 7 月「トロンボーンとピアノのための妖精組曲」KOOWS Edition 出版。2009 年より「絵本の読み聞かせと音のコラボレーション活動」、いわゆる「絵本ライブ」を行っている。これまで音楽や効果音をつけたお話は 350 話を超え、音を表現する民族楽器や、手作り楽器のコレクションは 80 種類を所有。地元の小学校、地区センター、図書館、老人ホーム、病院等で活動。

辻本知彦（振付家、ダンサー）

幼少期にダンスを始めず、小学校からバスケに没頭し数々の成績を収める。18 歳の時にダンスとスノーボードを始め、1997 年渡米後、自ら海外を転々し 2007 年シルク・ドゥ・ソレイユにて日本人男性ダンサーとして初めて起用される。その後『Michael Jackson The Immortal World Tour』27 カ国 485 公演を成功させる。現在振付家としても活躍をしている。代表作に Sia『Alive』日本版 MV（出演：土屋太鳳）、米津玄師『LOSER』、『Flamingo』MV、ポカリスエット CM など。

辻本玲（チェリスト）、入江一雄（ピアニスト）

【辻本玲】

東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業（アカンサス音楽賞受賞）。 ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、シベリウスアカデミー（フィンランド）、ベルン芸術大学（スイス）に留学し卒業。 2013 年「第 12 回齋藤秀雄メモリアル基金賞」を受賞。2020 年 1 月からＮＨＫ交響楽団チェロ首席に就任。

【入江一雄】

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て同大学・同大学院を首席で卒業・修了。第 77 回日本音楽コンクールピアノ部門第 1 位、他受賞多数。15 年度文化庁より助成を受け、ロシア国立モスクワ音楽院研究科に在籍し 16 年夏に修了、ディプロマ取得。17 年度より東京芸術大学にて教鞭をとる。

寺井奈美（生田流 宮城社師範）

横浜市出身。4 歳より生田流箏曲の手ほどきを受ける生田流宮城社大師範 芦垣美穂師事。現在生田流宮城社師範。国立劇場で開催される宮城会全国演奏会や関東演奏会に出演する他、パシフィコ横浜で開催される国際会議（国際アフリカ開発会議など）や国際フォーラムで開催される国際会議（IFC（国際金融公社）国際会議）などでのレセプション演奏、1992 年より 20 年以上に渡り、横浜三渓園での催事演奏、企業のパーティ等のイベント演奏に加え、結婚式での音響全般、介護施設などでのコンサート演奏など幅広く活動中。現在、門下生の指導にもあたる。

寺道健一朗（横浜メリ～ゴーランド研究所代表）

1969 年横浜本牧生まれ、本牧で育つ。大学卒業後、東京銀座にある美術製作会社に入社。1999 年 1 月に美術工芸制作プロダクション「有限会社エトルスコ」を山下町（現在は元町）設立。レリーフ・ディスプレイ制作で数々のヒット作を連発し、引く手あまたに。2009 年に第 2 スタジオ「スタジオ カルーセル（メリ～ゴーランド研究所）」を開設、メリーゴーラウンド制作を開始する。イベントやお祭りなどにレンタルするほか、依頼を受けてオリジナルのメリーゴーラウンド制作も。併行して子供の美術教室も主宰し、手を動かしてつくることの楽しさを教えている。

造形ユニット ドゥイ（造形作家）

小野亞斗子・轟岳によるユニット。1999 年より 5 年間、絵画造形教室「アトリエ・ラピン」のスタッフとして勤務。（小野）2005 年より轟が加わり、 2007 年 3 月まで 深沢アート研究所／馬車道の土曜日コースを担当。2006 年より、横浜・石川町の洗濯屋さん店舗跡を改装した「ドゥイの実験室」にて、こども造形教室をスタート。2009 年より、鎌倉山ナワールガーデンにある竹林での活動「本気根気狸」。2010 年より、葉山おひさま学童あおぞらでの「ドゥイの出張こども造形教室」。その他、各地イベントにてワークショップを考案・実施。参加者それぞれの面白さやひらめきと即興性を大切に考える、「クリエイティブな遊びの時間」を研究しています。

とみやまあゆみ（俳優、ワークショップファシリテーター）

NPO 法人演劇百貨店 所属。桜美林大学総合文化学群演劇専修 卒。大学を卒業後、舞台と並行しワークショップの進行役としても活動。高校生の時に参加者として演劇ワークショップと出会い、「もしもっと早くに出会っていたら少し違った人生だったかもしれない」という想いを抱き、今に至る。「明日、生きるのがちょっと楽しくなる場所」を目指して活動している。

都守太朗（作家、ギャラリー経営）

1972 年横浜生まれ。95 年日本工業大学工

学部卒業後、金物会社設計部に所属。99 年～デザイン事務所にて広告担当。当時に個人の創作・フリーデザイナーとして活動・発表を開始。個展・グループ展・企画展多数。2012 年ギャラリーつぎのカーブの経営開始。

外山香（箏演奏家）

三歳より伯母久松雅和陸に箏曲の手ほどきを受ける。後に、沢井忠夫、川村昌子、中山いずみに師事。聖心女子大学在学中に第 30 期ＮＨＫ邦楽技能者育成会を卒業、沢井忠夫合奏団に入団。1989 年文化庁芸術家国内研修員修了。1990 年、1992 年ＮＨＫ邦楽オーディション合格。日本音楽集団入団（～1992 年）。第一回日中伝統音楽交流会にソリストとして参加。1990 年第一回リサイタルを行う（以後、2007 年第 8 回まで開催、2005 年は静岡音楽館ＡＯＩ主催による）。1995 年タイ・バンコク、1997 年ドイツ・カールスルーエに於いてリサイタルを行う。2000 年、横浜市港北芸術祭にて宮間利之とニューハードと協演。2002 年、横浜市日米協会 50 周年記念式典にて米軍ジャズバンドと協演。1996 年日本クラウンより、2007 年邦楽之友社よりソロＣＤを発売（第 62 回文化庁芸術祭参加作品）。2007 年横浜交響楽団第 600 回記念演奏会にソリストとして参加。ISCM-ACL 合同香港公演に出演。2010 年、横浜で開催された APEC レセプションにて演奏。NHK　TV「芸能花舞台」に出演。2011 年、2012 年、The Swing Herd Orchestra と協演。2012 年、神奈川フィルハーモニーの公演にソリストとして参加。現在、沢井箏曲院師範、国内外において演奏活動を行う傍ら教授活動を行う。

長井江里奈（振付家、ダンサー、山猫団主宰）

1999 年より「伊藤キム+輝く未来」ダンサー。2002 年、遠田誠らと「まことクラヴ」を立ち上げ、劇場のみならず美術館・映画館・商店街・路面電車内・廃墟などでパフォーマンスを行う。2011 年よりソロ活動開始。2013 年舞台芸術集団「山猫団」を結成。主催公演の他、市民参加型公演を上演。小中学校・特別支援学級などでのワークショップ経験多数。平成 30・31 年度公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）登録アーティスト。

中岡太志（ピアニスト、テノール歌手）、髙部さち（ソプラノ歌手）

【中岡太志】

昭和音楽大学ピアノ科卒業、1997 年にソロ・リサイタルを開催し本格的に演奏活動を開始。ソロ活動の他アンサンブル・ピアニストとしての評価は高く、日本の第一線で活躍する声楽家の伴奏を務める他、傾倒するアストル・ピアソラの演奏においては高い評価を確立している。第 5 回彩明ムジカコンコルソ伴奏賞受賞。

【髙部さち】

昭和音楽大学短期大学部声楽科を卒業。同専攻科及びディプロマコース修了。日本オペラ振興会育成部第 11 期を経て、藤原歌劇団入団。数々のオペラ、コンサートに出演する一方で地域合唱団のヴォイストレーナーとしても活動中。

中川梨恵（振付家、ダンサー、俳優）、櫻井由佳（俳優、ダンサー、シンガー）佐藤真代（俳優、シンガーソングライター）

【中川梨恵】

振付家、ダンサー、俳優。S&S Entertainment Studio、ミュージカル演劇コース講師。 Rainbow Jam に所属。尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科卒業。バレエ、モダン、ジャズ、タップなどの様々なダンスを学び、卒業後からは日本舞踊も学ぶ。俳優・ダンサーとしての活動の傍ら、振付家としての顔を持つ。小学校や福祉施設での表現ワークショップ等にも取り組んでいる。

【櫻井由佳】

俳優、ダンサー、シンガー。 S&S Entertainment Studio、Rainbow Jam に所属。尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科卒業。バレエ、モダン、ジャズ、タップなどの様々なダンスを学ぶ。子ども達のためのレクリエーションや、小学校や福祉施設での表現ワークショップ等にも取り組んでいる。

【佐藤真代】

武蔵野音楽大学卒業。小劇場を中心に数々の舞台に出演。役者の他にシンガーソングライターとしても活動しており、子どもミュージカルの作詞作曲なども手がけている。

中村源太（声優）

声優。神奈川県横浜市出身。アニメ作品や外国映画・ドラマの吹き替え、ナレーションなど幅広く数多くの作品で演じている。2019 年 7 月公開、新海誠監督による「天気の子」に出演するなど、将来を嘱望される若手の声優である。主な出演作品は、天気の子、BANANA FISH、 色づく世界の明日から 、Sin 七つの大罪、虚構推理などのアニメ作品。ファミリーマート「A３！ ありがとう返しキャンペーン」などのナレーション、「神奈川県トラック協会」のラジオＣＭ、賢プロ新春朗読シアター「怪盗二十面相/黒蜥蜴」…中村捜査係長などがある。

ＢＡＴＩＫ（ダンスカンパニー）

黒田育世の振付による創作を中心としたダンスカンパニー。02 年に設立、主な作品に『SIDE B』『SHOKU』『ペンダントイヴ』『おたる鳥をよぶ準備』など。17 年に新作『THE RELIGION OF BIRDS』を発表、各地で好評を博した。これまでにダンスアンブレラ・フェスティバル、ベネチア・ビエンナーレ、スペイン・サラゴサ万博、シンガポール・インターナショナルフェスティバル・オブ・アーツなどに招聘され、世界 16 カ国で作品を上演。敢えてバレエのテクニックを基礎にもったカンパニーとして、多様化するコンテンポラリーダンスの表現の中で「踊ること」にこだわった活動を行っている。

林孝輔（アニメーション美術監督）

1984 年富山県生まれ。2008 年筑波大学芸術専門学群日本画専攻卒業。数多くのテレビシリーズ作品のほか、劇場作品では『グスコーブドリの伝記』（2012 年）、『思い出のマーニー』（2015 年）、『バケモノの子』（2015 年）、『メアリと魔女の花』（2017 年）、『海獣の子供』（2019 年）、『プロメア』（2019 年）などに背景で参加。『ジョバンニの島』（2014 年）の美術監督（共同）、『この世界の片隅に』（2016 年）の美術監督を務める。

福留麻里（ダンサー、振付家）

ダンサー・振付家。1979 年東京生まれ。2001 年より新鋪美佳と共に身長 155cm ダンスデュオほうほう堂として活動。独自のダンスの更新を試みる。2014 年よりソロ活動を開始。日常的な仕草やくり返せる動き、物の感触や佇まい、無作為なスピード感など、身近なこと単純なことに動きのはじまりを見つけて踊る。

https://marifukutome.tumblr.com/

藤塚太鼓（和太鼓奏者）
1994 年、横浜市立藤塚小学校の創立 20 周年記念式典での和太鼓演奏をキッカケに青少年の創作和太鼓サークルとして活動を開始。2006 年には文化庁の「伝統文化こども教室」に指定され、小学生から高校生を中心に活動中。伝統的な和太鼓のリズムと地域のイメージを融合して創られたオリジナルの楽曲を年間を通して地域の祭りや式典で披露している。

保科晶子（美術家）
群馬生まれ。1996 年に女子美術大学大学院美術科で陶造形コース修了後、作家活動を開始し、2007 年に女子美パリ賞を受賞。2008 年にパリ市シテ・インターナショナル・デ・ザール（国際芸術都市）、2010 年はルズー陶芸美術館で滞在制作を行う。2012 年には文化庁新進海外芸術家派遣制度を受けパリに 1 年間派遣。シャトールー市国際陶芸ビエンナーレ、2017 年第 19 回ドマーニ明日展、2018 年現代美 術センターアポニア「Peaux」、2019 年横浜市民ギャラリーあざみ野ショーケースギャラリーなど、数多く展覧会を行う。「時間の痕跡を粘土で明らかにする。」「目に見えないもの、消失、記憶や思い出を土に刻みつける。」といった表現に注目し、粘土・陶の可能性を研究している。現在はフランス南西部ピレネー山脈地方の小さな村グオーを拠点に活動している。

チェコ少年合唱団ボニ・プエリ（合唱団）
チェコ少年合唱団“ボニ・プエリ”はチェコの東ボヘミア地方の中心都市フラデツ・クラロヴェを本拠地とする少年合唱団。合唱団には、4 歳から 23 歳までの青少年約 350 名が所属していて、編成は変声期前の少年がソプラノ、アルト、20 歳前後の青年がテノール、バスを受け持ち、いわゆる少年のみで構成される少年合唱団とは違い、清らかな少年の声と合わせ、青年による低音部が加わることにより、厚みのある広がり豊かな音楽を創りだしている。2006 年よりボニ・プエリ音楽学校がチェコ文化省より教育機関として認可され、さらに幅広い、音楽活動、教育活動を行っている。

増村エミコ（ゴスペルシンガー）
日本のゴスペル・シンガーの第一人者である亀渕友香が 1993 年に結成したコーラス・グループ、VOJA のトップシンガーとして、コンサート、各種イベント、テレビ出演、小・中・高校などでの芸術鑑賞会出演、各地でのワークショップ講師など幅広い活動を展開。6 名のボーカルユニット「VOJA-tension」のリーダーとして 2014 年から活動開始。オリジナル・アルバム収録曲「いのりのうた」などの作詞・作曲も手がける。

松井イチロー（ラテンパーカッショニスト）
中学生時代に吹奏楽部でラテンパーカッションに出合う。高校時代にフュージョン・カバー・バンドを結成。ドラムを担当し、地元でコンサートを開催した。農業大学に進学してジャズを学ぶ。「ジャズ研究会」サークルのラテン愛好家を集めてラテンジャズバンド「LA NOCHE」を結成、神奈川・東京のライブハウスで活動を行う。

松田理奈（ヴァイオリニスト）
横浜市出身。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースにて研鑽を積み、ドイツ・ニュルンベルク音楽大学に編入、同大学院を首席にて修了。2001 年第 10 回日本モーツァルト音楽コンクールヴァイオリン部門第 1 位、同コンクール史最年少優勝。2004 年、第 73 回日本音楽コンクール第 1 位。第 12 回ホテルオークラ音楽賞、秋吉台音楽アカデミー賞受賞、2013 年新日鉄住金音楽賞受賞。これまでに国内の主要オーケストラ・著名指揮者と多数共演、清水和音とのデュオ等で好評を博している。

真鍋尚之（雅楽演奏家、作曲家）
神奈川県立弥栄東高校音楽コース卒業。洗足学園大学（専攻／作曲・声楽）および東京芸術大学邦楽科雅楽専攻卒業。2000 年より笙の可能性を追求した「真鍋尚之笙リサイタル」シリーズを開始（笙の独奏曲の他、箏、十七絃、ヴァイオリン、コントラバス、打楽器などとの共演で作品を発表している。また雅楽の演奏家として小野雅楽会および十二音会において笙・楽箏・楽琵琶・右舞の演奏し雅楽普及のために尽力している。 2011 年 5 月～2012 年 5 月まで文化庁文化交流使としてドイツを中心に 12 ヵ国 30 以上の都市で活動。ソロを中心に 50 回以上の演奏会を開いてきた。帰国後も定期的にソロをはじめアンサンブル、また雅楽の古典をヨーロッパに紹介する企画をオーガナイズしている。ドイツを中心に、現在も活躍中。磯子区在住。

丸田美紀（箏奏者）
東京を中心に活動。古典曲から現代曲の演奏を幅広く、定期的にライブを行いながら、柔軟な感性とその適応力で多岐にわたりコラボレーションを展開、国内外の音楽祭でも高く評価されている。沢井忠夫合奏団団員、KOTO VORTEX やモノフォニー・コンソート（音楽監督・藤枝守）、Trinity、Den3（2006～）のメンバーとしても活躍。三重大学非常勤講師（2004～）。沢井箏曲院師範として後進の指導にもあたっている。

政所和幸（和太鼓奏者／HIBIKUS 横浜）
1861 年（文久元年）創業、東京浅草を拠点にした太鼓・神輿・祭礼具の製造販売会社「宮本卯之助商店」が運営。宮内庁御用達として雅楽の楽器を、また歌舞伎座や国立劇場、国立能楽堂、全国の神社仏閣が納入先。祭と伝統芸能の発展のため、世界の太鼓資料館「太鼓館」や米国支社「kaDON」を運営する。和太鼓スクールヒビカスは、HIBIKUS（ヒビカス）は響く＋us（私たち）を組み合わせた造語。太鼓の魅力をたくさんの方に知ってもらいたいという想いで 2014 年に横浜、2017 年に浅草、2019 年に福岡天神がオープン。3 歳から 80 代までの老若男女、また初心者から経験者まで満足できる多様なプログラムを用意しています。

満島弘（グラフィックデザイナー）
東京農工大学工学部、武蔵野美術大学短期大学部卒業、産業技術大学院大学人間中心デザイン履修証明プログラム修了。広報制作会社、インタラクティブエージェンシーなどを経て、現在、横浜にてシェル・コレクティングを主宰。企業やサービスの VI、ロゴ、サイトデザイン、UX デザインを手がける。日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）神奈川地区代表、かながわデザイン機構（KDF）理事、東京工芸大学非常勤講師。

三ツ山一志（造形教育家）
1953 年生まれ。東海大学教養学部芸術学科美術科卒業。1976 年から幼稚園での絵画指導を行い、1987 年横浜美術館開館前

より子どものアトリエを担当。2007 年より横浜美術館副館長、横浜市民ギャラリー館長、横浜市民ギャラリーあざみ野館長を歴任。現在＜アートの活動が子どもの育ちをどのようにサポートしていけるか＞をテーマに活動している。その他、造形教育についての講義指導、執筆等多数。

宮内康乃（作曲家、つむぎね主宰）

東京学芸大学 G 類音楽科作曲専攻卒業、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）メディア表現研究科修了。大学にて作曲を、大学院にて電子音楽やメディアアートを学んだ結果、人間の身体を通して生まれるプリミティブな表現にたどり着き、修士制作として作曲した、人間の呼吸の有機的な伸縮により紡ぎ出される女声のための合唱曲「breath strati」が、2008 年オーストリア、リンツでの「Prix Ars Electronica」Honorary Mention を受賞。その作曲法をもとに、2008 年より音楽パフォーマンスグループ「つむぎね」を設立。その他、自身の独自の表現を「つむぎねメソッド」と名付け、その誰もが参加できるシンプルなアプローチをもとに、老若男女皆で音を紡ぐ、ワークショップ活動に積極的に取り組んでいる。

宮田まゆみ（笙演奏家）

東洋の伝統楽器「笙（しょう）」を国際的に広めた第一人者。古典雅楽はもとより、現代音楽、オーケストラとの共演などにより、「笙」の多彩な可能性を積極的に追求している。国立音楽大学ピアノ科卒業後、雅楽を学ぶ。98 年の長野オリンピック開会式で「君が代」演奏の模様は全世界からの注目を集めた。

望月純吉（文学座演出家）

劇団文学座演出家、城西国際大学准教授。東海大学文学部広報学科 卒。シートンホール大学アジア学科客員研究員。平成 17 年度 文化庁新進芸術家留学制度 研修員（ＮＹ）。日本演出者協会員／日本舞台監督協会員／やまなし大使／大正大学表現学部 非常勤講師／日本演劇学会会員

望月太左衛（邦楽囃子方）

250 年前より続く歌舞伎囃子望月流宗家家元、父・十代目望月太左衛門に幼少より師事。伝統芸能教場・鼓樂庵代表。ＮＰＯ法人日本音楽囃子文化研究会理事長。国内及びアメリカ、ドイツ、イタリア等で演奏・講演を通し、鼓を中心としたプロの演奏家として芸術・音楽性を追求すると共に、アマチュアの力を引き出し地域に根差した邦楽普及活動を続ける。東京芸術大学にて博士号（音楽）取得。

望月秀幸（囃子方）

東京都出身。長唄を人間国宝杵屋五三郎に、邦楽囃子を六世藤舎流家元藤舎呂船及び望月太喜雄に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科及び同大学大学院修了。長唄協会、長唄伝承曲の研究会会員。仙波清彦＆カルガモーズメンバー。

森下真樹（ダンサー、振付家）

幼少期に転校先の友達作りで開発された遊びがダンスのルーツ。これまでに 10 か国 30 都市以上でソロ作品を上演。演劇、音楽　美術、漫画等とコラボ、ジャンルを横断。現代美術家 束芋との代表作『錆からでた実』は第 8 回日本ダンスフォーラム賞を受賞。「ベートーヴェン交響曲第 5 番『運命』全楽章を踊る」を企画・出演、展開中。100 人 100 様をモットーに幅広い世代へ向けたワークショップや作品づくりを行う。実験的な場を求めカンパニー「森下スタンド」を発足。周囲を一気に巻き込み独特な「間」からくる予測不可能、奇想天外ワールドが特徴。その他、学校教育、高齢者施設、病院、特別支援学校、児童養護施設、美術館などでもワークショップ経験多数。

山井綱雄（金春流能楽師）

シテ方金春流能楽師　重要無形文化財（総合指定）保持者　公益社団法人「能楽協会」理事　公益社団法人「金春円満井会」常務理事　山井綱雄能の会「山井綱雄之會」主宰　能アマチュア愛好家の会「春綱会」主宰　平成 26 年度文化庁文化交流史（長期派遣型）　東日本大震災復興支援能楽の会「息吹の会」同人　NHK 文化センター本校講師/JR 東日本「大人の休日倶楽部」講師　籐嶺学園藤沢中学校非常勤講師　「能楽は世界最高の芸術である」との信念の下、能楽普及と「日本の心」の啓蒙に奔走している。初心者の為の能ワークショップ、学校公演などを多数開催。海外公演や他ジャンル芸術家との共演・創作作品多数。能楽の新たな可能性にも挑む。

山下恵実（演出家、振付家）

1998 年生まれ。演出家・振付家。ひとごと。主宰、青年団演出部所属。埼玉県立芸術総合高校 舞台芸術科卒業。2019 年 1 月、単身イスラエルに渡りダンステクニックと身体開発メソッドを研究。横浜ダンスコレクション 2020 コンペティションⅡファイナリスト。演劇作品やダンス作品の創作の他、俳優や一般市民、こども向け WS なども定期的に行い、それぞれの身体が持っているダンスを生かし誰でもダンスに触れられるプラットフォームをつくることを目指している。

山田佐映子（造形作家）

横浜美術館子どものアトリエスタッフとして、こどもの育ちと造形活動を学んだ、山田佐映子・川崎和美・川崎信による造形ユニット「うめぐみ」メンバー。「自分でするからたのしい」を大切な精神とし、こどもたちの成長に合わせた造形活動をおこなっています。現在、横浜市民ギャラリーあざみ野にて、定期的にこども造形講座を開催中。造形指導：駒沢女子短期大学、明照幼稚園、宇喜田幼稚園、西小松川保育園、西小松川保育園、マリヤ保育園、わらべみどり保育園向島分園。

山田裕介（造形作家）

神奈川県横浜市生まれ、横浜市在住。セメントを素材に、彫刻や部屋を覆い尽くすようなインスタレーションを制作するアーティスト。[主な展示]2012 年「黄金町バザール 2012」（神奈川）／2013 年「アート DE コガネ」（神奈川）、「CONSTELLATIONS」（フィリピン）／2014 年「大隈アートマジック」（福岡）／2015 年「ごった煮展」（東京）、「あったもの。なくなったもの。おもいだせないもの。」（神奈川）など。

山野安珠美（箏演奏家）

沢井忠夫、沢井一恵の両氏に師事。平成 19 年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞、平成 28 年度エネルギア音楽賞等受賞。文化庁新進芸術家国内研修員を経て、箏の様々な可能性を求めジャンルの異なる演奏家や舞踏家との共演、「題名のない音楽会」「にほんごであそぼ」等へ TV・ラジオへの出演、新作歌舞伎等舞台音楽制作、CD 録音への参加など、幅広い活動を展開。またこれまでの海外公演は凡そ

30ヶ国。現在、沢井箏曲院教師。AUN J クラシックオーケストラメンバー、箏カルテット螺鈿隊、Dual KOTO×KOTO。（財）地域創造公共ホール音楽活性化事業支援アーティスト。FM ヨコハマにてラジオパーソナリティーを務める。
http://yamanoazumi.com/

狂言方大蔵流　山本東次郎家（狂言師）
狂言方大蔵流、山本東次郎家の狂言師。徳川幕府の式楽の伝統を継承する大蔵流狂言の家柄。初世山本東次郎則正(隠居名・東1836(天保7)-1902(明治35))に発する。現在、長男の四世東次郎則壽(1937(昭和12)-)、三男則俊(1942(昭和17)-)、およびその子息たちである泰太郎、則孝、則重、則秀が杉並能楽堂を拠点に公演、普及活動に努めている。

弓新（ヴァイオリニスト）、大須賀恵里（ピアニスト）
【弓新】
1992 年、東京生まれ。4 歳でヴァイオリンを始め、2007 年に桐朋女子高等学校音楽科（共学）に入学。2008 年よりチューリッヒ芸術大学に留学し、ザハール・ブロンとイリア・グリンゴルツに師事。ベルギーのエリザベート王妃音楽院にてオーギュスタン・デュメイに師事した後、現在はライプツィヒのフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学にて研鑽を積む。また、クリスティアン・テツラフ、レオニダス・カヴァコス、五嶋みどり、ジャン=ジャック・カントロフ等から薫陶を受ける。これまでに、チューリッヒ室内管弦楽団、ウクライナ国立フィルハーモニー管弦楽団のほか、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団等と協演。
【大須賀恵里】
桐朋学園大学音楽学部卒業。蓼科高原音楽祭で音楽祭賞を受賞。徳永兼一郎(Vc)、原田幸一郎(Vn)、毛利伯郎(Vc)、ペーター・ヴェヒター（Vn)など、内外の著名演奏家と数多く共演する他、R・パスキエ、G・プーレ、J−P・ヴァレーズ、W・マシュナー、D・ゲーデなど著名ヴァイオリニストのマスタークラスのピアニストを務め、貴重な室内楽ピアニストとして高い評価を受けている。

吉澤延隆（箏奏者）
7 歳より、和久文子氏のもとで箏を始める。東海大学大学院芸術学研究科芸術学修士。修士論文：「現代邦楽における十七絃箏の展開 ―菊地悌子氏の活動を中心に―」2011 年、今後の活躍が期待される芸術家に贈られる第１０回「宇都宮エスペール賞」を宇都宮市より受賞。日本・フィンランド新音楽協会会員。

Rie Tashiro（振付家、ダンサー）
ダンサー、振付家。ストリートカルチャーに刺激を受け、ダンスを始める。横浜ダンスコレクション EX2015 コンペティション I ファイナリスト。2015 年度日韓ダンスプロジェクトの振付家に選出され、Seoul performing artes festival、横浜ダンスコレクションのアジアセレクションで kim jiuk との共作を発表。Seoul international improvisation festival や International Society on ElectricArts など様々な海外のフェスティバルや国内外のレジデンスに召喚される。2016 年度急な坂スタジオのレジデンスにて他ジャンルのアーティストとタッグを組み舞台創作を行うプロジェクト AYATORI を設立する。2018 年度に「身体の岸辺」を発表。また舞台活動以外にも明治大学教養デザイン研究科にて「コンタクトインプロヴィゼーションにおける教育的価値」をテーマにダウン症の子供へのダンスの影響を研究。2011 年度修士号取得するなど身体表現の可能性を多方面から模索している。

Rythmission（打楽器アンサンブルユニット）
2016 年 10 月に結成した打楽器アンサンブルユニット。「Rythmission」とは「Rhythm（リズム）」+「Mission（使命）」を組み合わせた造語で、名前の通り、子どもから大人まで誰でも簡単に触れることのできる打楽器を通して音楽・リズムにのることの楽しさを多くの方々に伝えることを使命とし活動中。平成 28 年度川越人材発掘オーディションに合格し小学校での音楽鑑賞教室、楽器づくりや演奏体験などワークショップ付きコンサート、講演会など様々な活動を展開。また関東を中心にラ・フォル・ジュルネ TOKYO をはじめ、お祭りやロビーコンサートなど各種イベントでの演奏にも多数出演。

リナ・リッチ（ダンサー）、木檜朱実（ダンサー）、サエグサユキオ（パフォーマー兼コンポーザー）、椎名利恵子（ダンサー）
【リナ・リッチ】
小学 5 年の時に学校の授業でダンスと出会い、以来ずっと踊り続ける。山北千恵子、坂井学にモダンダンスを、木佐貫邦子、黒沢美香にコンテンポラリーダンスを師事。木佐貫邦子＋neo や黒沢美香＆ダンサーズのメンバーとして多くの作品に出演。2018 年より大倉山記念館にて『他力本願 x G ダンス企画』を開始、毎年ソロダンス公演を開催予定。即興ダンスセッション〈ぞめき〉の運営メンバー。
【木檜朱実】
1993 年より大野一雄、大野慶人、高井富子の元で舞踏を学ぶ。2002 年よりコンテンポラリーダンスの黒沢美香＆ダンサーズとして多くの作品に出演。現在は地唄舞の花崎三千花に師事する他、即興ダンスセッション〈ぞめき〉の運営、フリーのダンサーとして様々なアーチストと活動。
【サエグサユキオ】
空間、感覚、身体が舞台上で交錯するパフォーマンスで活動している。舞踊家・黒沢美香氏の作品にも参加。即興イベント「透視的情動」の主催者のひとり。
【椎名利恵子】
4 歳よりモダンバレエを学ぶ。体が固い、脚が上がらない、回転が回れない、と技術下手ながらも楽しく踊る。20 歳の時、舞踊家・黒沢美香氏に出会い、踊りとは技術の上手さだけではないと知る。そして踊り続ける勇気を貰う。即興ダンスセッション『ぞめき』の運営メンバー。また即興演奏(ギター)とダンスの Duo『台風の目』としてライブハウス等で活動中。

ルロット・オーケストラ（クラシック音楽演奏集団）
「ルロット」はフランス語で「屋台」を表します。文字通り、舞台を飛び出して、お客様と一緒に音楽を作り出す、類い稀なオーケストラです。

ワールドアサンテファミリー倶楽部（民族音楽や踊りにより国際理解教育の普及と発展を目指すグループ）
【トニー山本】
ワールドアサンテファミリー代表。ロンドン生まれ。10 代の頃よりプロのベーシス

トとしてメジャーシーンで活躍。音楽による教育や国際交流の場に舞台を変え、民族音楽の仲間たちを募りワールドワイドに活躍。

【アブドゥ】

セネガル共和国出身。セネガルの国立バレエ団のソリストダンサーを務める。民族楽器にも造詣が深い。ニューヨークをはじめ世界中に生徒を持ち、民族舞踊の普及にも勤しむ。

和楽団煌(和楽器奏者(箏、三味線、尺八)、ピアニスト（作編曲))

古典から現代、他ジャンルまで演奏する和楽器奏者と作編曲家による楽団。篠笛、箏、三味線、尺八、琵琶、笙などの奏者が集まり、現代における新しい感覚での和楽器の合奏を、楽器・流派の枠を越えて研究し、新しい日本の文化を創作していくことを目的とし活動している。和楽器を身近で親しみのある、また誇りある日本文化として日本そして世界に発信している。

和太鼓集団　撥當（ばちあたり）（和太鼓奏者）

平成元年の設立以来、横浜を中心に活動。撥當は他の和太鼓団体には少ない、お互いの氣を感じ合わせる、即興演奏を主体としている。お三の宮日枝神社例大祭や水天宮平沼橋神社例大祭などの祭りや、12 月の蒔田公園で行われる「光のぷろむなぁど」といった多くのイベントに参加している。

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

Media Global（メディアグローバル）

2005 年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は 1998 年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきました。
これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたります。
2006 年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。これまでに学校プログラムでは、ゴスペルやパーカッション、落語、ミュージカルなどの授業を実施しています。

特定非営利活動法人 子どもに音楽を

http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/
世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等で 334 回の演奏活動を実施しています。協力下さっている演奏家は国際的にも活躍、NHK 音楽番組にも度々出演なさっている、現在第一線で演奏活動を行っている方々です。
これまでにイ・ムジチ合奏団をはじめ来日中の海外演奏家にもご協力頂いています。また、設立 10 周年記念コンサートでは、樫本大進、小菅優、クラウディオ・ボルケスの各氏に出演して頂きました。これまでに学校プログラムでは、チェロやヴァイオリンなどの授業を実施しています。

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

http://www.yokohama-kodomo.com
あそぶ・まねる・つくる・みるをテーマに、これまでに 555 回の舞台鑑賞体験と多くのあそび等の機会を開催してきました。
子どもが育つ環境を考える時、地域の繋がりの希薄さや大人の経験値の貧困等々、様々な課題が山積です。それ故に子どものためのあそびや芸術文化体験と子どもの日常を結ぶことが子ども自身の育ちにとって大切だと考えています。
そこでは、子ども自身が参加して創り出す「瑞々しい子ども時代」「豊かな子どもの時間」を大人と一緒に生み出し、子どもの文化が豊かになることをめざしています。参加者は 0 才～80 代まで。様々な年令層の人たちで創ることが大切で、特に近年は、従来より行なってきた 4 才以上を対象としたプログラムの他に、0 才～ 3 才までの子どもとその親たちの芸術文化体験を通した子育ての協同のひろばを毎月開催しています。これまでに学校プログラムでは、造形や表現、ラテン音楽、落語などの授業を実施しています。

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

https://www.children-art.net/
2000 年より、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動を実施してきました。主軸となる「ASIAS（＝Artist's Studio In A School：エイジアス）」という活動では、公立の小・中学校（特別支援学級含む）、特別支援学校、幼稚園、保育園、児童養護施設等へアーティストを派遣。先生や職員の方と協力しながらワークショップ型の授業等を実施しています。
横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラムでは、2007 年度より授業のコーディネートを担当しています。これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスやパフォーマンス創作などの授業を実施しています。

ART LAB OVA

https://www.facebook.com/artlabova
『ART LAB OVA』は、1996 年に発足したアーティストによる非営利のグループです。
2010 年～拠点を多文化な下町にある映画館の 1 階に移し、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、多様な人々が交流をできるアートプロジェクトを展開しています。これまでに学校プログラムでは、造形などの授業を実施しています。

民族歌舞団　荒馬座

http://www.araumaza.co.jp/
荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。これまでに学校プログラムでは、和太鼓やソーラン節などの授業を実施しています。

アートの時間

https://www.facebook.com/artnojikan.totsuka
アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・美術・ダンスといった分野のアートイベントやアートプログラムの企画運営をやっています。大きなホールや劇場では味わえないアーティストの息遣いまで感じられるような場づくりを目指しています。特に学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、

アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。これまでに学校プログラムでは、ガムランや身体表現、コンテンポラリーダンス、ヒップホップなどの授業を実施しています。

特定非営利活動法人
Offsite Dance Project

http://www.offsite-dance.jp

Offsite（オフサイト）は、「日常の場を離れて」の意。Offsite Dance Project は、劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして 2008 年 3 月に結成。2009 年 6 月 NPO 法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセシビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009 年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいる。これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスや邦楽、音楽創作などの授業を実施しています。

認定 NPO 法人あっちこっち

http://www.acchicocchi.com

2011 年 8 月に芸術で社会貢献を考え実行する市民団体として横浜で発足。以来、芸術を通じた社会貢献活動や国際交流事業を行う。特に東日本大震災および熊本地震被災地支援として現地の仮設住宅世帯向けの施設や小学校、保育園、介護施設などで、コンサートやワークショップをほぼ毎月提供。生活に寄り添えるような芸術で、人々の生活再生を後押しできるよう約 8 年間に東北・熊本で 200 回強開催している。海外のカンパニーと共同制作や国際教育音楽祭の制作なども担当。コンサートやワークショップを担当するのは才能ある若手アーティストたち。芸術を届けたいアーティストとそれを必要とする人をつなげる役割を当法人が担っている。2015 年第 9 回かながわ子ども・子育て支援大賞特別賞受賞。これまでに学校プログラムでは、合唱や邦楽、オペラ、作曲などの授業を実施しています。

特定非営利活動法人
横浜シティオペラ

http://www.cityopera.jp/

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住・在勤の音楽家 30 名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成 3 年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの 3 本による『神奈川オペラフェスティバル』を 28 年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993 年に神奈川文化賞、1995 年に横浜文化賞を受賞。これまでに学校プログラムでは、オペラなどの授業を実施しています。

鶴見区民文化センター
サルビアホール

http://www.salvia-hall.jp/

2011 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設。通常時 548 名を収容し、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100 名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えています。貸館業務・自主事業制作を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校等においても多角的な活動を目指しています。

自主事業の中ではサルビア・アーティストバンクを活用した公演を行っており、特に音楽系プログラムにおけるご協力ができるものと思います。それ以外にも、他文化施設、文化団体とのネットワークを活かして多彩なアーティストのコーディネートをさせていただきます。これまでに学校プログラムでは、金管五重奏、箏、美術造形、身体表現などの授業を実施しています。

神奈川区民文化センター
かなっくホール

http://kanack-hall.info/

かなっくホールは 2004 年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質な芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、ホールが「まちの広場」となり、普段知り合えない人々が芸術文化を介して知り合いとなり、普段持たない役割や可能性を見出し、生活の質の向上を図ります。展開する事業は、学校のクラブ活動に見立てた、大人も子どもも楽しんで学びの場となる「かなっくキッズクラブ」のほか、クラシック音楽部、JAZZ 部、演劇部、ダンス部、ワークショップ部等々の部に宮沢賢治の会やリビングコンサートの会など特色のある会をシリーズ化し継続します。また、全館を開放して実施する「KIDS DAY!」や「ブルクミュラーフェスティバル」などの大掛かりな参加事業や公立学校へのアウトリーチへも力を入れ、神奈川区の皆様から頼られ求められる文化施設を目指します。これまでに学校プログラムでは、邦楽や狂言、合唱、ワールドミュージックなどの授業を実施しています。

港南区民文化センター
ひまわりの郷

http://himawari-sato.com

私共、京急グループ共同企業体は平成 18 年度より、指定管理者として、上大岡の中心にある「港南区民文化センター」を運営してまいりました。地域の方々のニーズに答えながら、年間 50 本程度の様々な事業を展開しております。子どもからシニアまで幅広い年齢層に対応するコンサートや体験型イベントを行なっています。（低料金で質の高いクラシックコンサート、乳児も対象の親子で楽しむ音楽コンサート、シニアを対象にした日本の伝統芸能（邦楽、落語）、小・中・高生のストリートダンスコンテスト他）。これまでに学校プログラムでは、民族音楽や落語、合唱、バンドネオンなどの授業を実施しています。

旭区民文化センター
サンハート

http://www.sunheart.info/

旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。

多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」は美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えています。〜人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート〜をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。これまでに学校プログラムでは、ミュージカルやゴスペル、演劇創作、木炭画などの授業を実施しています。

磯子区民文化センター 杉田劇場

https://www.sugigeki.jp

磯子区民文化センター杉田劇場は2005年2月5日に開館しました。以来、磯子の地域力・区民力を活かし、文化の力で地域や人を繋ぎ、住み続けたくなるまちづくりに貢献する「区民文化センター」を目指しています。地域のみなさまが集い、繋がり、さらに広がる“地域の文化拠点”として様々な形で“地域と一緒にできること”に取り組んでいます。これまでに学校プログラムでは、箏や声楽、邦楽、身体表現などの授業を実施しています。

緑区民文化センター
みどりアートパーク

http://midori-artpark.jp

みどりアート＆メディアパートナーズは、神奈川新聞社、ｔｖｋコミュニケーションズ、（公財）横浜市芸術文化振興財団、ジャパントータルサービスの四者により構成され、2019年4月より指定管理者として、それぞれの得意分野を相乗的に発揮しながら、緑区民文化センター（みどりアートパーク）を拠点とした地域の芸術文化振興ならびに施設の管理運営にあたっていきます。具体的な事業展開に当たっては、地域の歴史・地理資産や特色を生かし、さまざまな市民活動団体との協働、行政との連携により、市民の視点を尊重した多文化交流と創造の拠点となることを目指していきます。これまでに学校プログラムでは、邦楽や絵画、落語などの授業を実施しています。

青葉区民文化センター
フィリアホール

http://www.philiahall.com

フィリアホールは1993年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの主催・共催公演を年間約50回開催し、また、音楽愛好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。

ファミリー・コンサートや 0〜3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007年度からは青葉区・緑区の公立小学校への訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。これまでに学校プログラムでは、打楽器やチェロ、サクソフォン、馬頭琴などの授業を実施しています。

戸塚区民文化センター
さくらプラザ

https://totsuka.hall-info.jp/

さくらプラザは、2013年8月開館の芸術文化施設です。

戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普及・支援をおこないます。

本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施します。そこに暮らす人々が文化芸術に触れる時間と空間を創造し、区民のステイタスの向上に貢献します。これまでに学校プログラムでは、邦楽、和太鼓、落語、演劇創作などの授業を実施しています。

栄区民文化センター リリス

http://www.lilis.jp

1998年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。

また、2007年度より継続して実施している「アウトリーチコンサート」や、0歳から楽しめる「ファミリーコンサート」、気軽に参加できる「リリス藝術大学」や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。これまでに学校プログラムでは、歌唱や作曲、サックス四重奏、打楽器などの授業を実施しています。

泉区民文化センター
テアトルフォンテ

http://www.theatre-fonte.com/

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。

見る・演じる・創る―この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。

一般公募の市民が出演する市民参加型ミュージカルをはじめ、演劇・音楽・ダンスなどのワークショップの開催、内外で活躍するアーティストや専門家を招いてのコンサートや伝統芸能公演など、乳幼児からおとなまで楽しめる芸術鑑賞の場を提供するとともに、文化活動支援にも力を入れ、「ものづくり」を行う場所としての使命と役割を担っています。これまでに学校プログラムでは、合唱や身体表現、狂言、和太鼓などの授業を実施しています。

横浜美術館

https://yokohama.art.museum/

1989 年開館の横浜美術館は、みる、つくる、まなぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、創作体験を通した美術館教育普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムは、当館の市民のアトリエスタッフが担当します。現在活躍中のアーティストや美術館スタッフの話、デモンストレーション、創作体験を通してアートと美術館の活動に興味をお持ちいただき、この経験が、生徒の皆さんのより豊かな創作・鑑賞活動

につながればと考えています。これまでに学校プログラムでは、シネカリグラフィーや美術の造形、作品鑑賞、映像などの授業を実施しています。

横浜みなとみらいホール

https://mmh.yafjp.org/mmh/index.php
横浜みなとみらいホールは、「みなとみらい２１地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。
1998 年 2 月に小ホールが稼動を開始し、同年 5 月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間 600 回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。これまでに学校プログラムでは、ゴスペル、邦楽、ヴァイオリン、室内楽などの授業を実施しています。

横浜能楽堂

https://yokohama-nohgakudou.org/
本舞台は旧染井能舞台として長く親しまれてきた能舞台を復原したものです。この舞台は明治 8 年（1875 年）東京・根岸の旧加賀藩主前田斉泰（なりやす）邸に建てられ、後に東京・染井の松平頼寿（よりなが）邸に移築されて昭和 40 年まで広く利用されてきました。関東地方現存最古の舞台で、全国的に見ても 8 番目に古く、建築史上、能楽史上貴重なものです。
横浜能楽堂には本舞台の他にも研修室や練習、発表にご利用いただける第二舞台、展示廊などもあります。
展示廊では、能楽への理解を深めるため、装束や楽器など能楽にまつわるものを展示する常設展の他、臨時特別展を行っています。
本舞台での催しがないときは、本舞台（2 階客席）、展示廊を自由にご見学いただけます。
これまでに学校プログラムでは、狂言などの授業を実施しています。

横浜にぎわい座

http://nigiwaiza.yafjp.org/
横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大衆芸能の専門館として生まれました。かつて寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただく場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜にぎわい座は歩んできました。
芸能ホール（391 席）は、提灯を吊るした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月 1 日～15 日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。
施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が行っています。これまでに学校プログラムでは、落語などの授業を実施しています。

横浜赤レンガ倉庫１号館

https://akarenga.yafjp.org/
1913 年に創建された横浜赤レンガ倉庫 1 号館は、2002 年にリニューアルされ「芸術文化の創造発信」と「賑わいの創出」を目指した文化施設として運用されています。2・3 階は「ホール＆スペース」となっており、コンサートやギャラリーなどの貸出施設として、幅広いジャンルのイベントに使われています。
主催事業はコンテンポラリーダンスと現代アートを中心に展開し、芸術文化活動と賑わい創出を総合的に振興しています。
これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンス、演劇創作、ヒップホップなどの授業を実施しています。

横浜市民ギャラリー

http://ycag.yafjp.org/
横浜市民ギャラリーは開館５０年を機に関内から伊勢山に移転しました。活動としては市民の発表および制作の場として展示室やアトリエを貸し出す事業を運営するほか、今日の多様な表現をさまざまな視点で紹介する企画展やコレクション展、夏恒例の「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形を主体とする講座「ハマキッズ・アートクラブ」、大人を対象にした講座などの自主事業を行っています。また、市内の美術展覧会情報を網羅した情報誌『アートヨコハマ』を発行するなど、市民の活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。 これまでに学校プログラムでは、美術造形やアニメーション、デザインなどの授業を実施しています。

横浜市民ギャラリーあざみ野

http://artazamino.jp/
横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。これまでに学校プログラムでは、衣装製作、アニメーション、金属工芸、コンテンポラリーダンスなどの授業を実施しています。

横浜市市民文化会館　関内ホール

http://kannaihall.jp/
芸術文化の楽しさと感動を幅広く提供し、市民に親しまれる文化の拠点を目指して活動しています。
◆主な自主事業
・陽だまりコンサート（気軽に楽しめるクラシックコンサート）
・関内寄席（柳家小三治師匠、他）
・馬車道ショートパフォーマンスライブ（若手アーティスト支援）
これまでに学校プログラムでは、箏、邦楽などの授業を実施しています。

横浜市吉野町市民プラザ

http://www.yoshinoplaza.jp/
吉野町市民プラザは、地域の身近な文化施設としてホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習等で多くの方にご利用いただいております。
地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざ

した活動を行っています。これまでに学校プログラムでは、和太鼓や箏、コンテンポラリーダンス、弦楽器などの授業を実施しています。

横浜市岩間市民プラザ

http://www.iwamaplaza.jp
横浜市岩間市民プラザは、保土ケ谷区の天王町駅そばに立地する文化施設です。上映会・コンサート・発表会など、様々な目的に使用できる 181 席のホールの他に、音楽練習ができる大小 4 つのスタジオ、 会議や講座に最適なレクチャールーム、ギャラリー、リハーサル室を備えています。
また、「午前の音楽会」などをはじめとしたコンサートや、映画の上映会の他にも、横浜ビジネスパークや橘樹神社への出前公演なども行うなど、地域に密着した自主事業を数多く行っています。
これまでに学校プログラムでは、日本舞踊、邦楽、美術造形、紙芝居などの授業を実施しています。

横浜市大倉山記念館

http://o-kurayama.com/
横浜市大倉山記念館は、横浜市民の皆様に低料金でご利用いただける文化施設です。ギリシャ神殿を思わせる外観に、荘厳なエントランス、東洋を象徴する木組みを用いた部屋も有り、横浜市指定有形文化財に指定されています。映画やテレビ、CMなどの撮影にも数多く利用されている他、館内はご見学いただけます。館内の各施設は、小規模な音楽会、研修会、会議、趣味サークルなどに適しており、回廊式のギャラリーは、絵画、生花などの展示にご利用いただけます。これまでに学校プログラムでは、声楽や身体表現、民族音楽、ミュージカルなどの授業を実施しています。

横浜市 長浜ホール

http://www.nagahama-hall.com/
長浜野口記念公園内にある長浜ホールは、横浜検疫所長浜措置場のシンボルであった旧事務棟を外観復元し、音楽を中心とした文化活動にご利用いただけるホールです。また、世界的に有名な野口英世博士ゆかりの旧細菌検査室があります。野口英世博士に関連した研究施設としては日本の現存する唯一の施設で、自由に見学いただけます。104 席の可動式客席と移動式の音響反射板を有するホールは、室内楽コンサート、ピアノ、コーラスの発表会など小規模な音楽活動や文化活動にご利用いただけます。年間を通じ、様々なコンサートを自主事業として開催しており、地域の文化を発信し続けています。これまでに学校プログラムでは、ゴスペルや美術造形、オペラ、民族音楽などの授業を実施しています。

久良岐能舞台

http://www.kuraki-noh.jp/
横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会等、市民に開かれた能舞台として利用されています。
四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。
株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理、ホール運営事業を推進しております。そんな中で平成 18 年 9 月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より受託しております。一年間に自主事業を 10 公演程開催しており、秋にはメセナ活動として近隣地区小学校を無償招待する小学校向け狂言鑑賞教室を開催する等、地域から愛される能舞台を目指して活動しております。これまでに学校プログラムでは、狂言などの授業を実施しています。

象の鼻テラス

https://www.zounohana.com/
象の鼻テラスは、横浜市・開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。
横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースを兼ね備えたレストハウス（休憩所）として、横浜市が推進する新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。
開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーミングアーツ、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。
併設した象の鼻カフェでは、文化プログラムに連動したメニューの提供などを行っています。これまでに学校プログラムでは、美術造形や作曲、ミュージカル、身体表現などの授業を実施しています。

急な坂スタジオ

https://kyunasaka.jp/
急な坂スタジオは、舞台芸術（現代演劇・ダンスなど）の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。
元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小 5 つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。
また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。これまでに学校プログラムでは、コンテンポラリーダンスや演劇創作などの授業を実施しています。

神奈川県立音楽堂

https://www.kanagawa-ongakudo.com/
神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。
ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは人々に感動をあたえつづけています。2019 年、開館 65 周年を迎えました。これまでに学校プログラムでは、雅楽、箏などの授業を実施しています。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

（公財）横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の推進を図り、もっとゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成 14 年度に設立されました。平成 16 年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、ＳＴスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・義務教育学校・特別支援学校において実施しています。協働推進グループは、横濱 JAZZ PROMENADE を主軸としたコーディネータとして参画・アーティストを講師として派遣し、主に音楽（舞踊、伝統芸能等も対応）の授業を実施しています。これまでに学校プログラムでは、箏、合唱、謡曲、ゴスペルなどの授業を実施しています。

認定 NPO 法人　ＳＴスポット横浜

https://stspot.jp/

ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内外で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。

平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教育委員会との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。

平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。これまでに学校プログラムでは、演劇創作、現代音楽、コンテンポラリーダンス、現代美術などの授業を実施しています。

【　　】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 31 年度　学校プログラム　募集要項

～小学校・義務教育学校前期課程の先生方へ～

アーティストが学校へ

第一次募集〆切：平成３１年３月１５日（金）

第二次募集〆切：平成３１年４月５日（金）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜市文化観光局

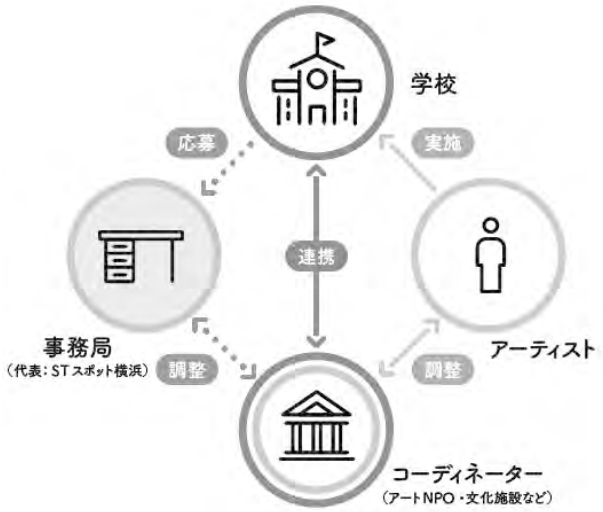
横浜市教育委員会

１．学校プログラムの概要

（1）学校プログラムとは？

アーティストが、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした、子どものための芸術文化・教育事業です※。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティスト（芸術家）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、事前に実施内容を調整します　学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生がもっている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。



アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします　私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

※横浜市芸術文化教育プラットフォームとしては平成 20 年度より実施しています。

（2）学校プログラムには、２つの種類があります。

体験型プログラム　２～３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

２．学校プログラムの募集内容

（１）応募資格と対象

横浜市立の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校が対象です。なお、応募できるのは、原則として各学校１校で１プログラムのみです。昨年に引き続いての事業実施も可能です。

（２）プログラムの種類

「体験型プログラム」「鑑賞型プログラム」の２種類（詳細は２ページ）あわせて、全 130 校程度、採択する予定です。なお、これまでの取組事例の一部は、プラットフォームのウェブサイト(https://y-platform.org/)でも公開しています。

（３）募集期間と申込み方法

平成 31 年 2 月 1 日(金)から 3 月 15 日(金)（第一次〆切）まで。その後、空きがある場合は、4 月 5 日（金）（第二次〆切）まで募集を続けます。メール添付かＦＡＸで、事務局へ別添の調書をお送りください。横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイト（https://y-platform.org/）でも募集要項と実施希望調書のダウンロードが可能です。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の平成 31 年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

（４）募集にあたっての留意点

・先着順ではありません。
・実施希望が想定校数を上回った場合には、個別に調整させていただきます。
・コーディネーターやアーティストを、応募の際に指定することはできません。
・詳細は、実施決定後、コーディネーターと話し合っていただきます。
・コーディネーターやアーティストの謝金と交通費は、事務局が負担します。消耗品や材料などは、学校側に負担していただく場合もあります。詳しくは、実施決定後にコーディネーターとご相談ください。
・過去に取組を行った学校の場合、以前実施した内容と同様の取組が行われるとは限りません。
・このプログラムは、学校が計画して行う教育活動の一環で実施するものです。

取組のイメージを
映像でご覧いただけます！
横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイトでは、学校プログラムの映像を公開しています。各ジャンルの取組の様子をご覧いただけます。応募の参考にしていただければ幸いです。
https://y-platform.org/

平成 31 年度の横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、各学校での［音楽系］プログラムの取組を、応援します。

横浜市芸術文化教育プラットフォームでは、平成 31 年度に開催される音楽フェスティバル「横浜音祭り２０１９」のクリエイティブ・チルドレン（次世代育成事業）と連動して、音楽づくり・創作や歌唱などをはじめとした［音楽系］プログラムを応援するため、これらの取組を希望する学校を優先的に採択する予定です。

これまで［音楽系］プログラムに取り組んでいなかった学校も、ぜひ応募をご検討ください。

想定する取組

【平成 31 年度学校プログラム・体験型スペシャル版】
年間を通した取組をもとにして、アーティストとともに
オリジナルの歌づくりと合唱のワークショップを行い、
その成果を発表します。発表形態（学習発表会、卒業式等）
も含めて、コーディネーターと相談しながら進めていきます。

※実施回数：６回程度（クラス数等に応じて変動します）、
募集校数：４校程度を想定。

応募方法　募集要項内の「実施希望調書」の欄に必要事項を記入の上、希望選択の欄の「体験型スペシャル版（音楽６回程度）を第一希望で申込みます。」のところに、☑をして、第一次〆切日（平成 31 年 3 月 15 日（金））までにお申込みください。記入いただいた内容をもとに、事務局から取組の方向をご提案します。

これまでの取組　平成 30 年度は、46 校の小・中・特別支援学校で［音楽系］プログラムを実施予定です。事例の一部は『横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラムのご案内』に掲載しています。

参考資料

横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領　音楽科編「第５章　指導計画の作成等に関する配慮事項」より、「芸術文化教育プラットフォーム」の取組に関わる部分の抜粋

○　生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるようにするために、地域や学校の実態に応じ、学校内及び公共施設などの場所で行われる学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようなカリキュラムにしていくことが大切です。

○　音楽は、その背景となる文化や歴史、他の芸術から大きな影響を受けており、それが音楽の特徴となって表れていることが多くあります。それらを単に知識として理解することにとどまらないようにすることが大切です。

○　我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、人々の生活や文化と関わって伝承されてきたという特質を踏まえながら、知識及び技能の習得に偏ることなく、そのよさなどを十分に感じ取って表現したり鑑賞したりできるように、指導方法を工夫する必要があります。

○　音楽科の目標にある「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」の実現に向けて、音楽科で学んだことやその際に行った音楽活動と、学校内外における様々な音楽活動とのつながりを児童生徒が意識できるようにすることが重要です。

○　地域に居住している音楽家や地域に伝わる郷土音楽の継承者の方々など、音楽に携わる様々な人的・物的資源を効果的にカリキュラムに取り入れていくことが、社会に開かれた教育課程を実現することにつながります。

３．今後のスケジュール

募集（２月１日（金）～第一次〆切：３月１５日（金）、第二次〆切：４月５日（金）まで）
この冊子の最後にある希望調書をお送りください。

事務局による実施校の調整（３月～４月）
一部の学校に対して、訪問・電話などの方法でヒアリングを実施する場合があります。より詳しいご希望をお知らせください。31 年度に実施しますので、ご担当者が変更になる場合は、確実な引き継ぎをお願いします。

実施校への決定通知（５月より順次）
事務局と学校とで、簡単な取り決めの文書を交わし、実施を決定します。その際、コーディネーターをお知らせします。

実施に向けての調整（５月より順次）
担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

アーティストの決定、実施内容の調整（随時）
学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します（その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります）。

プログラム実施
打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 31 年度（おおむね平成 31 年６月から、平成 32 年３月まで）の実施となります。

アンケートの実施、記録写真・映像などの確認、簡易な報告書の提出（実施後２週間程度）
プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

※詳細は、取組実施校の通知の際にお知らせします。

４．実施希望調書の記入例

平成 31 年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	西区　　プラットフォーム小学校　　★★★★　　校長
担当教諭名	◎◎◎◎　　ふりがな　　〇〇〇〇 (担当が決まっていない場合は、校長先生のお名前をご記入ください)　　(e-mail: toiawase@y-platform.org)
連絡先	TEL：　１２３　　―　１２３４　　FAX：　５６７　　―　５６７８
学校の現状 学校プログラムに応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	**本校ではコミュニケーション能力の育成に力を入れた学校づくりを行っています。その中で、来年の２年生は、落ち着きがあって、物事を慎重に進める半面、引っ込み思案でなかなか自分の考えや気持ちを表現することが得意ではない子どもたちが多いように見受けられます。**
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	☐表現力　☑コミュニケーション能力　☐創造力　☐想像力　☐感受性　☐集中力 ☐協調性　☐共感力　☐言語力　☐その他（　　） **この体験を通して、普段とは違う自分、そして友だちに気が付き、お互いをより理解しあいながら、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てるきっかけになればと考えています。◎教科等のねらいやかかわりも含めて、お書きください。**
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいか、お書きください。	**演劇やダンスといった体を動かすジャンルの体験型、または音楽の鑑賞型を希望します。体を動かして、言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いを恥ずかしがらずに伝える体験をさせてあげたいと思っています。またみんなで活動を行うことで、一体感を味わうことができればと思います。**
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、 ☑体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 ☐体験型スペシャル版（音楽６回程度）を第一希望で申込みます。 ☐鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。

	体験型	鑑賞型
予定教科等 ※複数選択可。	☐音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☑国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☑体育・保健体育 ☐外国語活動　☑道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）	☑音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☐国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☐体育・保健体育 ☐外国語活動　☐道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	☐音楽系　☐美術系 ☑演劇系　☑ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）	☑音楽系　☐美術系 ☐演劇系　☐ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	2年生　2クラス、参加者数　76　人	2年生　2クラス、参加者数　76　人

実施可能時期 ※可能な月に〇をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			〇	〇	〇	〇	〇		

５．お問合せ・お申込み

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の平成 31 年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォームとは？

横浜の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う機会を拡大するために、横浜などで活動を続けるアート NPO や芸術団体、地域の文化施設を中心に、学校、アーティスト、企業、地域、市民、行政などがゆるやかに連携・協働する場が芸術文化教育プラットフォームです。学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」を通じて、新しいアートの可能性をさぐっています。

申込み先：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局 [e-mail toiawase@y-platform.org] [FAX ３２５－０４１４]

※本様式は横浜市芸術文化教育プラットフォームのサイト（https://y-platform.org/）よりダウンロードできます。

平成31年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	区　　学校　　校長
担当教諭名	ふりがな　　(e-mail:　　)
連絡先	TEL：　　―　　FAX：　　―
学校の現状 応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	□表現力　□コミュニケーション能力　□創造力　□想像力　□感受性　□集中力 □協調性　□共感力　□言語力　□その他（　　）
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいかお知らせください。	
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、 □体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 □体験型スペシャル版（音楽６回程度）を第一希望で申込みます。 □鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。

	体験型	鑑賞型
予定教科等 ※複数選択可。	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	年生　　クラス、参加者数　　人	年生　　クラス、参加者数　　人

実施可能時期 ※可能な月に○をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 31 年度　学校プログラム　募集要項

～中学校・義務教育学校後期課程・特別支援学校の先生方へ～

アーティストが学校へ

第一次募集〆切：平成３１年３月１５日（金）

第二次募集〆切：平成３１年４月５日（金）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜市文化観光局

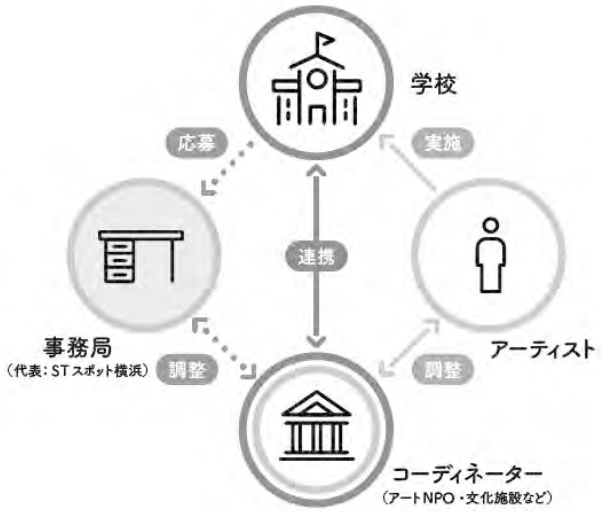
横浜市教育委員会

１．学校プログラムの概要

（1）学校プログラムとは？

アーティストが、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした、子どものための芸術文化・教育事業です※。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍しているアーティスト（芸術家）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、事前に実施内容を調整します　学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生がもっている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。



アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします　私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

※横浜市芸術文化教育プラットフォームとしては平成 20 年度より実施しています。

（2）学校プログラムには、２つの種類があります。

体験型プログラム　２～３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

２．学校プログラムの募集内容

（１）応募資格と対象

横浜市立の小学校、中学校、義務教育学校及び特別支援学校が対象です。なお、応募できるのは、原則として各学校１校で１プログラムのみです。昨年に引き続いての事業実施も可能です。

（２）プログラムの種類

「体験型プログラム」「鑑賞型プログラム」の２種類（詳細は２ページ）あわせて、全 130 校程度、採択する予定です。なお、これまでの取組事例の一部は、プラットフォームのウェブサイト(https://y-platform.org/)でも公開しています。

（３）募集期間と申込み方法

平成 31 年 2 月 1 日(金)から 3 月 15 日(金)（第一次〆切）まで。その後、空きがある場合は、4 月 5 日（金）（第二次〆切）まで募集を続けます。メール添付かＦＡＸで、事務局へ別添の調書をお送りください。横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイト（https://y-platform.org/）でも募集要項と実施希望調書のダウンロードが可能です。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の平成 31 年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

（４）募集にあたっての留意点

・先着順ではありません。
・実施希望が想定校数を上回った場合には、個別に調整させていただきます。
・コーディネーターやアーティストを、応募の際に指定することはできません。
・詳細は、実施決定後、コーディネーターと話し合っていただきます。
・コーディネーターやアーティストの謝金と交通費は、事務局が負担します。消耗品や材料などは、学校側に負担していただく場合もあります。詳しくは、実施決定後にコーディネーターとご相談ください。
・過去に取組を行った学校の場合、以前実施した内容と同様の取組が行われるとは限りません。
・このプログラムは、学校が計画して行う教育活動の一環で実施するものです。

取組のイメージを
映像でご覧いただけます！
横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイトでは、学校プログラムの映像を公開しています。各ジャンルの取組の様子をご覧いただけます。応募の参考にしていただければ幸いです。
https://y-platform.org/

３．今後のスケジュール

募集（２月１日（金）～第一次〆切：３月１５日（金）、第二次〆切：４月５日（金）まで）
この冊子の最後にある希望調書をお送りください。

事務局による実施校の調整（３月～４月）
一部の学校に対して、訪問・電話などの方法でヒアリングを実施する場合があります。より詳しいご希望をお知らせください。31 年度に実施しますので、ご担当者が変更になる場合は、確実な引き継ぎをお願いします。

実施校への決定通知（５月より順次）
事務局と学校とで、簡単な取り決めの文書を交わし、実施を決定します。その際、コーディネーターをお知らせします。

実施に向けての調整（５月より順次）
担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

アーティストの決定、実施内容の調整（随時）
学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します（その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります）。

プログラム実施
打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 31 年度（おおむね平成 31 年６月から、平成 32 年３月まで）の実施となります。

アンケートの実施、記録写真・映像などの確認、簡易な報告書の提出（実施後２週間程度）
プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

※詳細は、取組実施校の通知の際にお知らせします。

４．実施希望調書の記入例

平成 31 年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	西区　　プラットフォーム小学校　　★★★★　　校長							
担当教諭名	◎◎◎◎　　ふりがな　　〇〇〇〇 (担当が決まっていない場合は、校長先生のお名前をご記入ください)　　(e-mail: toiawase@y-platform.org)							
連絡先	TEL：　１２３　　―　１２３４　　FAX：　５６７　　―　５６７８							
学校の現状 学校プログラムに応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	**本校ではコミュニケーション能力の育成に力を入れた学校づくりを行っています。その中で、来年の２年生は、落ち着きがあって、物事を慎重に進める半面、引っ込み思案でなかなか自分の考えや気持ちを表現することが得意ではない子どもたちが多いように見受けられます。**							
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	☐表現力　☑コミュニケーション能力　☐創造力　☐想像力　☐感受性　☐集中力 ☐協調性　☐共感力　☐言語力　☐その他（　　） **この体験を通して、普段とは違う自分、そして友だちに気が付き、お互いをより理解しあいながら、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てるきっかけになればと考えています。◎教科等のねらいやかかわりも含めて、お書きください。**							
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいか、お書きください。	**演劇やダンスといった体を動かすジャンルの体験型、または音楽の鑑賞型を希望します。体を動かして、言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いを恥ずかしがらずに伝える体験をさせてあげたいと思っています。またみんなで活動を行うことで、一体感を味わうことができればと思います。**							
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、 ☑体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 ☐鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。							
	体験型					**鑑賞型**		
予定教科等 ※複数選択可。	☐音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☑国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☑体育・保健体育 ☐外国語活動　☑道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）					☑音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☐国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☐体育・保健体育 ☐外国語活動　☐道徳　☐自立活動　☐特別活動 ☐ その他（　　）		
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	☐音楽系　☐美術系 ☑演劇系　☑ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）					☑音楽系　☐美術系 ☐演劇系　☐ダンス系 ☐伝統芸能系　☐その他（　　）		
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	2年生　2クラス、参加者数　76　人					2年生　2クラス、参加者数　76　人		
実施可能時期 ※可能な月に〇をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			〇	〇	〇	〇	〇		

５．お問合せ・お申込み

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＵＲＬ：https://y-platform.org/
ＴＥＬ：０４５－３２５－０４１０　ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４

※本事業は、横浜市の平成 31 年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォームとは？

横浜の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う機会を拡大するために、横浜などで活動を続けるアート NPO や芸術団体、地域の文化施設を中心に、学校、アーティスト、企業、地域、市民、行政などがゆるやかに連携・協働する場が芸術文化教育プラットフォームです。学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」を通じて、新しいアートの可能性をさぐっています。

申込み先：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局 [e-mail toiawase@y-platform.org] [FAX ３２５－０４１４]

※本様式は横浜市芸術文化教育プラットフォームのサイト（https://y-platform.org/）よりダウンロードできます。

平成31年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	区　　学校　　校長
担当教諭名	ふりがな　　(e-mail:　　)
連絡先	TEL：　　―　　FAX：　　―
学校の現状 応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	□表現力　□コミュニケーション能力　□創造力　□想像力　□感受性　□集中力 □協調性　□共感力　□言語力　□その他（　　）
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいかお知らせください。	
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、 □体験型（３日程度）を第一希望で申込みます。 □鑑賞型（１日程度）を第一希望で申込みます。

	体験型	鑑賞型
予定教科等 ※複数選択可。	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□自立活動　□特別活動 □ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）	□音楽系　□美術系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	年生　　クラス、参加者数　　人	年生　　クラス、参加者数　　人

実施可能時期 ※可能な月に○をつけてください。	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

重要書類

２０２０年３月３１日までなくさずに保管してください

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学校プログラムのすすめかた
実施マニュアル＋学校報告書様式

実施校の先生のために｜　令和元年度版

https://y-platform.org

【もくじ】

①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... プラットフォームの「学校プログラム」とは？
③..... 年間の実施の流れ
④..... 実施終了後に、学校が行うこと
⑤..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先
様式.... 子どもたちへのアンケート（全１枚）
様式.... 学校向け実施報告書（全２枚）
様式.... 横浜市庁内メール便の宛名

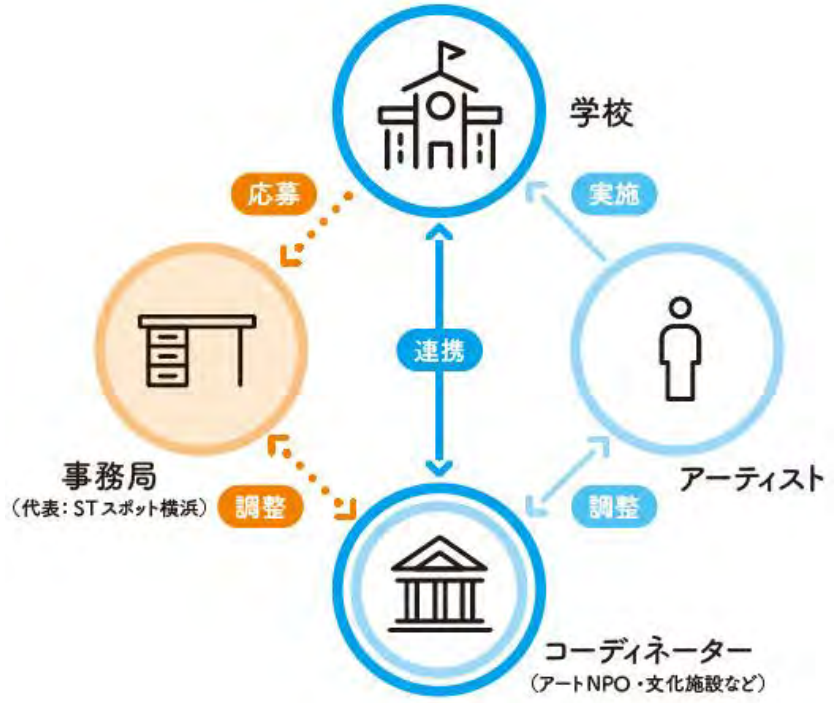
企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会）

1 横浜市芸術文化教育プラットフォーム 概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
（２）さまざまな実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

各学校は、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じた効果的なプログラムを考えます。
アートＮＰＯや文化施設などは、コーディネーターとして学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたプログラムを実施します。
また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



令和元年度のコーディネーター ※順不同。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】Media Global、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫１号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂

【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 プラットフォームの「学校プログラム」とは？

私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします。

(1)学校プログラムとは？

芸術家が、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家（アーティスト）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、実施内容を調整します　ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生がもっている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。

(2)学校プログラムには、2つの種類があります。

体験型プログラム　３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともにさまざまなジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組は１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能などの鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

実施にあたっては、事務局が選定したコーディネーターが、学校からの要望（実施日程、実施内容など）を聞き取り、最適な実施内容となるよう、先生やアーティストと調整を行います。

3 年間の実施の流れ

年間のスケジュールの流れは、次のとおりです。

(1)事務局→実施校へ決定の通知(5月末まで)

事務局から学校に、実施の決定通知を出します。その際、コーディネーターをお知らせします。

(2)実施に向けて、学校⇔コーディネーター間での調整(6月より順次)

担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

□ 目標の設定と具体的な授業イメージの共有
□ 授業を実施する学年、内容、時期などの再確認
□ 複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に２組、５・６時間目に１組、など）

メモ 事前に年間行事予定表などを用意しておくと、やりとりがスムーズになります。毎年、1～2 月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

(3)アーティストの決定、実施内容の調整(随時)

学校と調整のうえ、コーディネーターがアーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します。その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります。その際学校で用意できるもの（例：画用紙など）については、ご協力ください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

□ 学校で用意するもの、コーディネーターが用意するものの確認
□ 実施場所や控室などの確認
□ 昼食は、どこでどのようにとるかの確認
□ 子どもたちに対して、事前に取組についてどう説明するか
□ 活動記録写真の撮影方法、許諾の取り方などについての確認

(4)プログラム実施

打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、令和元年度（おおむね 2019 年 6 月から 2020 年 3 月まで）の実施となります。

(5)アンケートの実施と集計、学校向け実施報告書提出など(実施後2週間程度までに)

次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。プログラムの改善点やアドバイスなどをお知らせいただけると幸いです。

□ 「子どもたちへのアンケート」の実施と集計 → 提出
□ 「学校向け実施報告書」の記入 → 提出
□ 活動記録写真の確認

※いずれも詳細は、次頁を参照してください。

4 実施終了後に、学校が行うこと

実施終了後に、学校が行うことは次の3点です。お手数ですが、ご協力をお願いします。

（1）「子どもたちへのアンケート」の実施と集計 → 提出

今後の事業の参考にしますので、今回の授業に参加した子どもたちにアンケートを実施してください。（※授業を実施した小学３年生以上の全児童・生徒が対象です。小学１・２年生、個別支援級、特別支援学校の子どもたちが対象の場合は、「子どもたちへのアンケート」の実施・提出は任意とします。）

① 別紙のひながたを、適宜印刷してアンケートを実施してください。
ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト（https://y-platform.org）よりダウンロードできます。

② 「学校向け実施報告書」１－（２）に、アンケートの集計結果をご記入ください。

③ すべてのアンケート用紙の原本を報告書送付先（下記参照）までお送りください。
なお、事務局からは返却しませんので、必要に応じて控えを取り、取組の振り返りに活用してください。点線以下の児童・生徒の氏名など切り取ってからお送りいただいても構いません。

（2）「学校向け実施報告書」の記入 → 提出

今後の事業の参考にしますので、担当教諭の方は「学校向け実施報告書」をご提出ください。（今回の取組にいちばん深くかかわった教員の方、１名がご記入ください。）

① 別紙のひながたに、ご記入ください。
ひながたは、学校便利帳、及びウェブサイト（https://y-platform.org）よりダウンロードできます。

②「子どもたちへのアンケート」の原本と共に、報告書送付先（下記参照）までお送りください。
なお、「学校向け実施報告書」は、メールでの提出も可能です。toiawase@y-platform.org までダウンロードしたファイルに回答をご記入のうえ、添付してお送りください。

（3） 活動記録写真の確認

担当コーディネーターが撮影した活動の様子の写真に対して、使用許諾の確認をお願いします。（５枚程度を想定しています）事務局への提出は、コーディネーターが行います。

アンケート・記録写真等の使用目的

いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。
（1）横浜市芸術文化教育プラットフォームの広報用資料（報告書、ウェブサイト）（2）横浜市及び当事務局の各種資料（3）横浜市及び当事務局主催事業（シンポジウム等）における配布用資料・紹介（4）翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示（5）担当コーディネーター・アーティストの資料（6）その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

アンケートおよび実施報告書の送付先・問合せ先

＜送 付 先＞ 横浜市 文化観光局 文化振興課　深谷祐人 宛
※最終ページの送付票を利用して、「庁内メール便」でご送付ください

＜問合せ先＞ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局（認定NPO法人STスポット横浜内）
TEL: 045-325-0410　FAX: 045-325-0414　E-mail: toiawase@y-platform.org

5 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

基本的な調整事項はコーディネーターが行いますが、問題が生じた場合は、プラットフォーム事務局にご相談ください。連絡先は、以下のとおりです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内
担当者：田中 真実（たなか・まみ）、高荷 春菜（たかに・はるな）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　〒220-0004
TEL: 045-325-0410　FAX: 045-325-0414
・プラットフォーム事務局として　https://y-platform.org　toiawase@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　https://stspot.jp　artedu@stspot.jp

横浜市教育委員会事務局　学校教育企画部小中学校企画課
担当者：中澤 務（なかざわ・つとむ）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3266　FAX: 045-664-5499

横浜市 文化観光局 文化振興課
担当者：頼政 佳緒里（よりまさ・かおり）、深谷 祐人（ふかや・ゆうと）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3714　FAX: 045-663-5606

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
担当者：鈴木 敦（すずき・あつし）、早見 史絵（はやみ・しえ）
神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル１階　〒231-0023
TEL: 045-221-0212　FAX: 045-221-0216

子どもたちへのアンケート――アーティストの授業について教えてください

1．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。

☐ 楽しみにしていた　☐ 楽しみではなかった　☐ 特に気にしていなかった

2．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。

☐ 楽しかった　☐ 楽しくなかった　☐ どちらでもなかった

理由（　　）

3．自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか。

☐ あった　☐ なかった

理由（　　）

4．今回のような授業をまた受けたいですか。

☐ 受けたい　☐ 受けたくない

5．今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。

学校　年　組　男・女　名前

学校向け実施報告書（全２枚）

１．今年度の事業報告として、一部を公開します。どうぞご協力ください。

（１）本紙をご記入いただく先生についてお知らせください。

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿学校

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　ふりがな：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回の取組の科目・教科名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）子どもたちのアンケートの集計結果をお知らせください。

１．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。
・楽しみにしていた･･････････････････････････････　　人
・楽しみではなかった････････････････････････････　　人
・特に気にしていなかった････････････････････････　　人

２．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。
・楽しかった････････････････････････････････････　　人
・楽しくなかった････････････････････････････････　　人
・どちらでもなかった････････････････････････････　　人
◆主な理由など

３．自分から楽しんだり、発見したりしたことはありましたか。
・あった･･　　人
・なかった･･････････････････････････････････････　　人
◆主な理由など

４．今回のような授業をまた受けたいですか。
・受けたい･･････････････････････････････････････　　人
・受けたくない･･････････････････････････････････　　人

５．今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。
◆主な記述など

（次のページに続きます）

（3）次に、担当の先生に子どもたちの様子についてお伺いします。今回の取組により、子どもたちにとって最も力がついたと思われる項目ひとつに◎印、そのほか力がついた項目に○印をご記入ください。

表現力	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	創造力	想像力	感受性	集中力	協調性	共感力	言語能力

（子どもたちのどんな様子を見てその力がついたと思いましたか。具体的にご記入ください。）

（4）今回の取組を通して、先生ご自身がアーティストによる授業を通して、感じたことをご記入ください。２００字程度でお願いします。

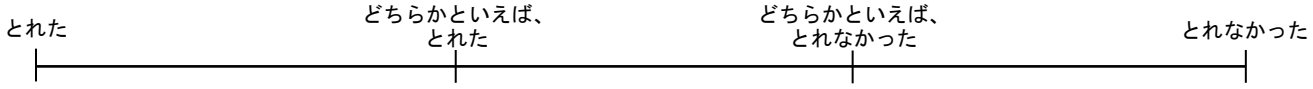
（教科・領域との関連／コーディネーターやアーティストとの連携／ご自身に影響があったこと／具体的な取組内容／今後の期待や希望　などについて、自由にご記入ください。）

（校長先生・副校長先生のご意見ご感想がありましたら、あわせてご記入ください。）

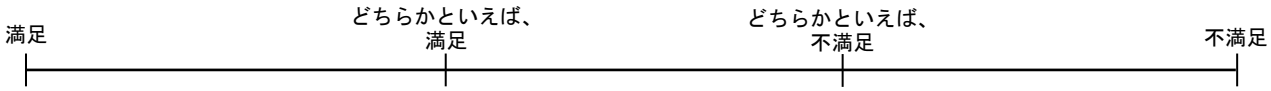
２．引き続き、担当の先生にお伺いします。以下の項目は、学校名、個人名が特定されない形で集計します。

（ここで回答いただいた内容は、来年度の選考とは関係がありません。率直なご意見をください）

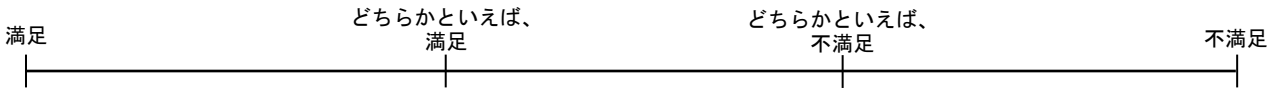
（1）実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか。



（2）子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか。



（3）先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか。



（4）運営面で問題点や改善すべき点がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

報告書などを横浜市庁内メール便で送付する際に、封筒に貼ってご利用いただけます。

----------（キリトリ）----------

横浜市庁内メール便（市メール）

送付先

横浜市　文化観光局　文化振興課
横浜市芸術文化教育プラットフォーム担当　深谷祐人　宛

発送者

学校名：横浜市立

担当者：

発送日：

内容物

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　学校報告書

アーティストが学校へ

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学 校 プ ロ グ ラ ム の す す め か た

コーディネーターのみなさんへ ｜ 令和元年度版

https://y-platform.org

【もくじ】

①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... 事業の進行スケジュール
③..... ステップ1 担当校調整：５月３１日まで
④..... ステップ2 実施打合せ：６月３日から
⑤..... ステップ3 中間報告：８月２日まで
⑥..... ステップ4 プログラムの実施：実施は年度内に
⑦..... ステップ5 プログラム終了後：1か月以内に報告
⑧..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会）

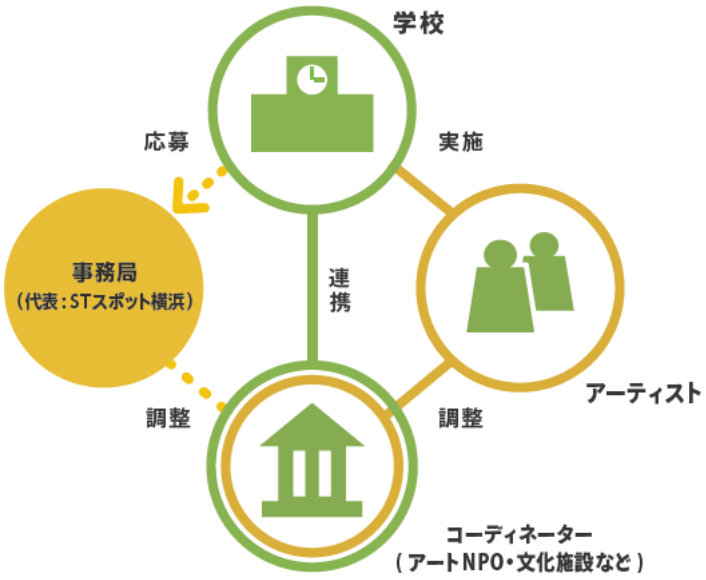
1 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化活動の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での芸術文化活動の位置付けを行うための体制づくり
（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校プログラムにおいて、各学校は子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じたプログラムを考えます。**アートＮＰＯや文化施設などは、コーディネーターとして学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたプログラムを実施します。**

また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会と連携し、年間を通して学校からの相談対応や、学校プログラムの募集業務等の調整を行います。



平成３０年度のコーディネーター　※順不同。令和元年度のコーディネーターは、ウェブサイトをご参照ください。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】Media Global、特定非営利活動法人 子どもに音楽を、特定非営利活動法人 横浜こどものひろば、特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、認定特定非営利活動法人 あっちこっち、特定非営利活動法人 横浜シティオペラ
【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、大倉山記念館、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、象の鼻テラス、長浜ホール、吉野町市民プラザ、岩間市民プラザ、横浜市市民会館 関内ホール、神奈川県立音楽堂、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫１号館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂
【事務局構成団体】公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ、認定特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 事業の進行スケジュール

学校での授業については、基本的に、アーティストの選定から、学校との交渉のタイミング、実施日程の決定など、多くの部分をコーディネーターにおまかせします。コーディネーター自身はもちろんのこと、学校にも、アーティストにとっても適切な事業進行管理をおねがいします。

年間のスケジュールは次のとおりです。授業の実施時期が９月以降の場合は、大まかに次のような進行になります（例外もあります）。

コーディネーター	時期	ＰＦ事務局
ステップ１　担当校調整：5 月 31 日まで 事務局と仕様などを確認の上、実施担当校を決定します。	3-4 月	一部の学校へ、ヒアリングを実施
	5 月	各コーディネーターと実施校の調整 下旬以降に、各学校に決定を通知
ステップ２　実施打合せ：6 月 3 日から 学校の担当者から希望を聞いてください。	7 月 4 日	コーディネーター会議を開催（@旭区民文化センターサンハート）
ステップ３　中間報告：8 月 2 日まで 実施日程とアーティスト選定について**中間報告**をお願いします。その後、順次、協定書として契約を締結します。	8 月	中間報告の取りまとめ 協定書の作成・締結
ステップ４　実施：3 月末までの任意の時期 とにかく楽しい内容になるよう、全力をつくしてください。 **ステップ５　終了後：1 か月以内に報告を** 終わったら、報告書・写真などをＰＦ事務局に送ってください。そのあと、事務局から指定口座に入金します。	9 月 10 月 11 月 12 月 1 月	各コーディネーターが担当している実施現場の一部を見学。順次、実施について記者発表。
	2 月	上旬に、次年度の募集開始
	3 月	次年度の実施校の調整

このほか、教師のためのワークショップ等を実施予定

事務局へ提出する書類

（1）団体プロフィール ……**5 月 31 日（金）**までに
（2）実施予定プログラムシート ·**8 月 2 日（金）**までに中間報告として
（3）報告書 ……終了後、1 か月以内に
（4）写真（5 枚程度） ……終了後、1 か月以内に

3 ステップ１ 担当校調整：５月３１日まで

＜担当校の内定＞

まず、担当していただく学校（担当校）について、事務局と打合せの上、仕様を含めた進行の手順を確認します。

＜団体プロフィールの提出について＞

コーディネーターの皆さんには「**団体プロフィール**」を作成していただきます。これは、学校への実施決定連絡の際に伝える情報以外に、ホームページや報告書に記載するプラットフォームの公開情報として、またコーディネーター間の情報共有手段として、１年間使われるものです。昨年度作成していただいたものがある場合は、そのまま使用いたします。内容の変更・改訂は随時お受けしますので、事務局までお知らせください。

【記入例】

■ウェブサイト・報告書などで公開する情報	
団体名／施設名	特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜
ＵＲＬ	http://stspot.jp/
主な活動ジャンル	□音楽　■演劇　■舞踊　□美術　□伝統芸能　□その他
団体 PR（200～300 字程度）	ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。 平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。 平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
■担当校と、他のコーディネーターも含めたプラットフォーム内部で共有する情報	
コーディネート担当者（ふりがな）	★★★★（×××・××××）、☆☆☆☆（＋＋＋・＋＋）
郵便番号	220-0004
住所	神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
日中連絡が取れる電話番号	045-325-0410
ＦＡＸ番号	045-325-0414
メールアドレス	artedu@stspot.jp
備考	

4 ステップ２ 実施打合せ：６月３日から

＜学校での打ち合わせに際して＞

学校への実施決定の通知が済んだ後、６月３日（月）以降、担当校へのご連絡をお願いします。なるべく夏休み前までに、電話でのやり取りや、実際に学校へ足を運ぶなどして、担当の先生と顔合わせ、打合せをお願いします。進め方は、各団体独自の方法で進めていただいて構いません。以下は参考です。

メモ　学校とのやり取りは、ファックスがいちばん確実です。電話は、放課後（１５時３０分以降）が繋がりやすいようです。また、メールは連絡の補助手段と考えたほうがいいようです。

学校との実施イメージの確認

・授業を実施する学年、内容、時期*などの再確認
・目標の設定
・複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に二組、５・６時間目に一組、など）

メモ　目標の設定については「からだを使った取組みをする」など、スローガン的なフレーズで合意しておくと、その後の進行の助けになる場合があります。先生が不安そうでしたら、一度紙に落とした上で確認をすると、問題点が明確になることがあります。

＊ 毎年、1～2 月の実施では、インフルエンザの流行や大雪の影響による日程変更が相次いでいます。学校・アーティストの両者と、予備日を設定するなどしておくと、いざというときに安心です。

アーティストとの実施イメージの確認

・事業の趣旨の説明
・取組むプログラムの検討と目標の設定
・スケジュール（移動、振り返りの時間も含めて）
・具体的な授業のイメージを膨らませる
・学校で用意するもの、コーディネーターまたはアーティストで用意するものの確認
・実施場所の確認
・謝金とアシスタントの有無について

メモ　アーティストが学校で取り組む上で不安を持っている場合は、顔合わせと学校の様子の見学を兼ねて事前に学校をおとずれてみるのもいいかもしれません。また、アーティストの公演・展示の機会があれば、先生をお誘いして伺うこともできるかもしれません。

実施に向けての最終確認

・写真撮影の許諾について（詳細は、ステップ４をご覧ください）
・実施場所の確認、着替えの場所や控室の確認
・昼食は、どこでどのようにとるかを確認（給食の変更はだいたい一週間前まで）
・子どもたちに対して、事前に取り組みについてどう説明するか

5 ステップ２ 中間報告：８月２日までに中間報告

＜実施予定プログラムシートの提出について＞

その後、学校側と実施に向けた調整を続け、８月２日（金）までに「実施予定プログラムシート」で、目標、実施日、アーティストなど決定・内定した状況をＰＦ事務局まで中間報告してください。

【記入例】

■学校	
学校名	横浜市立プラットフォーム第一中学校
担当教諭名	○○○○（１組担任）、△△△△（２組担任）、□□□□（美術）
■コーディネーター	
団体名	ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
コーディネート担当者名	★★★★、☆☆☆☆
■アーティスト	
アーティスト名	◆◆◆◆
アーティスト肩書	画家・漫画家
アーティストプロフィール（200 字程度）	1937(昭和 12)年、東京葛飾生まれ。子供のころからいくつものアルバイトを経験し、小学校卒業とともにメッキ工場に勤める。その後職を変わりながら、職業としてマンガ家をめざし、1955(昭和 30)年に単行本『白面夜叉』で本格デビュー。貸本マンガや子供向け雑誌で活躍。1965(昭和 40)年から「月刊漫画ガロ」に作品を発表し、徐々に注目を集めるようになる。独特な作風で知られ、寡作ではあるが、根強いファンを持つ。代表作に『ねじ式』『紅い花』『無能の人』などがある。
■実施予定概要	
ジャンル	美術
内容	デザイン
プログラム名	思いをマンガで伝えてみよう
実施日程・時程	2019 年　○月　○日(火)　　3 時限目　～　4 時限目
	2019 年　○月　○日(火)　　3 時限目　～　4 時限目
	2019 年　○月　○日(火)　　3 時限目　～　4 時限目
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
取り組む学年、クラス数	2 年生 2 クラス、特別支援学級 1 クラス
対象人数	60 人
学校・アーティスト・コーディネーター間で合意した目標（200 字程度）	吹き出し、コマ割り、あるいは絵が単純で感性に直接的に訴えるマンガの視覚表現方法を理解し、そのエネルギーを子どもたちに身につけてもらう。また、マンガを、イメージをはっきりさせるための一つの道具として捉えることで、対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。

＜契約について＞

上記の中間報告の内容に基づき、ＰＦ事務局とコーディネーターが協定書（契約）を締結します。

6 ステップ3 プログラムの実施：実施は年度内に

プログラムを実施する時期は、年度内の任意の時期で結構です。実施は、各団体におまかせします。
実施の際は、取材対応をお願いする場合もあります。
中間報告から、日程の変更、アーティストの変更等があった場合は、できるだけ事前に PF 事務局へお知らせください。

＜活動記録写真について＞

コーディネーターのみなさんには、活動記録写真を撮影した上で、事務局に送っていただきます。なるべく問題が起こらないよう、学校と慎重に打ち合わせをすすめてください。

学校への撮影許可のとり方

・基本的に、応募の段階で記録写真をとることを学校側は承諾していますが、個別事情の確認をお願いします。

メモ　記録写真の使用目的は、つぎのとおりです。いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。(1)横浜市芸術文化教育プログラム推進事業の広報用資料（報告書、ウェブサイト）(2)横浜市及び当事務局の各種資料 (3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介 (4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示 (5)担当コーディネーター・アーティストの資料 (6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

実際の撮影

・事前に学校と確認した内容に沿って、デジカメ等で写真を撮影してください。
・最終的に事務局にお送りいただく写真は５枚程度ですが、学校ＮＧを想定して、多めに撮影しておいてください。

メモ　撮影不可能な児童・生徒がいる場合は、（１）該当する子が入らないように撮影する、（２）撮影不可能な児童・生徒がいないクラスを撮影対象にする、（３）子どもたちの後ろ姿だけを撮影する、（４）事後確認をきちんと行う、の組み合わせで対応してください。また保護者の許諾が必要な場合、学級通信・学年通信での通知、保護者会での説明といった方法があることを学校側に提案してみてください。

撮影の確認

・取組終了後、撮影した写真を学校側に確認してもらってください。
・確認方法はいろいろありますが、（１）後日直接学校に行って確認してもらう、（２）写真をプリントアウトし郵送した上でＯＫをとる、などが考えられます。臨機応変に対応ください。
・最終的に５枚程度を、事務局までデータでお送りください。

メモ　学校側との調整が難航した場合は、事務局までお知らせください。

7 ステップ４ プログラム終了後：１か月以内に報告

＜アンケートについて＞

実施終了後に、先生たちが子どもたちにアンケートを実施します。<u>コーディネーター側では、アンケートを実施する必要はありません。</u>

＜提出物：実施報告書、写真の提出について＞

実施内容、コーディネーターの感想、アーティストの感想などを記入した報告書を事務局までお送りください。ひながたは、別途データでお送りします。各校の実施終了後、１か月以内を目途に事務局までお戻しください。あわせて学校に確認を取った写真を５枚程度お送りください。

メモ　「実施予定プログラムシート」と重複している項目がありますので、変更がなければ同内容を記載していただいて結構です。

メモ　アーティストのコメントをとる欄があります。たとえば、現場で聞き書きするなど、工夫してコメントをとってください。

＜経費について＞

報告書と写真の到着を確認した上で、事務局より事業経費の入金をします。この中には、税金、材料費、交通費、機材運搬費等全てを含みます。アーティストやアシスタントなどへの支払い関連業務（銀行振込や所得税の源泉徴収など）は、各団体にお任せします。

ただし、プログラムによって入金方法が異なる場合があります。その際には、別途ご説明します。

＜個人情報の取り扱いについて＞

この事業を実施する上で知り得たすべての情報（学校の個別の情報、写真など）の取り扱いについてはくれぐれもご注意ください。

8 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

報告事項以外でも、トラブルが生じそうなときは、プラットフォーム事務局にご相談ください。みなさんと一緒に難局を乗り越えたいと考えています。

事務局の連絡先は、以下のとおりとなります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
認定特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内
担当者：田中真実（たなか・まみ）、高荷春菜（たかに・はるな）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８
TEL:045-325-0410　FAX: 045-325-0414　〒220-0004
・ＰＦ事務局として　https://y-platform.org　office@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　https://www.stspot.jp　artedu@stspot.jp

また、プラットフォーム事務局を構成している機関・団体の連絡先は、以下のとおりです。

横浜市　文化観光局文化振興課
担当者：頼政佳緒里（よりまさ・かおり）、深谷祐人（ふかや・ゆうと）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3714　FAX: 045-663-5606

横浜市教育委員会　事務局　学校教育企画部小中学校企画課
担当者：中澤 務（なかざわ・つとむ）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3266　FAX: 045-664-5499

横浜市芸術文化振興財団
担当者：鈴木 敦（すずき・あつし）、早見史絵（はやみ・しえ）
神奈川県横浜市中区山下町２番地　産業貿易センタービル１階　〒231-0023
TEL:045-221-0212　FAX:045-221-0216

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　令和元年度事業報告書

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

作成：認定ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　　公開開始：令和２年７月10日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話：045-325-0410　ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org

※本報告書に掲載されている肩書や名称などは令和元年度時点のものになります。
　また、コーディネーターとして施設名が掲出されている場合、当該年度の指定管理者等が担当していることを示します。